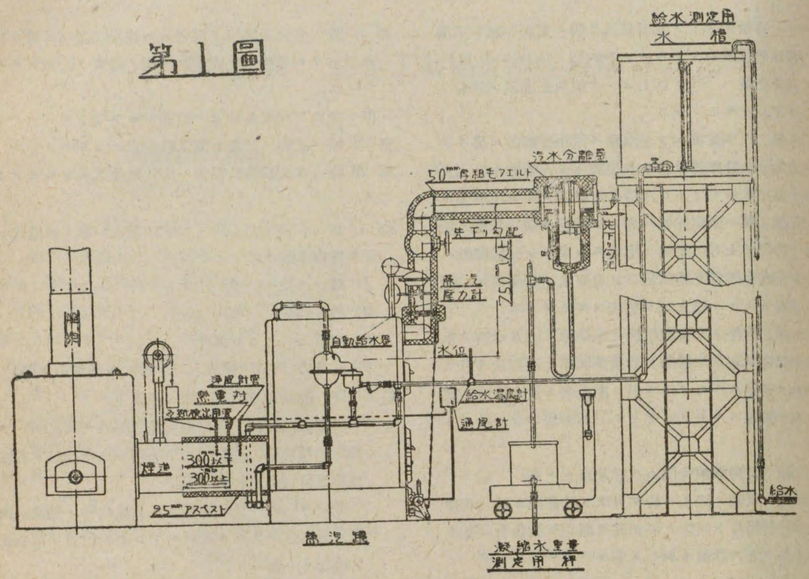
第1圖



(参考)　　鑄鐵罐出力表(手焚又ハ機械焚)　　(第1號様式)

罐		使用燃料		出力						
名稱記號		種類			kcal/h					
					相當放熱面積(蒸汽) m_2					
					同　上(湯) m_2					
火格子面積	m^2	發熱量	kcal/kg	*燃燒率	kg/m^2h					
				罐効率	%					
		揮發分	%	煙道入口ノ瓦斯溫度	°c					
				煙道入口ノ通風力	mm Aq					
有効容量	kg	大サ		煙突	内徑(頂上) mm					
					高サ(火格子面上) m					
				*平均投炭間隔	時分					

*機械焚ノ場合ハ kg/h
*機械焚ノ場合ハ其ノ名稱記號

用紙寸法日本標準規格A列5番

鑄鐵罐試驗記錄表 (手焚又ハ機械焚)　　(第2号様式)

試驗者　　試驗　年　月　日

記録時分	石炭消費量		給水		汽水分離器	罐内水位	蒸氣			通風力	煙道ガス成分				煙道ガス温度
	秤量時分	秤量 kg	秤量時分	秤量 kg	壓力 kg/cm²	水位 mm	壓力 kg/cm²	溫度 °C	過熱度 °C	mm Aq	CO_2 %	O_2 %	CO %	N_2 %	°C

項		要
罐	名稱記号	使用石炭消費量(乾燥)kg
	製造者	石炭單位發熱量(低位) kcal/kg
	火格子面積 m^2	石炭單位 %
	傳熱面積 m^2	石炭發熱量 kg/h
燃料	種類	灰分(量) kg
	大サ	大サ(加入高) m
	發熱量 kcal	煙突ノ徑 m
	成分 %	煙突ノ高 m
石炭分析所	水分	石炭ノ種類
	揮發分	(記事)
	固定炭素	
	灰分	

	大氣中ノ乾燥空氣ノ化學成分(%)	
a	試驗始時刻	時分
b	全燃燒燃料	kg
c	水ノ含分	〃
d	乾燥燃料	〃
e	灰(及燒ケ殘リ)	〃
f	ワンロ	〃
g	灰質	〃
h	石炭燃燒ノ(乾燥基)	
i	燃燒熱	kJ/kg
j	全蒸發量	kg
k	蒸發係數	
l	全周石炭質量	〃
m	石炭周圍器具量	kg
n	周圍鉄製ノ面積(係数)	m^2
o	水ノ上(湯)	m^3
p	罐効率	%
q	發生瓦斯ノ温度	時分

$d = b - c$

$g = e + f$

$h = \frac{g}{b}$

$i = \frac{A}{\text{石炭}\ b\ \text{面積}}$

$l = j \times h$

$m = \frac{g}{100}$

$n = \frac{m \times 6.45 \times 2}{200}$

$o = \frac{m \times 6.45 \times 2}{400}$

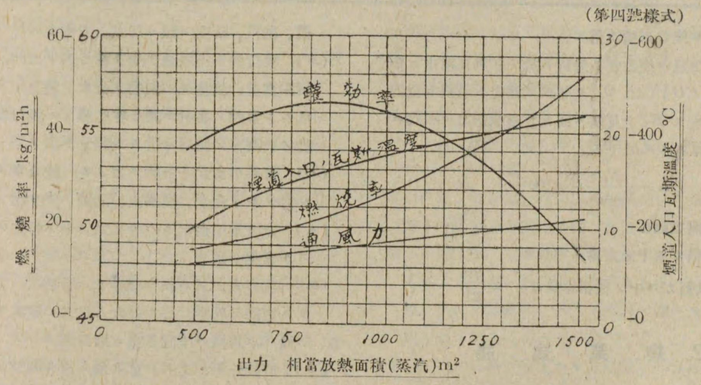
$p = \frac{j \times 5.39 \times 4}{i \times \text{石炭量}}$

※ 燃料買價 kg/¢

試驗場所
試驗場名稱

用紙寸法日本標準規格A列3番

(第四號様式)



用紙寸法日本標準規格A列5番

鑄鐵罐試驗成績報告表　(手焚又ハ機械焚)　(第3號樣式)

罐		全燃料容量 (型錄ニヨル) kg	
常用出力、相當放熱面積(蒸汽) m²		同上燃料ノ厚 mm	
火格子面積 m²		有效燃料容量 (型錄ニヨル) kg	
傳熱面積 m²		燃料	
煙突		種類	工業分析%
內徑 (頂上) mm			水分
火格子面上高 m		發熱量kcal	揮發分
煙突迄ノ煙道長 m		大サ	固定炭素
同上屈曲數		濕分%	灰分
試驗年月日			
試驗番號			
出力、相當放熱面積(蒸汽) m²			
負荷率%			
罐效率%			
煙道入口ノ瓦斯溫度℃			
※燃燒率 kg/m²h			
★平均投炭間隔 時分			
平均焚火操作間隔時分			
クリンカー(全灰量ニ對スル)%			
瓦斯分析% CO²			
瓦斯分析% O²			
瓦斯分析% CO			
通風力(mmA$_q$) 灰坑			
自然强制 煙道入口			
試驗繼續時間 時分			

※　機械焚ノ場合ハkg/h　　試驗場所

★　機械焚ノ場合ハ其ノ名稱記號　　試驗擔當者

用紙寸法日本標準規格A列4番

ル面積ヲ傳熱面積ト稱ス

12　過剩空氣　煙道ガス分析ニ於テ試料瓦斯中ニ含マルル CO_2, CO, O_2 ヲ順次ニ測定シ最後ニ殘留スルガスヲ N_2 ト見做ス而シテ過剩空氣ハ次式ニヨリ計算スルモノトス

$$E=\frac{N_t}{N_t-N_e}\times 100$$

E ＝過剩空氣%

N_t＝試料ガス中ノ窒素ノ容量%

N_e＝(試料ガス中ノ酸素容量%) $\times\frac{79}{21}$

2. 換　氣　規　格

第 1 條　本規格ニ示ス數値又ハ方法ハ許容シ得ル最低ヲ示スモノトス

第 2 條　本規格ニ於ケル用語ハ下ノ例ニ例ル

(イ)　居室トハ居住ノ用ニ供スル室ヲ謂フ、玄關、廁下、階段室、外套室、便所、手洗所、浴室、物置、納戸、暗室ノ類ハ居室ト看做サス

(ロ)　興行場トハ料金ヲ受クルト否トヲ問ハス演劇活動寫眞、演藝又ハ觀物ヲ公衆ノ觀覽又ハ聽聞ニ供スル常設ノ場所ヲ謂ヒ客席部トハ興行場主要建物ノ內觀客ノ使用ニ供スル部分ヲ謂フ

(ハ)　營業用食堂トハ時ヲ定メス一般公衆ノ用ニ供シ得ラルヽ食堂、喫茶室、酒場ノ類ヲ謂フ

(ニ)　非營業用食堂トハ時ヲ定メ豫メ特定ノ人ニ供スル食堂ヲ謂フ

(ホ)　收容人員又ハ收容觀客トハ席數又ハ定員ニ拘ラス實際ニ收容シ得ル最大人員又ハ觀客ヲ謂フ

第 3 條　本規格ハ下記各室ニ適用ス

(イ)　直接外氣ニ面スル窓其他ニシテ開放シ得ル面積カ室面積ノ二十分ノ一以下ナル居室

(ロ)　二重窓其他簡易ニ開閉シ難キ窓ヲ施設シ適當ナル自然換氣ヲ得ラレサル居室

(ハ)　興行場客席部

(ニ)　第21條ニ示ス室名中居室ニ屬セサル室ニシテ外窓ヲ有セサル室

第 4 條　本規格ニ於ケル換氣法ハ下記4種ニ依ル

(イ)　第1種　機械給氣並ニ機械排氣ノ併用ニ依ル換氣法

(ロ)　第2種　適當ナル自然排氣口ヲ有シ機械給氣ノミニ依ル換氣法

(ハ)　第3種　適當ナル自然給氣口ヲ有シ機械排氣ノミニ依ル換氣法

甲　自然給氣口カ直接外氣ヲ導入シ得ルモノ

乙　自然給氣口カ廊下其他ヲ通シ間接ニ外氣ヲ導入シ得ルモノ

(ニ)　第4種　適當ナル自然給氣口ヲ有シ換氣筒ニ依ル自然換氣法

第 5 條　下記各室ハ第1種換氣法ニ依ルヘシ

(イ)　室面積350平方米以上ノ居室

(ロ)　收容觀客 1,000 人ヲ超過スル興行場客席部

(ハ)　地下ニ設クル興行場客席部

(ニ)　第2地階及其下階ニ在ル居室

但シ第6條(ハ)項ノ場合ヲ除ク

第 6 條　下記各室ハ第2種換氣法ニ依ルコトヲ得

(イ)　地上及第1地階ニ在ル室面積150平方米以上350平方米未滿ノ居室

(ロ)　地上ニ設クル收容觀客300人以上1,000人未滿ノ興行場客席部

(ハ)　第2地階及其下階ニ在ル居室ニシテ其自然排氣カ附近ニ在ル居室外ノ給氣ニ利用シ得ル場合

第 7 條　下記各室ハ第3種換氣法ニ依ルコトヲ得

(イ)　地上及第1地階ニ在ル室面積150平方米以下ノ居室

(ロ)　地上ニ設クル收容觀客300人未滿ノ興行場客席部

第 8 條　厨房、配膳室ハ前條ノ規定ニ拘ラス下記ノ場合第1種換氣法ニ依ルヘシ其他ハ第3種換氣法ニ依ルコトヲ得

(イ)　兩室面積合セテ150平方米以上ノ營業用

(ロ)　第2地階及其下階ニ在ル場合

第 9 條　下記各室ハ第3種換氣法ニ依ルヘシ。但シ第1種換氣法ニ依ルコトヲ得

(イ)　浴室、便所、手洗所、湯沸所、暗室、室面積15平方米以上ノ更衣室、携帶品預室、機械及電氣設備室

(ロ)　塵埃又ハ臭氣ヲ生スル室

(ハ)　有毒又ハ可燃性ガスヲ發散又ハ發散ノ虞アル室

第 10 條　下記各室ハ第4種換氣法ニ依ルコトヲ得但シ換氣筒ノ容量ハ第21條ニ規定スル換氣量ニ充分ナルモノトシ1室毎ニ別箇ニ取設クヘシ

(イ)　第7條(イ)項及第8條ノ內第3種換氣法ニ依ルモノニシテ室面積15平方米以下

(ロ)　第9條(イ)項ニシテ地上又ハ第1地階ニ在ル場合

(ハ)　第9條(ロ)項ノ內臭氣ヲ生スル室ニシテ地上又ハ第1地階ニ在ル場合

(ニ)　第9條(ハ)項ノ內室面積5平方米以下ノ蓄電池室

第 11 條　興行用活動寫眞映寫機室ニハ不燃材料ヲ以テ構成シタル換氣筒ヲ設クヘシ

機械換氣法ヲ附設スル場合ハ開口部ニ自閉防火風戸ヲ設クヘシ

第 12 條　下記裝置ハ他ト獨立セシムヘシ

(イ)　興行場客席部ノ換氣裝置

(ロ)　使用時間差異アル室ノ換氣裝置

(ハ)　厨房、配膳室ノ排氣裝置

(ニ)　第9條各項ノ排氣裝置

第 13 條　前條(ロ)項ハ該室容量カ他室ト略同量ナル場合裝置ノ一部ヲ共通セシムルコトヲ得

第 14 條　食堂、喫煙室等ノ排氣裝置ハ第12條(ハ)項ノ排氣裝置ト共通セシムルコトヲ得

第 15 條　居室ニ屬セサル室ニシテ第21條ニ示セルモノヽ外ノ排氣裝置ハ第9條(イ)又ハ(ロ)項ト共通セシムルコトヲ得

第 16 條　興行場、百貨店其他ニ於ケル營業中ノミ使用スル食堂ハ主室ト裝置ヲ共通セシムルコトヲ得

第 17 條　第1種及第2種換氣法ニ依ル外氣量ハ收容人員1人ニ對シ毎時35立方米以上トス

但シ室內ノ溫濕度ヲ適當ニ調節シ得ルモノハ使用期間ニ限リ半減スルコトヲ得

第 18 條　前條ニ規定スル外氣量ノ外ニ必要ニ依リ室內空氣ノ1部ヲ循環使用セントスル場合ハ濾過又ハ洗淨ニ依ル淸淨方法ヲ講スヘシ

但シ空氣濾過機又ハ洗淨機ハ充分ナル容量ノモノニシテ信賴シ得ル製造者ノ標準仕樣ニ從ヒ選擇設置スヘシ

第 19 條　第3種換氣法甲ニ依ル排氣量ハ收容人員1

番號	室名	第一及第二換氣法 外氣量立方米(毎時)	第三種甲換氣法 排氣量立方米(毎時)	第三種乙換氣法 排氣量立方米(毎時)	備考
1	私室	8	8	10	宿直室、寢室、居室、私用事務室等室容積ニ比シ在室者少ナキ室
2	事務室	10	10	12	營業室、事務用應接室
3	從業員詰所	12	12	15	小使室、守衞室、電話交換室、受付室、作業員溜所
4	陳列室	12	12	15	展覽室
5	美容室	12	12	15	理髮室
6	賣場	15	15	20	百貨店賣場、興行場內賣店
7	作業室	15	15	20	塵埃少ナキ工作室、印刷室、受渡室荷造室、荷解室等
8	休憩室	15	15	20	談話室、待合室、客溜、控室等
9	娛樂室	15	15	20	球戲室、碁將棋室、舞踏室
10	喫煙室	20	20	25	興行場其ノ他ニ於テ一時ニ使用スル喫煙甚シキ室
11	小集會室	25	25	30	小會議室
12	食堂(營業用)	25	25	30	第2條(ハ)項參照
13	同(非營業用)	20	20	25	第2條(ニ)項參照
14	厨房	60	60	75	營業用食堂附屬
15	同	35	35	45	非營業用食堂附屬
16	配膳室	25	25	30	營業用食堂附屬
17	同	15	15	20	非營業用食堂附屬
18	湯沸所		15	15	
19	更衣室		10	10	着替室、脫衣室
20	携帶品預室		10	10	外套室、係員在室スルモノ
21	浴室		30	30	數人一時ニ使用スルモノ
22	浴室		20	20	私宅用ニ準スルモノ
23	便所		30	30	便器數個アルモノ
24	便所		20	20	私宅用ニ準スルモノ
25	手洗所		10	10	洗面所
26	映寫機室		20	20	
27	塵埃又ハ臭氣ヲ生スル室		30	30	
28	有毒又ハ可燃性瓦斯發散又ハ發散ノ虞アル室		35	35	蓄電池室、自動車庫
29	暗室		20	20	寫眞用暗室
30	機械及電氣設備室(室面積15平方米以上)		10	10	機關室、配電室

人ニ對シ毎時35立方米以上トシ乙ニ依ル場合ハ毎時45立方米以上トス

第20條　興行場客席部、講堂、集會室、食堂、教室ノ類ハ收容人員ヲ算定又ハ推定シ前條ノ規定ニ依ル換氣量トヘシ

第21條　收容人員ヲ定メ難キ室ニ在リテハ床面積1平方米ニ付毎時下記以上ノ換氣量トナスヘシ
但シ第17條但書及第18條ハ之ヲ適用スルコトヲ得

第22條　第1種換氣法ニ在リテハ居室ハ給氣ヲ規定量トシ適當排氣量ヲ定ムヘシ
居室ニ屬セサル室ハ排氣ヲ規定量トシ適當給氣量ヲ定ムヘシ

第23條　營業用厨房、配膳室ノ給氣ハ直接導入スル外氣ヲ以テスヘシ
但シ非營業用ノ給氣ハ開放路又ハ開放窓ニ依リ隣接セル食堂內ノ空氣ヲ利用スルコトヲ得

第24條　第2地階及其下階ノ換氣量ハ其給排氣量ヲ可及的平衡ナラシメ他階ニ通風ヲ生セシメサル適當量ヲ定ムヘシ

第25條　室內給氣及排氣口配置ハ室內空氣ノ分布均等ニシテ局部的通風ヲ感セシメサル樣適當ニ選定スヘシ

第26條　外氣取入口ハ地上3米以上ニ設クヘシ其他ノ場合ハ濾過又ハ洗淨スルヲ要ス

第27條　屋外排氣口ハ外氣取入口其他四圍ノ狀況ヲ考慮シ適當ナル箇所ヲ選定スヘシ

3. 排水通氣及ビ洗淨用鉛管規格

第1條　本規格ハ排水、通氣及洗滌用鉛管（以下單ニ管ト稱ス）ニ適用ス

第2條　管ハ0.5%以上ノ不純物ヲ含有セサル軟質良好ナル鉛ヲ用ヒテ竪型製管機ニ依リ製造シタルモノニシテ組織均一且粘性ニ富ミ打展シ易ク又屈曲シ易キモノタルヲ要ス

第3條　管ノ材質ヲ檢査スルタメ押擴ゲ試驗ヲ行フモノトス、押擴ゲ試驗ハ標準圓錐型ヲ其ノ尖端ヨリ底端ニ至ル迄徐々ニ管內ニ打込ミ管ノ周圍ニ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス
標準圓錐型ハ鋼製又ハ堅木製ニシテ內角40度ヲ有シ其ノ底端ニ於テ左記ノ直徑ヲ有スルモノトス
イ　管ノ內徑40耗以下ニ對シテハ其ノ內徑ノ2.75倍
ロ　同　65耗以下ニ對シテハ其ノ內徑ノ1.75倍
ハ　同　75耗以上ニ對シテハ其ノ內徑ノ1.5倍

第4條　管ハ斷面實用的正圓ニシテ其ノ寸法及重量ハ次表ニヨルモノトス

內徑(耗)	重量(長1米ニ付瓩)	公稱管厚(耗)
13	1.7	3
16	2.1	3
20	2.5	3
25	3.0	3
30	3.5	3
40	4.6	3
50	6.5	3.4
65	8.3	3.4
75	12.8	4.5
90	15.2	4.5
100	16.8	4.5
125	24.7	5.3

第5條　管徑ノ公差ハ正負各10%トス

第6條　管ノ內徑ノ公差ハ正負各3%トス

第7條　管ノ重量ノ公差ハ正負各3%トス

第8條　管ハ內外共ニ圓滑ニシテ疵、巢、其ノ他有害ナル缺點ナキコトヲ要ス

第9條　管厚及內徑ノ檢査並押擴ゲ試驗ハ各把又ハ本ニ付キ之ヲ行フモノトス

第10條　重量ノ檢査ハ同徑ノ管10把又ハ10本若クハ其ノ端數ヲ以テ一組トシ各組ヨリ一把又ハ一本ヲ採リ、其ノ一端ヲ切リ採リテ之ヲ行フ、但一組ノ把數又ハ本數ハ註文者ノ指定ニヨリ之ヲ增減スルコトヲ得、前項ノ檢査カ不合格ニ終リタル時ハ其ノ代表スル組ハ總テ不合格トス、但註文者又ハ檢査員ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキハ其ノ代表スル各把又ハ本ニ付テ再檢査ヲ行フコトヲ得

第11條　註文者又ハ檢査員ニ於テ必要ト認ムルトキハ任意ノ箇所ニ於テ切斷シ試驗ヲ行フコトアルベシ
此ノ場合ニ於テ切斷セラレタル管カ合格セルトキハ之ヲ連續セル一把又ハ一本ノモノト看做ス

第12條　管ハ其ノ一端ヨリ約0.05米ノ箇所ニ製造所ノ記號ヲ刻印スルモノトス

4. 排水用鑄鐵管規格

第 1 章　總　則

第1條　本規格ハ排水用ノ直管及ヒ異形管（以下總括シテ管ト稱ス）ニ適用ス

第 2 章 製 造 法

第 2 條　管ハ良質ノ銑鐵若シクハ之レニ銅ヲ配合シタルモノヲ用キテ砂型ニヨリ鑄造シ組織均一且強靱ニシテ鏨ヲ以テ切斷シ易キモノナルコトヲ要ス
管ノ成分中硫黄ノ含有量ハ 0.1% 以下タルヘシ

第 3 條　管ハ鑄込ミタル後急激ナル冷却ニ依リテ生スル不等收縮其他ノ障害ヲ避クル爲メ必要ナル時間鑄型ヨリ取出ササルコトヲ要ス

第 3 章 抗折試驗

第 4 條　管ノ鑄造ニ用フル鎔銑ニ付テハ抗折試驗ヲ行フモノトス
註文者又ハ其ノ指定シタル檢査員（以下單ニ檢査員ト稱ス）ニ於テ必要ナシト認メタル時ハ前項ノ試驗ヲ省略スルコトヲ得

第 5 條　抗折試驗ニ在リテハ一鎔銑毎ニ試驗片 3 箇ヲ作リ之レガ試驗ヲ行ヒ 3 個ノ平均ニ依リ其ノ成績ヲ定ムルモノトス
註文者又ハ檢査員ニ於テ必要ト認メタルトキハ前項ノ試驗ヲ 2 回以上行ハシムルコトヲ得

第 6 條　抗折試驗ニ在リテハ徑 30mm 長サ 350mm ノ鑄放シノママノ試驗片ヲ用キ支點距離 300mm トシテ試驗ヲ行ヒ次表ノ規定ニ合格スルコトヲ要ス

荷　　重 kg	撓　　み mm
1100 以 上	2.0 以 上

抗折試驗片ノ徑ハ 1mm 以內ノ增減ヲ許スモノトス

第 4 章 形狀寸法

第 7 條　管ノ斷面ニ於ケル內外周ハ實用的同心圓タルヘク又直管ハ其ノ管體眞直ナルコトヲ要ス
管ノ形狀寸法ハ附表ニ依ルモノトス

第 8 條　管ノ承口內徑ノ公差ハ正 4mm 負 2mm トシ挿口外徑ノ公差ハ正 2mm 負 4mm トス

第 9 條　管厚ノ公差ハ正負 1.5mm トス

第 5 章 記　　號

第 10 條　管ニハ外側一定ノ場所ニ㊇及製造所ノ記號ヲ高 3mm 以上ニ鑄出スルモノトス
不合格品ニ對シテハ前記㊇ノ記號ヲ削リ落スモノトス

第 6 章 檢　　查

第 11 條　管ハ內外面共ニ滑ニシテ疵、瘤、鑄膨、巢其他有害ナル缺點ナキコトヲ要ス疵、巢等ニ對シ詰め金又ハ塡め金ヲ爲スコトヲ許サス但シ輕微ナルモノニシテ註文者又ハ檢査員ニ於テ支障ナシト認ムル場合ハ電氣鎔接ヲ許スコトアルヘシ

第 12 條　管ハ註文者又ハ檢査員ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ小型ノ鎚ヲ以テ輕ク鎚打シ鑄物ノ良否ヲ檢査スルコトアルヘシ

第 7 章 水壓試驗

第 13 條　水壓試驗ハ管ノ塗裝前 1 箇毎ニ之レヲ行フモノトス試驗壓力ハ 3.5 kg/cm² トス

第 8 章 塗　　裝

第 14 條　管ハ總テ內外面共ニ精製「タール」及亞麻仁油ノ混合塗料又ハ瀝青塗料其ノ他註文者ニ於テ指定シタルモノヲ以テ塗裝スルモノトス
塗裝面ハ滑カニシテ光澤ヲ有シ寒暑ニ依リテ異狀ヲ呈セサルモノタルコトヲ要ス

第 15 條　塗裝ヲナスニハ管ノ內外面ヲ掃除シ錆ヲ完全ニ除去シタル後全體ヲ加熱シ前條塗料ノ加熱シタル液ニ浸シ液槽ヨリ引上ケ十分ニ液滴ヲ去リ空氣中ニ放置乾燥セシムルモノトス
前項加熱ノ溫度ハ精製「タール」及亞麻仁油ノ混合塗料ノ場合ニアリテハ 150°C ヲ以テ標準トシ其ノ他ノ場合ニハ註文者ノ指定ニ依ルモノトス

5. ねぢ付排水管接手規格
（鑄鐵製）

第 1 章 總　　則

第 1 條　本規格ハ排水ニ使用スル日本標準規格第38號「ガス」管ノ接手ニ之ヲ適用ス

第 2 章 材　　質

第 2 條　材質ハ日本標準規格第 134 號鑄鐵品第 2 種ニ依ル　但シ材質試驗ハ特ニ指定アル場合ニ限リ之ヲ行フモノトス

第 3 章 形狀寸法

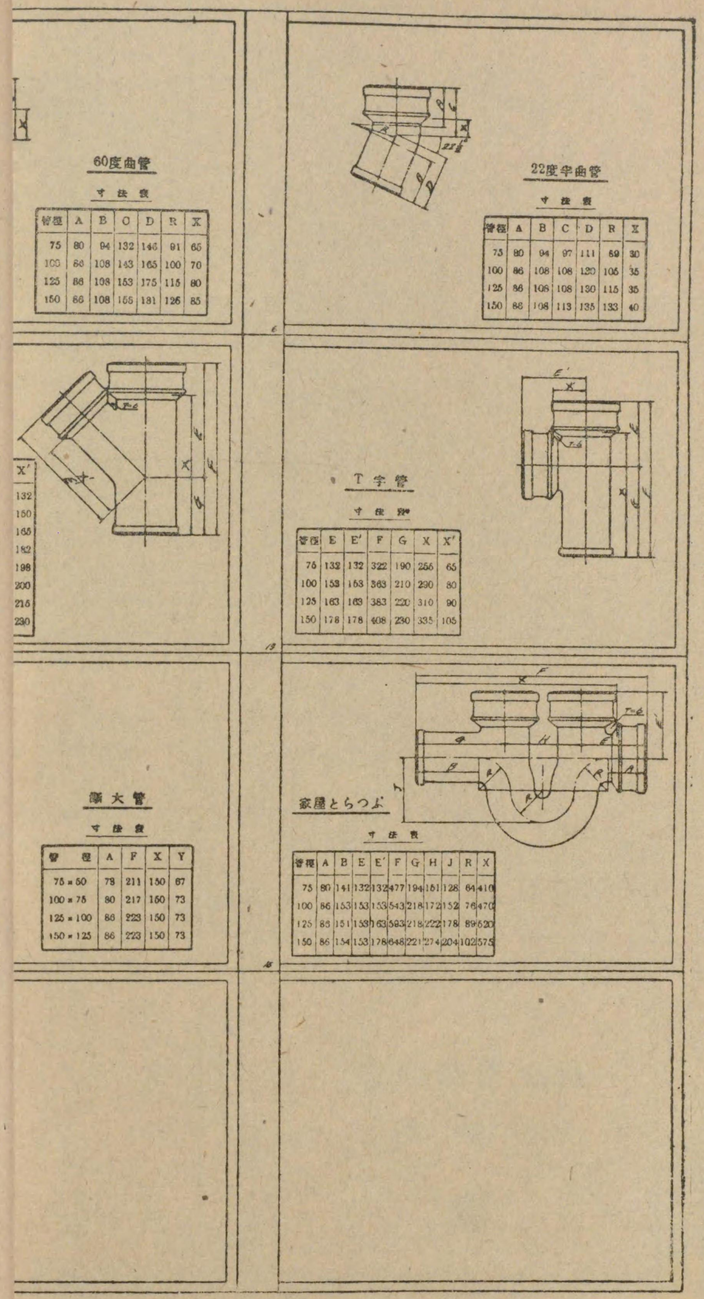
第 3 條　接手ノ形狀寸法ハ附表ニ依ルモノトス

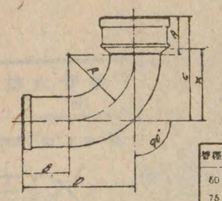
第 4 章 公　　差

第 4 條　接手ノ厚ニ對スル公差ハ正負 1.5mm トス

第 5 條　接手ノ中心ヨリ端面迄ノ距離ニ對スル公差ハ次ノ通リトシ其他ノ公差ハ第 3 條ノ附表ニ示ス通リトス

稱呼	1¼吋	1½	2	2½	3	4	5	6
公差 mm	±2	±2	±2.5	±2.5	±3	±3.5	±3.5	±3.5

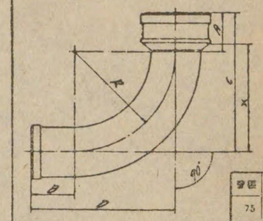




90度小曲り管

寸法表

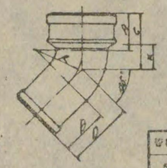
管径	A	B	C	D	R	X
50	73	81	201	209	128	140
75	80	94	222	236	142	155
100	86	108	258	280	152	165
125	86	108	283	275	167	180
150	86	108	283	285	177	190



90度大曲り管

寸法表

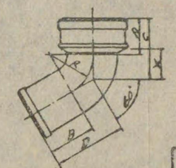
管径	A	B	C	D	R	X
75	80	89	297	306	217	230
100	86	101	318	383	232	245
125	86	101	328	343	242	255
150	86	101	343	358	257	270



45度曲管

寸法表

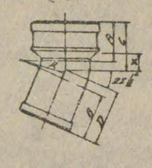
管径	A	B	C	D	R	X
50	73	81	168	114	78	65
75	80	94	117	131	89	50
100	86	108	128	150	102	55
125	86	108	133	155	113	60
150	86	108	138	160	127	65



60度曲管

寸法表

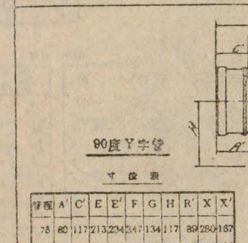
管径	A	B	C	D	R	X
75	80	94	132	146	91	65
100	86	108	143	165	100	70
125	86	108	153	175	115	80
150	86	108	165	181	126	85



22度半曲管

寸法表

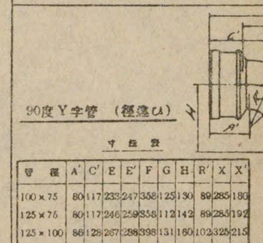
管径	A	B	C	D	R	X
75	80	94	97	111	89	30
100	86	108	108	120	105	35
125	86	108	108	130	115	35
150	86	108	113	135	133	40



90度Y字管

寸法表

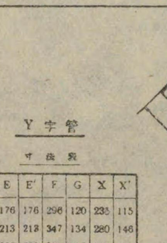
管径	A'	C'	E	E'	F	G	H	R'	X	X'
75	80	117	213	234	347	134	117	89	280	187
100	86	128	253	275	398	165	147	102	325	202
125	86	133	285	306	433	185	173	113	360	233
150	86	138	316	338	473	157	200	127	400	265



90度Y字管（径違い）

寸法表

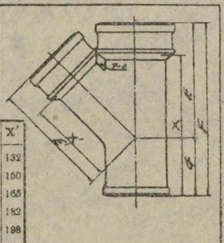
管径	A'	C'	E	E'	F	G	H	R'	X	X'
100×75	80	117	233	247	358	125	130	89	285	180
125×75	80	117	246	259	358	112	142	89	285	192
125×100	86	128	267	288	398	131	160	102	325	215
150×75	80	117	259	267	358	99	160	89	285	200
150×100	86	128	280	300	398	118	172	102	325	227
150×125	86	133	298	319	433	135	188	113	360	248



Y字管

寸法表

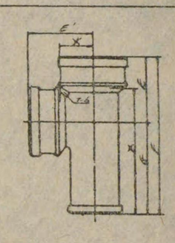
管径	E	E'	F	G	X	X'
50	176	176	296	120	235	115
75	213	213	347	134	280	146
100	253	253	398	145	325	180
125	286	285	433	148	360	212
150	316	316	473	157	400	243



Y字管（径違い）

寸法表

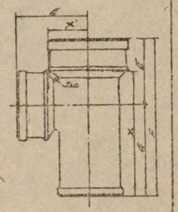
管径	E	E'	F	G	X	X'
75×50	193	193	307	114	240	132
100×50	213	211	318	105	245	150
100×75	233	232	358	126	256	165
125×75	245	249	358	113	285	152
125×100	267	271	398	151	325	198
150×75	257	267	358	101	285	200
150×100	278	288	398	120	325	215
150×125	298	303	433	136	360	250



T字管

寸法表

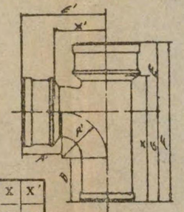
管径	E	E'	F	G	X	X'
75	132	132	322	190	256	65
100	153	153	363	210	290	80
125	163	163	383	220	310	90
150	178	178	408	230	335	105



T字管（径違い）

寸法表

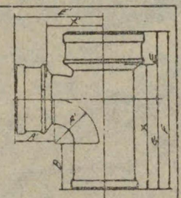
管径	E	E'	F	G	X	X'
75×50	118	126	297	179	230	65
100×50	128	141	308	180	235	80
100×75	140	147	338	193	280	80
125×75	140	157	333	193	280	90
125×100	151	163	358	207	285	90
150×75	140	172	333	193	260	105
150×100	163	178	358	205	285	105
150×125	165	178	383	218	310	105



排水用T字管

寸法表

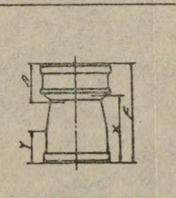
管径	A'	B	E	E'	F	G	R'	X	X'
75	80	102	131	172	322	191	89	255	105
100	86	102	154	193	368	204	102	285	120
125	86	102	169	203	383	215	115	310	130
150	86	102	179	218	408	229	127	335	145



排水用T字管（径違い）

寸法表

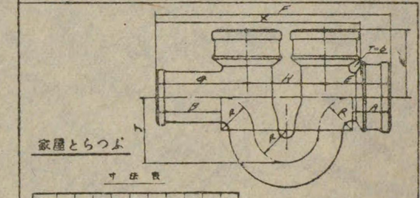
管径	A'	B	E	E'	F	G	R'	X	X'
75×50	73	102	119	168	297	178	76	230	105
100×50	73	102	130	176	308	178	76	235	115
100×75	80	102	142	185	333	191	89	260	115
125×75	80	102	142	197	330	191	89	260	130
125×100	86	102	154	213	358	204	102	285	130
150×75	80	102	142	207	333	191	89	260	140
150×100	86	102	154	218	358	204	102	285	145
150×125	86	102	166	218	383	217	115	310	145



縮大管

寸法表

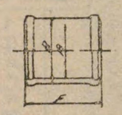
管径	A	F	X	Y
75×50	78	211	150	67
100×75	80	217	160	73
125×100	86	223	150	73
150×125	86	223	150	73



家屋とらつぷ

寸法表

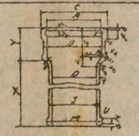
管径	A	B	E	E'	F	G	H	J	R	X
75	80	141	132	132	247	194	161	128	64	410
100	86	153	153	153	543	218	172	152	76	470
125	86	151	153	163	583	218	222	178	89	520
150	86	154	153	178	648	221	274	204	102	575



掃き口

寸法表

管径	A	B	F
50	79	95	150
75	104	120	165
100	129	145	180
125	154	170	180
150	179	195	180



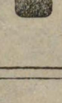
掃口管及伸縮管

寸法表

D	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	P	R_1	R_2	E_1	E_2	S	T	U	X	Y	質量 kg
50	79	95	105	84	16	3	10	6	62	3	19	73	14	3	5	7	13	3	2	6	5	800	81	7.69
75	104	120	130	84	17	3	11	6	87	3	19	98	16	3	5	7	13	3	3	6	5	800	87	10.79
100	129	146	156	85	19	3	13	6	113	3	19	123	17	3	5	7	13	3	3	6	5	800	93	14.14
125	154	170	180	85	19	3	13	6	137	3	19	149	17	3	5	7	13	3	3	6	5	800	73	17.22
150	179	195	205	85	19	3	13	6	162	3	19	173	17	3	5	7	13	3	3	6	5	800	73	20.53
50	79	95	105	84	16	3	10	6	62	3	19	73	16	3	5	7	13	3	3	6	5	1600	81	13.37
75	104	120	130	84	17	3	11	6	87	3	19	98	16	3	5	7	13	3	3	6	5	1600	87	19.28
100	129	146	156	85	19	3	13	6	113	3	19	123	17	3	5	7	13	3	3	6	5	1600	93	25.64
125	154	170	180	85	19	3	13	6	137	3	19	147	17	3	5	7	13	3	3	6	5	1600	73	31.58
150	179	195	205	85	19	3	13	6	162	3	19	173	17	3	5	7	13	3	3	6	5	1600	73	37.46

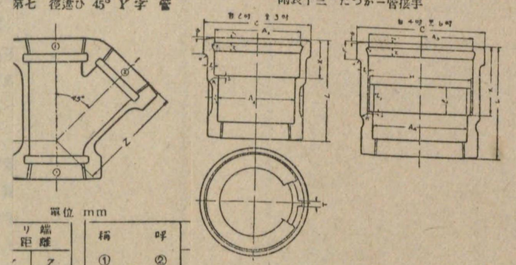
排水用鑄鐵管

寸法表



ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表十三　たつかー管接手



単位 mm

呼び	X	A3	t1	C	F	G	H	I	P	S	R	U
①×②	44	78	8	104	19	1	10	6	3	2	8	5
5吋×2吋	48	93	8	119	20	1	11	6	3	2	8	5
5×2½	48	106	8	132	20	1	11	6	3	2	8	5
5×3	87	133	9	161	22	1	13	6	3	3	8	5
5×4	89	158	10	188	22	1	13	6	3	3	8	5
6×2	93	184	11	216	22	1	13	6	3	3	8	5
6×3												
6×4												
6×5												

A1	t2	リブ T	リブ 数	環 M	環 ta	環 l	L 寸法	L 公差
66	6	6	2	……	……	……	104	± 2.5
82	6	7	2	……	……	……	115	± 2.5
95	7	8	2	……	……	……	124	± 3.0
120	……	……	……	127.0	4.5	34	142	± 3.5
146	……	……	……	152.5	5.0	36	150	± 3.5
171	……	……	……	177.9	5.0	40	162	± 3.5

第七　径違ひ 45° Y 字 管

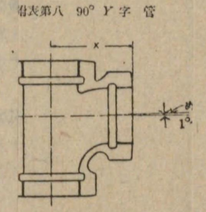
呼び	Z
5吋×2吋	83
5×2½	94
5×3	97
5×4	112
6×2	118
6×3	124
6×4	130
6×5	140
	146
	154
	162
	170

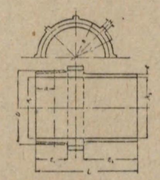
端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル　A1ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル　二、A3及A4ノ公差ノ何レモ±4mm其ノ2mm
三、備考　日本標準規格第38號ノ「ガス」管マヽ使用ス

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

半田付けにつぶる
（青　銅　製）

附表第八　90° Y 字 管





単位 mm

呼び	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y
寸	57	40
	63	44
	76	53
	92	64
	106	74
	132	92
	158	110
	185	128

端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

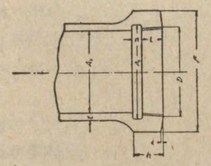
単位 mm

L 公差	E1	ねぢ 基本径 D	ねぢ山数 25.4mm ニ付	A1	E2	A2	t	B	C	凸起 H	凸起 数
± 2	22	41.912	11	33	40	30	2	46	52	5	6
± 2	23	47.905	〃	38	40	40	2	50	56	5	6
± 2.5	26	59.616	〃	50	45	50	2	63	69	5	8
± 2.5	29	75.187	〃	65	50	65	3	77	85	6	8
± 3	32	87.887	〃	75	50	75	3	90	98	7	8
± 3.5	37	113.034	〃	100	50	100	3	115	125	8	8

、ねぢハ日本標準規格第37號管接手ねぢニ依ルモノトス
、ねぢハ細目ねぢトス
、備考ノ(ロ)ハ日本標準規格第37號管接手ねぢ參照

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第一　接手ノ端部



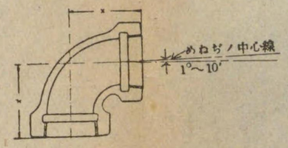
単位 *mm*

稱呼	ねぢ部 ねぢノ基本徑 *D*	ねぢ山數 25.4 *mm* ニ付 *n*	ねぢ部ノ長 *l*	リセス 内徑 A_1	リセス 幅 *n*	内徑 A_2	厚 *t*	バンド下 外徑 *F*	バンド下 幅 *h*	*i*
1¼吋	41.912	11	12	44	6	36	5	62	18	1
1½	47.805	〃	13	50	6	42	5	69	19	〃
2	59.616	〃	15	62	7	53	6	83	22	〃
2½	75.187	〃	17	78	8	68	6	101	25	〃
3	87.887	〃	19	91	9	81	7	115	28	〃
4	113.034	〃	22	116	11	105	9	144	33	〃
5	138.435	〃	24	142	12	131	10	175	36	〃
6	163.836	〃	28	167	14	155	11	207	42	〃

備考　一、ねぢハ日本標準規格第37號管接手ねぢニ依ルモノトス
　　二、ねぢ部ハ圓錐ねぢトス

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第三　90° 大曲リえるぼー



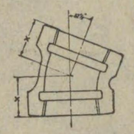
単位 *mm*

稱呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*
1¼吋	57
1½	63
2	76
2½	92
3	106
4	132
5	158
6	185

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第五　22½° えるぼー



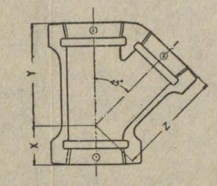
単位 *mm*

稱呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*
1¼吋	30
1½	32
2	37
2½	42
3	48
4	57
5	65
6	75

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第七　徑違ひ 45° Y 字管



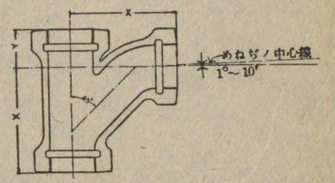
単位 mm

稱呼 ①	稱呼 ②	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*	*Y*	*Z*
1½吋	×1¼吋	31	81	83
2	×1¼	29	89	94
2	×1½	34	94	97
2½	×1½	29	104	112
2½	×2	38	114	118
3	×1½	26	114	124
3	×2	34	124	130
3	×2½	47	136	140
4	×1½	19	132	146
4	×2	27	140	154
4	×2½	40	154	162
4	×3	49	164	170
5吋	×2吋	17	154	174
5	×2½	30	168	182
5	×3	39	178	190
5	×4	58	198	205
6	×2	11	170	192
6	×3	33	194	208
6	×4	52	215	222
6	×5	73	235	238

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第九　90° 大曲ヨ Y字管



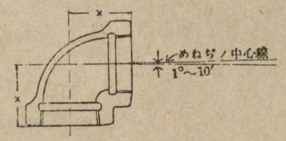
単位 *mm*

稱呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*	*Y*
1¼吋	87	31
1½	96	35
2	115	42
2½	140	51
3	160	58
4	200	72
5	240	88
6	282	108

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第二　90° えるぼー



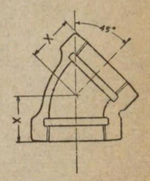
単位 *mm*

稱呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*
1¼吋	44
1½	49
2	58
2½	70
3	80
4	99
5	118
6	138

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第四　45° えるぼー



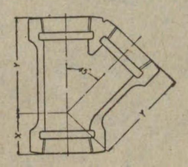
単位 *mm*

稱呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*
1¼吋	33
1½	36
2	42
2½	50
3	56
4	68
5	79
6	92

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第六　45° Y 字管



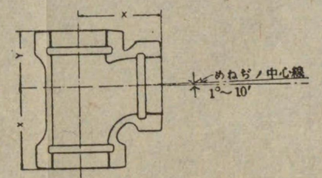
単位 *mm*

稱呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*	*Y*
1¼吋	33	78
1½	36	86
2	42	104
2½	50	128
3	56	146
4	68	184
5	79	220
6	92	258

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第八　90° Y 字管



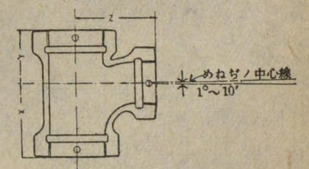
単位 *mm*

稱呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*	*Y*
1¼吋	57	40
1½	63	44
2	76	53
2½	92	64
3	106	74
4	132	92
5	158	110
6	185	128

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄　鉄　製）

附表第十　徑違ひ 90° Y字管



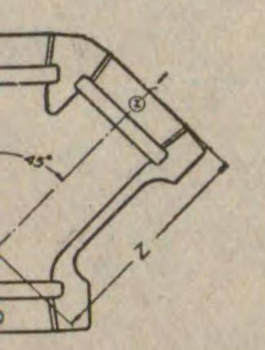
単位 *mm*

稱呼 ①	稱呼 ②	中心ヨリ端面迄ノ距離 *X*	*Y*	*Z*
1½吋	×1¼吋	58	41	60
2	×1¼	61	45	66
2	×1½	66	48	69
2½	×1½	69	51	77
2½	×2	79	57	84
3	×1½	72	55	83
3	×2	82	60	90
3	×2½	95	68	99
4	×1½	77	61	95
4	×2	87	66	102
4	×2½	100	74	112
4	×3	112	80	118
5吋	×2吋	90	70	115
5	×2½	104	78	124
5	×3	114	84	132
5	×4	135	96	145
6	×2	96	77	128
6	×3	122	91	144
6	×4	142	104	158
6	×5	165	118	170

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

排水管接手
（ 鉄 製）

違ひ 45° Y字管



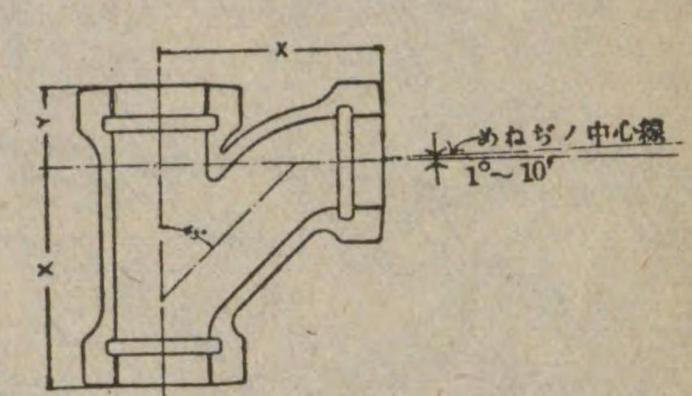
單位 mm

稱呼 ①	②	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z
5吋	×2吋	17	154	174
5	×2½	30	168	182
5	×3	39	178	190
5	×4	58	198	205
6	×2	11	170	192
6	×3	33	194	208
6	×4	52	215	222
6	×5	73	235	238

狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄 鉄 製）

附表第九 90° 大曲リ Y字管



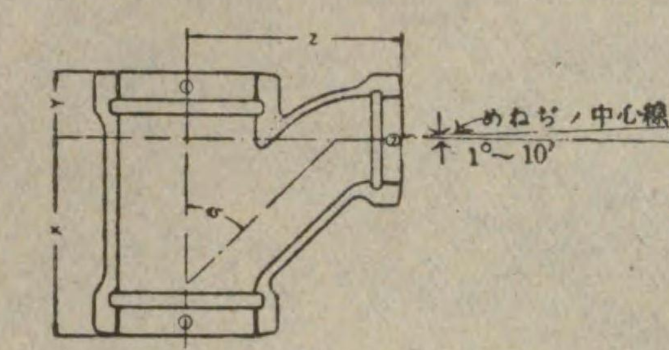
單位 mm

稱呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y
1¼吋	87	31
1½	96	35
2	115	42
2½	140	51
3	160	58
4	200	72
5	240	88
6	282	108

備考 端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄 鉄 製）

附表第十一 徑違ひ 90° 大曲り Y字管



單位 mm

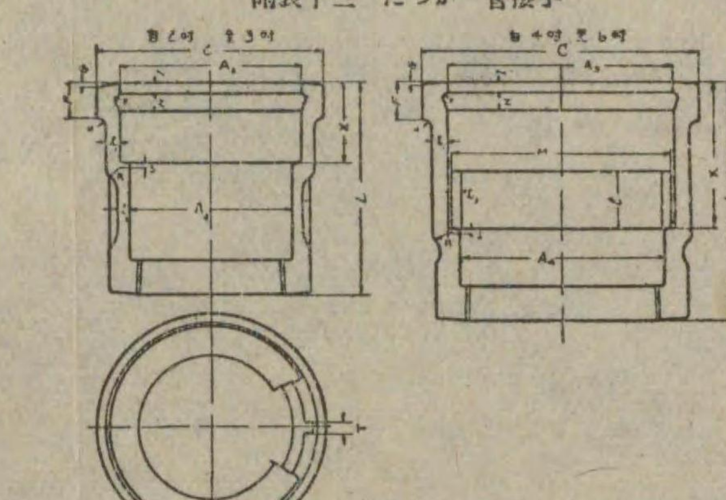
稱呼 ①	②	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z
1½吋	×1¼吋	88	31	90
2	×1¼	93	31	97
2	×1½	102	35	104
2½	×1½	108	35	114
2½	×2	120	42	124
3	×1½	112	35	122
3	×2	124	42	132
3	×2½	145	51	148
4	×1½	122	35	138
4	×2	135	42	150
4	×2½	155	51	165
4	×3	168	58	175

稱呼 ①	②	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z
5吋	×2吋	140	42	164
5	×2½	160	51	180
5	×3	174	58	190
5	×4	205	72	215
6	×2	145	45	176
6	×3	180	61	202
6	×4	215	75	228
6	×5	245	91	252

備考 端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄 鉄 製）

附表十三 たつかー管接手



單位 mm

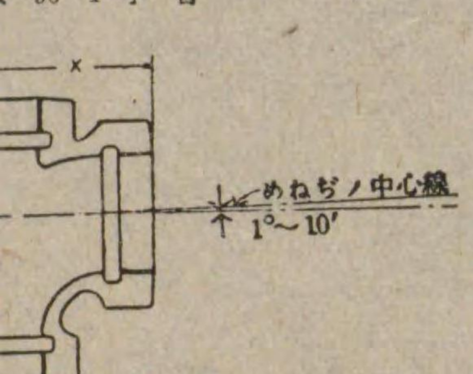
稱呼	X	A_3	t_1	C	F	G	H	I	P	S	R	U
2吋	44	78	8	104	19	1	10	6	3	2	8	5
2½	48	93	8	119	20	1	11	6	3	2	8	5
3	48	106	8	132	20	1	11	6	3	2	8	5
4	87	133	9	161	22	1	13	6	3	3	8	5
5	89	158	10	188	22	1	13	6	3	3	8	5
6	93	184	11	216	22	1	13	6	3	3	8	5

稱呼	A_1	t_2	リブ T	數	環 M	t_3	l	L 寸法	L 公差
2吋	66	6	6	2	……	……	……	104	± 2.5
2½	82	6	7	2	……	……	……	115	± 2.5
3	95	7	8	2	……	……	……	124	± 3.0
4	120	……	……	……	127.0	4.5	34	142	± 3.5
5	146	……	……	……	152.5	5.0	36	150	± 3.5
6	171	……	……	……	177.9	5.0	40	162	± 3.5

備考 一、端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル 二、A_3及A_4ノ公差ハ何レモ正4mm負2mmトス 三、環ハ日本標準規格第38號ノ「ガス」管又ハ鑄鋼製トス

排水管接手
（ 鉄 製）

、90° Y字管



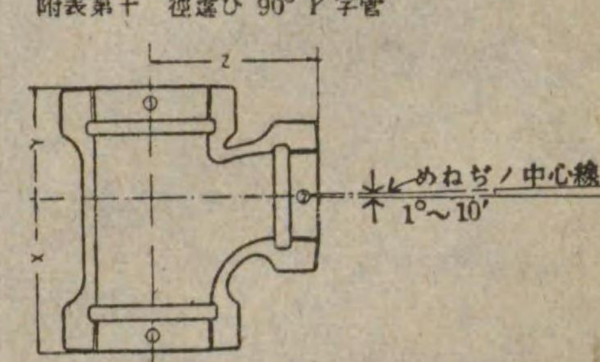
單位 mm

中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y
57	40
63	44
76	53
92	64
106	74
132	92
158	110
185	128

狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄 鉄 製）

附表第十 徑違ひ 90° Y字管



單位 mm

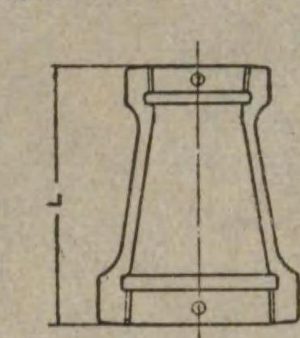
稱呼 ①	②	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z
1½吋	×1¼吋	58	41	60
2	×1¼	61	45	66
2	×1½	66	48	69
2½	×1½	69	51	77
2½	×2	79	57	84
3	×1½	72	55	83
3	×2	82	60	90
3	×2½	95	68	99
4	×1½	77	61	95
4	×2	87	66	102
4	×2½	100	74	112
4	×3	112	80	118

稱呼 ①	②	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z
5吋	×2吋	90	70	115
5	×2½	104	78	124
5	×3	114	84	132
5	×4	135	96	145
6	×2	96	77	128
6	×3	122	91	144
6	×4	142	104	158
6	×5	165	118	170

備考 端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

ねぢ付排水管接手
（鑄 鉄 製）

附表第十二 漸 大 管



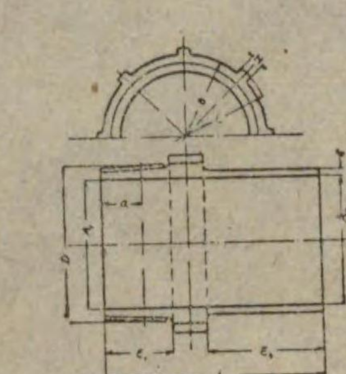
單位 mm

稱呼 ①	②	L	Lノ公差
2吋	×1½吋	150	± 2.5
2½	×2	150	± 2.5
3	×2	150	± 3.0
4	×2	200	± 3.5
4	×3	200	± 3.5
5	×3	200	± 3.5
5	×4	200	± 3.5
6	×4	200	± 3.5
6	×5	200	± 3.5

備考 端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

參考圖

半田付けにつぶる
（青 銅 製）



單位 mm

稱呼	L 寸法	L 公差	ねぢ側 E_1	ねぢノ基本徑 D	ねぢ山數 25.4mmニ付	A_1	半田付け側 E_2	A_2	t	B	C	凸起 H	數
1¼吋	72	±2	22	41.912	11	33	40	30	2	46	52	5	6
1½	75	±2	23	47.805	〃	38	40	40	2	50	56	5	6
2	85	±2.5	26	59.616	〃	50	45	50	2	63	69	5	8
2½	95	±2.5	29	75.187	〃	65	50	66	3	77	85	6	8
3	98	±3	32	87.887	〃	75	50	75	3	90	98	7	8
4	105	±3.5	37	113.034	〃	100	50	100	3	115	125	8	8

備考 一、ねぢハ日本標準規格第37號管接手ねぢニ依ルモノトス

二、ねぢハ圓錐ねぢトス

三、圖中ノaハ日本標準規格第37號管接手ねぢ參照

第 5 章　記　　號

第 6 條　接手ニハ外側一定ノ箇所ニ稱呼及製造所ノ記號ヲ鑄出スルモノトス

第 6 章　亞鉛めつき及塗裝

第 7 條　接手ハ亞鉛めつき又ハ塗裝ヲ施スモノトス

第 8 條　亞鉛めつき方法ハ日本標準規格第 271 號水道用亞鉛めつき鋼管ノ亞鉛めつき方法ニ依ルモノトス

第 9 條　塗裝ハ註文者ノ指定ニ依ルモノトス

第 7 章　檢査及水壓試驗

第 10 條　接手ハ其ノ質均一ニシテ有害ナル疵又ハ巢等ノ無キコトヲ要ス

第 11 條　水壓試驗ハ 1 箇毎ニ之ヲ行フモノトス試驗壓力ハ 3.5kg/cm² トス

6. 衞生設備施工規程

第Ⅰ章　術語及定義
第Ⅱ章　給水設備工事
第Ⅲ章　給湯設備工事
第Ⅳ章　排水竝通氣設備工事
第Ⅴ章　衞生器具設備工事

第Ⅰ章　術語及定義

第 1 條　本取締規程ニ用フル術語及定義次ノ如シ

1、衞生設備

衞生設備トハ建築物內及其ノ敷地內ニ於ケル給水給湯、排水竝通氣、衞生器具等ニ關スル諸設備ヲ謂フ

2、衞生器具

衞生器具トハ水其ノ他ノ液體又ハ洗淨セラルヘキ汚物ヲ受入レ更ニ之ヲ排水管ニ排除スル目的ノ器物ヲ謂フ

3、「トラツプ」

「トラツプ」トハ排水管內ニ於ケル下水瓦斯及空氣カ其ノ上流ニ向テ通過スルヲ水封ニ依リ阻止スル裝置或ハ衞生器具附屬品ニシテ汚水ノ流通ヲ甚シク妨ケサル構造ノモノヲ謂フ

4、「トラツプ」封水深

「トラツプ」封水深トハ「トラツプ」水封ノ下潛リ部上端ヨリ溢流部下端迄ノ垂直距離ヲ謂フ

5、通氣管

通氣管トハ排水管內ニ起ル氣壓ノ異常ナル變化ヲ緩和シテ「トラツプ」ノ水封ヲ保護シ且ツ排水管內ノ換氣ヲ行ハシムル目的ノ管ヲ謂フ

6、連續通氣

連續通氣トハ汚水カ P「トラツプ」ヲ經テ直ニ立下リ管ニ流入スル場合ニ於テ其ノ管ヲ其儘上方ニ延長シテ之ヲ通氣管トナス方式ヲ謂フ

7、環狀通氣

環狀通氣トハ排水橫管ヨリ分岐シテ通氣管ヲ立上クル方式ヲ謂フ

8、排水管

排水管トハ屎尿ヲ含ム汚水又ハ其ノ他ノ汚水ヲ排除スル管ノ總稱トス

9、家屋排水橫主管

家屋排水橫主管トハ屋內排水系統中ノ底部橫管トシ且ツ直接外壁ヲ貫キテ屋外ニ到ル管ニシテ外壁外面ヨリ外方ハ 1m 迄ノ部分ヲ謂フ

10、宅地下水

宅地下水トハ家屋排水橫主管竝雨樋等ヲ之ニ連絡スル建築敷地內排水施設ヲ謂フ

第 II 章　給水設備工事

第 2 條　給水ニ使用スル管ハ鑄鐵管、鋼管、黃銅管銅管及鉛管タルヘク管接手類、弁、水栓等ハ鑄鐵、可鍛鑄鐵、黃銅、靑銅及銅製タルヘシ

第 3 條　鑄鐵製管類、同弁、鋼管及可鍛鑄鐵製管接手類ハ其ノ內面ニ有效ナル防蝕方法ヲ施セルモノヲ使用スヘシ

第 4 條　鑄鐵製管類、同弁、鋼管及可鍛鑄鐵製管接手類ヲ土中其ノ他ニ埋設シ或ハ鉛管ヲ「コンクリート」中ニ埋設スル場合ハ有效ナル防蝕外裝ヲ施スヘシ

第 5 條　所轄官公署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第 2 條又ハ第 3 條若クハ第 4 條ノ規定ニ拘ラス他ノ材料ノ使用及防蝕方法ノ施工ヲ指定シ若クハ承認スルコトアルヘシ

第 6 條　衞生器具ニ對スル給水管徑ハ次表ノ寸法ヨリ小ナルヘカラス

器　具	管徑(mm)
手洗器	10
洗面器	10
痰吐器	10
大便器(洗淨弁ノ場合)	25
汚物流シ(洗淨弁ノ場合)	25

小便器(洗浄弁ノ場合)	13
洗 浄 水 槽	10
「ビ デ ツ ト」	10
浴 槽	13
如 露 風 呂	10
料 理 場 流 シ	13
洗 濯 流 シ	13
掃 除 用 流 シ	13

第 7 條 上水道水ト之レ以外ノ水トヲ併用スル場合ニ於テハ其ノ配管系統ヲ區別シ混淆ノ虞アル連結ヲナスヘカラス

第 8 條 建築物内配管ニハ鉛管ヲ使用スヘカラス
但シ所轄官公署ニ規程アル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第 9 條 排水竝通氣系統ニ使用シタル管其ノ他ノ材料ハ之ヲ給水系統ニ再使用スヘカラス

第 10 條 給水管中停滯空氣又ハ停滯水ヲ生シ通水ヲ甚シク阻害スル虞アル箇所ニハ排氣裝置又ハ排水裝置ヲ設クヘシ

第 11 條 汚水ガ給水管内ニ逆流スル虞アル裝置及構造ハ之ヲ禁ス

第 12 條 水槌ヲ生シ易キ配管裝置竝給水用具ノ使用ハ之ヲ禁ス

第 13 條 配管、水槽等ニシテ凍結ノ虞アル部分ニハ有效ナル防凍方法ヲ施スヘシ

第 14 條 給水配管竝ニ之ニ直結シテ水壓ヲ受クヘキ水槽、「ポンプ」、弁、水栓及其ノ他ノ機械器具類ハ下記ノ水壓試驗ニ合格スルコトヲ要ス但シ配管ノ狀態ニ依リテハ下記各項ニ據ラサルコトアルヘシ

1、上水道直結ノ部分
所轄官公署ノ規程ニ據ル

2、高架水槽以下ノ部分
配管最低部ニ於テ其ノ點ノ靜水頭ノ 2.5 倍以上

3、氣壓水槽以後ノ部分
配管最低部ニ於テ其ノ點ノ水槽内常用最高水壓時ニ於ケル靜水頭ノ 3.0 倍以上

4、「ポンプ」ノ送出シ管ノ部分
配管最低部ニ於テ其ノ點ノ常用最高水壓ノ 3.0 倍以上

第 III 章 給湯設備工事

第 15 條 給湯ニ使用スル管ハ銅管、黄銅管及銅管タルヘク管接手類、弁、水栓等ハ鑄鐵、可鍛鑄鐵、黄銅、青銅及銅製タルヘシ

第 16 條 銅管、鑄鐵及可鍛鑄鐵製管接手類ハ其ノ内面ニ有效ナル防蝕方法ヲ施セルモノヲ使用スヘシ

第 17 條 所轄官公署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第15條及第16條ノ規定ニ拘ラス他ノ材料ノ使用及防蝕方法ノ施工ヲ指定シ若クハ承認スルコトアルヘシ

第 18 條 衞生器具ニ對スル給湯管徑ハ次表ノ寸法ヨリ小ナルヘカラス

器 具	管徑(mm)
手 洗 器	10
洗 面 器	10
「ビ デ ツ ト」	10
浴 槽	13
如 露 風 呂	10
料 理 場 流 し	13
洗 濯 流 し	13
掃 除 用 流 し	13

第 19 條 湯水混合用ノ弁、水栓等ヲ使用スル場合ニ於テ湯、水ノ何レカ一方ニ上水道水ヲ使用スルトキハ他ノ一方ニモ上水道水ヲ使用スヘシ

第 20 條 給湯設備ニハ水ノ膨脹及管ノ伸縮ニ對シテ安全ナル裝置ヲ設クヘシ

第 21 條 給湯管中停滯空氣又ハ停滯水ヲ生シ通水ヲ甚シク阻害スル虞アル箇所ニハ排氣裝置又ハ排水裝置ヲ設クヘシ

第 22 條 汚水カ給湯管内ニ逆流スル虞アル裝置及構造ハ之ヲ禁ス

第 23 條 水槌ヲ生ジ易キ配管裝置竝給湯用具ノ使用ハ之ヲ禁ス

第 24 條 配管、水槽等ニシテ凍結ノ虞アル部分ニハ有效ナル防凍方法ヲ施スヘシ

第 25 條 給湯配管竝ニ之ニ直結シテ水壓ヲ受クヘキ貯湯槽、湯罐、湯沸器、「ポンプ」、弁、水栓及其ノ他ノ機械器具類ハ下記ノ水壓試驗ニ合格スルコトヲ要ス

但シ配管ノ狀態ニヨリテハ下記各項ニ據ラサルコトアルヘシ

1、上水道直結ノ部分
所轄官公署ノ規程ニ據ル

2、高架水槽以下ノ部分
配管最低部ニ於テ其ノ點ノ靜水頭ノ 2.5 倍以上

3、氣壓水槽以後ノ部分
配管最低部ニ於テ其ノ點ノ水槽内常用最高水壓時ニ於ケル靜水頭ノ 3.0 倍以上

汽罐取締令ニヨリ取締ヲ受クヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第 IV 章 排水竝通氣設備工事

第 1 節 排水管及通氣管

第 26 條 建築物内ニ使用スル排水管及通氣管ハ鑄鐵管、銅管(有效ナル防蝕方法ヲ施セルモノ)鉛管、黄銅管又ハ銅管タルヘク管接手類ハ鑄鐵、可鍛鑄鐵又ハ青銅製タルヘシ

屋外通氣管ハ銅板若ハ黄銅板製管タルコトヲ得ヘシ
所轄官公署ノ承認アル場合ハ前2項ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

第 27 條 排水管ノ横管々徑ハ該管ニ屬スル大便器ノ數1箇ノ場合ハ 75mm 以上2箇以上ノ場合ハ 100 mm 以上タルヘク又大便器ノ取付ナキ場合ハ衞生器具ニ附屬スル「トラップ」中ノ最大管徑以上タルヘシ

第 28 條 排水管ノ竪管々徑ハ之ニ接續スル横管ノ管徑ヨリ小ナルヘカラス

第 29 條 排水管ノ横管ニハ $\frac{1}{100}$ ヨリモ緩ナラサル勾配ヲ附スヘシ

第 30 條 排水管ノ竪主管頂部ハ其ノ管徑ヲ減スルコトナク通氣管トシテ延長シ直上屋根面又ハ軒先ヨリ 30cm 以上立上ラシムヘシ

但シ所轄官公署ノ承認アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第 31 條 通氣管ノ頂端カ居室ノ扉、窓、天窓若クハ換氣筒ヨリ 3m 以内ニアルトキハ其ノ頂端ヲ之等ヨリ上方へ 1m 以上延長セシムヘシ

第 32 條 「トラップ」ノ水封カ「サイホン」作用及逆壓ニ依リテ破ラルヽ虞アル場合ニハ通氣管ヲ設クヘシ

第 33 條 通氣管ノ方式ハ連續通氣又ハ環狀通氣タルヘシ

但シ衞生器具中「トラップ」カ陶器造リ付け式ノモノ又ハ其ノ構造上床面以下ニ於テ「トラップ」ヲ設クルモノニ對スル通氣管ハ此ノ限ニ在ラス

第 34 條 通氣管ノ竪主管頂部ハ第30條ニ準シテ立上ラシムルカ又ハ其ノ系統ニ屬スル最高位衞生器具溢水面ヨリ高キ位置ニ於テ排水管ノ竪主管上方延長部ニ連結スヘシ

第 35 條 衞生器具各箇ニ通氣管ヲ設ケムトスル場合ハ其ノ管徑ハ次表ノ寸法ヨリ小ナルヘカラス

器 具	管徑(mm)
噴上げ水呑器	30
手 洗 器	30
洗 面 器	30
痰 吐 器	30
大 便 器	50
汚 物 流 し	50
小 便 器	30
「ストール」小便器	40
「ビ デ ツ ト」	40
浴 槽	30
如 露 風 呂	30
公衆浴場(錢湯式)	40
料理場流し 住宅用	30
料理場流し 營業用	40
洗 濯 流 し	40
掃 除 用 流 し	40

第 36 條 通氣管ノ横管ニハ管内ニ停滯水ヲ生セサルヤウ勾配ヲ附スヘシ

第 37 條 環狀通氣方式ニ據ル場合通氣管ハ排水管横管ノ最上流ニ位スル衞生器具ノ下流ニ於テ其ノ器具ニ近接シテ該横管ヨリ立上クルコトヲ要ス

前項ノ排水管横管カ同竪主管ノ途中ニ連結セラルル場合ハ該横管ノ最下流ニ位スル衞生器具ノ下流ニ於テ該竪主管ニ近接シテ逃シ通氣管ヲ設クヘシ

第 38 條 通氣管ヲ排水管横管ヨリ立上クル場合ハ其ノ接續部ニ於テ通氣管ノ中心線ヲシテ横管ノ斷面中心ヲ通過スル水平線ニ對シ45度ヨリ大ナル角度ヲ保タシメ且ツ横管ノ勾配線ニ對シ上流ニ向テ45度乃至90度ノ角度ヲ保タシムヘシ

立上リ管ハ通氣セラルヘキ衞生器具ノ溢水面以上ノ高マテ之ヲ延長スヘシ

第 2 節 家屋排水横主管及宅地下水

第 39 條 家屋排水横主管ハ各建築物毎ニ獨立シテ設ケ其ノ建築物ニ屬スル宅地下水ニ連結スヘシ

宅地下水ハ所轄官公署ノ規定ニ從ヒ之ヲ公設下水道ニ連結スルコトヲ要ス

第 40 條 屎尿ヲ直接下水道ニ放流スルコトヲ禁止セラレタル土地ニアリテハ家屋排水横主管ニ接續シテ又ハ宅地下水管ノ途中ニ所轄官公署ノ承認ヲ得タル汚水淨化裝置ヲ設備スルコトヲ要ス

第 41 條 家屋排水横主管ニハ鑄鐵管、鋼管(有效ナル防蝕方法ヲ施セルモノ)、鉛管又ハ黄銅管ヲ使用ス

ヘシ

但シ所轄官公署ニ於テ承認アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第 42 條　家屋排水横主管ノ管徑ハ第27條規定ノ排水管ノ横管管徑ト同等若クハ夫レ以上タルヘシ

第 43 條　軟弱ナル地盤ニ於ケル宅地下水用管ハ陶管又ハ「コンクリート」管ヲ「コンクリート」基礎上ニ敷設スルカ或ハ鑄鐵管ヲ使用スヘシ

第 3 節　雨樋、溢水管竝特殊排水管

第 44 條　屋内雨樋ハ鑄鐵管、銅管（有效ナル防蝕方法ヲ施セルモノ）、鉛管、黄銅管又ハ銅管タルベク管接手類ハ鑄鐵、可鍛鑄鐵又ハ青銅製タルヘシ

第 45 條　雨樋ノ上部開口カ居室ノ扉、窓、天窓若クハ換氣筒ヨリ 3m 以内ニアルトキハ該樋ト宅地下水又ハ公設下水道トノ連結點附近ニ於テ「トラップ」ヲ設クヘシ

但シ所轄官公署ノ承認アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第 46 條　雨樋ハ之ヲ排水管若クハ通氣管ニ兼用スヘカラス

第 47 條　水槽類ノ溢水管末端ハ開口セシムルコトヲ要シ排水管、通氣管又ハ雨樋ニ之ヲ直結スヘカラス

第 48 條　油脂ヲ多量ニ若クハ常時流出スル自動車庫、調理所等ヨリノ排水ハ車庫用「トラップ」又ハ脂肪「トラップ」ヲ經テ排水スヘシ

但シ之等「トラップ」ニ關シ所轄官公署ニ規定アル場合ハ之ニ從フモノトス

第 49 條　冷藏箱其ノ他食物貯藏用容器ヨリノ排水管ハ之ヲ排水系統ニ直結スルコトナク其ノ末端ヲ排水受皿、流シ、床「トラップ」或ハ「トラップ」ヲ備ヘタル排水受口上ニ開口セシムヘシ

第 4 節　配　管　試　驗

第 50 條　建築物壁體外部ニ於ケル雨樋及通氣管ヲ除キ其他總テノ配管ニハ水壓試驗ヲ行フモノトス、若シ之ヲ行ヒ難キ場合ハ氣壓試驗ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

但シ所轄官公署ノ承認アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第 51 條　水壓試驗ハ配管ノ全部ニ付同時ニ或ハ其ノ一部分毎ニ付キ分割シテ之ヲ行フモノトシ何レモ配管中ノ最高開口ヲ除キ器具トノ連結口ヲ全部密閉シテ管内ニ滿水セシムルモノトス

滿水ニ依ル水壓試驗ニ代フルニ「ポンプ」ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得、如何ナル場合ト雖モ試驗水頭ハ 3 m 以上トシ試驗水壓ハ 0.3kg/cm 以上トス

但シ最高開口ヨリ下方へ 3m 迄ハ此ノ限ニ在ラス

氣壓試驗ハ配管ノ全開口ヲ密閉シ試驗器ニテ空氣ヲ管内ニ壓送シ水銀柱 22cm 若ハ 0.3kg/cm² 以上ノ均等壓力ニ保タシムヘシ

第 52 條　配管ニ衞生器具ヲ連結シタル後ハ通水試驗ヲ行フモノトス

通水試驗ハ各器具ノ使用狀態ニ適應セル水量ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第 53 條　宅地下水ハ之ニ流水シテ其ノ疏通狀態ヲ試驗スルモノトス

第 V 章　衞生器具設備工事

第 54 條　大便器、小便器、痰吐器、「ビデット」汚物流シノ材質ハ硬燒陶器及内面琺瑯引鐵材タルヘクヒツ器具ノ主要内面ヲ洗淨シ得ルヤウ瀉水裝置ヲナスヘシ

但シ所轄官公署ノ承認アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第 55 條　衞生器具ノ溢水管ハ「トラップ」ノ流入口側ニ於テ排水管ニ接續スヘシ

第 56 條　衞生器具ニシテ汚水ニヨリ給水又ハ給湯系統カ汚染セラルル虞アル構造ノモノハ之ヲ使用スヘカラス

第 57 條　各衞生器具ニハ其器具ニ近接シテ「トラップ」ヲ設クヘシ

但シ排水ニ支障ナキ場合ニ限リ類似ノ器具數箇ニ對シ 1 箇ノ「トラップ」ヲ共用スルコトヲ得

第 58 條　「トラップ」ノ材質ハ金屬、陶器其ノ他ノ不滲透材タルヘシ

第 59 條　「トラップ」流出口ノ管徑ハ次ノ寸法ヨリ小ナルヘカラス

器　具	管徑(mm)
噴上げ水呑器	30
手　洗　器	30
洗　面　器	30
痰　吐　器	30
大　便　器	75
汚　物　流　し	75
小　便　器	40
「ストール」小便器	50
「ビ　デ　ツ　ト」	40
浴　　槽	40
如　露　風　呂	50

公衆浴槽(錢湯式)		75
料理場流し	住宅用	40
	營業用	75
洗　濯　流　し		40
掃　除　用　流　し		65

第 60 條　「トラップ」ハ 50mm 以上 100mm 以下ノ封水深ヲ有スルモノタルヘシ

第 61 條　「トラップ」ハ其ノ封水カ凍結セサルヤウ保護スヘシ

第 62 條　「トラップ」ニシテ點檢　、掃除不能ナル阻板又ハ容易ニ取外シ得ル器械ニ依リ水封セラルルカ如キ形式ノモノハ之ヲ使用スヘカラス

第 63 條　洗淨水槽ヨリノ洗淨管ハ其ノ所屬衞生器具及其ノ附近ニ設ケラルル床「トラップ」以外ノ器具ニ連結スヘカラス

第 64 條　洗淨弁ヲ使用セントスル場合ハ其ノ給水系統ニ汚水カ逆流セサルヤウ裝置スヘシ

7. 下込ストーカ規格

第 1 條　適用範圍

本規格ハ鑄鐵罐ニ取付ケル下込ストーカニ適用ス

本規格ノ適用ハ毎時最大送炭量 500kg 以下ノモノニ限ル

鑄鐵罐以外ニ用ヒル下込ストーカニ就イテモ大略本規格ニ準ス

第 2 條　ストーカノ設計構造

ストーカハ機械的ニ石炭ヲ燃燒シ、送炭量ヲ數段ニ調節シ得ル要素ヲ具備シ、貯炭槽ヨリ石炭ヲ長時間ニ亘リ一定ノ割合テ「レトルト」ニ送入シテ燃燒ニ都合ヨキ推積ヲ作リ、之ニ適當量ノ空氣ヲ供給シ得ル構造ヲ有スヘキモノトス

構造各部ハ摩耗又ハ燒損等ニ對シテ夫々耐久力大ナル材質ノモノヲ使用シ、且ツ充分ナル信賴性ヲ有ツ樣ニ設計・工作ヲ施スヘキモノトス

傳動部ニハ適當ナル安全裝置（例ヘハ安全ピンノ如キモノ）ヲ備ヘルコト

第 3 條　ストーカノ定格容量

ストーカノ定格容量ハソノ「ストーカ」ニ於ケル燃燒ノ最良ナル狀態ニ對スル毎時送炭量（kg）ヲ以テ呼稱ス

容量ヲ表ハス呼稱數量ハ前ニEヲ附シ例ヘハE-100ノ樣ニ記スルコト

呼稱數量ハ端數ヲ切捨テ、30kg 以下ノモノハ 1kg ヲ、30 乃至 100kg ノ場合ニハ 5kg. 100kg 以上ノモノハ 10kg ヲ單位トシテ表ハモノトス

例　E-20（毎時送炭量 20～20.9kg ノモノ）

E-45（〃　〃　45～49.9kg　〃）

E-180（〃　〃　180～189 kg　〃）

呼稱定格容量ハ銘板ニ記入スルコト

第 4 條　ストーカノ送炭能力

各ストーカハ定格容量ヲ超エ、ソノ30乃至40%ノ過負荷送炭能力ヲ有スヘキモノトス

第 5 條　ストーカノ送風機容量

ストーカノ送風機ハ最大送炭ノ場合ニ於テ、該「ストーカ」所定ノ風壓ノモトニ、石炭 1kg 當テ空氣 12m³（壓力 760mm Hg, 温度 15℃ ニ換算）以上ノ容量ヲ有スヘキモノトス

送風機ノ試驗ニ就テハ日本標準規格 358 號「送風機試驗方法」ニヨルコト

第 6 條　使用炭種

ストーカ用石炭トシテハ微細粉ノ含有量少キ粉炭ニシテ、次ノ性質ノモノヲ適當トス

揮　發　分	30%以上
灰　　分	15%以下
發　熱　量(高)	6,000kcal/kg以上
粘　結　性	弱キモノ
クリンカーノ成生	少キモノ

第 7 條　罐ノ燃燒室容積及ビ高サ

燃燒室ハ燃燒上有效ナル形狀ヲ有シ、ソノ容積ハ「ストーカ」ノ定格毎時送炭量ノ 1kg 當テ 0.017m³ 以上タルヘキモノトス

又ハ燃燒室容積 1m³ 當テ毎時燃燒石炭量ハ 60kg 以下タルヘキコト

燃燒室ノ高サハ定格容量 30～100 kg ノモノニアリテハ火床板上 1m 以上、100～250kg ノモノニアリテハ 1.2 m 以上、250 kg ヲ超エルモノニアリテハ 1.5m 以上タルヘキモノトス

第 8 條　ストーカノ運轉試驗

ストーカハ定格容量ニテ連續 5 時間、次イテ最大送炭ニテ 3 時間ノ燃燒運轉ヲ行ヒ、構造各部ニ故障ナキコトヲ要ス

コノ際軸受温度ノ上昇ハ攝氏40度ヲ超エサルモノトス

運轉ハ圓滑ニシテ振動並ニ騷音ノ輕微タルヘキコト

8. 保　温　材　規　格

第1部　高溫用保溫材規格

目　　次

第1類　石綿繊維を主材とするもの
第1章　石綿繊維製板及圓筒
第2章　同波形板及石綿波形圓筒
第3章　同　板(アスベストミルボード)
第4章　同　蒲團
第2類　鹽基性炭酸マグネシユームを主材とするもの
第1章　85%炭酸 Mg 板及圓筒
第2章　85%炭酸 Mg 保溫材
第3類　硅藻土を主材とするもの
第1章　硅藻土保溫材
第4類　鑛滓綿を主材とするもの
第1章　鑛　滓　綿

第1類　石綿繊維を主材とするもの

第1章　石綿繊維製板及圓筒

第1條　構　　造

石綿繊維ヲ適當ニ開綿シタルモノヲ適當ナル接合材ヲ以テ所要ノ板狀或ハ中空圓筒狀ニ成形セルモノニシテ有機性繊維ヲ含マザルモノトス、板又ハ圓筒ノ周圍ニ布又ハ紙ヲ貼付スルモ差支ヘナシ

第2條　比　　重

板或ハ圓筒ハ厚サ 20mm 以下ノモノハ其ノ比重 220kg/m³ 以上 320kg/m³ 以下トシ厚サ 25mm 以上ノモノハ其ノ比重 180kg/m³ 以上 280kg/m³ 以下トス

比重ハ圓筒ノ場合ハ製品ノ儘ニテ其ノ寸法及重量ヨリ計算シ、板ノ場合ハ板面 150mm 角上ニ 10kg ノ重量ヲ平均ニ加ヘタル時ノ各部ノ平均厚サヲ求メ之レヨリ計算スルモノトス

第3條　熱傳導率ノ測定法

熱傳導率ハ比較法ニ依リ加熱面ヲ試料ノ上側ニ冷却面ヲ試料ノ下側ニシテ測定ヲ行フモノトス、試料ノ寸法ハ 200mm 角以上トス

圓筒ノ場合ハ之ト同質、同比重ノ板ヲ製作シ、之ヲ試料トシ熱傳導率ノ測定ヲ行フモノトス、熱傳導率ノ測定ハ總テ試料ヲ 105°C ノ乾燥空氣中ニテ1時間乾燥セルモノニツキ行フモノトス

第4條　熱傳導率

試料ノ平均溫度 100°C±5°C ニ於テ 0.055 kcal/mh°C 以下トス

第5條　濕　　分

試料約 2gr ヲ 105°C ノ乾燥空氣中ニテ1時間乾燥セル時其ノ減重量完全乾燥重量ノ 3%° 以下トス、但シ長時間濕氣多キ場所ニ貯藏セルモノハ 5% 以下トス

第　1　表

使用瓦斯管稱呼（吋）	內　徑 mm	平均內徑ノ公差 mm	厚サ及平均厚サノ公差 mm										
½	21.7	± 2	$10\pm^{2}_{1}$	$15\pm^{2}_{1}$	$20\pm^{2}_{1}$	$25\pm^{3}_{2}$							
¾	27.2	〃 〃	〃	〃	〃	〃							
1	34.0	〃 〃	〃	〃	〃	〃	$10\pm^{3}_{2}$	$35\pm^{3}_{2}$					
1¼	42.7	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
1½	48.6	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
1¾	54.6	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	$40\pm^{3}_{2}$				
2	60.5	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
2½	76.3	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
3	89.1	〃 3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	$45\pm^{3}_{2}$			
3½	101.6	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
4	114.3	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	$50\pm^{3}_{2}$		
4½	127.0	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
5	139.8	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
5½	152.5	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	$55\pm^{3}_{2}$	$60\pm^{3}_{2}$
6	165.2	〃 〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

第6條　灼熱減量

105°C ノ乾燥空氣中ニテ1時間乾燥セル試料約 2gr ヲ更ニ 820°C ノ空氣中ニテ30分間灼熱セル後ノ灼熱ニ依ル、減重量ハ灼熱前ノ重量ノ18%以下トス

第7條　形狀寸法

石綿繊維製板ハ其ノ長サ及幅ハ各々 1,000mm±4mm（當分ノ間ハ 915mm±4mm）トシ厚サノ種類及公差ハ下記ノ如クナルヲ要ス

10^{+2}_{-1}mm	25^{+3}_{-2}mm	40^{+3}_{-2}mm
15^{+2}_{-1}mm	30^{+3}_{-2}mm	45^{+4}_{-2}mm
20^{+2}_{-1}mm	35^{+3}_{-2}mm	50^{+5}_{-3}mm

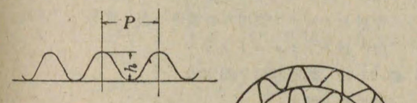
板ノ厚サハ平面上ニテ板面 150mm、角上ニ 10kg ノ重量ヲ平均ニ加ヘタル狀態ニテ測定シタル各部ノ厚サノ平均値ヲ採リ、公差ハ平均ノ公差トス

石綿繊維製圓筒ハ中空圓筒ヲ軸ノ方向ニ1ケ所又ハ2ケ所縱割セルモノニシテ1本ノ長サ 1,000mm±4mm（當分ノ間ハ 915mm±4mm）トシ圓筒內徑厚サ及公差ハ第1表ニ示ス

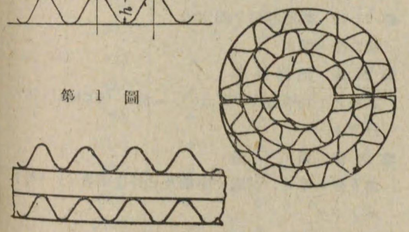
第2章　石綿波形板及石綿波形圓筒

第8條　構　　造

抄紙機ニヨリ抄紙セル石綿繊維ヲ主材トセル石綿紙ヲ以テ第1圖ニ示ス如キ波形紙ヲ作リ之レヲ重合シ適當ナル接合材ヲ以テ第2圖ノ如キ所要厚サノ板、又ハ第3圖ノ如キ中空圓筒ニ成形セルモノトシ波形



第　1　圖



第　2　圖　　第　3　圖

ノ大小ニヨリテ2種ニ類別ス

板或ハ圓筒ノ周圍ニ布又ハ紙ヲ貼付スルモ差支ナシ

第1種　波形ノ山ノ高サ（h）ハ 6mm～7mm、山ノ歩ミ（P）ハ 13mm～14mm ノモノトス

第2種　波形ノ山ノ高サ（h）ハ 3mm～4mm、山ノ歩ミ（P）ハ 6mm～7mm ノモノトス

石綿波形板及ビ圓筒ヲ製作スルニ用フル石綿紙ノ厚サハ第1種ニ於テハ 0.4mm 以上トシ、第2種ニ於テハ 0.25mm 以上トス

第9條　熱傳導率ノ測定法

第3條ニ準ズ（但シ空氣層內ノ空氣ガ外界ト連絡スルコトヲ防止スルタメ試料ノ戶口ハ適當ニ密閉スルモノトス）

第10條　熱傳導率

試料ノ平均溫度 100°C±5°C ニ於テ第1種、第2種共ニ 0.09kcal/mh°C 以下トス

第11條　濕　　分

第5條ニ準ズ

第12條　灼熱減量

第6條ニ記載ノ方法ニ依リ試驗セル結果ノ減重量ハ灼熱前ノ重量ノ28%以下トス

第13條　形狀寸法

石綿波形板ハ其ノ長サ及ビ幅ハ各々 1,000±4mm（當分ノ間ハ 915mm±4mm）トシ厚サノ種類及公差ハ第2表ノ如クナルヲ要ス

第　2　表

第　1　種		第　2　種	
公稱厚サ mm	波形紙重合數	公稱厚サ mm	波形紙重合數
13	2	13	3
20	3	20	5
26	4	26	6
33	5	33	8
39	6	39	10
46	7	46	12
52	8	52	13

石綿波形圓筒ハ中空圓筒ヲ軸ノ方向ニ2ケ所縱割セルモノニシテ1本ノ長サ 1,000mm±4mm（當分ノ間ハ 915mm±4mm）トシ內徑及ビ公差ハ第3表ノ如クナルヲ要ス

石綿波形圓筒ノ厚サハ第2表波形板ニ準ズ

第3章　石綿板（アスベストミルボード）

第14條　構　　造

石綿繊維ニ少量ノ充塡材及結合材ヲ加ヘ之レヲ抄紙機ニヨリ抄紙セルモノニシテ有機性繊維ヲ含マザル

第 3 表

使用瓦斯管稱呼(吋)	內徑 mm	平均內徑ノ公差 mm	使用瓦斯管呼稱(吋)	內徑 mm	平均內徑ノ公差 mm
½	21.7	± 2	3	89.1	± 3
¾	27.2	〃 〃	3½	101.6	〃 〃
1	34.0	〃 〃	4	114.3	〃 〃
1¼	42.7	〃 〃	4½	127.0	〃 〃
1½	48.6	〃 〃	5	139.8	〃 〃
1¾	54.6	〃 〃	5½	152.5	〃 〃
2	60.5	〃 〃	6	165.2	〃 〃
2½	76.3	〃 〃			

モノトス

第 15 條　比　　重

1150kg/m³ 以下トス

第 16 條　熱傳導率ノ測定法

熱傳導率ハ比較法ニヨリ加熱面ヲ試料ノ上側ニ冷却面ヲ試料ノ下側ニシテ測定ヲ行フモノトス、試料ノ寸法ハ 200mm 角以上トス、試料ノ厚サ薄キ場合ハ數枚ノ試料ヲ重合シ厚サ 10mm 附近ニ達セシメ其ノ熱傳導率ヲ測定スルモノトス

第 17 條　熱傳導率

試料ノ平均溫度 100°C±5°C ニ於テ 0.2kcal/mh°C 以下トス

第 18 條　濕　　分

第 5 條ニ準ズ

第 19 條　灼熱減量

第 6 條ニ記載ノ方法ニ依リ試驗セル結果ノ減重量ハ灼熱前ノ重量ノ 18% 以下トス

第 20 條　形狀寸法

石綿板ハ其ノ長サ及ビ幅ハ各 1,000mm±4mm トシ平均厚サ及ビ厚サノ公差ハ第 4 表ニ示ス如クナルヲ要ス

第 4 表

平均厚サ mm	平均厚サノ公差 mm	平均厚サ mm	平均厚サノ公差 mm
1	±0.3 / 0.1	4	±0.4 / 0.2
1.5	±0.3 / 0.1	5	±0.5 / 0.3
2	±0.3 / 0.1	6	±0.5 / 0.3
3	±0.4 / 0.2		

第 21 條　强　　度

供試材料中ヨリ日本標準規格金屬材料抗張試驗片第 5 號ニ相當スル試驗片ヲ縱橫共成ルベク多數ヲトリテ抗張試驗ヲ行ヒ、縱橫ノ平均値ハ 5.0kg/cm² 以上ナルコトヲ要ス、但シ橫ノミノ平均値ハ 2.0kg/cm² 以上ナルコトヲ要ス

試驗片ハ試驗前ニ 105°C ノ乾燥空氣中ニテ 1 時間乾燥スルコトヲ要ス

第4章　石　綿　蒲　團

第 22 條　構　　造

石綿糸ヲ以テ製織セル石綿布ヲ外皮トシ石綿纖維ヲ中綿トセル石綿蒲團ニシテ中綿ノ移動ヲ防止スルタメニ全面ニ亘リ約 60mm ノ間隙ニ千鳥形ニ表裏ヲ黃銅線入石綿糸ヲ以テ綴チタルモノトス、中綿中ニハ有機性纖維或ハ粉末狀物質ヲ混入セザルモノトス

外皮石綿布ノ徑糸ハ布ノ巾 1,000mm ニツキ 590 本以上、緯糸ハ 300 本以上トシ、布ノ厚サ 1.5mm 以上ナルヲ要ス

外皮石綿布ノ品質ニヨリ 5 種類ニ類別ス

熱面ニ接セザル外面の布ニ限リ徑糸ノ數 1,000mm 當リ 300 本以上、緯糸ノ數 300 本以上ノ布ヲ使用スルコトヲ得

第 23 條　比　　重

外皮石綿布ノ重量ハ 1.0kg/m² 以上トシ、中綿ノ比重ハ 180kg/m³ 以上 210kg/m³ 以下トス

熱面ニ接セザル外面ノ布ヲ緯糸 300 本以上徑糸 300 本以上ノモノヲ使用スル場合ハ布ノ重量ハ 0.67kg/m² 以上トナルコトヲ要ス

第 24 條　熱傳導率ノ測定法

第 3 條ニ準ズ

第 25 條　熱傳導率

試料ノ平均溫度 100°C±5°C ニ於テ 0.05kcal/mh°C 以下トス

第 26 條　濕　　分

第 5 條ニ準ズ、試驗ハ中綿及ビ外皮兩者ニツキ行フモノトス

第 27 條　灼熱減量

第 6 條ニ記載ノ方法ニヨリ試驗セル結果ノ減重量ハ灼熱前ノ重量ニ對シ下記ノ如クナルヲ要ス

外皮石綿布
- 第 1 種　16% 以下
- 第 2 種　20% 以下
- 第 3 種　25% 以下
- 第 4 種　30% 以下
- 第 5 種　35% 以下

中綿石綿纖維　15% 以下

第 28 條　形狀寸法

蒲團ノ厚サハ平面上ニテ蒲團面 150mm 角上ニ 10kg ノ重量ヲ平均ニ加ヘタル狀態ニテ測定シタル各部ノ厚サノ平均値ヲ採リ、之ノ厚サハ注文者ノ指定ノ厚サニ對シ公差 +5mm / −0mm ナルヲ要ス

第2類　鹽基性炭酸マグネシウムを主材とするもの

第1章　85% 炭酸マグネシウム板及圓筒

第 1 條　構　　造

鹽基性炭酸マグネシウムト石綿纖維トヲ重量ニテ 85 ト 15 ノ割合ニ均等ニ混合シ之レニ適當ノ接合材ヲ加ヘ壓縮シ所要ノ板狀又ハ中空圓筒狀ニ成形スルモトシ、有機性纖維ヲ呈マザルモノトス

板及圓筒ノ周圍ニ布又ハ紙ヲ貼付スルモ差支ヘナシ

第 2 條　比　　重

330kg/m³ 以下トス

第 3 條　熱傳導率ノ測定法

第1類、第3條ニ準ズ

第 4 條　熱傳導率

試料ノ平均溫度 100°C±5°C ニ於テ 0.07kcal/mh°C 以下トス

第 5 條　濕　　分

第1類、第5條ニ準ズ

第 6 條　灼熱減量

第1類、第6條ニ記載ノ方法ニヨリ試驗セル結果ノ減重量ハ灼熱前ノ重量ノ 45% 以上 55% 以下トス

第 7 條　形狀寸法

85% 炭酸マグネシウム板ノ長サ、巾、厚さ及ビ其等ノ公差ハ第 5 表ノ如クナルヲ要ス

85% 炭酸マグネシウム圓筒ハ中空圓筒ヲ軸ノ方向ニ 2 ケ所縱割セルモノニシテ 1 本ノ長サ 610mm±4

第 5 表

厚サ mm	平均厚サノ公差 mm	幅 mm	平均幅ノ公差 mm	長サ mm	平均長サノ公差 mm
15	± 2/1	152	± 3/1	305	± 3/1
20	± 3/1	〃	± 3/1	610	± 3/1
25	± 3/1	〃	± 3/1	〃	± 3/1
30	± 3/1	〃	± 3/1	〃	± 3/1
35	± 3/1	〃	± 3/1	〃	± 3/1
40	± 3/1	〃	± 3/1	〃	± 3/1
45	± 3/1	〃	± 3/1	〃	± 3/1
50	± 3/1	〃	± 3/1	〃	± 3/1

第 6 表

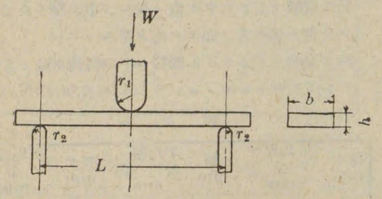
使用瓦斯管稱呼(吋)	內徑 mm	平均內徑ノ公差 mm	厚サ及ビ平均厚サノ公差 mm										
⅛	21.7	± 2	10±2/1	15±2/1	20±2/1	25±3/2							
¾	27.2	〃	〃	〃	〃	〃							
1	34.0	〃	〃	〃	〃	〃	30±3/2	35±3/2					
1¼	42.7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
1½	48.6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃					
1¾	54.6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	40±3/2				
2	60.5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
2½	76.3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
3	89.1	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃				
3½	101.6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	45±3/2			
4	114.3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃			
4½	127.0	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	50±3/2		
5	139.8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃		
5½	152.5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	55±3/2	60±3/2
6	165.2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

mm トシ、圓筒内徑、厚サ及公差ハ第6表ノ如クナルヲ要ス

第 8 條　強　　度

第4圖ニ示ス如キ方法ニヨリ試驗ヲ行ヒ $\sigma=\frac{3WL}{2bh^2}$ 式ニヨリ算出セルσノ平均値ハ第7表ノ如クナルヲ要ス

L=20cm　　b=15cm



第　4　圖

但シ　σ=破壊強度　kg/cm²
W=破壊荷重　kg
L=ゲージ長サ　cm
b=試驗片巾　cm
h=試驗片厚サ　cm

第　7　表

厚　サ	σ
20mm　以下	0.70　以上
30mm　以下	0.55　以上
40mm　以下	0.50　以上
50mm　以下	0.45　以上

强度試驗用試驗片ハ試驗前ニ105℃ノ乾燥空氣中ニテ1時間乾燥スルヲ要ス、試驗片ハ成ルベク多數採ルヲ要ス

圓筒ノ場合ハ之レト同質同密度ノ板ニツキ試驗ヲ行ナフモノトス、又周圍ニ布又ハ紙ヲ貼付セルモノハ之レヲ除キ試驗ヲ行フモノトス

第 9 條　化學試驗

試料ヲ稀鹽酸中ニ放置スルトキ不溶解物中ニハ粉末ヲ混ゼズ、不溶解纖維ハ試料全重量ノ15%±3%ナルコトヲ要シ、又試料ノ適當量ヲ稀硫酸中ニ放置スルトキ不溶解物ノ量ハ試料全重量ノ18%以上ナラザルコトヲ要ス

第2章　85%炭酸マグネシウム保溫材

第 10 條　構　　造

鹽基性炭酸マグネシウムト石綿纖維トヲ重量ニテ85ト15ノ割合ニ均等ニ混合シタルモノニシテ有機性纖維ヲ含マザルモノトス

第 11 條　種　　類

85%炭酸マグネシウム保溫材ヨリ石綿纖維ヲ取除キタル殘部鹽基性炭酸マグネシウムノ約 50gr ヲ網カキ目ノ布ニテ包ミ之レヲ水中ニ沈メタル後引揚ゲ約40分間懸垂シ充分水ヲ滴下セシメタルトキ試料ニ吸收サレタル水ノ量ノ試料ノ重量ニ對スル割合ハ下記ノ如クナルヲ要ス

第1種	5 倍以上
第2種	3 倍以上

第 12 條　濕　　分

第1類、第5條ニ準ズ

第 13 條　灼熱減量

第2類、第6條ニ準ズ

第 14 條　化學試驗

第2類、第9條ニ準ズ

第3章　炭酸マグネシウム保溫材

第 15 條　構　　造

鹽基性炭酸マグネシウムニ纖維ノ長サ 50mm 以上ノ石綿纖維ヲ全重量ノ 8～5% 均等ニ混合セルモノトス

第 16 條　種　　類

混合セル纖維ノ量及使用炭酸マグネシウムノ品質ニヨツテ下記ノ2種類ニ類別ス

第1種　石綿纖維ヲ8% 混合セルモノニシテ使用炭酸マグネシウムノ最大吸水率5倍以上ノモノ

第2種　石綿纖維5% 混合セルモノニシテ使用炭酸マグネシウムノ最大吸水率3倍以上ノモノ

使用炭酸マグネシウムノ最大吸水率ハ第2類第11條ニ記載ノ方法ニヨリ測定スルモノトス

第 17 條　濕　　分

第1類、第5條ニ準ズ

第 18 條　灼熱減量

第1類、第6條ニ記載ノ方法ニヨリ測定シタル結果ハ下記ノ如クナルヲ要ス

第1種	47% 以上 60% 以下
第2種	47% 以上 60% 以下

第 19 條　化學試驗

第2類、第9條ニ記載ノ方法ニヨリ試驗ヲナシタル結果ハ下記ノ如クナルヲ要ス

第1種　稀鹽酸ニヨル不溶解物8% 以上、稀硫酸ニヨル不溶解物ハ稀鹽酸ニヨル不溶解物ノ量以上ナラザルコトヲ要ス

第2種　稀鹽酸ニヨル不溶解物5% 以上、稀硫酸ニヨル不溶解物ハ稀鹽酸ニヨル不溶解物ノ量以上ナラザルコトヲ要ス

第3類　珪藻土を主材とするもの

第1章　珪藻土の保溫材

第 1 條　構　　造

乾燥粉末狀硅藻土ニ纖維ノ長サ 50mm 以上ノ石綿纖維ヲ全重量ニ對シ 5%、4%、3%、2% 均等ニ混合モルモノトス

第 2 條　種　　類

混合スル石綿纖維ノ量及使用硅藻土ノ品質ニヨリ下記ノ4種類ニ類別ス

第1種　石綿纖維ヲ5% 混合セルモノニシテ硅藻土ノ最大吸水率 3.5 倍以上ノモノ

第2種　石綿纖維ヲ4% 混合セルモノニシテ硅藻土ノ最大吸水率 2.5 倍以上ノモノ

第3種　石綿纖維ヲ3% 混合セルモノニシテ硅藻土ノ最大吸水率 1.8 倍以上ノモノ

第4種　石綿纖維ヲ2% 混合セルモノニシテ硅藻土ノ最大吸水率 1.0 倍以上ノモノ

最大吸水率ハ第2類、第11條ニ記載ノ方法ニヨリ測定スルモノトス、但シ試料ハ 100gr 採取スルモノトス

第4類　鑛滓綿を主材とするもの

第1章　鑛　滓　綿

第 1 條　構　　造

溶融鑛滓ニ空氣或ハ蒸氣ヲ吹キ當テテ製造スル無水硅酸ト石灰ヲ主成分トスル鑛物性纖維ニシテ有機性纖維ヲ混ゼザルモノトス、品質ニヨリ3種類ニ分類ス

第 2 條　種　　類

試料 200gr ヲ直徑 150mm ノ圓筒内ニ入レ壓力 0.05 kg/cm² ニテ壓縮シタルトキノ比重ハ下記ノ如クナルヲ要ス

第1種　0.16gr/cm³ 以下ナルコト

第2種　0.25gr/cm³ 以下ナルコト

第3種　0.40gr/cm³ 以下ナルコト

第 3 條　熱傳導率ノ測定法

熱傳導率ハ比較法ニヨリ加熱面ヲ試料ノ上側ニ、冷却面ヲ試料ノ下側ニシテ測定ヲ行フモノトス

試料ノ厚サ 20mm 巾及ビ長サ 200mm ノ容積中ニ第2條ニ記載ノ方法ニヨリ得タル密度迄壓縮シタル狀態ニ於テ其ノ熱傳導率ヲ測定スルモノトス

第 4 條　熱傳導率

試料ノ平均温度 100℃±5℃ ニ於テ

第1種　0.048kcal/mh℃ 以下トス

第2種　0.053kcal/mh℃ 以下トス

第3種　0.069kcal/mh℃ 以下トス

第 5 條　濕　　分

第1類、第5條ニ準ズ

第 6 條　灼熱減量

第1類、第6條ニ記載ノ方法ニヨリ試驗セル結果ノ減重量ハ灼熱前ノ重量ノ1% 以下トス

第2部　常温並に低温用保溫材規格

目　　次

第1類　コルクを主材とするもの
第1章　炭化コルク板
第2章　パイプ用コルクカバー
第3章　圓筒用コルクバー
第4章　アスファルト煉リ炭化コルク板
第5章　パイプ用アスファルト煉リ炭化コルクカバー
第6章　圓筒用アスファルト煉リ炭化コルクカバー
第7章　生地コルク板
第2類　パルプ及びバガスを主材とするもの
第1章　木材パルプヲ主材トスルテックス
第2章　バガスヲ主材トスルテックス
第3類　紙類を主材とするもの
第1章　水筒用防露カバー
第2章　植物纖維質ボード類
第4類　獸毛フエルトを主材とするもの
第1章　牛毛フエルト
第2章　布入牛毛フエルト
第3章　羊毛フエルト

第1類　コルクを主材とするもの

第1章　炭化コルク板

第 1 條　成分及ビ構造

精選セル上質コルク粒ヲ壓縮、加熱炭化セルモノトス

第　1　表

種別		板ノ厚サ				
		20mm	25mm	40mm	50mm	75mm
第1種	強度 kg/cm²	3 以上	3 以上	2.5 以上	2 以上	1.5 以上
	比重 kg/m³	210 以下	210 以下	200 以下	180 以下	180 以下
第2種	強度 kg/cm²	1 以上	1 以上	1 以上	1 以上	1 以上
	比重 kg/cm³	250 以下	250 以下	250 以下	250 以下	250 以下

備考　熱傳導率ノ平均値ハ凡ソ本章第6條備考ノ實驗式ニヨリ示スガ如シ

第2條　寸　　法

縱横ヲ600mm トス、但シ當分ハ 610mm、或ハ606mm トナスコトヲ得

厚サハ 20mm、25mm、40mm、50mm、75mm ノ5種トス

厚サ及ビ縱横寸法ノ公差ハ次ノ通リトス

厚サ　　±3mm

縱横　　±5mm

第3條　粒　　度

篩目 15mm 通リ、3mm 止リトス

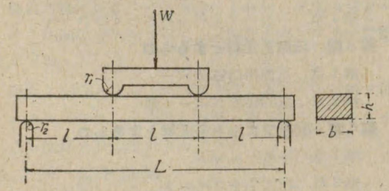
第4條　種　　別

各厚サノ板ヲ强度及ビ比重ニ依リ第1表ノ如ク2種ニ分ツ

第5條　强度試驗

試驗ハ彎曲試驗トシ、其ノ破壞强度ヲトル

1. 試驗片ノ寸法及ビ加重方法ハ第1圖ノ如クシ、試驗片ノ上下各面ニ於テ粒度ヲ異ニスルモノハ粗面ヲ下方ニトリテ加重ス



第　1　圖

W=荷重 kg　　$l=\frac{1}{3}L=10$cm

h=製品ソノマヽノ厚サ　　$b=2h$

$r_1=10$mm　　$r_2=5$mm

2. 强度σハ次式ニ依リ算出ス

$$\sigma=\frac{3Wl}{bh^2}$$

但シ　σ=破壞强度 kg/cm²

W=破壞荷重 kg

l=第1圖ニ示スゲージ長サ cm

b=試驗片幅 cm

h=試驗片厚サ cm

3. 强度試驗ニ於ケル供試材料ノ選擇方法ハ拔取試驗トシ供試材料1枚ヨリ第1項ニ示ス寸法ノ試驗片ヲ出來得ル限リ多ク取リ其ノ全部ニ就キテノ試驗結果ノ平均値ヲ取リテ其ノ强度トス

第6條　熱傳導率

各級種共次式ニ依リ示サルル値以下タルコト

$$\lambda_{20^\circ C}=0.027+0.000075\gamma$$

但シ　$\lambda_{20^\circ C}$=20℃ ニ於ケル熱傳導率 kcal/mh℃

γ=比重 kg/m³

備考　熱傳導率ノ平均値ハ凡ソ次式ニ示ス如シ

$$\lambda_{20^\circ C}(\text{平均})=0.025+0.000075\gamma$$

第7條　熱傳導率ノ測定方法

比較法ニ依リ、供試材料ハナルベク製品ノマヽノ厚サトシ、寸法ハ 20cm 角以上トス

但シ厚サ 3cm ヲ超ユル場合ハ厚サ 3cm ノ試料ヲ採リテ試驗スルヲ可トス

第2章　パルプ用コルクカバー

第8條　構　　造

炭化コルク板ヲ以テ2ツ割ノ管形ニ成形シタルモノトス

第9條　寸　　法

長サ 600mm、長サノ公表 ±5mm

內徑 JES 第38號瓦斯管ノ外徑トス、內徑ノ公差 ±4mm 以下

厚サ 10mm 以上 5mm ツツ增加スルモノトス、厚サノ公差 ±2mm

第10條　粒　　度

第1章第3條ニ準ズ

第11條　種　　別

各厚サノモノヲ强度及ビ比重ニ依リ2種ニ分ツコト第2表ノ如シ

第　2　表

種別		板ノ厚サ mm			
		10～25	30～40	45～50	55以上
第1種	强度 kg/cm²	3 以上	2.5 以上	2 以上	1.5 以上
	比重 kg/m³	210以下	200以下	180以下	180以下
第2種	强度 kg/cm²	1 以上	1 以上	1 以上	1 以上
	比重 kg/m³	250以下	250以下	250以下	250以下

第12條　强度試驗

材料トシテ使用セル炭化コルク板原板ノ强度ヲ以テ强度トシ、其ノ試驗方法ハ第1章第5條ノ方法ニ依ル、或ハカバーニ成形セルモノヨリ第1章第5條ニ規定セル試驗片ヲ作リ出シテ試驗ヲ行フモ差支ヘナキモノトス

第13條　熱傳導率

第1章第6條ニ準ズ

第14條　熱傳導率ノ測定方法

第1章第7條ノ規定ニ準ジ、材料タル炭化コルク板原板ニ就キ行フモノトス

第3章　圓筒用コルクカバー

第15條　構　　造

第1章ニ規定セル炭化コルク板ヲ使用シ適宜ノ寸法ノ圓筒形ニ成形セルモノトス

第16條　寸　　法

第1章第2條ニ準ズ

第17條　粒　　度

第1章第3條ニ準ズ

第18條　種　　別

第1章第4條ニ準ズ

第19條　强度試驗

第1章第5條ニ準ズ

第20條　熱傳導率

第1章第6條ニ準ズ

第21條　熱傳導率ノ測定

第1章第7條ニ準ズ

第4章　アスファルト煉り炭化コルク板

第22條　成分及ビ構造

炭化乾燥セルコルク粒ニ防濕用膠着劑トシテ少量ノアスファルトヲ煉リ合セテ壓縮製板セルモノトス

第23條　コルク粒ノ粒度

篩目 15mm 通リ 3mm 止リトス

第24條　コルク粒トアスファルトトノ混合比

アスファルトハ容積比ニシテコルク粒ノ8% 以內トス

第25條　寸　　法

第1章第2條ニ準ズ

第26條　比　　重

190～350kg/m³ トス

第27條　强　　度

次式ニ示ス値以上トス、强度試驗ノ方法ハ第1章第5條ニ依ル

$\sigma=0.036\gamma-4.7$

σ=彎曲破壞强度 kg/cm²

γ=比　重 kg/m³

第28條　熱傳導率

次式ニ示ス値以下トス

$\lambda_{20^\circ C}=0.030+0.00003\gamma$ kcal/mh℃

備考　平均値ハ次式ニ示ス如シ

$\lambda_{20^\circ C}(\text{平均}),t=0.029+0.00003\gamma$

第5章　パイプ用アスファルト煉り炭化コルク・カバー

第29條　構　　造

アスファルト煉リ炭化コルク板ヲ以テ2ツ割ノ管形ニ成形シタルモノトス

第30條　寸　　法

第2章第9條パイプ用コルクカバーノ寸法及ビ寸法ノ公差ニ準ズ

第31條　比　　重

109～350kg/m³ トス

第32條　强　　度

第4章第27條ニ準ズ

第33條　熱傳導率

第4章第28條ニ準ズ

第6章　圓筒用アスファルト煉り炭化コルクカバー

第34條　構　　造

第4章ニ規定セルアスファルト煉リ炭化コルク板ヲ

第　3　表

種　別	強　度　kg/cm²						
	厚サ10mm	厚サ12.5mm	厚サ15mm	厚サ22mm	厚サ25mm	厚サ40mm	厚サ50mm
第 1 種	4 以上	4 以上	3.5 以上	3.5 以上	3 以上	3 以上	2.5 以上
第 2 種	2以上 ～4未満	2以上 ～4未満	2以上 ～3.5未満	2以上 ～3.5未満	2以上 ～3未満	2以上 ～3未満	1.5 以上 ～2.5未満

備考　熱傳導率ハ本章第6條ノ實驗式ニヨリ示サルルガ如ク略ボソノ比重ニ比例ス

使用シ適宜ノ寸法ノ圓筒形ニ成形セルモノトス

第 35 條　比　　重

190～350kg/m³ トス

第 36 條　強　　度

第4章第27條ニ準ズ

第 37 條　熱傳導率

第4章第38條ニ準ズ

第7章　生地コルク板

第 38 條　成分及ビ構造

精選セル上質コルク粒ニ膠着劑ヲ加ヘテ壓縮シ炭化セサル程度ニ加熱乾燥セルモノトス

第 29 條　寸　　法

縱横 600mm トス、但シ當分ハ 610mm 或ハ 606 mm トナスコトヲ得

厚サハ 10mm、12.5mm、15mm、20mm、25mm、40mm、50mm ノ7種トス、厚サ及ビ縱横寸法ノ公差ハ次ノ通リトス

厚サ	10mm～20mm迄ハ	±1mm
	20mm～50mm迄ハ	±2mm
縱横		±3mm

第 40 條　比　　重

400kg/m³ 以下トス

第 41 條　粒　　度

篩目 15mm 通リ 3mm 止リトス

第 42 條　種　　別

各厚サノ板ヲ強度ニ依リ2種ニ分ツコト第3表ノ如シ

第 43 條　強度試驗

第1章第5條ニ準ズ

第 44 條　熱傳導率

各級種共次式ニヨリ示サルル値以下トス

$$\lambda_{20°C}=0.010+0.00012\gamma$$

備考　平均値ハ次式ニ示ス如シ

$$\lambda_{20°C(平均)}=0.00+0.00012\gamma$$

第 45 條　熱傳導率ノ測定方法

第1章第7條ニ準ズ

第2類　パルプ及びパガスを主材とするもの

第1章　木材パルプを主材とするテツクス

第 1 條　寸　　法

縱 1mm、横 2mm トス

但シ當分ハ縱 910mm、横 1820mm トナスコトヲ得

厚サ　6.5mm
　　10.0mm
　　12.5mm
　　25.0mm
　　} トス

但シ當分ハ

6.0mm
9.5mm
12.7mm
25.5mm
} トナスコトヲ得

公差　縱横 +0.2%～−0.5%、厚サ ±8%

第 2 條　種　　別

比重ニ依リ3級ニ分チ、且ツ强度ニヨリ各級ヲ更ニ各2種ニ分ツコト第1表ノ如シ

第　1　表

級	比　重 kg/m³	種	强度 kg/cm²
第 1 級	250 未満	第 1 種	20 以上
		第 2 種	20 未満
第 2 級	250 以上 350 未満	第 1 種	30 以上
		第 2 種	30 未満
第 3 級	350 以上	第 1 種	40 以上
		第 2 種	40 未満

備考　1、上表ノ强度ハ完全乾燥狀態ニ於ケル强度トス

2、强度ハ吸濕率ニ比例シテ低下シ、吸濕率 15%迄ノ範圍ニ於テハ近似的ニ次ノ關係式ヲ以テ表スコトヲ得

即チ　$\sigma_M=\sigma_0(1-\alpha M)$

但シ　σ_M=吸濕率 M% ノトキノ强度 kg/cm²

σ_0=吸濕率 0% 即チ完全乾燥材料ノ强度 kg/cm²

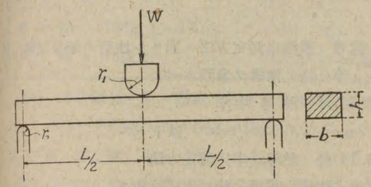
M=吸濕率%

α=吸濕ニヨル强度減少係數 1/% ニシテ α ノ値ハテツクス類ニ對シ 0.022～0.03¹/% ノ範圍ニアリ、平均約 0.025¹/% デアル

第 3 條　强度試驗

彎曲試驗トシ、其ノ破壞强度ヲトルモノトス

1、一試驗片ノ寸法及ビ加重方法ハ第1圖ノ如クス



第　1　圖

r_1=10mm　　r_2=5mm

h=製品ソノママノ厚サ

$b=2h$　　L=15cm

2、强度ハ次式ニ依リ計算ス

$$\sigma=\frac{3LW}{2bh^2}$$

σ=彎曲破壞强度 kg/cm²

W=破壞荷重 kg

L=第1圖ニ示スゲージ長サ cm

h=試驗片ノ厚サ cm

b=試驗片ノ幅 cm

3、强度試驗ニ於ケル供試材料ノ選擇方法ハ拔取リ試驗トシ、供試材料1枚ヨリ第1項ニ示ス寸法ノ試驗片ヲ縱方向ニ10枚横方向ニ10枚宛取リ、其ノ各ノ平均强度ノ內、弱キ方ヲ以テ其ノ材料ノ强度トス

備考　供試材料原寸大ノ儘ヲ試驗片トシ、ソノ撓度試驗ヲ以テ本條ノ强度試驗ニ代ヘントスル場合ニハ次ノ點ヲ參考トシ適當ニ施行スベシ、即チ通常ノ大氣濕度ニテ本條第1項ニ於ケルト同樣ノ加重方法ニ依リ、支點間距離(ゲーヂ長サ) L ヲ 60cm トナシタル場合ノ供試材料原寸大ノモノノ破壞强度ハ支點間距離ヲ 15cm トシタ時ノ破壞强度ヨリ約 2～3 割程度以內ノ減少ヲ來タスヲ以テ撓度試驗ニ於ケル最大安全荷重ノ大サハコノ點ヲ考慮シテ決定スルヲ要ス

第 4 條　吸　濕　率

溫度 40°C 比較濕度75%ノ恒溫恒濕空氣槽中ニ放置スル時ノ飽和吸濕率ヲ完全乾燥重量ノ14%以下トス

備考　吸濕率測定方法ニ對スル注意

外面ヲ充分ニ保溫セル溫度40°C內外ノ恒溫槽中ニ食鹽ノ飽和溶液ヲ置ク時ハ內部ノ空氣ハ關係濕度75%トナリテ平衡狀態ヲ保ツ、モシ恒溫槽外面ノ保溫不充分ナラバ槽內隅角部等ニ供溫部ヲ生シ、ココニ絕エス濕分ノ凝縮作用オコリ平衡狀態ヲ失シ、關係濕度ハ75%以下トナル、試料ハオヨソ長サ 30mm×幅20mm×厚サ(2～3mm)ノ大サトナシテ槽內ニ吊シ、約6時間ノ後取出シ、水分ノ蒸發ヲ防キツツソノ重量 W ヲ計リ、次ニコレヲ 105°C～110°C ノ溫度ニ約4時間保チテ完全ニ乾燥シソノ重量 W_0 ヲ計リ、次式ニ依テソノ吸濕率 M% ヲ算出ス

$$M=\frac{W-W_0}{W_0}\times 100$$

第 5 條　熱傳導率

各級種共次式ニヨリ示サルル値以下トス

$$\lambda_{20°C}=0.015+0.00015\gamma$$

但シ　γ=比重 kg/m³

備考　平均値ハ次式ニ示ス如シ

$$\lambda_{20°C(平均)}=0.0165+0.000117\gamma$$

第 6 條　熱傳導率ノ測定方法

第1類第1章第7條ノ方法ニ依リ完全乾燥狀態ニ於ケル熱傳導率ヲ測定スルモノトス

第2章　パガスを主材とするテツクス

第 7 條　寸　　法

第1章第1條ニ準ズ

第 8 條　比重及强度

第1章第2條ニ準ズ

第 9 條　强度試驗

第1章第3條ニ準ズ

第 10 條　吸　濕　率

第1章第4條ニ準ズ

第 11 條　熱傳導率
　第1章第5條ニ準ズ
第 12 條　熱傳導率ノ測定法
　第1章第6條ニ準ズ

第3類　紙類を主材とするもの
第1章　水管用防露カバー

第 1 條　材料及ビ構造
　パルプ、木綿、羊毛等ノボロヲ原料トシタザラ紙(ツール・ペーパー)ヲ主要材料トシ、コレヲ適當ナル防水構造トシタルモノトス
第 2 條　材料ノ比重
　見掛ケノ比重 500kg/m³ 以下トス
第 3 條　材料ノ厚サ
　1mm 以下トス
第 4 條　材料ノ熱傳導率
　21枚合セ厚サ約 25mm ニテ
　$\lambda_{20°C}$=0.060kcal/mh°C 以下トス
第 5 條　材料ノ吸濕率
　溫度 40°C 比較溫度75%恒溫恒濕空氣槽中ニ放置スル時ノ飽和吸濕率ヲ完全乾燥重量ノ13%以下トス
　備考　吸濕率測定方法ニ對スル注意ハ第2類第1章第5條ノ備考ヲ參照スベシ
第 6 條　寸　　法
　カバーハ圓筒形ニ製作シタルモノニシテ、其ノ寸法及ビ公差次ノ如シ
　1、長サ1000mm、公差±4mm
　　但シ常分ノ間　長サ 910mm 或ハ 915mm、公差±4mm トスルコトヲ得
　2、內　徑
　　JES 第38號瓦斯管ノ外徑トス
　　公差　內徑 80mm 未滿　±2mm
　　內徑　80mm 以上　±3mm
　3、厚サ　5mm、10mm、15mm、20mm、25mm、30mm、35mm、40mm ノ8種トス
　　公差　厚サ 20mm 以下　−1mm〜+2mm
　　厚サ 25mm 以上　−2mm〜+3mm
第 7 條　カバー製品ノ見掛ケ比重
　厚サ　20mm 以下、550kg/m³ 以下
　厚サ　25mm 以上、500kg/m³ 以下

第2章　植物繊維質ボード類

第 8 條　材料及構造
　木材繊維ヲ製造シタ厚紙ヲ膠着劑ヲ貼リ合セタルモノトス
第 9 條　寸　　法
　縱 1m、橫 2m トス、但シ常分ハ縱 910mm、橫 1820mm トナスコトヲ得
　厚サ　3mm、4mm、5mm
　公差　縱橫 ±0.3%、厚サ ±5%
第 10 條　比重及ビ强度
　比重 550〜700kg/m³、强度 130〜180kg/cm² トス
第 11 條　强度試驗
　第2類第1章第3條ノ規定ニ依ル
　但シ薄キモノニ對シテハゲージ長サ L ヲ 10cm トスルヲ適當トス
第 12 條　吸　濕　率
　溫度 40°C、比較濕度75%ノ恒溫恒濕空氣槽中ニ放置スル時ノ飽和吸濕率ヲ完全乾燥重量ノ13%以下トス
　備考　吸濕率測定方法ニ對スル注意ハ第2類第1章第5條ノ備考ヲ參照スベシ
第 13 條　熱傳導率
　$\lambda_{20°C}$=0.065kcal/mh°C 以下トス
第 14 條　熱傳導率ノ測定方法
　第1類第1章第7條ノ方法ニ依ル

第4類　獸毛フエルトを主材とするもの
第1章　牛毛フエルト

第 1 條　成分及ビ構造
　充分ニ洗滌、清淨處理ヲ施シタル牛毛ヲ縮絨ニ依リ板狀トシタルモノニシテ、臭氣ヲ帶ビス且ツ濕氣ニ遇ヒテ發臭シ易キ有機物ヲ含有セザルモノトス
第 2 條　糊劑混入量
　20%以下トス
第 3 條　硫酸殘留量
　硫酸殘留量無キコトヲ要ス
第 4 條　寸　　法
　第1表及ビ第2表ノ如シ

第 1 表　寸　法

厚サmm	幅　mm	長　サ　mm
5	1000	2000又ハ其ノ倍數
10	1000	同　上
15	1000	同　上
20	1000	同　上
25	1000	同　上
30	1000	同　上

第 2 表　公　差

厚サ　10mm　以下	−1mm〜+2mm
厚サ　15mm　以上	−2mm〜+3mm
長サ及ビ幅	−5mm〜+5mm

備考　1、幅及ビ長サハ常分ノ間 910mm×1820mm トナスコトヲ得
　2、厚サトハ 150mm 角ノ試料ヲ平板上ニ平ニ置キ、其ノ上ニ 150mm 角、重量1kg ノ金屬板ヲ眞上ニ載セタルトキノモノトス
第 5 條　種　　別
　比重及ビ牛毛量ニ依リ次ノ2種ニ分ツ

第　3　表

種　別	比　重　kg/m³	牛　毛　量　%
第 1 種	130以上〜170迄	90　以上
第 2 種	85以上〜130未滿	40以上〜90未滿

備考　第1種品ハ特ニ强度ヲ要スル場合ニ使用シ第2種品ハ一般用トシテ適當ナリ
第 6 條　壓　縮　率
　縱橫 150mm 角ノ試料ヲ平板上ニ平ニ置キ其ノ眞上ニ 150mm 角、重量 6kg ノ金屬板ヲ載セタル時ノ厚サノ壓縮率ハ次ノ如クナルヲ要ス
　第1種　第4條第1表ニ示ス厚サノ10%未滿
　第2種　第4條第1表ニ示ス厚サノ10%以上25%未滿
第 7 條　吸　濕　率
　溫度40°C比較濕度75%ノ恒溫恒濕空氣槽中ニ放置スル時ノ飽和吸濕率ヲ完全乾燥重量ノ17%以下トス
　備考　吸濕率測定方法ニ對スル注意ハ第2類第1章第5條ノ備考ヲ參照スベシ
第 8 條　熱傳導率
　各號ノ品種共、次式ニ示サルル値以下トス
　$\lambda_{20°C}$=0.0034+0.000216γ
　備考　平均値ハ次式ニ示ス如シ
　$\lambda_{20°C}$(平均)=0.0022+0.000216γ
第 9 條　熱傳導率測定方法
　第1類第1章第7條ノ規定ニ準ズ、但シ加熱面ヲ試料ノ上側ニ冷却面ヲ試料ノ下側ニシテ測定スルモノトス

第2章　布入牛毛フエルト

第 10 條　成分及ビ構造
　充分ニ洗滌清淨處理ヲ施シタル牛毛ヲ縮絨ニ依リ板狀トナシ、內部ニ布ヲ織込ミタルモノニシテ、臭氣ヲ帶ビズ且ツ濕氣ニ遇ヒテ發臭シ易キ有機物ヲ含有セザルモノトス
第 11 條　糊劑混入量
　本類第1章第2條ニ準ズ
第 12 條　硫酸殘留量
　本類第1章第3條ニ準ズ
第 13 條　寸法及ビ寸法ノ公差
　本類第1章第4條ニ準ズ
第 14 條　比重及ビ牛毛量ニヨル種別
　本類第1章第5條ニ準ズ
第 15 條　壓　縮　率
　本類第1章第6條ニ準ズ
第 16 條　吸　濕　率
　本類第1章第7條ニ準ズ
第 17 條　熱傳導率
　本類第1章條8條ニ準ズ
第 18 條　熱傳導率測定法
　本類第1章第9條ニ準ズ

第3章　羊毛フエルト

第 19 條　成分及ビ構造
　充分ニ洗滌、清淨處理ヲ施シタル羊毛ヲ縮絨ニ依リ板狀トシタルモノニシテ臭氣ヲ帶ビズ且ツ濕氣ニ遇ヒテ發臭シ易キ有機物ヲ含有セザルモノトス
第 20 條　糊劑混入量
　6% 以下トス
第 21 條　硫酸殘留量
　硫酸殘留量無キコトヲ要ス
第 22 條　寸　　法
　本類第1章第4條ニ準ズ
第 23 條　種　　別
　比重及ビ羊毛量ニ依リ次ノ3種ニ別ツ

第　4　表

種　別	比　重　kg/m³	羊　毛　量　%
第 1 種	210以上〜250 迄	100
第 2 種	210以上〜250 迄	50 以上
第 3 種	170以上〜210未滿	再生羊毛量60以上

第 24 條　壓　縮　率
　本類第1章第6條ニ準ズ、但シ第1種及ビ第2種ノ

壓縮率ハ10%以下、第3種ハ20%以下トス

第 25 條　吸　濕　率

本類第1章第7條ニ準ズ

第 26 條　熱傳導率

本類第1章第8條ニ準ズ

第 27 條　熱傳導率測定法

本類第1章第9條ニ準ズ　　以　上

9. 硬質陶器質衛生陶器規格

第1章　總　　則

第 1 條　本規格ハ主トシテ建築ニ使用スル硬質陶器質衛生陶器（以下單ニ陶器ト稱ス）ニ之ヲ適用ス

第 2 條　硬質陶器質陶器トハ陶器ノ素地ヲ十分燒締メタルモノニシテ之ヲ打テバ金屬性ノ清音ヲ發スルモノヲ謂フ

第 3 條　本規格ニ規定スル陶器ノ種別ハ大便器、小便器、洗面器、手洗器、洗淨水槽、料理場流し及掃除用流しノ7種トス

第2章　術語ノ意義

第 4 條　陶器ノ缺點ニ關スル術語ハ次ノ通トス

1　小ぶく　大さ 1mm 以上 3mm 以下ノ凸部ヲ謂フ

2　中ぶく　大さ 3mm ヲ超エ 6mm 以下ノ凸部ヲ謂フ

3　大ぶく　大さ 6mm ヲ超ユル凸部ヲ謂フ

4　小しみ　大さ 1mm 以上 3mm 以下ノ有色部ヲ謂フ

5　中しみ　大さ 3mm ヲ超エ 6mm 以下ノ有色部ヲ謂フ

6　大しみ　大さ 6mm ヲ超ユル有色部ヲ謂フ

7　ピンホール　大さ 0.3mm 以上 1.5mm 以下ノ釉藥ナキ部分又ハ小孔ヲ謂フ

8　くすり禿　大さ 1.5mm ヲ超ユル釉藥ナキ部分ヲ謂フ

9　艶なし　艶ナキ釉藥面ヲ謂フ

10　貫　入　釉藥部ニ於ケル微細ナル龜裂ヲ謂フ

11　冷め切れ　素地ヲ通ズル毛細狀ノ龜裂ヲ謂フ

12　切　れ　素地ノ龜裂ニシテ釉藥ニ覆ハレザルモノヲ謂フ、但シ釉藥ニ覆ハルルモ清掃容易ナラザルモノハ之ヲ切れト見做ス

13　磨り痕　小缺點ヲ除ク爲研磨セル痕ヲ謂フ

14　仕上り斑　釉藥面ニ於ケル波狀又ハ不規則ナル凹凸ノ群生セル部分ヲ謂フ

15　くすり溜　釉藥過剩ナル部分ヲ謂フ

16　歪　　製品ノ形狀ノ狂ひヲ謂フ

第 5 條　陶器ノ檢査其他ニ關スル術語ハ次ノ通トス

1　洗淨面　大便器及小便器ノ洗淨作用中水ニテ洗ハルル面ヲ謂フ

2　隱蔽面　陶器取付後見得ザル面ヲ謂フ

3　一陶面　各邊 50mm ノ正方形ノ面ヲ謂フ

註　一陶面ハ缺點ノ鑑別ニ用フル單位面ニシテ檢査ノ際ハ一般ニ［ゴム］又ハ紙ノ如キ馴染ミ良キ薄板ニ各邊 50mm ノ正方形ノ穴ヲ切り抜キタルモノヲ使用ス

第3章　形狀寸法及公差

第 6 條　陶器ノ形狀寸法ハ附圖第1乃至第23ニ依ルモノトス

第 7 條　寸法ノ公差ハ附圖ニ公差ヲ記入セルモノノ外ハ ±5% トス

第4章　檢　　査

第 8 條　大ぶくハ陶器ノ隱蔽面以外ニ於テ貫入及冷め切れハ陶器ノ如何ナル部分ニ於テモ存在ヲ許サズ、隱蔽面ニ於テ許容スル大ぶくハ取付上差支ヘナキモノニシテ大さ 30mm 以下1箇トス

前項以外ノ缺點ハ第9條乃至第17條ノ許容範圍ヲ超エザルコトヲ要ス、但シ各條ニ規定セル以外ノ陶器面（隱蔽面ヲ含ム）ニ於ケル缺點ハ此ノ限ニアラズ

第 9 條　和風大便器ハ洗淨面ヲ十分檢査ス、周緣、前隱し內外面等ハ器具ヨリ約 60cm 離レテ檢査スルモノトス

和風大便器ノ缺點許容箇圍ハ第1表ニ依ル

第1表　和風大便器缺點許容範圍

缺點＼陶器面	洗淨面	周緣 外面	前隱し內 合計面ニ對シテ
小ぶく	小しみ、ピンホール共合計1陶面15箇、全面40箇	同	左
中ぶく	2 箇	同	左
小しみ	小ぶく、ピンホール共合計1陶面15箇、全面40箇	同	左
中しみ	2 箇	同	左
大しみ	存在ヲ許サズ	同	左
ピンホール	小ぶく、小しみ共合計1陶面15箇、全面40箇	同	左
くすり禿	大さ 3mm 以下1箇	同	左
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同	左
切　れ	長 10mm 以下1箇	長30mm以下2箇	
磨り痕	大さ 5mm 以下5箇	同	左
仕上り斑	25cm²	同	左
くすり溜	厚 3mm	同	左
歪	緣下ト床面ノ間隙 10mm		

第 10 條　洋風大便器ハ洗淨面ヲ十分檢査ス、周緣、正面、側面等ハ器具ヨリ約 60cm 離レテ檢査スルモノトス

洋風大便器ノ缺點許容範圍ハ第2表ニ依ル

第2表　洋風大便器缺點許容範圍

缺點＼陶器面	洗淨面	周緣、正面、側面（各面ニ對シテ）
小ぶく	小しみ、ピンホール共合計1器面15箇、全面40箇	同　左
中ぶく	2 箇	同　左
小しみ	小ぶく、ピンホール共合計1陶面15箇、全面40箇	同　左
中しみ	2 箇	同　左
大しみ	存在ヲ許サズ	同　左
ピンホール	小ぶく、小しみ共合計1陶面15箇、全面40箇	同　左
くすり禿	大さ 3mm 以下1箇	同　左
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同　左
切　れ	長 10mm 以下1箇	長30mm以下1箇
磨り痕	大さ 5mm 以下3箇	同　左
仕上り斑	25cm²	同　左
くすり溜	厚 3mm	同　左
歪	便座ヲ取付ケテ著シク目立タザルコト	

第 11 條　小便器ハ洗淨面ヲ十分檢査ス、周緣、正面、側面等ハ器具ヨリ約 60cm 離レテ檢査スルモノトス

小便器ノ缺點許容範圍ハ第3表ニ依ル

第3表　小便器缺點許容範圍

缺點＼陶器面	洗淨面	周緣、正面、側面（合計面ニ對シテ）
小ぶく	小しみ、ピンホール共合計1陶面15箇、全面40箇	同　左
中ぶく	2 箇	同　左
小しみ	小ぶく、ピンホール共合計1陶面15箇、全面40箇	同　左
中しみ	2 箇	同　左
大しみ	存在ヲ許サズ	同　左
ピンホール	小ぶく、小しみ共合計1陶面15箇、全面40箇	同　左
くすり禿	大さ 3mm 以下1箇	同　左
艶なし	實用上差支ヘナサモノハ可トス	同　左
切　れ	長 20mm 以下1箇	長30mm以下2箇
磨り痕	大さ 5mm 以下5箇	同　左
仕上り斑	25cm²	同　左
くすり溜	厚 3mm	同　左
歪	胴ト壁面トノ間隙 8mm	

第 12 條　「ストール」小便器ハ洗淨面ヲ十分檢査ス、周緣、前緣、側面等ハ器具ヨリ約 60cm 離レテ檢査スルモノトス

「ストール」小便器ノ缺點許容範圍ハ第4表ニ依ル

第4表　ストール小便器缺點許容範圍

缺點＼陶器面	洗淨面	周緣前緣（合計面ニ對シテ）	各側面
小ぶく	小しみ、ピンホール共合計1陶面15箇、全面50箇	同　左	同　左
中ぶく	3 箇	同　左	左記ノ2倍數
小しみ	小ぶく、ピンホール共合計1陶面15箇、全面50箇	同　左	同　左
中しみ	2 箇	同　左	左記ノ2倍數
大しみ	目立タザルモノ2箇	同　左	同　左
ピンホール	小ぶく、小しみ共合計1陶面15箇、全面50箇	同　左	同　左
くすり禿	大さ3mm以下3箇	同　左	左記ノ2倍數
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同　左	同　左

切　れ	長20mm以下2箇	長30mm以下2箇	同　左
磨り痕	大さ5mm以下5箇	同　左	同　左
仕上り斑	25cm²	同　左	同　左
くすり溜	厚 3mm	同　左	同　左
歪	周縁、側縁ニ於テ13mm		

第 13 條　洗面器ハ上面及鉢ノ出側ヲ十分檢査ス、はねよけ板ノ前面、兩垂れノ前面、側面及脚等ハ器具ヨリ約 60cm 離レテ檢査スルモノトス

洗面器ノ缺點許容範圍ハ第5表ニ依ル

第 14 條　手洗器ノ檢査方法並缺點許容範圍ハ前條ニ準ズ

第 5 表　洗面器缺點許容範圍

缺點＼陶器面	上面、鉢内面（合計面ニ對シテ）	はねよけ板前面兩垂れ前面側面（合計面ニ對シテ）	脚
小ぶく	小しみ、ピンホール共合計1陶面15箇、全面35箇	同　左	同　左
中ぶく	2 箇	同　左	同　左
小しみ	小ぶく、ピンホール共合計1陶面15箇、全面35箇	同　左	同　左
中しみ	2 箇	同　左	同　左
大しみ	存在ヲ許サズ	同　左	同　左
ピンホール	小ぶく、小しみ共合計1陶面15箇、全面35箇	同　左	同　左
くすり禿	大さ 3mm以下1箇	大さ 6mm以下1箇	同　左
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同　左	同　左
切　れ	長 10mm 以下1箇	長20mm以下1箇	長30mm以下2箇
磨り痕	大さ 5mm 以下3箇	同　左	同　左
仕上り斑	25cm²	同　左	同　左
くすり溜	厚 3mm	同　左	同　左
歪	幅 560mm 以上ノモノハ上面ノ歪水平面ニ對シ 12mm 幅 510mm 以下ノモノハ上面ノ歪水平面ニ對シ 10mm		
	はねよけ板ノ上端ノ歪ハ上記ニ準ズ はねよけ板ノ壁付部ノ歪ハ垂直面ニ對シ 6mm		
	脚ノ歪直線ニ對シ 6mm		

準ズ

第 15 條　低置洗淨水槽ハ蓋ノ上面、前面及水槽ノ前面ヲ檢査ス、側面等ハ約 60cm 離レテ檢査スルモノトス

低置洗淨水槽ノ缺點許容範圍ハ第6表ニ依ル、但シ槽内面ニハくすり禿及切れノ存在ヲ許サズ

第 6 表　低置洗淨水槽缺點許容範圍

缺點＼陶器面	蓋上面、前面（合計面ニ對シテ）	水槽前面	各側面
小ぶく	小しみ、ピンホール共合計1陶面15箇、全面30箇	同　左	同　左
中ぶく	2 箇	同　左	同　左
小しみ	小ぶく、ピンホール共合計1陶面15箇、全面30箇	同　左	同　左
中しみ	2 箇	同　左	同　左
大しみ	存在ヲ許サズ	同　左	同　左
ピンホール	小ぶく、小しみ共合計1陶面15箇、全面30箇	同　左	同　左
くすり禿	大さ3mm以下1箇	左記ノ2倍數	大さ13mm以下2箇
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同　左	同　左
切　れ	長10mm以下1箇	同　左	長30mm以下1箇
磨り痕	大さ5mm以下3箇	同　左	同　左
仕上り斑	25cm²	同　左	同　左
くすり溜	厚 3mm	同　左	同　左
歪	實用上差支ヘナキモノハ可トス		

第 16 條　高置洗淨水槽ハ前面、下面及側面等ヲ約60cm離レテ檢査スルモノトス

高置洗淨水槽ノ缺點許容範圍ハ第7表ニ依ル、但シ槽内面ニハくすり禿及切れノ存在ヲ許サズ

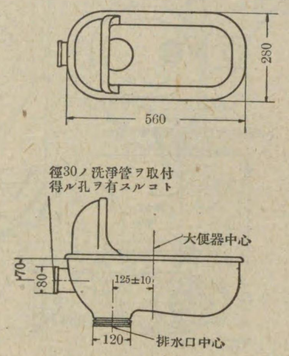
第 7 表　高置洗淨水槽缺點許容範圍

缺點＼陶器面	前面、下面、側面（合計面ニ對シテ）
小ぶく	小しみ、ピンホール共計1陶面15箇、全面50箇
中ぶく	3 箇
小しみ	小ぶく、ピンホール共合計1陶面15箇、全面50箇
中しみ	3 箇
大しみ	存在ヲ許サズ

硬質陶器質衛生陶器規格　其の 1

附圖第 1　和風並型大便器

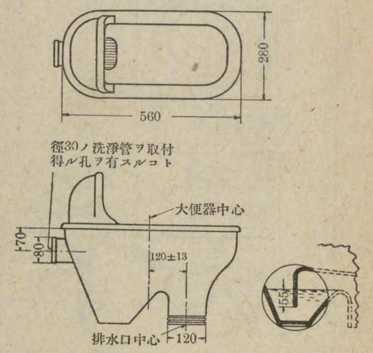
單位 mm



記　號	EC 110

附圖第 2　和風トラップ付大便器

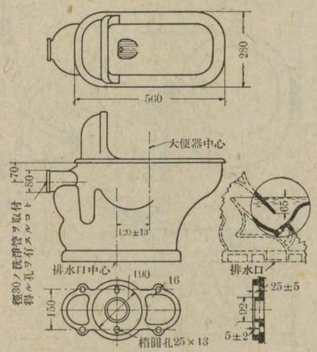
單位 mm



記　號	EC 210

附圖第 3　和風サイホンゼツト式大便器

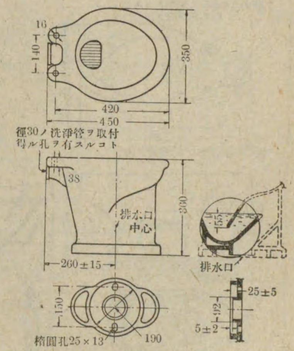
單位 mm



記　號	EC 310

附圖第 4　洋風洗ひ落し式大便器

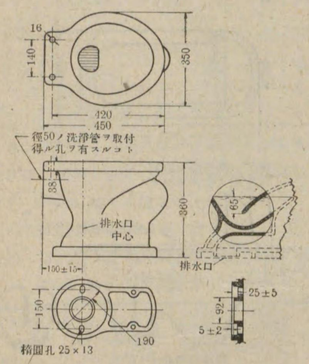
單位 mm



記　號	EC 410

附圖第 5　洋風サイホン式大便器

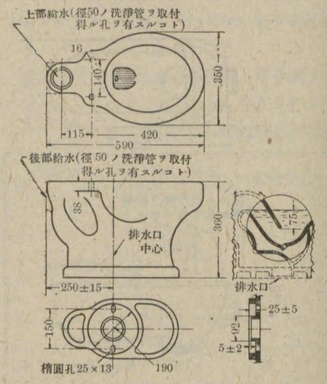
単位 mm



記號	EC 510

附圖第 6　洋風サイホンゼット式丸形上(後)部給水大便器

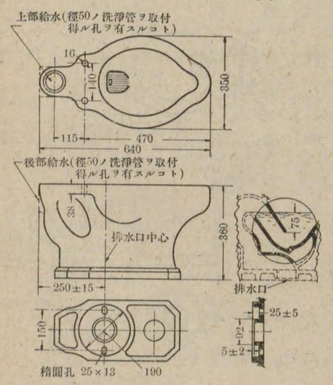
単位 mm



記號	上部給水	後部給水
	EC 610	EC 710

附圖第 7　洋風サイホンゼット式凸型上(後)給部水大便器

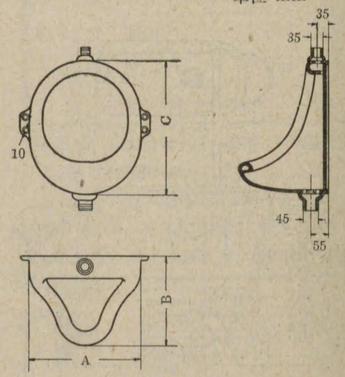
単位 mm



記號	上部給水	後部給水
	EC 810	EC 910

附圖第 8　並型小便器

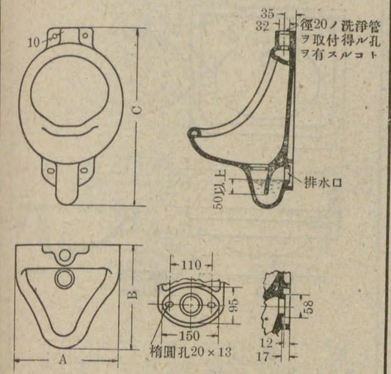
単位 mm



記號	大サノ別	A	B	C
EU 110	大	350	280	420
EU 120	小	330	270	390

附圖第 9　トラップ付小便器

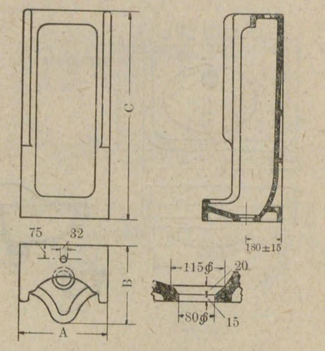
単位 mm



記號	大サノ別	A	B	C
EU 210	大	350	330	560
EU 220	小	330	310	520

附圖第10　ストール小便器

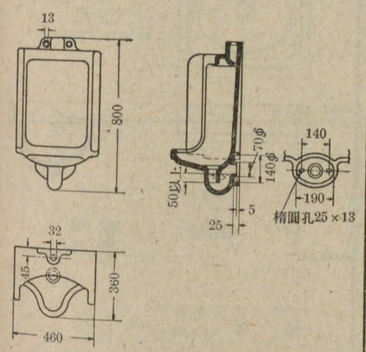
単位 mm



記號	大サノ別	A	B	C
EU 310	大	460	410	1100
EU 320	中	380	380	920
EU 330	小	320	360	850

附圖第11　壁掛ストール小便器

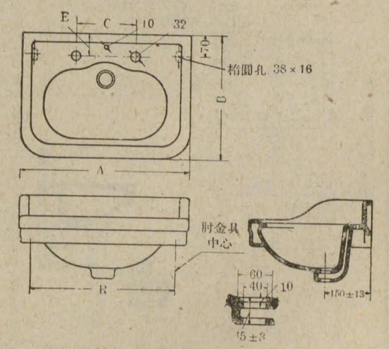
単位 mm



記號	E.U 410

附圖第12　袖付洗面器

単位 mm

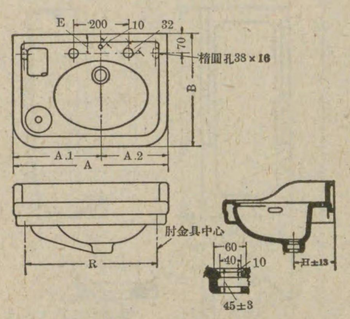


記號	大サノ別	A	B	C	E	R
EL 110	大	630	460	200	75	530
EL 120	中	560	410	200	75	480
EL 130	小	510	380	150	70	430

備考　水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

附圖第13　痰吐付洗面器

単位 mm

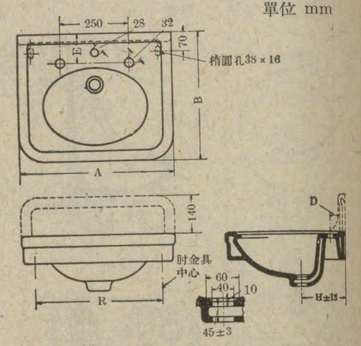


記號	大サノ別	A	A_1	A_2	B	E	H	R
EL 210	大	630	350	280	460	75	170	530
EL 220	小	560	320	240	410	70	150	480

備考　水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

附圖第14　はねよけ板無(付)洗面器

単位 mm

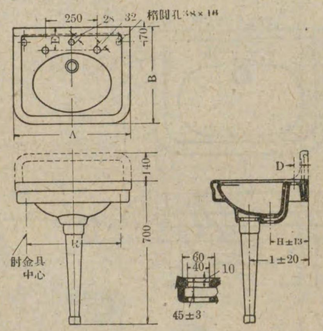


記號 はねよけ板付	記號 はねよけ板無	大サノ別	A	B	D	E	H	R
EL310	EL410	大	630	530	45	120	220	510
EL320	EL420	中	560	470	40	110	190	460
EL330	EL430	小	510	450	35	100	190	400

備考　水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

附圖第15　はねよけ板無(付)脚付洗面器

単位 mm

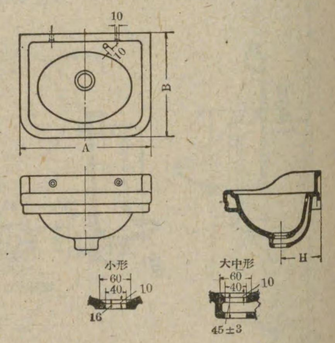


記號 はねよけ板付	記號 はねよけ板無	大サノ別	A	B	D	E	H	I	R
EL 510	VL 610	大	630	530	45	120	220	320	510
EL 520	VL 620	中	560	470	40	110	190	290	460
EL 530	VL 630	小	510	450	35	100	190	290	400

備考　水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

附圖第16　袖付手洗器

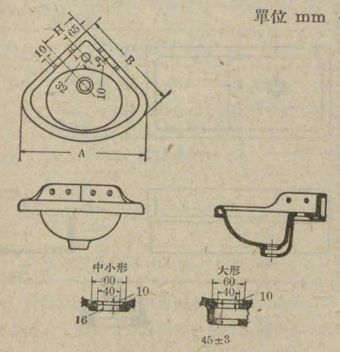
位單 mm



記號	大サノ別	A	B	H
EL 710	大	400	320	145±13
EL 720	中	350	300	145±13
EL 730	小	250	250	130±10

附圖第17　隅付手洗器

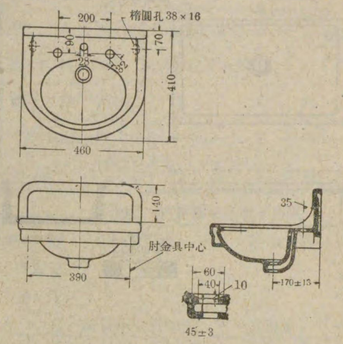
単位 mm



記號	大サノ別	A	B	H
EL 810	大	460	370	140±13
EL 820	中	330	290	140±13
EL 830	小	230	230	115±10

附圖第18　持上リ排水金具式手洗器

単位 mm

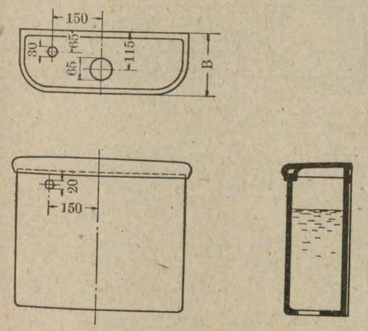


記號	EL 910

備考　水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

附圖第19　低置洗淨水槽

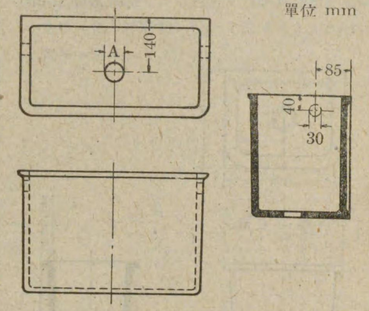
単位 mm



記號	有効水量 l	B
ET 110	20	185
ET 120	15	180

附圖第20　自動又ハ手動用高置洗淨水槽

単位 mm



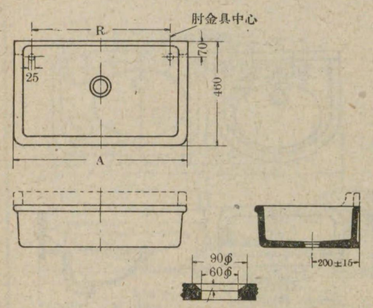
記號 自動用	記號 手動用	有効水量 l	A
ET 210	ET 310	30	65
ET 220		20	65
ET 230		15	50
ET 240		7.5	40

備考　點線ニテ示ス給水孔ハ手動用ノモノニシテ兩側ニ設ク

硬質陶器質衛生陶器規格　其の6

附圖第21　はねよけ板無(付)料理場流し

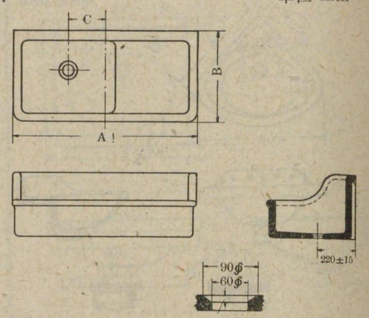
単位 mm



記號 はねよけ板付	記號 はねよけ板無	大サノ別	A	R
EK 110	AK 210	大	900	750
EK 120	AK 220	中	750	600
EK 130	AK 130	小	600	450

附圖第22　水切付料理場流し

単位 mm

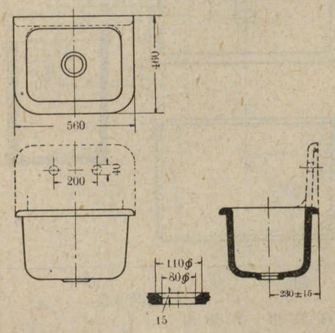


15

記號	大サノ別	A	B	C
EK 310	大	1300	600	230
EK 320	小	1000	500	200

附圖第23　ばねよけ板(付)掃除流し

単位 mm



	ばねよけ板付	ばねよけ板無
記號	ES 110	ES 210

備考　水栓1箇ノ場合は中央トス

ピンホール	小ぶく、小しみ共合計1陶面15箇、全面50箇	
くすり禿	大さ 13mm 以下3箇	
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	
切れ	前面、下面長10mm以下合計2箇、各側面長 30mm 以下1箇	
磨り痕	大さ 5mm 以下5箇	
仕上り斑	25cm²	
くすり溜	厚 mm	
歪	實用上差支ヘナキモノハ可トス	

第17條　料理場流し及掃除用流しハ内面、はねよけ板前面及緣ノ上面ヲ十分檢査ス、前面、側面等ハ器具ヨリ約60cm 離レテ檢査スルモノトス

料理場流し及掃除用流しノ缺點許容範圍ハ第8表ニ依ル

第8表　料理場流し及掃除用流し缺點許容範圍

缺點＼陶器面	内面、はねよけ板前面、緣ノ上面（合計面ニ對シテ）	前面、側面（合計面ニ對シテ）
小ぶく	小しみ、ピンホール共合計1陶面15箇、全面50箇	同　左
中ぶく	3箇	同　左
小しみ	小ぶく、ピンホール共合計1陶面15箇、全面50箇	同　左
中しみ	5箇	同　左
大しみ	目立タザルモノ3箇	同　左
ピンホール	小ぶく、小しみ共合計1陶面15箇、全面50箇	同　左
くすり禿	大さ 3mm 以下3箇	大さ13mm 以下3箇
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同　左
切れ	長 10mm 以下2箇	長30mm以下2箇
磨り痕	大さ 5mm 以下5箇	同　左
仕上り斑	25cm²	同　左
くすり溜	厚 3mm	同　左
歪	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同　左

第5章　記號及製造者ノ表示

第18條　陶器ニハ附圖ニ掲ゲル記號ヲ明示セル紙票ヲ貼付スルモノトス

備考

1、Eハ硬質陶器質陶器、Cハ大便器、Uハ小便器Lハ洗面器又ハ手洗器、Tハ洗淨水槽、Kハ料理場流し、Sハ掃除用流しヲ表ハス記號トス

2、100位ノ數字ハ陶器ノ形ヲ表ハシ、10位ノ數字ハ陶器ノ大小ヲ表ハス記號トス

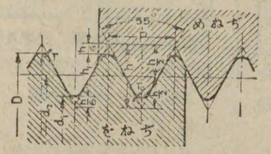
例　EU 110 ハ硬質陶器質並形小便器ノ大形ノモノ

EK 130 ハ硬質陶器質はねよけ板付料理場流しノ小形ノモノ

第19條　陶器ニハ製造者ノ略號ヲ容易ニ消滅セザル方法ニ依リ取付後ニ於テモ認メ得ラレ且目立タザル箇所ニ附スルモノトス

第3章　日本標準規格

JES	日本標準規格	第36号
	管用ねぢ	類別B8



$p = \frac{25.40095}{n}$
$r = 0.13733p$
$h = 0.96049p$
$h_1 = 0.64033p$

単位 mm

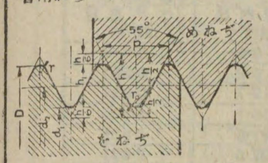
管ノ称呼	ねぢ ねぢノ径 D	ねぢ をねぢノ谷ノ径 d_1	ねぢ 有効径 d_2	ねぢ 山ノ高 h_1	ねぢ 丸味 r	ねぢ ピッチ p	ねぢ山数 25.4mm=付 n
1/8吋	9.729	8.567	9.148	0.581	0.125	0.907	28
1/4	13.158	11.446	12.302	0.856	0.184	1.337	19
3/8	16.663	14.951	15.807	〃	〃	〃	〃
1/2	20.956	18.632	19.794	1.162	0.249	1.814	14
(5/8)	22.912	20.588	21.750	〃	〃	〃	〃
3/4	26.442	24.119	25.281	〃	〃	〃	〃
(7/8)	30.202	27.878	29.040	1.479	0.317	2.309	11
1	33.250	30.293	31.771	〃	〃	〃	〃
1 1/4	41.912	38.954	40.433	〃	〃	〃	〃
1 1/2	47.805	44.847	45.326	〃	〃	〃	〃
1 3/4	53.748	50.791	52.270	〃	〃	〃	〃
2	59.616	56.659	58.137	〃	〃	〃	〃
(2 1/4)	65.712	62.755	64.234	〃	〃	〃	〃
2 1/2	75.187	72.230	73.708	〃	〃	〃	〃
(2 3/4)	81.537	78.580	80.058	〃	〃	〃	〃
3	87.887	84.930	86.409	〃	〃	〃	〃
(3 1/4)	93.984	91.026	92.505	〃	〃	〃	〃
3 1/2	100.334	97.376	98.855	〃	〃	〃	〃
(3 3/4)	106.684	103.727	105.205	〃	〃	〃	〃
4	113.034	110.077	111.556	〃	〃	〃	〃
4 1/2	125.735	122.777	124.256	〃	〃	〃	〃
5	138.435	135.478	136.957	〃	〃	〃	〃
5 1/2	151.136	148.178	149.657	〃	〃	〃	〃
6	163.836	160.879	162.357	〃	〃	〃	〃
(7)	189.237	185.984	187.611	1.627	0.349	2.540	10
(8)	214.638	211.385	213.012	〃	〃	〃	〃
(9)	240.039	236.786	238.412	〃	〃	〃	〃
(10)	265.440	262.187	263.813	2.033	0.436	3.175	8
(11)	290.841	286.775	288.808	〃	〃	〃	〃
(12)	316.242	312.176	314.209	〃	〃	〃	〃
(13)	347.485	343.419	345.452	〃	〃	〃	〃
(14)	372.886	368.820	370.853	〃	〃	〃	〃
(15)	398.287	394.221	396.254	〃	〃	〃	〃
(16)	423.688	419.622	421.655	〃	〃	〃	〃
(17)	449.089	445.023	447.056	〃	〃	〃	〃
(18)	474.490	470.424	472.457	〃	〃	〃	〃

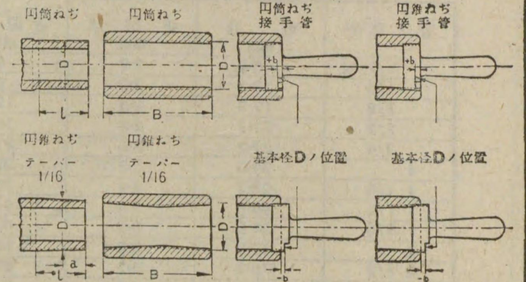
備考　一、本規格中管ノ称呼ハ瓦斯管ニ對スルモノニシテ括弧ヲ附シタルモノハ日本標準規格第38号瓦斯管ニサキモノトス
二、各部ノ寸法ハ20°Cニ於テ測リタルモノトス
三、ねぢ山数ノ欄ニ「25.4 mm ニ付」トアルハ「25.40095 mm ニ付」ヲ略シタルモノトス
四、本規格ノねぢヲ円錐面ニ切ル場合ニハ日本標準規格第37号管接手ねぢニ依ル

大正十五年六月二十三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第37号
	管接手ねぢ	類別B9

ねぢハ日本標準規格第36号管用ねぢニ依ル





$p = \frac{25.40095}{n}$
$r = 0.13733p$
$h = 0.96049p$
$h_1 = 0.64033p$

単位 mm

管ノ称呼	管 近似内径	管 外径	ねぢ ねぢノ基本径 D	ねぢ をねぢノ谷ノ径 d_1	ねぢ 有効径 d_2	ねぢ 山ノ高 h_1	ねぢ 丸味 r	ねぢ ピッチ p	ねぢ ねぢ山数 25.4mm=付 n	ねぢ 有効ねぢ部ノ長 l 最小	円錐ねぢ ねぢノ位置ノ末端トノ基本径ノ管トノ距離 a 最大	円錐ねぢ a 最小	接手管 長 B 最小	接手管 ±b
1/8吋	6.5	10.5	9.729	8.567	9.148	0.581	0.125	0.907	28	10	4.5	3	22	0.7
1/4	9.2	13.8	13.158	11.446	12.302	0.856	0.184	1.337	19	11	5.5	3.5	25	0.8
3/8	12.7	17.3	16.663	14.951	15.807	〃	〃	〃	〃	13	7.5	5.5	30	1.0
1/2	16.1	21.7	20.956	18.632	19.794	1.162	0.249	1.814	14	16	9	6	35	1.0
3/4	21.6	27.2	26.442	24.119	25.281	〃	〃	〃	〃	19	11	7	40	1.7
1	27.6	34.0	33.250	30.293	31.771	1.479	0.317	2.309	11	22	13	8.5	50	2.0
1 1/4	35.7	42.7	41.912	38.954	40.433	〃	〃	〃	〃	25	16	11	55	2.0
1 1/2	41.6	48.6	47.805	44.847	46.326	〃	〃	〃	〃	25	16	11	55	2.0
1 3/4	47.0	54.6	53.748	50.791	52.270	〃	〃	〃	〃	28	18	13	60	2.5
2	52.9	60.5	59.616	56.659	58.137	〃	〃	〃	〃	28	18	13	60	2.5
2 1/2	67.9	76.3	75.187	72.230	73.708	〃	〃	〃	〃	32	22	15	70	2.5
3	80.7	89.1	87.887	84.930	86.409	〃	〃	〃	〃	35	24	18	75	3.0
3 1/2	93.2	101.6	100.334	97.376	98.855	〃	〃	〃	〃	38	26	19	80	3.5
4	105.3	114.3	113.034	110.077	111.556	〃	〃	〃	〃	41	29	22	85	3.5
4 1/2	118.0	127.0	125.735	122.777	124.256	〃	〃	〃	〃	41	29	22	85	3.5
5	130.8	139.8	138.435	135.478	136.957	〃	〃	〃	〃	44	31	23	95	4.0
5 1/2	142.5	152.5	151.136	148.178	149.657	〃	〃	〃	〃	48	35	27	100	4.0
6	155.2	165.2	163.836	160.879	162.357	〃	〃	〃	〃	51	38	30	105	4.0

備考　一、本規格中管ノ称呼、外径及近似内径ハ日本標準規格第38号瓦斯管ニ對スルモノトス
二、各部ノ寸法ハ20°Cニ於テ測リタルモノトス
三、有效ねぢ部ノ長トハ完全ニ切出サレタル谷及山ヲ有スルねぢ部ノ管ノ末端ヨリノ長ヲ謂フ　但シ円錐ねぢニ在リテハ最後ノ2山タケハ其ノ頂完全ナラサルモ差支ナシ
四、ねぢ山数ノ欄ニ「25.4 mm ニ付」トアルハ「25.40095 mm ニ付」ヲ略シタルモノトス
五、円錐ねぢニ於テハねぢ山ハ円錐面ニ垂直トシ「ピッチ」ハ軸線ニ沿ヒテ測ルモノトス
六、本規格中 ±b アルハ上図ニ示ス如ク接手管ノ端ヨリ檢査用「プラッグ ゲージ」ノ基本径Dノ位置ニ至ル内方又ハ外方距離ノ極限ヲ示スモノニシテ円錐ねぢヲ有スル管ニ用ウル接手管ニ對スルモノトス

大正十五年六月二十三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第38号
	瓦斯管ノ寸法	類別G16

管ノ称呼	外径 mm	近似厚 mm	近似内径 mm	接手ヲ含マサル重量 kg/m
1/8吋	10·5	2·0	6·5	0·419
1/4	13·8	2·3	9·2	0·652
3/8	17·3	2·3	12·7	0·851
1/2	21·7	2·8	16·1	1·305
3/4	27·2	2·8	21·6	1·685
1	34·0	3·2	27·6	2·431
1 1/4	42·7	3·5	35·7	3·383
1 1/2	48·6	3·5	41·6	3·893
1 3/4	54·5	3·8	47·0	4·761
2	60·5	3·8	52·9	5·313
2 1/2	76·3	4·2	67·9	7·469
3	89·1	4·2	80·7	8·794
3 1/2	101·6	4·2	93·2	10·089
4	114·3	4·5	105·3	12·186
4 1/2	127·0	4·5	118·0	13·595
5	139·8	4·5	130·8	15·015
5 1/2	152·5	5·0	142·5	18·188
6	165·2	5·0	155·2	19·754

備考

一、日本標準規格第37号管接手ねぢニ規定セル円錐ねぢヲ切ル管ノ外径ノ公差ハ60·5mm以下ノモノニ在リテハ±0·5mm、60·5mmヲ超ユルモノニ在リテハ±0·8mmトス

二、前号以外ノ管ノ外径ノ公差ハ±1%トス　但シ公差ノ最小値ハ±0·5mmトス

三、特ニ指定スル場合ノ外管ハ仕上リノ長ニ於テ其ノ両端ニねぢヲ切リ一端ニ接手管ヲねぢ込ミタルモノトス

四、管ノねぢニ勾配ヲ附セサルトキ又ハ接手管ノねぢニ勾配ヲ附スルトキハ註文ノ際之ヲ指定スルモノトス（日本標準規格第37号管接手ねぢ参照）

五、ねぢ無シ又ハ接手管無シノ管ヲ要スルトキハ特ニ指定スルモノトス

六、管ノ重量ハ本表ニ示ス重量ヨリ軽キコト10%ヲ超エサルモノトス

七、重量欄ノ数値ハ本表ニ掲クル外径及近似厚ノ管ノ重量ヲ示スモノニシテ1cm³ヲ7·85gトシテ計算シ小数点下第四位ヲ四捨五入シ第三位ニ止メタルモノトス

大正十五年六月二十三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手（可鍛鋳鉄製）	類別B34
		頁 1

第一条　本規格ハ日本標準規格第38号ノ「ガス」管ヲ用ウル管装置ニ使用スル接手ニ之ヲ適用ス

第二条　種類　本接手ノ種類ハ次ノ通リトス

- 肘、めすをす肘、45°肘、45°めすをす肘、径違肘、径違めすをす肘
- 丁、めすをす丁、径違丁、偏心径違丁
- 45°二股、90°二股、径違 90°二股
- 十字、径違十字
- 「ソケット」、めすをす「ソケット」、径違「ソケット」、偏心径違「ソケット」
- 曲り、めすをす曲り、返し（一号、二号）
- 「ユニオン」
- 「ニップル」、径違「ニップル」、「ブッシュ」、「ロックナット」、帽、栓

第三条　称呼　本接手ノ称呼ハ之ニ適合スル「ガス」管ノ称呼ニ依ル

径違接手ノ称呼ハ次ノ順序ニ依リ之ヲ表示ス（附表参照）

- 出口2箇ノ場合ハ大ナルモノヲ①、小ナルモノヲ②
- 出口3箇ノ場合ハ同一又ハ平行ナル中心線上ニ在ル大ナルモノヲ①、小ナルモノヲ②、残リノモノヲ③
- 但シ90°二股ニ在リテハ大ナルモノヲ①、小ナルモノヲ②及③
- 出口4箇ノ場合ハ最大ノ出口ヲ①、之ト同一又ハ平行ナル中心線上ニ在ルモノヲ②、残リノ2箇ノ中大ナルモノヲ③、小ナルモノヲ④

第四条　常用壓力　本接手ハ10kg/Cm²ノ常用壓力ニ耐フルヲ標準トス

第五条　材質　日本標準規格第79号可鍛鋳鉄品ニ依ル　但シ栓ニ對シテハ鋳鉄ヲ使用スルコトヲ得

第六条　壓力試驗及材質試驗　特ニ指定アル場合ニノミ之ヲ行フ

第七条　形狀寸法　本接手ノ形狀寸法ハ次表ニ依ル

附表第一　接手ノ端部
〃　第二　肘、めすをす肘、45°肘　45°めすをす肘、丁、めすをす丁、十字
〃　第三　径違丁
〃　第四　偏心径違丁
〃　第五　90°二股、45°二股、径違 90°二股
〃　第六　径違肘、径違めすをす肘　径違十字
〃　第七　「ソケット」、めすをす「ソケット」、径違「ソケット」、偏心径違「ソケット」
〃　第八　曲り、めすをす曲り、返し（一号、二号）
〃　第九　「ユニオン」ねぢ、「ユニオン」部
〃　第十　「ユニオンナット」
〃　第十一　「ニップル」、径違「ニップル」
〃　第十二　「ロックナット」
〃　第十三　「ブッシュ」
〃　第十四　帽
〃　第十五　栓

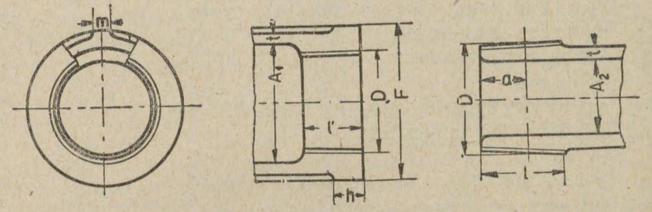
第八条　公差　接手ノ中心ヨリ端面迄ノ距離ニ對スル公差ハ次ノ通リトシ其ノ他ノ公差ハ前条ノ附表ニ示ス通リトス

称呼	1/8吋	1/4	3/8	1/2	3/4	1	1 1/4	1 1/2	1 3/4	2	2 1/2	3	3 1/2	4	4 1/2	5	5 1/2	6
公差 mm	±1·5	±1·5	±1·5	±1·5	±1·5	±1·5	±2	±2	±2	±2·5	±2·5	±3	±3	±3·5	±3·5	±3·5	±3·5	±3·5

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 （可鍛鋳鉄製）	類別B34
		頁 2

附表第一　接手ノ端部



単位 mm

称呼	ねじ ねじノ基本径 D	ねじ山数 25.4mmニ付	めねじ部ノ長 l'	をねじ部長ノ l	内径 めねじ側 A1	内径 をねじ側 A2	厚 t	バンド 外径 F	バンド 幅 h	リブ 幅	リブ 数 ユニオンねじユニオン鉢	リブ 数 ソケット溝等
1/8吋	9·729	28	8	10	11	5	2·0	18	5	3	4	2
1/4	13·158	19	9	11	14	7	2·5	22	5	3	4	2
3/8	16·663	〃	10	13	18	9	2·5	25	5	3	4	2
1/2	20·956	14	12	16	22	13	2·5	30	6	4	4	2
3/4	26·442	〃	14	19	28	18	3·0	36	6	4	4	2
1	33·250	11	16	22	35	24	3·0	44	7	5	4	2
1 1/4	41·912	〃	18	25	43	32	3·5	53	8	5	4	2
1 1/2	47·805	〃	19	25	49	37	3·5	60	9	5	6	2
1 3/4	53·748	〃	20	28	55	43	3·5	66	10	5	6	2
2	59·616	〃	21	28	61	48	4·0	73	11	5	6	2
2 1/2	75·187	〃	24	32	77	63	4·5	91	12	6	6	2
3	87·887	〃	26	35	89	74	5·0	105	13	7	6	2
3 1/2	100·334	〃	28	38	102	86	5·5	119	14	8	6	2
4	113·034	〃	30	41	115	98	6·0	133	16	8	6	4
4 1/2	125·735	〃	31	41	128	110	6·0	147	17	8	6	4
5	138·435	〃	32	44	141	123	6·5	161	18	8	6	4
5 1/2	151·136	〃	34	48	154	134	7·0	175	19	8	6	4
6	163·836	〃	35	51	167	145	7·5	189	20	8	6	4

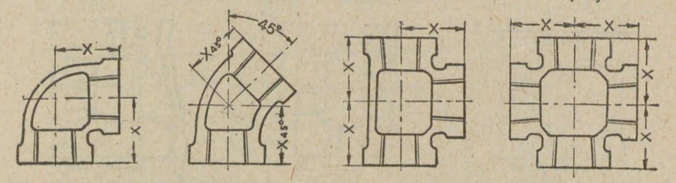
備考　一、ねじハ日本標準規格第37号管接手ねじニ依ルモノトス
二、ねじ部ハ円錐ねじトスルヲ普通トス
三、バンドノ幅 h ハ凡ソノ寸法ヲ示ス又称呼2吋及夫レヨリ小ナルモノニハバンドヲ附セザルコトヲ得
四、リブハ各種ソケット、ユニオンねじ、ユニオン鉢、相嵌ニ限リ之ヲ附スルモノトス
五、図中ノ a ハ日本標準規格第37号管接手ねじ参照

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	昭和八年十二月十三日改訂

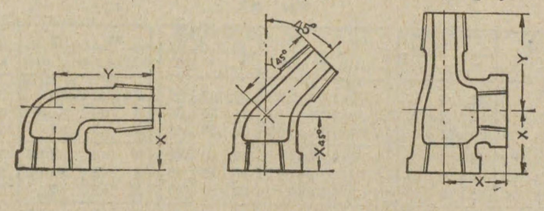
JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 （可鍛鋳鉄製）	類別B34
		頁 3

附表第二　肘、めすをす肘、45°肘、45°めすをす肘、丁、めすをす丁、十字

肘　45°肘　丁　十字



めすをす肘　45°めすをす肘　めすをす丁



単位 mm

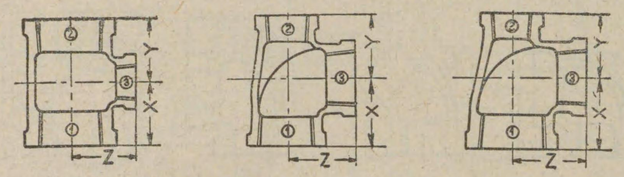
称呼	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	X45°	Y	Y45°
1/8吋	17	16	25	23
1/4	19	17	30	25
3/8	23	19	35	28
1/2	27	21	40	31
3/4	32	25	47	34
1	38	29	54	39
1 1/4	46	34	62	44
1 1/2	48	37	68	47
1 3/4	54	40	75	51
2	57	42	79	55
2 1/2	69	49	92	64
3	78	54	104	71
3 1/2	87	60	115	79
4	97	65	126	86
4 1/2	105	70	135	92
5	113	74	148	100
5 1/2	122	80	160	108
6	132	82	170	115

備考　端部ノ形狀寸法ハ附表第一ニ依ル

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 (可鍛鋳鉄製)	類別B34
		頁 4

附表第三 径違丁



単位 mm

称呼 ①×②×③	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z
1/4"×1/4"×3/8"	22	22	20
3/8"×3/8"×1/8"	19	19	21
3/8"×3/8"×1/4"	20	20	22
3/8"×3/8"×1/2"	25	25	25
1/2"×1/2"×1/4"	24	24	24
1/2"×1/2"×3/8"	25	26	25
1/2"×1/2"×3/4"	30	30	30
1/2"×1/2"×1"	33	33	32
3/4"×1/2"×1/2"	30	27	30
3/4"×1/2"×3/4"	32	30	32
3/4"×3/4"×1/4"	25	25	27
3/4"×3/4"×3/8"	28	28	28
3/4"×3/4"×1/2"	29	29	30
3/4"×3/4"×1"	35	35	34
3/4"×3/4"×1 1/4"	40	40	38
1"×1/2"×1/2"	32	27	33
1"×1/2"×3/4"	34	30	35
1"×1/2"×1"	38	34	38
1"×3/4"×1/2"	32	29	33
1"×3/4"×3/4"	34	32	35
1"×1"×3/8"	30	30	31
1"×1"×1/2"	32	32	33
1"×1"×3/4"	34	34	35
1"×1"×1 1/4"	42	42	40
1"×1"×1 1/2"	45	45	42
1 1/4"×3/4"×3/4"	37	32	40
1 1/4"×3/4"×1"	40	35	42
1 1/4"×3/4"×1 1/4"	45	40	45
1 1/4"×1"×3/4"	37	34	40
1 1/4"×1"×1"	40	38	42

称呼 ①×②×③	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z
1 1/4"×1 1/4"×3/8"	33	33	35
1 1/4"×1 1/4"×1/2"	34	34	38
1 1/4"×1 1/4"×3/4"	38	38	40
1 1/4"×1 1/4"×1"	40	40	42
1 1/4"×1 1/4"×1 1/2"	48	48	45
1 1/4"×1 1/4"×2"	52	52	48
1 1/2"×1"×1"	41	37	45
1 1/2"×1"×1 1/4"	45	42	48
1 1/2"×1"×1 1/2"	48	45	48
1 1/2"×1 1/4"×1"	41	40	45
1 1/2"×1 1/4"×1 1/4"	45	44	48
1 1/2"×1 1/2"×3/8"	34	34	40
1 1/2"×1 1/2"×1/2"	35	35	42
1 1/2"×1 1/2"×3/4"	38	38	43
1 1/2"×1 1/2"×1"	41	41	45
1 1/2"×1 1/2"×1 1/4"	45	45	48
1 1/2"×1 1/2"×2"	54	54	52
2"×2"×1/2"	38	38	48
2"×2"×3/4"	41	41	49
2"×2"×1"	44	44	51
2"×2"×1 1/4"	48	48	54
2"×2"×1 1/2"	52	52	55
2"×2"×2 1/2"	65	65	60
2"×2"×3"	72	72	62
2 1/2"×2 1/2"×1/2"	41	41	57
2 1/2"×2 1/2"×3/4"	44	44	58
2 1/2"×2 1/2"×1"	48	48	60
2 1/2"×2 1/2"×1 1/4"	52	52	62
2 1/2"×2 1/2"×1 1/2"	55	55	62
2 1/2"×2 1/2"×2"	60	60	65

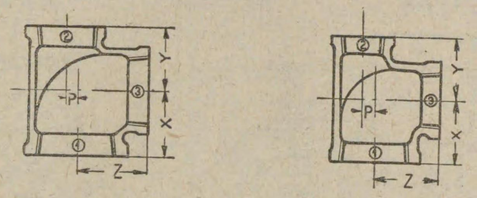
称呼 ①×②×③	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z
2 1/2"×2 1/2"×3"	75	75	70
3"×3"×3/4"	46	46	66
3"×3"×1"	50	50	68
3"×3"×1 1/4"	55	55	70
3"×3"×1 1/2"	58	58	72
3"×3"×2"	62	62	72
3"×3"×2 1/2"	72	72	75
3"×3"×4"	92	92	85
3 1/2"×3 1/2"×3/4"	50	50	73
3 1/2"×3 1/2"×1 1/4"	57	57	77
3 1/2"×3 1/2"×2"	65	65	80
3 1/2"×3 1/2"×2 1/2"	74	74	82
3 1/2"×3 1/2"×3"	80	80	85
4"×4"×3/4"	54	54	80
4"×4"×1 1/4"	61	61	85
4"×4"×2"	69	69	87
4"×4"×2 1/2"	78	78	90
4"×4"×3"	83	83	91
5"×5"×3/4"	55	55	96
5"×5"×1 1/4"	62	62	100
5"×5"×2"	72	72	103
5"×5"×3"	87	87	107
6"×6"×3/4"	60	60	108
6"×6"×1 1/4"	67	67	113
6"×6"×2"	75	75	115
6"×6"×3"	92	92	120
6"×6"×4"	102	102	125

備考 端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル。

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 (可鍛鋳鉄製)	類別B34
		頁 5

附表第四 偏心径違丁



単位 mm

称呼 ①×②×③	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z	P
2"×1"×3/4"	41	37	49	9
2"×1"×1"	44	40	51	9
2"×1"×1 1/2"	52	48	55	9
2"×1 1/4"×2"	57	52	57	9
2"×1 1/2"×3/4"	41	38	49	6
2"×1 1/2"×1"	44	41	51	6
2"×1 1/2"×1 1/2"	52	48	55	6
2 1/2"×1 1/2"×3/4"	44	38	58	14
2 1/2"×1 1/2"×1 1/4"	52	45	62	14
2 1/2"×1 1/2"×2"	60	54	65	14
2 1/2"×1 1/2"×2 1/2"	69	62	69	14
2 1/2"×2"×3/4"	44	41	58	8
2 1/2"×2"×1 1/4"	52	48	62	8
2 1/2"×2"×2"	60	55	65	8
3"×2"×3/4"	46	41	65	14
3"×2"×1 1/4"	55	48	70	14
3"×2"×2"	62	55	72	14
3"×2"×3"	78	72	78	14
3"×2 1/2"×3/4"	46	44	66	6
3"×2 1/2"×1 1/4"	55	52	70	6
3"×2 1/2"×2"	62	59	72	6
3"×2 1/2"×3"	78	75	78	6
3 1/2"×2 1/2"×3/4"	50	44	73	12.5
3 1/2"×2 1/2"×1 1/4"	57	51	77	12.5
3 1/2"×2 1/2"×2"	65	60	80	12.5
3 1/2"×2 1/2"×3"	80	75	85	12.5
3 1/2"×3"×3/4"	50	45	73	6.5

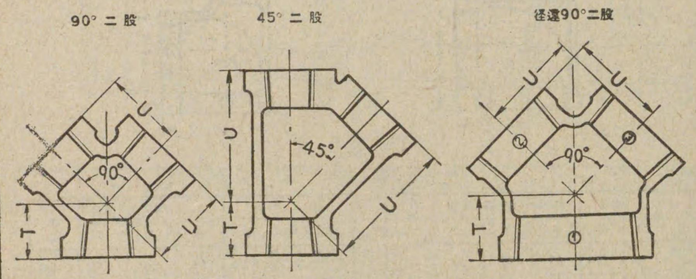
称呼 ①×②×③	中心ヨリ端面迄ノ距離 X	Y	Z	P
3 1/2"×3"×1 1/4"	57	54	77	6.5
3 1/2"×3"×2"	65	62	80	6.5
3 1/2"×3"×3"	80	78	85	6.5
4"×3"×3/4"	54	46	80	13
4"×3"×1 1/4"	61	54	85	13
4"×3"×2"	69	62	87	13
4"×3"×3"	83	78	91	13
4"×3 1/2"×3/4"	54	50	80	6.5
4"×3 1/2"×1 1/4"	61	57	86	6.5
4"×3 1/2"×2"	69	65	87	6.5
4"×3 1/2"×3"	83	80	91	6.5
5"×3"×3/4"	55	46	95	26
5"×3"×1 1/4"	62	54	100	26
5"×3"×2"	72	62	103	26
5"×3"×3"	87	78	107	26
5"×4"×3/4"	55	53	95	13
5"×4"×1 1/4"	62	60	100	13
5"×4"×2"	72	68	103	13
5"×4"×3"	87	83	107	13
6"×4"×3/4"	60	53	107	26
6"×4"×1 1/4"	67	60	113	26
6"×4"×2"	75	68	115	26
6"×4"×3"	92	83	120	26
6"×5"×3/4"	60	55	107	13
6"×5"×1 1/4"	67	62	113	13
6"×5"×2"	75	71	115	13
6"×5"×3"	92	87	120	13

備考 端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 (可鍛鋳鉄製)	類別B34 頁 6

附表第五　90°ニ股、45°ニ股、径違90°ニ股



単位 mm

称呼	90°ニ股		45°ニ股	
	中心ヨリ端面迄ノ距離		中心ヨリ端面迄ノ距離	
	T	U	T	U
吋 1/8	10	17	10	25
1/4	13	19	13	31
3/8	14	23	14	35
1/2	18	28	18	42
3/4	20	32	20	50
1	23	38	23	62
1 1/4	28	45	28	75
1 1/2	30	48	30	82
2	34	57	34	99
2 1/2	40	68	40	124
3	45	78	45	140
3 1/2	48	87	....	....
4	52	97	....	....
5	60	114	....	....
6	67	132	....	....

備考　端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

単位 mm

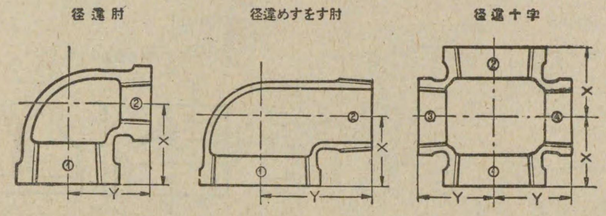
称呼	中心ヨリ端面迄ノ距離	
① × ② × ③	T	U
吋 吋 吋		
1 1/4× 3/4× 3/4	28	32
1 1/4×1 ×1	28	38
1 1/2×1 ×1	28	38
1 1/2×1 1/4×1 1/4	28	45
2 ×1 1/4×1 1/4	31	45
2 ×1 1/2×1 1/2	31	48
2 1/2×1 1/2×1 1/2	37	48
2 1/2×2 ×2	37	57
3 ×2 ×2	40	57
3 ×2 1/2×2 1/2	40	68
3 1/2×2 1/2×2 1/2	43	68
3 1/2×3 ×3	43	78
4 ×3 ×3	46	78
4 ×3 1/2×3 1/2	45	87
5 ×3 1/2×3 1/2	50	87
5 ×4 ×4	50	97
6 ×4 ×4	57	97
6 ×5 ×5	57	124

備考　端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

昭和六年十二月三日決定　工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 (可鍛鋳鉄製)	類別B34 頁 7

附表第六　径違肘、径違めすをす肘、径違十字



単位 mm

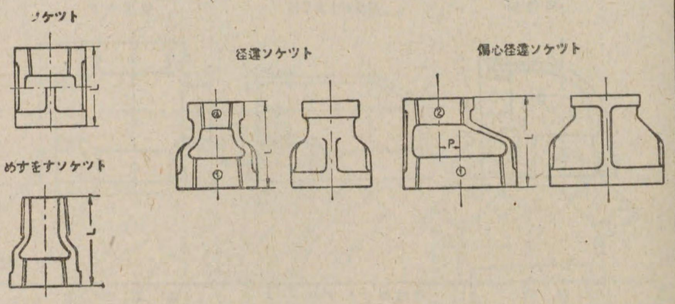
径違肘			径違めすをす肘			径違十字		
称呼	中心ヨリ端面迄ノ距離		称呼	中心ヨリ端面迄ノ距離		称呼	中心ヨリ端面迄ノ距離	
① × ②	X	Y	① × ②	X	Y	① × ② × ③ × ④	X	Y
吋 吋			吋 吋			吋 吋 吋 吋		
3/8× 1/8	19	21	.....	....	....	.....	....	....
3/8× 1/4	20	22	.....	....	....	.....	....	....
1/2× 1/4	24	24	.....	....	....	.....	....	....
1/2× 3/8	26	25	.....	....	....	.....	....	....
3/4× 3/8	28	28	.....	....	....	.....	....	....
3/4× 1/2	29	30	.....	....	....	3/4× 3/4× 1/2× 1/2	29	30
1 × 1/2	32	33	.....	....	....	1 ×1 × 1/2× 1/2	32	33
1 × 3/4	34	35	1 × 3/4	34	51	1 ×1 × 3/4× 3/4	34	35
1 1/4× 1/2	34	38	.....	....	....	.....	....	....
1 1/4× 3/4	38	40	.....	....	....	1 1/4×1 1/4× 3/4× 3/4	38	40
1 1/4×1	40	42	1 1/4×1	42	61	1 1/4×1 1/4×1 ×1	40	42
1 1/2× 1/2	35	42	.....	—	....	.....	....	....
1 1/2× 3/4	38	43	.....	....	....	1 1/2×1 1/2× 3/4× 3/4	38	43
1 1/2×1	41	45	.....	....	....	1 1/2×1 1/2×1 ×1	41	45
1 1/2×1 1/4	45	48	1 1/2×1 1/4	45	68	1 1/2×1 1/2×1 1/4×1 1/4	45	48
.....	....	....	.....	....	....	2 ×2 × 3/4× 3/4	52	50
2 ×1	44	51	.....	....	....	2 ×2 ×1 ×1	55	51
2 ×1 1/4	48	54	.....	....	..	2 ×2 ×1 1/4×1 1/4	60	54
2 ×1 1/2	52	55	2 ×1 1/2	52	75	2 ×2 ×1 1/2×1 1/2	52	55
.....	....	....	.....	....	....	2 1/2×2 1/2×1 ×1	47	61
2 1/2×1 1/2	55	62	.....	....	....	.....	....	....
2 1/2×2	60	65	.....	....	....	2 1/2×2 1/2×2 ×2	62	65
.....	....	....	.....	....	....	3 ×3 ×1 ×1	50	69
3 ×2	62	72	3 ×2	62	98	3 ×3 ×2 ×2	62	72
3 ×2 1/2	72	75	.....	....	....	.....	....	....
4 ×3	83	91	.....	....	....	.....	....	....

備考　端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

昭和六年十二月三日決定　工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手（可鍛鋳鉄製）	類別B34
		頁 8

附表第七　ソケット、めすをすソケット、径違ソケット、偏心径違ソケット



単位 mm

物呼	ソケット L	めすをすソケット L	L ノ公差
吋 1/8	22	25	± 1·5
1/4	25	28	± 1·5
3/8	28	32	± 1·5
1/2	34	40	± 1·5
3/4	38	48	± 1·5
1	44	55	± 1·5
1 1/4	50	60	± 2·0
1 1/2	54	65	± 2·0
1 3/4	58	70	± 2·0
2	60	70	± 2·5
2 1/2	70	80	± 2·5
3	75	90	± 3·0
3 1/2	80	95	± 3·0
4	85	100	± 3·5
4 1/2	85	100	± 3·5
5	95	110	± 3·5
5 1/2	100	120	± 3·5
6	105	125	± 3·5

備考　端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

単位 mm

物呼 ① × ②	L 寸法	L 公差
吋 吋 1/4 × 1/8	25	± 1·5
3/8 × 1/8	28	± 1·5
3/8 × 1/4	28	± 1·5
1/2 × 1/8	34	± 1·5
1/2 × 1/4	34	± 1·5
1/2 × 3/8	34	± 1·5
3/4 × 1/4	38	± 1·5
3/4 × 3/8	38	± 1·5
3/4 × 1/2	38	± 1·5
× 3/8	42	± 1·5
× 1/2	42	± 1·5
× 3/4	42	± 1·5
1 1/4 × 1/2	48	± 2·0
1 1/4 × 3/4	48	± 2·0
1 1/4 × 1	48	± 2·0
1 1/2 × 3/4	52	± 2·0
1 1/2 × 1	52	± 2·0
1 1/2 × 1 1/4	52	± 2·0

備考　端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

単位 mm

物呼 ① × ②	L 寸法	L 公差	P
吋 吋 2 × 3/4	58	± 2·5	16·5
2 × 1	58	± 2·5	13
2 × 1 1/4	58	± 2·5	9
2 × 1 1/2	58	± 2·5	6
2 1/2 × 1 1/2	65	± 2·5	6
2 1/2 × 2	65	± 2·5	8
3 × 2	72	± 3·0	14
3 × 2 1/2	72	± 3·0	6
4 × 2	85	± 3·5	27
4 × 3	85	± 3·5	13
5 × 4	95	± 3·5	13
6 × 5	105	± 3·5	13

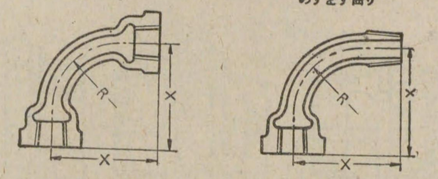
備考　端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

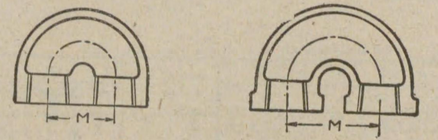
JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手（可鍛鋳鉄製）	類別B34
		頁 9

附表第八　曲り、めすをす曲り、返し（一号、二号）

曲り　　めすをす曲り



返し　　一号　　二号



単位 mm

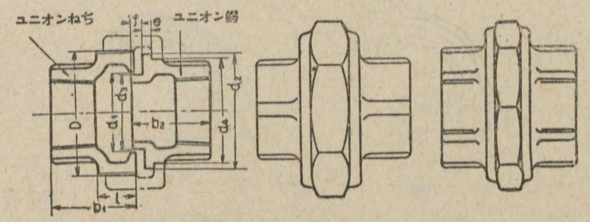
物呼	曲り、めすをす曲り 中心ヨリ端面迄ノ距離 X	曲りノ半径 R	返し L 中心距離 一号 M 寸法	一号 M 公差	二号 M 寸法	二号 M 公差
吋 1/8	32	20	16	± 0·8	23	± 0·8
1/4	38	24	20	± 0·8	28	± 0·8
3/8	44	28	22	± 0·8	32	± 0·8
1/2	52	34	26	± 0·8	38	± 0·8
3/4	65	45	32	± 0·8	50	± 0·8
1	82	55	38	± 0·8	62	± 0·8
1 1/4	100	72	48	± 1·0	75	± 1·0
1 1/2	115	82	55	± 1·0	82	± 1·0
1 3/4	128	95	62	± 1·0	90	± 1·0
2	140	105	68	± 1·2	98	± 1·2
2 1/2	175	135	85	± 1·2	115	± 1·2
3	205	162	100	± 1·5	130	± 1·5
3 1/2	232	188	115	± 1·5	145	± 1·5
4	260	212	125	± 1·8	160	± 1·8
4 1/2	288	238	....	....	....	....
5	318	262	....	....	....	....
5 1/2	345	288	....	....	....	....
6	375	315	....	....	....	....

備考　端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 （可鍛鋳鉄製）	類別B34 頁 10

附表第九　ユニオンねぢ、ユニオン鍔



単位　mm

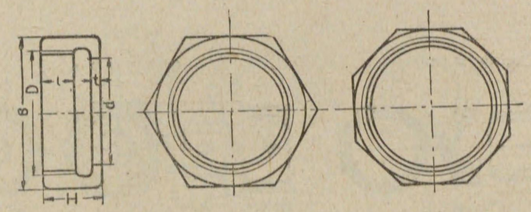
称呼	ユニオンねぢ 外ねぢ部 径 D	ねぢ山数 24.5mm ニ付	長さ l	d1	b1 寸法	b1 公差	ユニオン鍔 径 d2	厚 e	突出部 径 d3	突出部 高 f	頸径 d4	t2 寸法	t2 公差
1/8吋	26	14	9	14	20	±1·5	23	2·5	13	2·5	20·7	19	±1·5
1/4	30	12	10	17	22	±1·5	25	2·5	16	3·0	23·7	21	±1·5
3/8	32	〃	11	20	24	±1·5	28	2·5	19	3·0	25·7	22	±1·5
1/2	38	〃	12	24	25	±1·5	34	2·5	23	3·5	31·7	24	±1·5
3/4	44	〃	13	30	30	±1·5	40	2·5	29	4·0	36·7	28	±1·5
1	55	〃	14	37	34	±1·5	50	3·0	35	4·0	35·7	32	±1·5
1 1/4	62	〃	15	45	35	±2·0	58	3·5	44	4·0	54·7	34	±2·0
1 1/2	70	〃	16	51	38	±2·0	66	3·5	50	4·5	61·7	36	±2·0
1 3/4	75	〃	17	59	41	±2·0	71	4·0	58	4·5	66·7	38	±2·0
2	82	〃	18	64	44	±2·5	78	4·0	62	5·0	73·5	40	±2·5
2 1/2	100	〃	20	80	48	±2·5	96	4·5	78	6·0	91·5	45	±2·5
3	115	〃	22	94	55	±3·0	111	4·5	92	7·5	105·5	50	±3·0
3 1/2	130	〃	24	106	60	±3·0	126	5·0	104	7·5	120·5	55	±3·0
4	145	〃	26	119	62	±3·5	141	5·5	117	8·5	134·5	58	±3·5
4 1/2	160	〃	28	134	70	±3·5	156	6·0	132	8·5	149·5	65	±3·5
5	175	〃	30	150	75	±3·5	171	7·0	148	9·0	163·5	68	±3·5
5 1/2	190	〃	32	160	78	±3·5	186	7·5	158	9·0	177·5	72	±3·5
6	205	〃	34	172	82	±3·5	200	8·0	170	9·5	191·5	75	±3·5

備考　一、端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル
二、外ねぢハ日本標準規格第115号ウイットウオース細目ねぢノ第二号ニ依ル

昭和六年十二月三日決定　工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 （可鍛鋳鉄製）	類別B34 頁 11

附表第十　ユニオンナット



単位　mm

称呼	ねぢ部 径 D	ねぢ山数 25·4mm ニ付	長さ l	孔部 径 d	孔部 厚 t	対辺距離 B 六角	対辺距離 B 八角	高 H
1/8吋	25	14	3	21	2·5	32	……	15
1/4	30	12	9	24	2·5	35	……	16
3/8	32	〃	10	26	3·0	38	……	18
1/2	38	〃	10	32	3·0	46	……	16
3/4	44	〃	11	37	3·0	50	……	19
1	55	〃	12	47	3·5	……	63	21
1 1/4	62	〃	13	55	4·0	……	71	23
1 1/2	70	〃	14	62	4·0	……	80	24
1 3/4	75	〃	15	67	4·5	……	85	25
2	82	〃	16	74	4·5	……	95	27
2 1/2	100	〃	18	92	5·0	……	115	31
3	115	〃	20	106	5·5	……	130	34
3 1/2	130	〃	22	121	6·0	……	145	37
4	145	〃	24	135	6·5	……	160	40
4 1/2	160	〃	26	150	7·0	……	175	45
5	175	〃	28	164	8·0	……	190	48
5 1/2	190	〃	30	178	8·0	……	210	50
6	205	〃	32	192	9·0	……	220	55

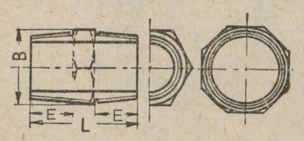
備考　ねぢハ日本標準規格第115号ウイットウオース細目ねぢノ第二号ニ依ル

昭和六年十二月三日決定　工業品規格統一調査會

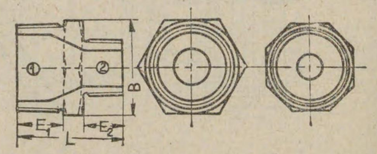
JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 （可鍛鋳鉄製）	類別B34 頁 12

附表第十一　ニップル、径違ニップル

ニップル



径違ニップル



単位　mm

称呼	L 寸法	L 公差	E	対辺距離B 六角	対辺距離B 八角
吋					
1/8	32	±1·5	12	14	…
1/4	34	±1·5	13	17	…
3/8	37	±1·5	14	21	…
1/2	41	±1·5	16	25	…·
3/4	47	±1·5	19	32	…·
1	52	±1·5	21	35	…·
1 1/4	56	±2·0	23	45	…·
1 1/2	60	±2·0	24	50	…·
1 3/4	63	±2·0	25	58	…
2	66	±2·5	25	…·	63
2 1/2	74	±2·5	29	…·	77
3	80	±3·0	32	…·	90
3 1/2	85	±3·0	35	…·	105
4	92	±3·5	37	…·	115
4 1/2	98	±3·5	40	…·	130
5	105	±3·5	43	…·	145
5 1/2	112	±3·5	45	…·	155
6	118	±3·5	48	…·	165

備考　縞部ノ形状寸法ハ本表ニ示スモノノ外附表第一ニ依ル

単位　mm

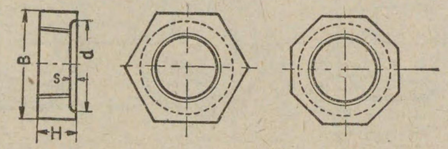
称呼 ① × ②	L 寸法	L 公差	E_1	E_2	対辺距離B 六角	対辺距離B 八角
吋 吋						
3/8 × 1/4	35	±1·5	14	13	21	…·
1/2 × 1/4	38	±1·5	16	13	26	…·
1/2 × 3/8	39	±1·5	16	14	26	…·
3/4 × 1/4	41	±1·5	19	13	32	…·
3/4 × 3/8	42	±1·5	19	14	32	…·
3/4 × 1/2	44	±1·5	19	16	32	…·
1 × 3/8	45	±1·5	21	14	35	…
1 × 1/2	47	±1·5	21	16	35	…·
1 × 3/4	50	±1·5	21	19	35	…·
1 1/4 × 1/2	49	±2·0	23	16	45	…
1 1/4 × 3/4	52	±2·0	23	19	45	…
1 1/4 × 1	54	±2·0	23	21	45	…
1 1/2 × 3/4	55	±2·0	24	19	50	…
1 1/2 × 1	57	±2·0	24	21	50	…
1 1/2 × 1 1/4	59	±2·0	24	23	50	…
2 × 3/4	59	±2·5	25	19	…·	63
2 × 1	61	±2·5	25	21	…·	63
2 × 1 1/4	63	±2·5	25	23	…·	63
2 × 1 1/2	64	±2·5	25	24	…·	63
2 1/2 × 1 1/2	69	±2·5	29	24	…·	77
2 1/2 × 2	71	±2·5	29	25	…·	77
3 × 2	74	±3·0	32	26	…·	90
3 × 2 1/2	77	±3·0	32	29	…·	90
4 × 2	81	±3·5	37	25	…·	115
4 × 3	87	±3·5	37	32	…·	115

備考　縞部ノ形状寸法ハ本表ニ示スモノノ外附表第一ニ依ル

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 （可鍛鋳鉄製）	類別B34 頁 13

附表第十二　ロックナット



単位　mm

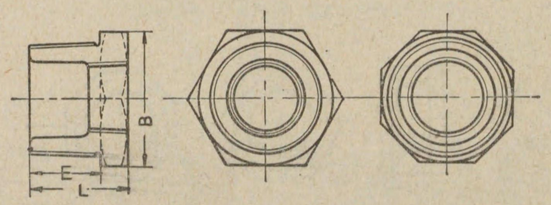
称呼	対辺距離B 六角	対辺距離B 八角	高 H	面取ノ径 a	面取ノ深 b
吋					
1/4	21	…·	8	18	1·2
3/8	26	…·	9	22	1·2
1/2	32	…·	9	28	1·2
3/4	35	…·	10	34	1·5
1	45	…·	11	40	1·5
1 1/4	54	…·	12	50	1·5
1 1/2	…·	63	13	55	2·5
1 3/4	…·	71	14	60	2·5
2	…·	77	15	68	2·5
2 1/2	…·	100	17	88	2·5
3	…·	115	18	100	2·5
3 1/2	…·	130	20	115	2·5
4	…·	145	22	125	2·5
4 1/2	…·	155	24	138	2·5
5	…·	165	25	150	2·5
5 1/2	…·	185	28	165	2·5
6	…·	200	30	180	2·5

備考　ねぢハ日本標準規格第35号管用ねぢニ依ル

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 （可鍛鋳鉄製）	類別B34
		頁 14

附表第十三　ブッシュ



単位 mm

呼び	対辺距離B 六角	対辺距離B 八角	L 寸法	L 公差	E
1/4× 1/8	17	……	17	±1·5	12
3/8× 1/4	21	……	18	±1·5	13
1/2× 1/4	26	……	20	±1·5	15
1/2× 3/8	26	……	20	±1·5	15
3/4× 1/4	32	……	23	±1·5	17
3/4× 3/8	32	……	23	±1·5	17
3/4× 1/2	32	……	23	±1·5	17
1 × 1/4	35	……	26	±1·5	19
1 × 3/8	35	……	26	±1·5	19
1 × 1/2	35	……	25	±1·5	19
1 × 3/4	35	……	25	±1·5	19
1 1/4× 3/8	46	……	29	±2·0	21
1 1/4× 1/2	46	……	29	±2·0	21
1 1/4× 3/4	46	……	29	±2·0	21
1 1/4×1	46	……	29	±2·0	21
1 1/2× 3/8	50	……	31	±2·0	22
1 1/2× 1/2	50	……	31	±2·0	22
1 1/2× 3/4	50	……	31	±2·0	22
1 1/2×1	50	…	31	±2·0	22
1 1/2×1 1/4	50	…	31	±2·0	22
2 × 1/2	……	63	35	±2·5	24
2 × 3/4	……	63	35	±2·5	24
2 ×1	…	63	35	±2·5	24
2 ×1 1/4	……	63	35	±2·5	24
2 ×1 1/2	……	63	35	±2·5	24
2 1/2×1	……	77	39	±2·5	28
2 1/2×1 1/4	……	77	39	±2·5	28

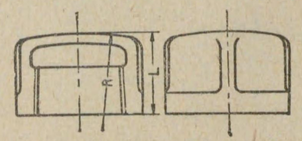
呼び	対辺距離B 六角	対辺距離B 八角	L 寸法	L 公差	C
2 1/2×1 1/2	…	77	39	±2·5	28
2 1/2×2	…	77	39	±2·5	28
3 ×1	……	90	43	±3·0	30
3 ×1 1/4	……	90	43	±3·0	30
3 ×1 1/2	…	90	43	±3·0	30
3 ×2	……	90	43	±3·0	30
3 ×2 1/2	…	90	43	±3·0	30
3 1/2×2 1/2	……	105	46	±3·0	33
3 1/2×3	……	105	46	±3·0	33
4 ×2	……	115	50	±3·5	35
4 ×2 1/2	……	115	50	±3·5	35
4 ×3	……	115	50	±3·5	35
4 ×3 1/2	……	115	50	±3·5	35
4 1/2×3	……	130	53	±3·5	37
4 1/2×3 1/2	…	130	53	±3·5	37
4 1/2×4	…	130	53	±3·5	37
5 ×3	…	145	56	±3·5	40
5 ×3 1/2	…	145	56	±3·5	40
5 ×4	…	145	56	±3·5	40
5 1/2×4	…	155	60	±3·5	42
5 1/2×5	…	155	60	±3·5	42
6 ×3	……	165	64	±3·5	46
6 ×4	…	165	64	±3·5	46
6 ×5	…	165	64	±3·5	46

備考　端部ノ形状寸法ハ本表ニ示スモノノ外附表第一ニ依ル

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第129号
	ガス管接手 （可鍛鋳鉄製）	類別B34
		頁 15

附表第十四　帽

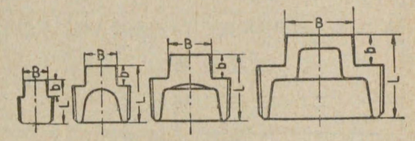


単位 mm

呼び	高 L	頂部外側径 半径 R
1/8	14	40
1/4	15	50
3/8	17	62
1/2	20	78
3/4	24	95
1	28	125
1 1/4	30	150
1 1/2	32	170
1 3/4	35	175
2	36	215
2 1/2	42	270
3	45	310
3 1/2	48	350
4	55	405
4 1/2	55	450
5	58	495
5 1/2	61	540
6	65	580

備考　端部ノ形状寸法ハ附表第一ニ依ル

附表第十五　栓



単位 mm

呼び	全長 L	頭部（四角） 対辺距離 B	頭部（四角） 高 b
1/8	17	7	7
1/4	19	9	8
3/8	22	12	9
1/2	25	14	10
3/4	30	17	11
1	34	19	12
1 1/4	38	23	13
1 1/2	39	26	14
1 3/4	43	29	15
2	43	32	15
2 1/2	50	41	18
3	54	46	19
3 1/2	59	54	21
4	63	58	22
4 1/2	65	63	24
5	69	67	25
5 1/2	74	71	25
6	79	77	28

備考　一、ねぢ部ノ径並長ハ附表第一ニ依ル
二、材質ハ鋳鉄トスルコトヲ得

昭和六年十二月三日決定	工業品規格統一調査會	

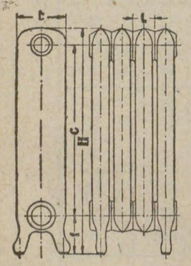
JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 1

第一条　本規格ハ温水又ハ蒸気ヲ使用スル鋳鉄製ノ煖房用放熱器(以下單ニ放熱器ト称ス)ニ之ヲ適用ス

第二条　本規格ニ規定スル放熱器ノ種別ハ之ヲ次ノ5種トス

一、二柱放熱器
二、三柱放熱器
三、三細柱放熱器
四、五細柱放熱器
五、壁掛放熱器

第三条　放熱器ノ型、主要寸法、放熱面積等ハ次表ノ通リトス

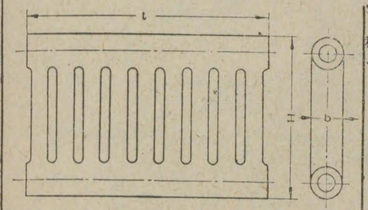


種別＼型			1150	950	800	700	(650)	600	500
二柱	主要寸法 mm	H	1150	950	800	700	650	600	500
		b	187	187	187	187	187	187	187
		l	65	65	65	65	65	65	65
		c	984	784	634	534	484	434	334
		f	115	115	115	115	115	115	115
	放熱面積 m²		0·44	0·35	0·29	0·25	0·23	0·21	0·17
	中間連絡段数		0	0	0	0	0	0	0
三柱	主要寸法 mm	H	1150	950	800	700	650	600	500
		b	228	228	228	228	228	228	228
		l	65	65	65	65	65	65	65
		c	973	773	623	523	473	423	323
		f	115	115	115	115	115	115	115
	放熱面積 m²		0·52	0·42	0·35	0·30	0·27	0·25	0·20
	中間連絡段数		1	1	1	0	0	0	0
三細柱	主要寸法 mm	H	……	……	800	700	650	600	500
		b	……	……	117	117	117	117	117
		l	……	……	50	50	50	50	50
		c	……	……	644	544	494	444	344
		f	……	……	114	114	114	114	114
	放熱面積 m²		……	……	0·19	0·16	0·15	0·13	0·11
	中間連絡段数		……	……	1	1	1	0	0
五細柱	主要寸法 mm	H	…	950	800	700	650	600	500
		b	……	203	203	203	203	203	203
		l	……	50	50	50	50	50	50
		c	……	794	644	544	494	444	344
		f	……	114	114	114	114	114	114
	放熱面積 m²		……	0·40	0·33	0·28	0·26	0·23	0·19
	中間連絡段数		…	1	1	1	1	0	0

備考　本表中括弧ヲ附シタル型ノモノハ成ルヘク使用セサルヲ可トス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 2



種別＼型			横型	竪型
壁掛	柱数		9	6
	主要寸法 mm	H	360	540
		l	540	360
		b	76	76
	放熱面積 m²		0·60	0·60

第四条　放熱器ノ形狀及寸法ハ附図第一乃至第十ニ依ル

第五条　放熱器接続用「ニップル」ハねぢ込型トシねぢハ総テ日本標準規格第36号管用ねぢノ1 1/2吋ノモノニ依ル

第六条　放熱器ハ4 kg/cm²　壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ行ヒ漏洩其ノ他ノ欠点ナキコトヲ要ス

特ニ高壓ヲ要スル場合ニハ前項ノ壓力ヲ7 kg/cm²ト為スモノトス

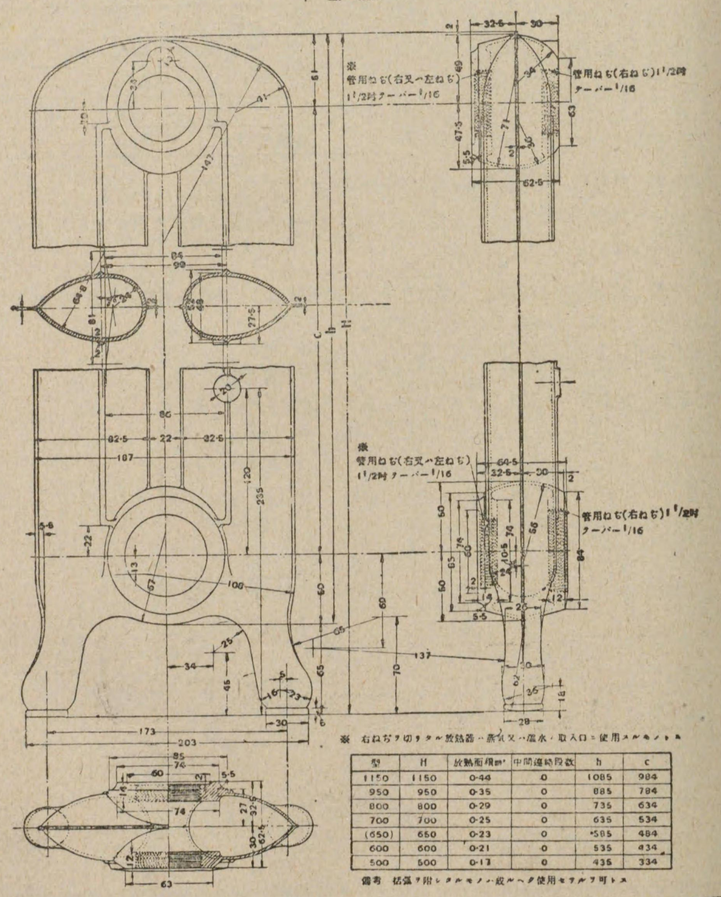
第七条　放熱器ニハ製造所ノ名又ハ其ノ記号ヲ鋳出スモノトス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 3

附図第一　二柱放熱器

単位 mm



※ 右ねじヲ切ラヌ放熱器ハ蒸気又ハ温水ノ取入口ニ使用スルモノトス

型	H	放熱面積m²	中間連結段数	h	c
1150	1150	0·44	0	1085	984
950	950	0·35	0	885	784
800	800	0·29	0	735	634
700	700	0·25	0	635	534
(650)	650	0·23	0	585	484
600	600	0·21	0	535	434
500	500	0·17	0	435	334

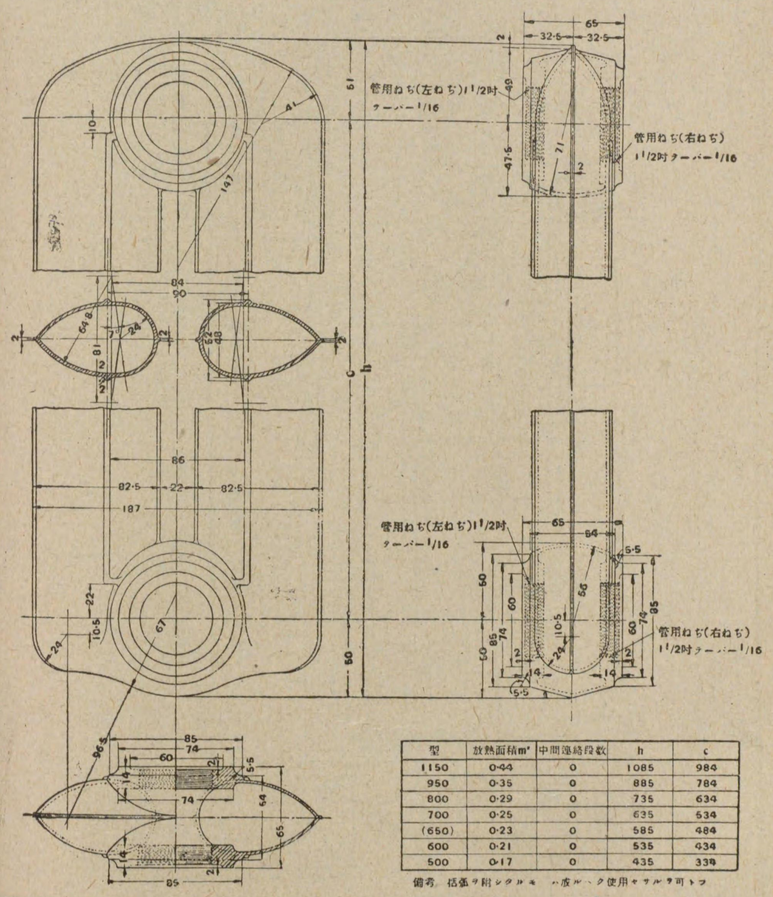
備考　括弧ヲ附ケタルモノハ成ルベク使用セザルヲ可トス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 4

附図第二　二柱放熱器

単位 mm



型	放熱面積m²	中間連結段数	h	c
1150	0·44	0	1085	984
950	0·35	0	885	784
800	0·29	0	735	634
700	0·25	0	635	534
(650)	0·23	0	585	484
600	0·21	0	535	434
500	0·17	0	435	334

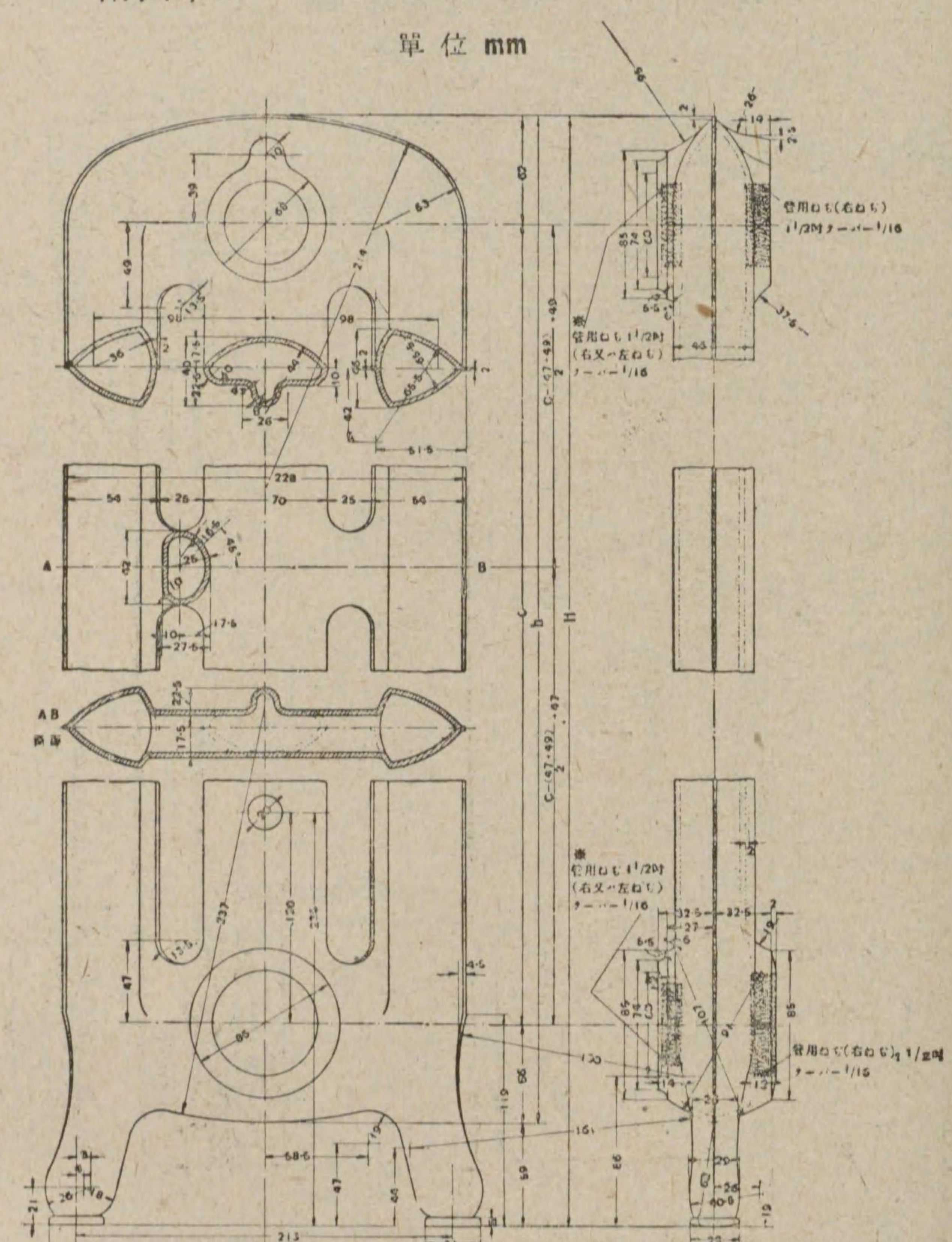
備考　括弧ヲ附ケタルモノハ成ルベク使用セザルヲ可トス

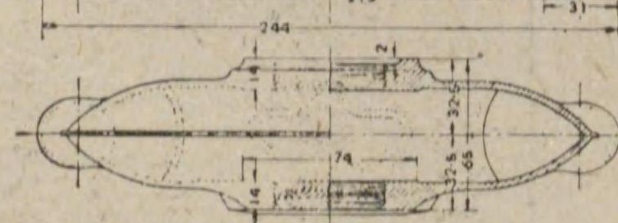
昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 5

附図第三　三柱放熱器

單位 mm





型	H	放熱面積 m²	中間連結段数	b	c
1150	1150	0·52	1	1021	973
950	950	0·42	1	891	773
800	800	0·35	1	741	623
700	700	0·30	0	641	523
(650)	650	0·27	0	591	473
600	600	0·25	0	541	423
500	600	0·20	0	441	323

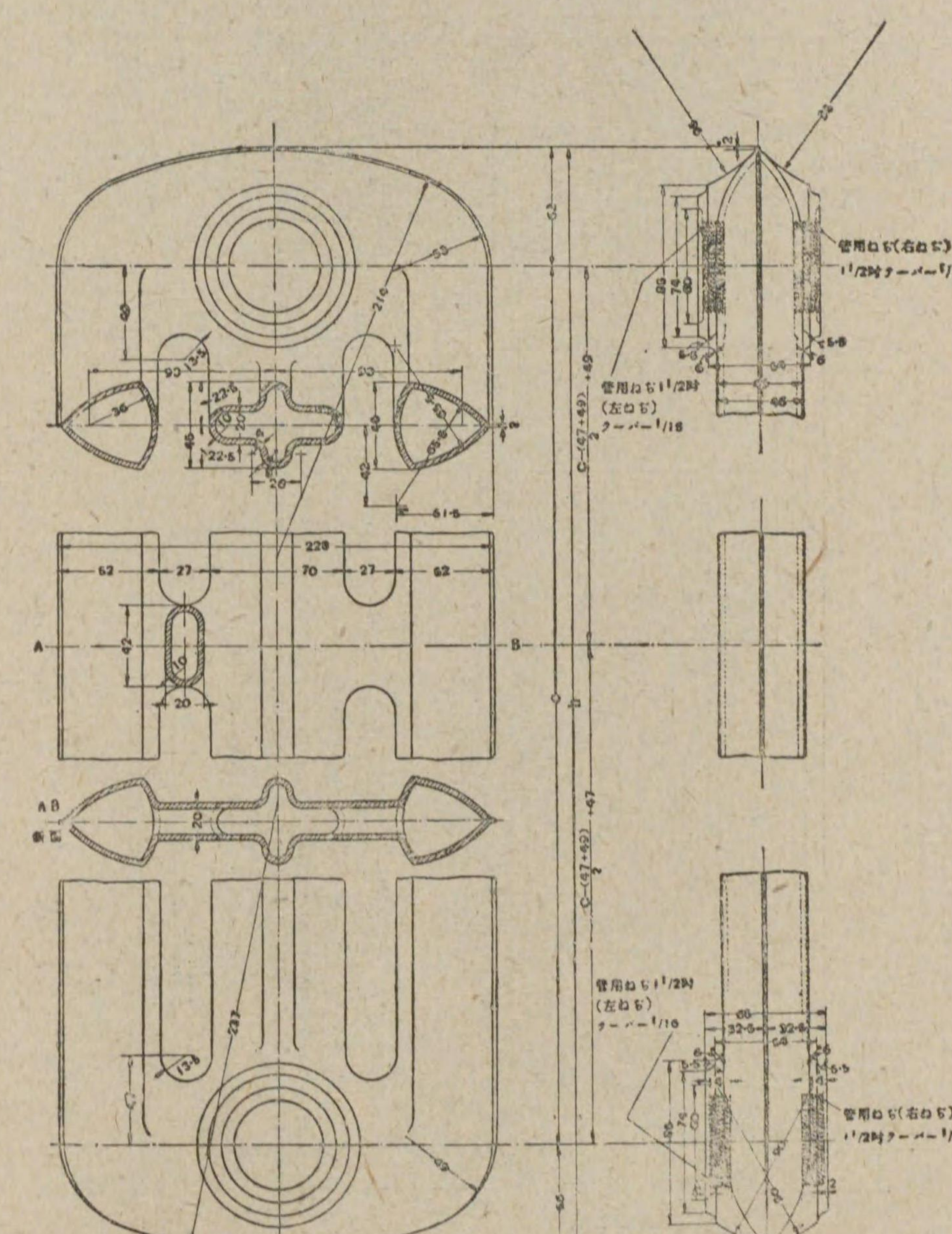
備考　括弧ヲ附シタルモノハ成ルベク使用セザルヲ可トス

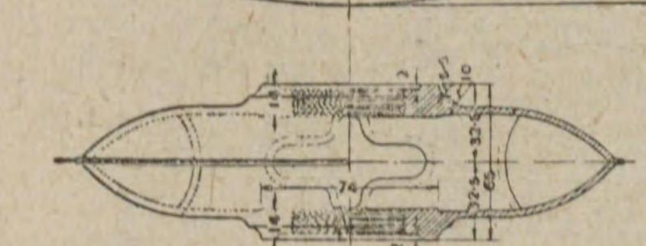
昭和三年十月十八日決定　工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 6

附図第四　三柱放熱器

單位 mm





型	放熱面積 m²	中間連結段数	b	c
1150	0·52	1	1091	973
950	0·42	1	891	773
800	0·35	1	741	623
700	0·30	0	641	523
(650)	0·27	0	591	473
600	0·25	0	541	423
500	0·20	0	441	323

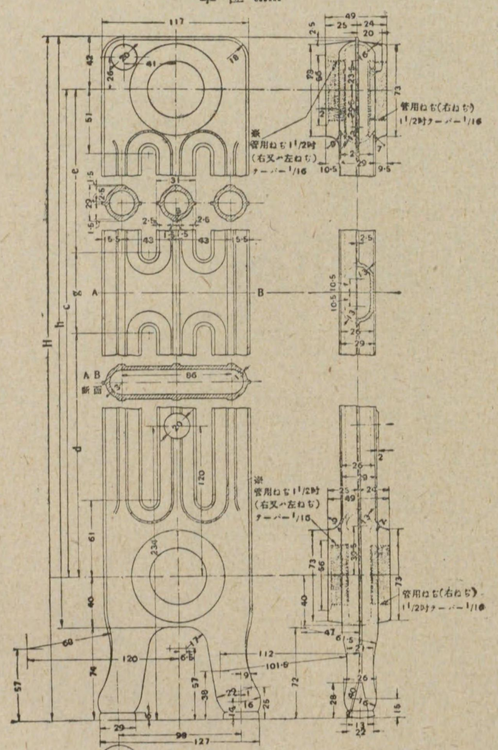
備考　括弧ヲ附シタルモノハ成ルベク使用セザルヲ可トス

昭和三年十月十八日決定　工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 7

附図第五　三細柱放熱器

単位 mm



※ 右ねじヲ切リタル放熱器ハ蒸気又ハ湯水ノ取入口ニ使用スルモノトス

型	H	放熱面積m²	中間連結段数	h	c	d	e	g
800	800	0·19	1	726	644	295	285	64
700	700	0·16	1	626	544	245	235	64
(650)	650	0·15	1	576	494	220	210	64
600	600	0·13	0	526	444	—	—	0
500	500	0·11	0	426	344	—	—	0

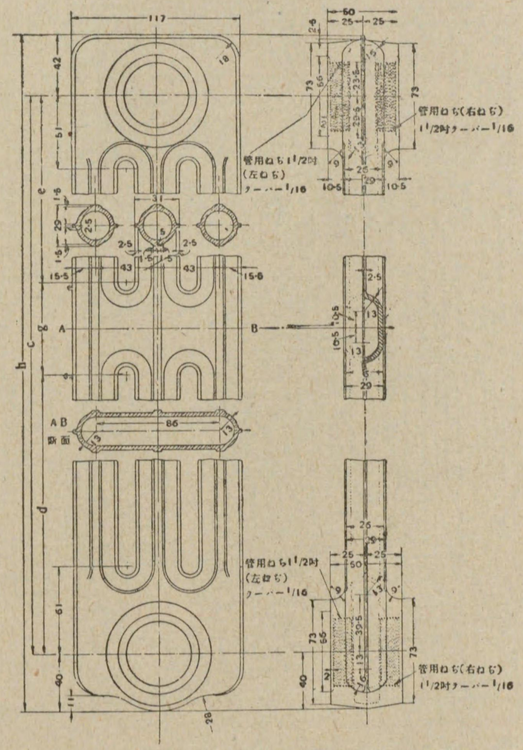
備考　括弧ヲ附ヒタルモノハ成ルベク使用セサルヲ可トス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 8

附図第六　三細柱放熱器

単位 mm



型	放熱面積m²	中間連結段数	h	c	d	e	g
800	0·19	1	726	644	295	285	64
700	0·16	1	626	544	245	235	64
(650)	0·15	1	576	494	220	210	64
600	0·13	0	526	444	—	—	0
500	0·11	0	426	344	—	—	0

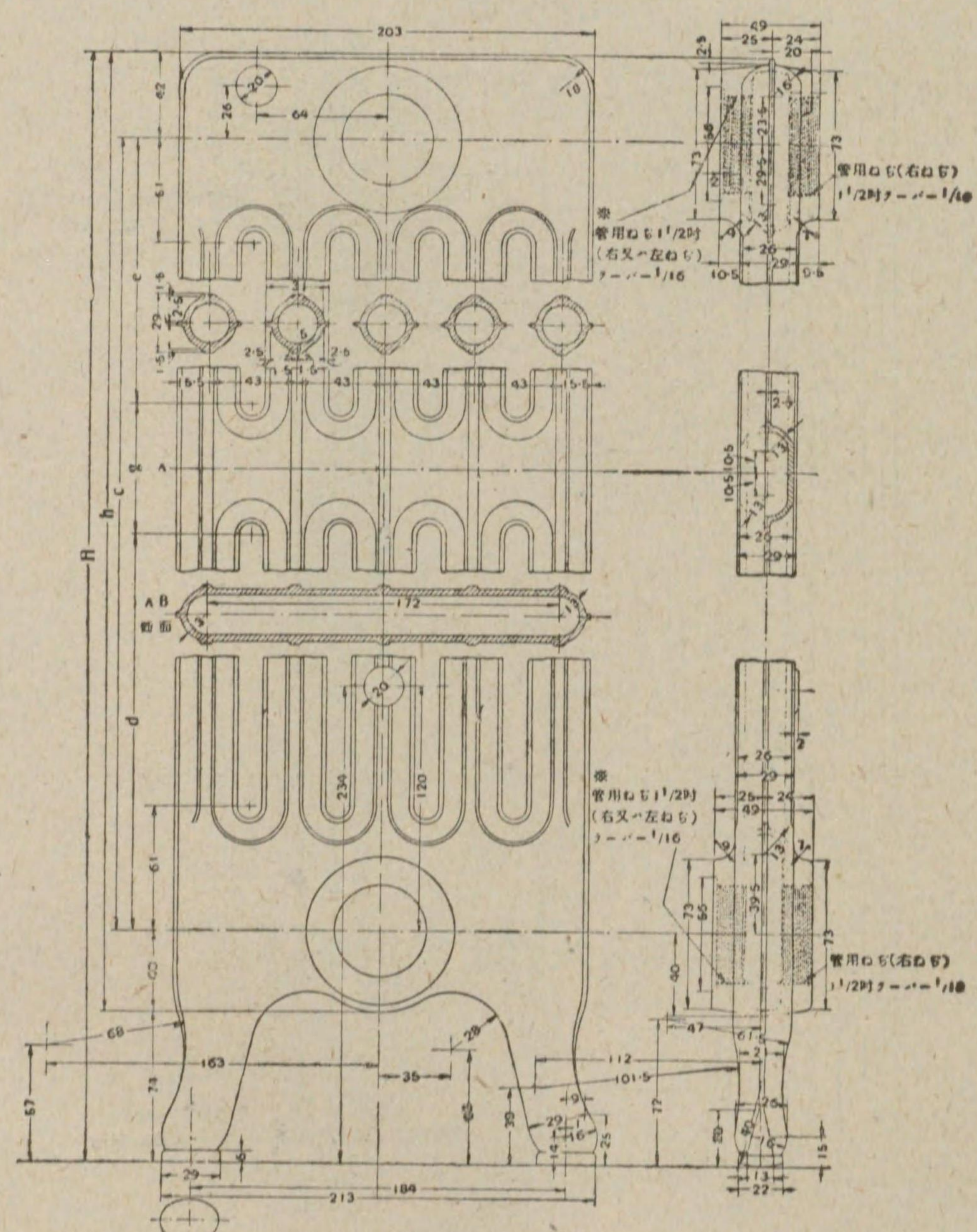
備考　括弧ヲ附ヒタルモノハ成ルベク使用セサルヲ可トス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 9

附図第七　五細柱放熱器

単位 mm



＊ 右ねぢヲ切リタル放熱器 蒸汽又ハ温水ノ出入口ニ使用スルモノトス

型	H	放熱面積m²	中間連結段數	h	c	d	e	g
950	950	0·40	1	876	794	370	360	64
800	800	0·33	1	726	644	295	285	64
700	700	0·28	1	626	544	245	235	64
(650)	650	0·26	1	576	494	220	210	64
600	600	0·23	0	526	444			0
500	500	0·19	0	426	344			0

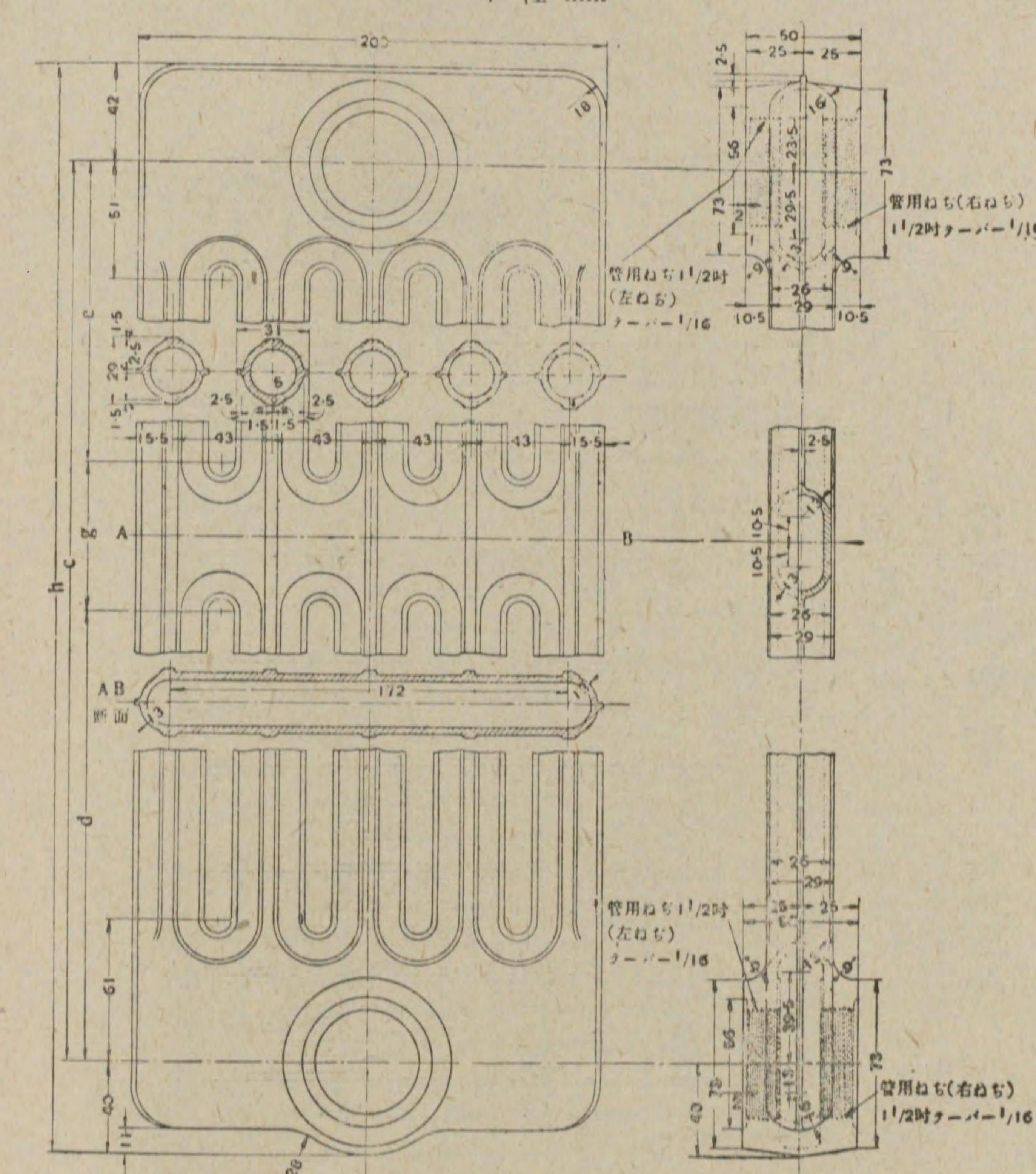
備考 括弧ヲ附シタルモノハ成ルベク使用セザルヲ可トス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 10

附図第八　五細柱放熱器

単位 mm



型	放熱面積m²	中間連結段數	h	c	d	e	g
950	0·40	1	876	794	370	360	64
800	0·33	1	726	644	295	285	64
700	0·28	1	626	544	245	235	64
(650)	0·26	1	576	494	220	210	64
600	0·23	0	526	444			0
500	0·19	0	426	344			0

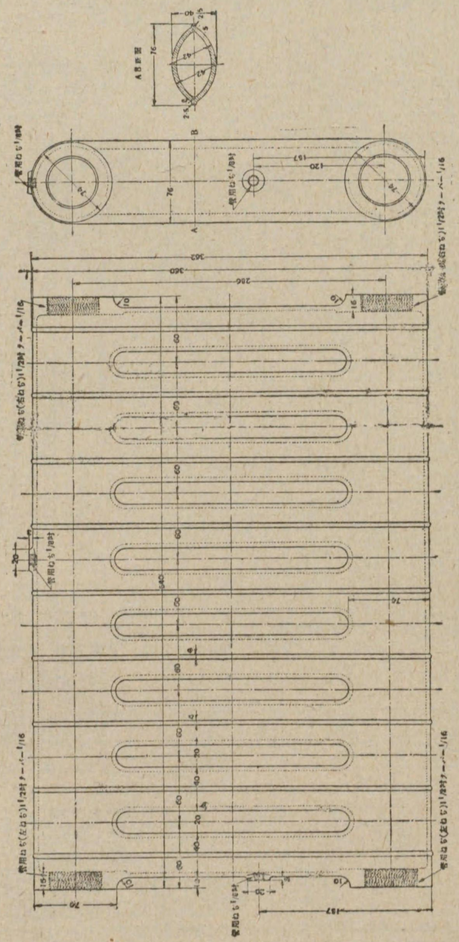
備考 括弧ヲ附シタルモノハ成ルベク使用セザルヲ可トス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 11

附図第九　壁掛放熱器

単位 mm

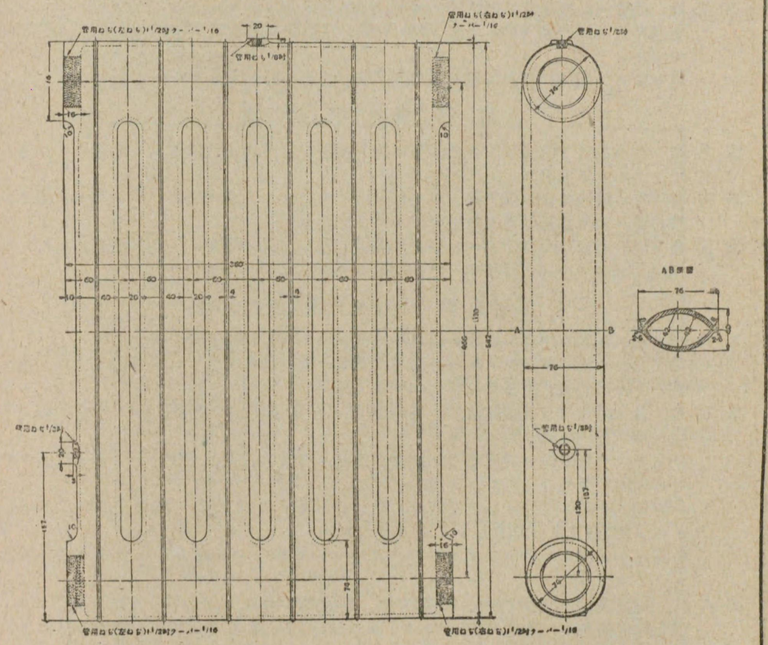


昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第76号
	煖房用放熱器	類別A10
		頁 12

附図第十　壁掛放熱器

単位 mm



昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES | 日本標準規格 | 第80号 | 類別G21 | 頁 1

水道用鑄鉄管

第一章 總則

第一條 本規格ハ水道ニ使用スル鑄鐵製ノ直管及異形管（以下總括シテ管ト稱ス）ニ之ヲ適用ス

第二章 種別

第二條 直管ハ普通壓管及低壓管ノ2種トス
普通壓管ハ靜水頭45m乃至75mニ對シ低壓管ハ靜水頭45m未滿ニ對シ使用スルモノトス
異形管ニハ種別ヲ設ケズ總テ靜水頭75m以下ニ對シ使用スルモノトス

第三章 製造法

第三條 管ハ良質ノ銑鐵ヲ用キテ砂型ニ依リ鑄造シ組織均一且强靱ニシテ錐モミシ易キモノナルコトヲ要ス

第四條 管ハ鑄込ミタル後急激ナル冷却ニ依リテ生ズル不等收縮其ノ他ノ障害ヲ避クル爲必要ナル時間鑄型ヨリ取出サザルコトヲ要ス

第五條 印籠直管ハ受口ヲ下ニシ相當ノ押湯ヲ附シ垂直ノ位置ニテ鑄造スルモノトス押湯ノ部分ハ冷却ノ後丁寧ニ之ヲ切取ルモノトス

第四章 抗折試驗及抗張試驗

第六條 管ノ鑄造ニ用ウル熔銑ニ付テハ抗折試驗及抗張試驗ヲ行フモノトス
註文者又ハ其ノ指定シタル檢査員（以下單ニ檢査員ト稱ス）ニ於テ必要ナシト認メタルトキハ前項ノ試驗ヲ省略スルコトヲ得

第七條 抗折試驗片及抗張試驗片ハ1熔銑毎ニ各3箇ヲ造リ之ガ試驗ヲ行ヒ3箇ノ平均ニ依リ其ノ成績ヲ定ムルモノトス
註文者又ハ檢査員ニ於テ前項ノ試驗ガ適當ニ材質ヲ代表セザルモノト認メタルトキハ再試驗ヲ行ハシムルコトヲ得
1熔銑トハ同一配合ニシテ且連續熔融シタルモノヲ謂フ但シ100瓲ヲ超ユル場合ニハ100瓲及其ノ端數毎ニ1試料ヲ採取スルモノトス
2箇以上ノ爐ヨリ抽出シタル熔銑ヲ1とりべニ集メタル場合ハ之ヲ1熔銑ト看做ス

第八條 抗折試驗ハ幅50mm、厚25mm、長約650mmニ鑄造シタル鑄放シノママノ試驗片ヲ用キ支點距離600mmトシテ試驗ヲ行ヒ第1表ノ規定ニ合格スルコトヲ要ス

第 1 表

荷重 kg	撓み mm
800 以上	6.8 以上

*昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES | 日本標準規格 | 第80号 | 類別G21 | 頁 2

抗折試驗片ノ幅及厚ハ各10%以內ノ增減ヲ許シ其ノ程度ニ應ジテ前項ノ荷重ヲ增減スルモノトス

第九條 抗張試驗ハ砂型ニ依リ30mmニ鑄造シタル丸棒ヲ平行部ノ徑20mm長25mmニ仕上ゲタル試驗片ヲ用キテ試驗ヲ行ヒ抗張力12.5kg/mm²以上ナルコトヲ要ス

第十條 抗折試驗又ハ抗張試驗ノ成績ガ本規格ニ合セザルトキハ其ノ試驗片ノ代表スル熔銑ヲ用キテ鑄造シタル管ヲ總テ不合格トス

第五章 形狀寸法

第十一條 管ノ斷面ニ於ケル內外周ハ實用的同心円タルベク又直管ハ其ノ管体實用的眞直ナルコトヲ要ス
管ノ形狀寸法ハ附表ニ依ルモノトス

第十二條 印籠接手ノ受口內徑及挿口外徑ノ公差ハ第2表ニ依ルモノトス

第 2 表 單位 mm

公稱內徑	公差 直管 受口內徑	公差 直管 挿口外徑	公差 異形管 受口內徑	公差 異形管 挿口外徑
350以下	+3 −1	+1 −3	+4 −1.5	+1.5 −4
400—900	+3.5 −1.5	+1.5 −3.5	+5 −2.5	+2.5 −5
1000以上	+4 −2	+2 −4	+6 −3	+3 −6

第十三條 管厚ノ公差ハ直管ニ在リテハ負ハ10%トシ正ハ挿口寸法ニ影響ナキ限リ制限ヲ附セズ 但シ管厚15mm以下ノモノハ負ノ公差ヲ1.5mmトシ管厚30mm以上ノモノハ負ノ公差ヲ3mmトス
異形管ニ在リテハ前項直管ノ公差ニ其ノ50%ヲ加ヘタルモノトス管ノ有效長ノ公差ノ負ハ15mmトシ正ハ制限ヲ附セズ
管ノ內徑ノ公差ハ第3表ニ依ルモノトス

第 3 表 單位 mm

種別	公稱內徑	公差 直管 正	公差 直管 負	公差 異形管 正	公差 異形管 負
普通壓	250以下	3	5	4.5	6.5
低壓	400以下				
普通壓	300-900	管厚公差ノ2倍	管厚公差ノ2倍+3	管厚公差ノ2倍	管厚公差ノ2倍+3
低壓	450-1200				
普通壓	1000以上	6	10	9	13
低壓	1350以上				

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES | 日本標準規格 | 第 80 号
水道用鑄鉄管 | 類別 G 21 | 頁 3

第六章 水壓試驗

第十四條 水壓試驗ハ管ノ塗裝前 1 箇毎ニ之ヲ行フモノトス
註文者又ハ檢査員ニ於テ特ニ指定シタルトキハ管ノ塗裝後水壓試驗ヲ行フコトヲ得
水壓試驗ハ第 4 表規定ノ水壓ヲ加ヘ相當ノ時間ヲ保タシメツツ輕ク鎚打ヲ爲シ漏洩其ノ他ノ缺點ナキコトヲ要ス

第 4 表

種別	公稱内徑 mm	水壓 kg/cm²
低壓管	500 以上	10.5
	450 以下	17.5
普通壓管及異形管	500 以上	14.0
	450 以下	17.5

前項ノ鎚打ニ用ウル鎚ハ軟鋼製ニシテ重量 1kg 以内、柄ノ長 450mm トス

第七章 塗裝

第十五條 管ハ總テ内外面共ニ精製「タール」及亞麻仁油ノ混合塗料又ハ瀝青塗料其ノ他註文者ニ於テ指定シタルモノヲ以テ塗裝スルモノトス
塗裝面ハ滑ニシテ光澤ヲ有シ寒暑ニ依リテ異狀ヲ呈セザルモノタルヲ要ス
第十六條 塗裝ヲ爲スニハ管ノ内外面ヲ掃除シ錆ヲ完全ニ除去シタル後全體ヲ加熱シ前條塗料ノ加熱シタル液ニ浸シ液槽ヨリ引上ゲ十分ニ液滴ヲ去リ空氣中ニ放置乾燥セシムルモノトス
前項加熱ノ溫度ハ精製「タール」及亞麻仁油ノ混合塗料ノ場合ニハ 150°C ヲ以テ標準トシ其ノ他ノ場合ニハ註文者ノ指定ニ依ルモノトス

第八章 重量

第十七條 管ノ重量ハ塗裝シタルモノニ付之ヲ測定シ附表ニ依ルモノトス
重量ノ公差負ハ第 5 表ニ依ルモノトシ正ハ制限ヲ附セズ

第 5 表

公稱内徑 mm	公差 % 直管	公差 % 異形管
350 以下	− 4	− 8
400—900	− 3	− 6
1000 以上	− 2	− 4

昭和三年十月十八日決定 | 工業品規格統一調査會

JES | 日本標準規格 | 第 80 号
水道用鑄鉄管 | 類別 G 21 | 頁 4

第九章 記號

第十八條 管ニハ外側一定ノ場所ニ水ノ字、製造所ノ記号、製造ノ年及楕円座（都市刻印及番号打込用）ヲ高 3mm 以上ニ鑄出スルモノトス
前項ノ外普通壓管ニハ㋐低壓管ニハ㋒ノ記号ヲ又曲管ニハ角度ヲ鑄出スルモノトス

第十章 檢査

第十九條 管ハ内外面共ニ滑ニシテ疵、瘤、鑄張、巢其ノ他有害ナル缺点ナキコトヲ要ス疵、巢等ニ對シ詰め金又ハ填め金ヲ爲スコトヲ許サズ 但シ輕微ナルモノニシテ註文者又ハ檢査員ニ於テ支障ナシト認ムル場合ハ電氣熔接ヲ許スコトアルベシ
第二十條 管ハ註文者又ハ檢査員ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ小型ノ鎚ヲ以テ輕ク鎚打シ鑄物ノ良否ヲ檢査スルコトアルベシ
第二十一條 試驗及檢査ノ結果本規格ニ合セザル管ハ之ヲ不合格トシ第十八條ノ記号水ノ字ヲ削リ落スモノトス
（注 意） 本規格中管ノ形狀寸法及重量ニ關スル附表ノ揭載ヲ省略ス

昭和三年十月十八日決定 | 工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第81号
	水道用鉛管	類別H15
		頁 1

第一章 総則

第一条 本規格ハ水道用鉛管(以下単ニ管ト称ス)ニ之ヲ適用ス

第二章 種別

第二条 管ハ之ヲ2種ニ分チ靜水頭45m乃至75mニ對スルモノヲ普通壓管ト称シ靜水頭45m未滿ニ對スルモノヲ低壓管ト称ス 但シ内径30mm以下ノ管ハ総テ靜水頭75m以下ニ對スルモノトシ種別ヲ設ケス

第三章 製造法

第三条 管ハ0.5%以上ノ不純物ヲ含有セサル軟質良好ナル鉛ヲ用キ壓型製管機ニ依リ製造シタルモノニシテ組織均一且粘性ニ富ミ打チ展シ易ク又屈曲シ易キモノナルコトヲ要ス

第四章 押擴け試驗及屈曲試驗

第四条 管ニハ押擴け試驗ヲ行フモノトス

註文者又ハ其ノ指定シタル檢査員(以下単ニ檢査員ト称ス)ニ於テ必要ト認メタルトキハ屈曲試驗ヲ併セ行フモノトス

第五条 押擴け試驗 標準丸矢ヲ底面ニ至ル迄管軸ニ沿ヒ徐々ニ管内ニ打込ミ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

標準丸矢ハ鋼製円錐型ニシテ頂角ハ40度トシ底面ノ径ハ管ノ内径ノ2.25倍トス

第六条 屈曲試驗 管内ニ7.5kg/cm²ノ水壓ヲ保チツツ管ヲ屈曲器ニ依リテ徐々(10秒乃至15秒間)ニ90度屈曲シ之ヲ前ト同シ速サニテ原位ニ復シ更ニ反對ノ方向ニ同様ニ90度屈曲シ原位ニ復スルモ漏水ヲ生セサルコトヲ要ス

屈曲器ハ管ノ内径ノ3倍ニ相當スル外径ヲ有スル金属製「ローラー」ヲ備ヘ管ヲシテ「ローラー」ノ周圍ニ馴染好ク接触セシメ管ノ形狀ニ歪ヲ生セスシテ容易ニ之ヲ屈曲シ得ル構造ノモノトス(附図参照)

第五章 形狀寸法及重量

第七条 管ハ断面実用的正円ニシテ其ノ寸法及重量ハ次表ニ依ルモノトス

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第81号
	水道用鉛管	類別H15
		頁 2

種別	内径 mm	厚 mm	重量 kg/m	1把ノ管ノ長ノ最小限度 m
普通壓管	10	4.3	2.2	15
	13	4.7	3.0	15
	16	5.3	4.0	15
	20	5.8	5.3	15
	25	6.3	7.0	15
	30	6.8	9.0	10
	40	8.1	14.0	7
	50	9.4	20.0	5
低壓管	40	7.1	12.0	8
	50	8.0	16.5	6

備考 管ノ重量ハ1cm³ノ鉛ヲ11.38gトシテ算出シタルモノトス

第八条 管ノ寸法及重量ノ公差ハ次表ノ通リトス

	公差 %
内径	± 3
厚	± 10
重量	± 3

第六章 水壓試驗

第九条 管ハ17.5kg/cm²ノ水壓ニ耐ヘ漏洩其ノ他ノ欠点ナキコトヲ要ス

第七章 檢査

第十条 管ハ内外面共ニ滑ニシテ疵、巣其ノ他有害ナル欠点ナキコトヲ要ス

第十一条 管ノ厚及内径ノ檢査並押擴け試驗及水壓試驗ハ各把ニ付之ヲ行フモノトス

第十二条 重量ノ檢査ハ同種、同径ノ管10把若ハ其ノ端数ヲ以テ1組トナシ各組ヨリ1把ヲ採リ其ノ一端ヲ切取リテ之ヲ行フ 但シ1組ノ把数ハ註文者ノ指定ニ依リ之ヲ增減スルコトヲ得

前項ノ檢査カ不合格ニトリタルトキハ其ノ代表スル組ハ総テ不合格トス 但シ註文者又ハ檢査員ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキハ其ノ代表スル組ノ各把ニ付テ檢査ヲ行フコトヲ得

昭和三年十月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES | 日本標準規格 | 第81号

水道用鉛管

類別 H 15

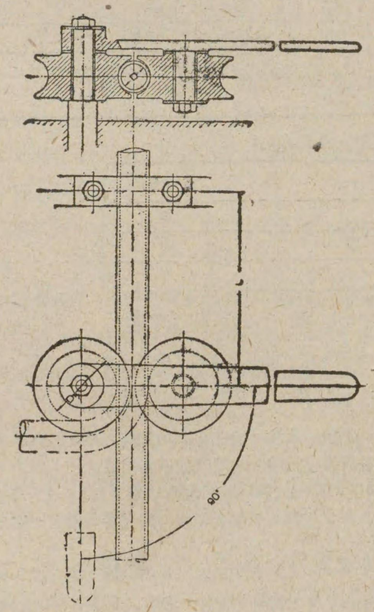
頁 3

第十三条　註文者又ハ検査員ニ於テ必要ト認メタルトキハ任意ノ箇所ニ於テ管ヲ切断シ管ノ厚及内径ノ検査ヲ行フコトヲ得　此ノ場合ニ於テ切断セラレタル管カ合格セルトキハ之ヲ連続セル1把ノモノト看做ス

第十四条　管ニハ其ノ各端ヨリ約0·3mノ箇所ニ製造所ノ記号ノ外普通壓管ニ對シテハ㊐又低壓管ニ對シテハ㊎ノ記号ヲ刻印スルモノトス

附図

屈曲器



単位 mm

鉛管内径 D	ローラー ノ径 D_1	曲げ角
10	30	130
13	39	130
16	48	130
20	60	250
25	75	250
30	90	250
40	120	450
50	150	450

昭和三年十月十八日決定 | 工業品規格統一調査會

JES | 日本標準規格 | 第271号

水道用亜鉛めつき鋼管

類別G 35

頁 1

第一章　總則

第一條　本規格ハ水道ニ使用スル亜鉛めつきセル鋼管（以下單ニ管ト稱ス）及亜鉛めつきセル鋼製並可鍛鑄鐵製ノ接手（以下單ニ接手ト稱ス）ニ之ヲ適用ス

第二條　鋼管ハ日本標準規格第19号ガス管、同第37号管接手ねぢ及同第38号ガス管ノ寸法ニ依ル

第三條　鋼製接手ノ品質ハ日本標準規格第19号ガス管ト同等程度トシ形狀寸法ハ同第37號管接手ねぢニ依ル
可鍛鑄鐵製接手ハ日本標準規格第129号ガス管接手ニ依ル

第二章　亜鉛めつき方法

第四條　亜鉛めつきハ「ホツトジツピング」ニ依ルモノトシ穐メ砂吹又ハ酸洗ヲ行ヒ鋼管ノ内外面ソ錆ヲ完全ニ除去スルモノトス

第五條　亜鉛めつきノ表面ハ實用的平滑ニシテ有害ナル缺点ナキコトヲ要ス

第六條　亜鉛めつきニ使用スル亜鉛ハ日本標準規格第82号亜鉛地金ノ上亜鉛一号ニ依リ特ニ「アルミニウム」ノ含有ヲ許サズ

第三章　亜鉛めつきノ試驗及檢査

第七條　試驗ハ次ノ各号ニ依ル　但シ第二号及第三号ノ試驗ハ註文者又ハ其ノ指定シタル檢査員ノ指定又ハ承認アリタル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一、硫酸銅試驗　試驗片ノめつき面ヲ石油「ベンジン」、「ベンゾール」等ニ浸シタル綿布ニテ十分ニ拭ヒ油氣ヲ去リタル後其ノ長約60mmヲ15℃乃至20℃ニ保持セル硫酸銅溶液中ニ浸スコト1分間ニシテ取出シ清水ニテ洗滌シ附著銅ヲ綿布ニテ拭ヒ去ルモノトス
此ノ操作ヲ反覆スルコト8回ニ及ブモめつき下ノ鐵面ニ光輝アル銅ノ鍍著セザルコトヲ要ス　但シ試驗片ノ切口ヨリ10mm以内ニ於ケル銅ノ鍍著ハ此ノ限ニ在ラズ
試驗片1箇ノ試驗ニ用ウル硫酸銅溶液ノ量ハ管ノ稱呼⅛吋乃至1吋ノモノニ對シテハ約350cc、1¼吋乃至6吋ノモノニ對シテハ約700ccトス
硫酸銅溶液ハ結晶硫酸銅36gニ對シ水100ccノ割合ニ調合シ之ヲ加熱溶解シタル後遊離硫酸ヲ中和スルニ十分ナル酸化第二銅ヲ加ヘ更ニ加熱シテ之ヲ濾過シ20℃ニ於ケル飽和溶液（比重1.198）ト爲スモノトス

二、「アルカリ」試驗　試驗片ノめつき面ヲ石油「ベンジン」、「ベンゾール」等ニ浸シタル綿布ニテ十分拭ヒ油氣ヲ去リタル後之ヲ75℃乃至80℃ニ保持セル「アルカリ」溶液中ニ浸スコト60分ニ及ブモ尙亜鉛めつき層ノ殘存スルコトヲ要ス
「アルカリ」溶液ハ日本藥局方ノ苛性「ソーダ」20g又ハ苛性「カリ」28gニ對シ水100ccノ割合ニテ調合シ溶解シタルモノトス

三、鹽化「アンチモン」試驗　試驗片ノめつき面ヲ石油「ベンジン」、「ベンゾール

昭和九年十二月十八日決定 | 工業品規格統一調査會

JES | 日本標準規格 | 第271号
類別 G-35
水道用亞鉛めつき鋼管
頁 2

等ニ浸シタル綿布ニテ十分ニ拭ヒ油氣ヲ去リタル後秤量シ次ニ之ヲ鹽化「アンチモン」溶液中ニ浸シ水素ノ發生ガ僅少トナリ亞鉛層ノ除去セラルルニ至リテ取出シ清水ニテ洗滌シ且綿布ニテ拭ヒ乾燥シタル後再ビ秤量シ其ノ減量 0.04g/cm² 以上タルコトヲ要ス

塩化「アンチモン」溶液ハ塩化「アンチモン」($SbCl_3$) 3.2g ニ對シ塩酸（比重 1.18）100cc ノ割合ニテ調合シ溶解シ試驗ノ直前ニ於テ此ノ溶液 5cc ヲ塩酸（比重 1.18）ノ 100cc ニ加ヘタルモノトス

前記ノ試驗液ハ 2 回以上使用スル場合ニハ其ノ都度塩化「アンチモン」溶液 5cc ヲ添加スルモノトス

第八條 試驗片ハ管ノ稱呼ヲ異ニスル毎ニ管 100 箇又ハ其ノ端數ヲ 1 組トシ各組ヨリ供試管 1 箇ヲ採リ前條ノ各試驗ニ對シ其ノ兩端及中央部ヨリ各 1 箇ヅツ採取スルモノトス 但シ 1 組ノ箇數ハ註文者ノ指定ニ依リ增減スルコトヲ得

接手ニ付テハ管ニ準ジ適宜採取スルモノトス

第九條 試驗片ノ形狀寸法ノ標準ハ第 1 表及第 2 表ノ通トシ接手ニ付テハ管ニ準ジ適宜之ヲ定ムルモノトス

第 1 表 硫酸試驗用試驗片

管ノ稱呼	吋 1/8 – 2	2½ – 6
長 mm	60 以上	60 以上
幅(弧ニ沿ヒ)(約)mm	全 周	50

第 2 表 「アルカリ」試驗及塩化「アンチモン」試驗用試驗片

管ノ稱呼	吋 1/8	1/4	3/8	1/2	3/4	1	1¼	1½	1¾	2	2½	3	3½	4	4½	5	5½	6
鍍面積（約）cm²	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
長（約）mm	56	40	30	25	40	30	36	32	38	34	26	34	30	26	30	28	26	28
幅(弧ニ沿ヒ)(約)mm	全周					40	50	42	48	40	44	60	44	50	60	50	54	60	54

第十條 第七條ノ試驗ハ第八條ノ規定ニ依リ採リタル試驗片ニ付各試驗毎ニ試驗ヲ行ヒ其ノ成績ガ 3 箇共規格ニ合スルトキハ其ノ試驗片ニ依リ代表セル組ハ合格トス若試驗ノ成績ガ本規格ニ合セザルモノアルトキハ同組ニ屬スル他ノ供試管 2 箇ヨリ各試驗片 3 箇ヲ採リ不合格トナリタル試驗ニ付再試驗ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ此ノ內 1 箇タリトモ合格セザルトキハ其ノ試驗片ニ依リテ代表セラルル組ハ全部不合格トス

第十一條 管及接手ノ表面檢査ハ 1 箇毎ニ之ヲ行ヒ其ノ良否ヲ決定ス

JES | 日本標準規格 | 第272号
類別 G 36
水道用高級鑄鉄管
頁 1

第一章 總則

第一條 本規格ハ水道ニ使用スル鑄鐵製高級ノ直管及異形管（以下總括シテ管ト稱ス）ニ之ヲ適用ス

第二章 種別

第二條 公稱內徑 125mm ヲ超ユル直管ハ普通壓管及低壓管ノ 2 種トス

普通壓管ハ靜水頭 45m 乃至 75m ニ對シ低壓管ハ靜水頭 45m 未滿ニ對シ使用スルモノトス

公稱內徑 125mm 以下ノ直管及總テノ異形管ニハ種別ヲ設ケズ總テ靜水頭 75m 以下ニ對シ使用スルモノトス

第三章 製造法

第三條 管ハ良質ノ銑鐵ニ鋼ヲ配合シタルモノヲ用キテ砂型ニ依リ鑄造シ組織均一且强靱ニシテ緻モミシ易キモノナルコトヲ要ス

第四條 管ハ鑄込ミタル後急激ナル冷却ニ依リテ生ズル不等收縮其ノ他ノ障碍ヲ避クルタメ必要ナル時間鑄型ヨリ取出サザルコトヲ要ス

第五條 印籠直管ハ受口ヲ下ニシ管周全體ニ亙リ相當ノ押湯ヲ附シ垂直ノ位置ニ於テ鑄造スルモノトス

押湯ノ部分ハ冷却ノ後丁寧ニ之ヲ切取ルモノトス

第四章 抗折試驗、抗張試驗及化學試驗

第六條 管ノ鑄造ニ用ウル熔鉄ニ付テハ抗折試驗及抗張試驗ヲ行フモノトス

註文者又ハ其ノ指定シタル檢査員（以下單ニ檢査員ト稱ス）ニ於テ必要ナシト認メタルトキハ前項ノ試驗ヲ省略スルコトヲ得

第七條 抗折試驗片及抗張試驗片ハ 1 熔鉄毎ニ各 3 箇ヲ造リ之ガ試驗ヲ行ヒ 3 箇ノ平均ニ依リ其ノ成績ヲ定ムルモノトス

註文者又ハ檢査員ニ於テ前項ノ試驗ガ適當ニ材質ヲ代表セザルモノト認メタルトキハ再試驗ヲ行ハシムルコトヲ得

1 熔鉄トハ同一配合ニシテ且連續熔融シタルモノヲ謂フ 但シ 100 瓲ヲ超ユル場合ニハ 100 瓲及其ノ端數毎ニ 1 試料ヲ採取スルモノトス

2 箇以上ノ炉ヨリ抽出シタル熔鉄ヲ 1 とりべニ集メタル場合ハ之ヲ 1 熔鉄ト看做ス

第八條 抗折試驗ハ徑 37mm、長 350mm ニ鑄造シタル丸棒ヲ徑 30mm ニ仕上ゲタル試驗片ヲ用キ支点距離 300mm トシテ試驗ヲ行ヒ第 1 表ノ規定ニ合格スルコトヲ要ス

JES | 日本標準規格 | 第272号

水道用高級鑄鉄管

類別 G 36

頁 2

第 1 表

荷重 kg	撓み mm
1600 以上	3.0 以上

第九條 抗張試驗ハ砂型ニ依リ徑 30mm ニ鑄造シタル丸棒ヲ平行部ノ徑 20mm、長 25mm ニ仕上ゲタル試驗片ヲ用キテ試驗ヲ行ヒ抗張力 25kg/mm² 以上ナルコトヲ要ス

第十條 化學試驗ハ註文者ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキ之ヲ行フモノトシ次ノ各号ニ依ル

(一) 管ノ成分中燐及硫黄ノ含有量ハ第 2 表ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ズ

第 2 表

燐 %	硫黄 %
0.40	0.10

(二) 前号成分ノ檢定ハ製造所ニ於テ 1 熔鉄毎ニ採取セル試料ニ付之ヲ行フモノトス

(三) 化學試驗以外ノ試驗及檢査ノ成績良好ニシテ註文者又ハ檢査員ニ於テ使用ノ目的ニ適スルモノト認メタルトキハ第 1 号規定ノ燐及硫黄ノ含有量ハ其ノ 1 割以内ヲ超過スルコトヲ得

第十一條 抗折試驗、抗張試驗又ハ化學試驗ノ成績ガ本規格ニ合セザルトキハ其ノ試驗片ノ代表セル熔鉄ヲ用キテ鑄造シタル管ヲ總テ不合格トス

第五章 形狀寸法

第十二條 管ノ斷面ニ於ケル內外周ハ實用的同心円タルベク又直管ハ其ノ管体實用的眞直ナルコトヲ要ス

管ノ形狀寸法ハ附表ニ依ルモノトス

第十三條 印籠接手ノ受口內徑及挿口外徑ノ公差ハ第 3 表ニ依ルモノトス

第 3 表 單位 mm

公稱內徑	公差			
	直管		異形管	
	受口內徑	挿口外徑	受口內徑	挿口外徑
350 以下	+ 3 − 1	+ 1 − 3	+ 4 − 1.5	+ 1.5 − 4
400—900	+ 3.5 − 1.5	+ 1.5 − 3.5	+ 5 − 2.5	+ 2.5 − 5
1000 以上	+ 4 − 2	+ 2 − 4	+ 6 − 3	+ 3 − 6

昭和九年十二月十八日決定 | 工業品規格統一調査會

JES | 日本標準規格 | 第272号

水道用高級鑄鉄管

類別 G 36

頁 3

第十四條 管厚ノ公差ハ直管ニ在リテハ負ハ 10% トシ正ハ挿口寸法ニ影響ナキ限リ制限ヲ附セズ 但シ管厚 15mm 以下ノモノハ負ノ公差ヲ 1.5mm トス

異形管ニ在リテハ前項直管ノ公差ニ其ノ 50% ヲ加ヘタルモノトス

第十五條 管ノ有效長ノ公差ノ負ハ 15mm トシ正ハ制限ヲ附セズ

第十六條 管ノ內徑ノ公差ハ第 4 表ニ依ルモノトス

第 4 表 單位 mm

種別	公稱內徑	公差			
		直管		異形管	
		正	負	正	負
普通壓	500 以下	3	5	4.5	6.5
低壓	800 以下				
普通壓	600 以上	管厚公差ノ 2 倍	管厚公差ノ 2 倍+3	管厚公差ノ 2 倍	管厚公差ノ 2 倍+3
低壓	900				

第六章 水壓試驗

第十七條 水壓試驗ハ管ノ塗裝前 1 箇毎ニ之ヲ行フモノトス

註文者又ハ檢査員ニ於テ特ニ指定シタルトキハ管ノ塗裝後水壓試驗ヲ行フコトヲ得

水壓試驗ハ第 5 表規定ノ水壓ヲ加ヘ相當ノ時間ヲ保タシメツツ輕ク鎚打ヲ爲シ漏洩其ノ他ノ缺点ナキコトヲ要ス

第 5 表

種別	公稱內徑mm	水壓 kg/cm²
低壓管	500 以上	10.5
	450 以下	17.5
普通壓管及異形管	500 以上	14.0
	450 以下	17.5

前項ノ鎚打ニ用ウル鎚ハ軟鋼製ニシテ重量 1kg 以內、柄ノ長約 450mm トス

第七章 塗裝

第十八條 管ハ總テ內外面共ニ精製「タール」及亞麻仁油ノ混合塗料又ハ瀝青塗料其ノ他註文者ニ於テ指定シタルモノヲ以テ塗裝スルモノトス

塗裝面ハ滑ニシテ光澤ヲ有シ寒暑ニ依リテ異狀ヲ呈セザルモノタルコトヲ要ス

第十九條 塗裝ヲ爲スニハ管ノ內外面ヲ掃除シ錆ヲ完全ニ除去シタル後全體ヲ加熱シ前條

昭和九年十二月十八日決定 | 工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第272号
	水道用高級鑄鉄管	類別 G 36
		頁 4

塗料ノ加熱シタル液ニ浸シ液槽ヨリ引上ゲ十分ニ液滴ヲ去リ空氣中ニ放置乾燥セシムルモノトス
前項加熱ノ溫度ハ精製「タール」及亞麻仁油ノ混合塗料ノ場合ニハ **150°C** ヲ以テ標準トシ其ノ他ノ場合ニハ註文者ノ指定ニ依ルモノトス

第八章 重量

第二十條 管ノ重量ハ塗裝シタルモノニ付之ヲ測定シ附表ニ依ルモノトス
重量ノ公差負ハ第**6**表ニ依ルモノトシ正ハ制限ヲ附セズ

第 **6** 表

公稱内徑 mm	公差 %	
	直管	異形管
350 以下	− **4**	− **8**
400—900	− **3**	− **6**
1000 以上	− **2**	− **4**

第九章 記号

第二十一條 管ニハ外側一定ノ場所ニ㊐、製造所ノ記号、製造ノ年及楕円座（都市刻印及番号打込用）ヲ高 **3mm** 以上ニ鑄出スルモノトス
前項ノ外普通壓管ニハ㋐、低壓管ニハ㋑ノ記号ヲ又曲管ニハ角度ヲ鑄出スルモノトス

第十章 檢査

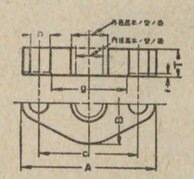
第二十二條 管ハ内外面共ニ滑ニシテ疵、瘤、鑄張、巢其ノ他有害ナル缺点ナキコトヲ要ス
疵、巢等ニ對シ詰め金又ハ塡め金ヲ爲スコトヲ許サズ 但シ輕微ナルモノニシテ註文者又ハ檢査員ニ於テ支障ナシト認ムル場合ハ電氣熔接ヲ許スコトアルベシ
第二十三條 管ハ註文者又ハ檢査員ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ小型ノ鎚ヲ以テ輕ク鎚打シ鑄物ノ良否ヲ檢査スルコトアルベシ
第二十四條 試驗及檢査ノ結果本規格ニ合セザル管ハ之ヲ不合格トシ第二十一條ノ記号ヲ削リ落スモノトス

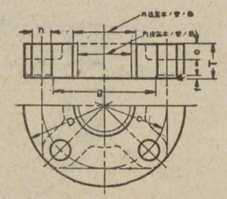
（注 意） 本規格中管ノ形狀寸法及重量ニ關スル附表ノ揭載ヲ省略ス

昭和九年十二月十八日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第116号
	フランジ（小型）	類別B26
		頁 1

常用壓力 2 kg/cm² 及 5 kg/cm²





単位 mm

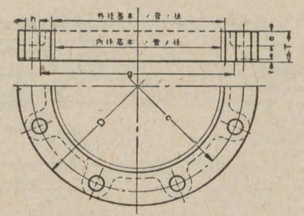
管ノ徑 内徑基本ノモノ	管ノ徑 外徑基本ノモノ	管ノ徑 ガス管呼	フランジノ徑 D(A×B)	フランジノ各部寸法 T 鋼板	T 鑄鐵以外ノモノ	f	徑 g	ボルト孔 中心円徑 C	ボルト孔 數	ボルト孔 徑 h	ボルトノ呼
12	15	3/8吋	70(70×40)	9	16	1	38	50	4(2)	11	3/8吋
15	20	1/2	75(75×45)	〃	〃	〃	42	55	4(2)	〃	〃
20	25	3/4	80	〃	18	〃	48	60	4	〃	〃
25	30	1	85	10	〃	〃	52	65	〃	〃	〃
30	35	------	90	〃	20	〃	58	70	〃	〃	〃
35	40	1 1/4	105	12	〃	2	62	80	〃	14	1/2
40	45	1 1/2	110	〃	22	〃	68	85	〃	〃	〃
45	50	------	115	〃	24	〃	72	90	〃	〃	〃
50	55	1 3/4	120	〃	〃	〃	78	95	〃	〃	〃
55	60	2	125	14	〃	〃	82	100	〃	〃	〃
60	65	------	130	〃	25	〃	88	105	〃	〃	〃
65	70	------	135	12	〃	〃	92	110	6	〃	〃
70	75	2 1/2	140	〃	〃	〃	98	115	〃	〃	〃
75	80	------	145	〃	28	〃	102	120	〃	〃	〃
80	85	3	170	14	30	〃	115	135	〃	18	5/8
85	90	------	175	〃	〃	〃	120	140	〃	〃	〃
90	95	------	180	〃	〃	〃	125	145	〃	〃	〃
95	100	3 1/2	185	〃	〃	〃	130	150	〃	〃	〃
100	110	------	190	〃	32	〃	135	155	〃	〃	〃
110	120	4	200	16	34	〃	145	165	〃	〃	〃
120	130	4 1/2	210	〃	〃	〃	155	175	〃	〃	〃
130	140	5	220	〃	36	〃	165	185	8	〃	〃
140	150	5 1/2	230	〃	〃	〃	175	195	〃	〃	〃
150	160	------	240	〃	38	〃	185	205	〃	〃	〃
160	170	6	250	〃	〃	〃	195	215	〃	〃	〃
170	180	------	260	18	〃	〃	205	225	〃	〃	〃

備考 一、本規格ハ常用壓力 2 kg/cm² 及 5 kg/cm² ノ蒸気、空気、ガス、水、油等ニ使用スル管ヲ溶接スルニ用ウル鑄鉄、可鍛鑄鉄、鋼鋼、鍛鋼、鋼板、青銅、黄銅ノフランジニ之ヲ適用ス 但シ衝動ノ甚シキ水、油等ノ管ニ使用スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
二、瓦斯内ノ値ハ常用壓力 2 kg/cm² ヲ超ユルモノニハ適用セズ
三、衝動ナキ水ニ對シテハ常用壓力 5 kg/cm² ヲ 7 kg/cm² （瓦斯内ノモノニ對シテハ 3 kg/cm²）トスルコトヲ得
四、フランジノ連結面ハ点線ニテ示ス如クスルコトヲ得
五、フランジノ背面ハ材質ニ應ジ適ナル寸法ヲ適當ニ定メ点線ニテ示ス如キ形狀又ハ之ニ類似ノモノトナスコトヲ得
六、ボルト孔數4本ノモノニ限リ円形ノ代リニ鉄線ニテ示ス如キ角形ノモノトスルコトヲ得
七、フランジヲ管ニ取付ケル方法ハ互ニ之ヲ規定セズ
八、鋼板ノ面ヲ削ラズシテフランジニ使用スル場合ニハ其ノ厚ハ本表ニ近似ノモノトスルコトヲ得
九、ボルトハ日本標準規格第 99 号又ハ第 100 号六角ボルト（ウイットウオースねぢ）ニ依ル

昭和五年十二月一日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第116号
	フランジ（小型）	類別B26
		頁 2

常用壓力 2 kg/cm²



単位 mm

管ノ径 内径基本ノモノ	管ノ径 外径基本ノモノ	フランジノ径 D	フランジノ各部寸法 T 鋼板	T 鋼板以外ノモノ	f	径 g	ボルト孔 中心円径 ノ o	ボルト孔 数	ボルト孔 径 h	ボルトノ称呼
180	190	270	18	38	2	215	235	8	18	5/8吋
190	200	280	〃	〃	〃	225	245	〃	〃	〃
200	210	290	〃	〃	〃	235	255	〃	〃	〃
210	220	300	〃	〃	〃	245	265	〃	〃	〃
220	230	310	16	〃	〃	255	275	12	〃	〃
230	240	320	〃	〃	〃	265	285	〃	〃	〃
240	……	330	〃	〃	〃	275	295	〃	〃	〃
250	250	340	〃	〃	〃	285	305	〃	〃	〃
260	260	350	18	〃	〃	295	315	〃	〃	〃
270	270	360	〃	〃	3	305	325	〃	〃	〃
280	280	370	〃	〃	〃	315	335	〃	〃	〃
290	290	380	〃	40	〃	325	345	〃	〃	〃
300	300	390	20	〃	〃	335	355	〃	〃	〃
320	320	410	〃	〃	〃	355	375	〃	〃	〃
340	340	445	〃	42	〃	380	405	〃	21	3/4
360	360	465	22	44	〃	400	425	〃	〃	〃
380	380	485	〃	〃	〃	420	445	〃	〃	〃
400	400	505	〃	46	〃	440	465	16	〃	〃

備考　一、本規格ハ常用壓力 2 kg/cm² ノ蒸気、空気、ガス、水、油等ニ使用スル管ヲ相接続スルニ用ウル鋳鉄、可鍛鋳鉄、鋳鋼、鍛鋼、鋼板、青銅、黄銅ノしフランジニ之ヲ適用ス　但シ衝動ノ甚シキ水、油等ノ管ニ使用スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二、衝動ナキ水ニ對シテハ常用壓力ヲ 3 kg/cm² トスルコトヲ得

三、しフランジノ連結面ハ点線ニテ示ス如クスルコトヲ得

四、しフランジノ背面ハ材質ニ應ジ適ナル寸法ヲ適當ニ定メ点線ニテ示ス如キ形狀又ハ之ニ類似ノモノトナスコトヲ得

五、しフランジヲ管ニ取付クル方法ハ茲ニ之ヲ規定セズ

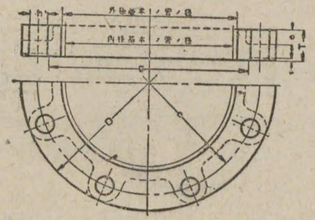
六、鋼板ノ面ヲ削ラズシテしフランジニ使用スル場合ニハ其ノ厚ハ本表ニ近似ノモノトスルコトヲ得

七、しボルトヘ日本標準規格第 99 号又ハ第 100 号六角ボルト（ウイットウオースねぢ）ニ依ル

昭和五年十二月一日決定　工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第116号
	フランジ（小型）	類別B26
		頁 3

常用壓力 5 kg/cm²



単位 mm

管ノ径 内径基本ノモノ	管ノ径 外径基本ノモノ	フランジノ径 D	フランジノ各部寸法 T 鋼板	T 鋼板以外ノモノ	f	径 g	ボルト孔 中心円径 ノ o	ボルト孔 数	ボルト孔 径 h	ボルトノ称呼
180	190	275	20	38	2	220	240	8	18	5/8吋
190	200	285	〃	〃	〃	230	250	〃	〃	〃
200	210	305	〃	〃	〃	240	265	〃	21	3/4
210	220	315	22	〃	〃	250	275	〃	〃	〃
220	230	325	〃	〃	〃	260	285	〃	〃	〃
230	240	340	20	〃	〃	275	300	12	〃	〃
240	250	350	〃	〃	〃	285	310	〃	〃	〃
250	260	360	〃	〃	〃	295	320	〃	〃	〃
260	270	370	〃	〃	〃	305	330	〃	〃	〃
270	280	380	22	〃	3	315	340	〃	〃	〃
280	290	390	〃	〃	〃	325	350	〃	〃	〃
290	300	400	〃	40	〃	335	360	〃	〃	〃
300	……	410	〃	〃	〃	345	370	〃	〃	〃
320	320	430	〃	〃	〃	365	390	〃	〃	〃
340	340	450	〃	42	〃	385	410	〃	〃	〃
360	360	480	24	44	〃	405	435	〃	24	7/8
380	380	500	25	〃	〃	425	455	〃	〃	〃
400	400	520	24	46	〃	445	475	16	〃	〃

備考　一、本規格ハ常用壓力 5 kg/cm² ノ蒸気、空気、ガス、水、油等ニ使用スル管ヲ相接続スルニ用ウル鋳鉄、可鍛鋳鉄、鋳鋼、鍛鋼、鋼板、青銅、黄銅ノしフランジニ之ヲ適用ス　但シ衝動ノ甚シキ水、油等ノ管ニ使用スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二、衝動ナキ水ニ對シテハ常用壓力ヲ 7 kg/cm² トスルコトヲ得

三、しフランジノ連結面ハ点線ニテ示ス如クスルコトヲ得

四、しフランジノ背面ハ材質ニ應ジ適ナル寸法ヲ適當ニ定メ点線ニテ示ス如キ形狀又ハ之ニ類似ノモノトナスコトヲ得

五、しフランジヲ管ニ取付クル方法ハ茲ニ之ヲ規定セズ

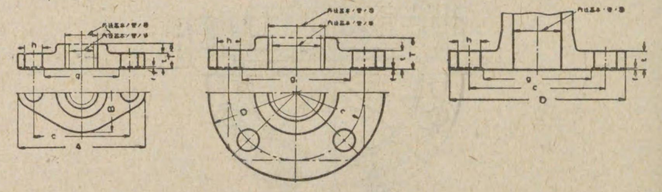
六、鋼板ノ面ヲ削ラズシテしフランジニ使用スル場合ニハ其ノ厚ハ本表ニ近似ノモノトスルコトヲ得

七、しボルトヘ日本標準規格第 99 号又ハ第 100 号六角ボルト（ウイットウオースねぢ）ニ依ル

昭和五年十二月一日決定　工業品規格統一調査會

JES	日本標準規格	第116号
	フランジ（大型）	類別B26
		頁 8

常用壓力 2 kg/cm² 及 5 kg/cm²



單位 mm

管ノ径 内径基本ノモノ	管ノ径 外径基本ノモノ	管ノ径 ガス管呼称	フランジノ径 D（A×B）	フランジノ各部寸法 t 鋳鉄	t 鋳鉄以外ノモノ	T	f	径 g	ボルト孔 中心円径 o	ボルト孔 数	ボルト孔 径 h	ボルトノ呼称
12	15	3/8吋	75（75×45）	12	9	16	1	42	55	4（2）	11	3/8吋
15	20	1/2	80（80×50）	〃	〃	〃	〃	48	60	4（2）	〃	〃
20	25	3/4	85	14	10	18	〃	52	65	4	〃	〃
25	30	1	95	〃	〃	〃	〃	62	75	〃	〃	〃
30	35	……	110	16	12	20	〃	68	85	〃	14	1/2
35	40	1 1/4	115	〃	〃	〃	2	72	90	〃	〃	〃
40	45	1 1/2	120	〃	〃	22	〃	78	95	〃	〃	〃
45	50	……	125	14	〃	24	〃	82	100	〃	〃	〃
50	55	1 3/4	130	〃	〃	〃	〃	88	105	〃	〃	〃
55	60	2	135	〃	12	〃	〃	92	110	6	〃	〃
60	65	……	145	〃	〃	26	〃	102	120	〃	〃	〃
65	70	……	150	〃	〃	〃	〃	108	125	〃	〃	〃
70	75	2 1/2	155	18	14	〃	〃	112	130	〃	〃	〃
75	80	……	175	〃	〃	28	〃	120	140	〃	18	5/8
80	85	3	180	〃	〃	30	〃	125	145	〃	〃	〃
85	90	……	185	〃	〃	〃	〃	130	150	〃	〃	〃
90	95	……	190	〃	〃	〃	〃	135	155	〃	〃	〃
95	100	3 1/2	195	〃	16	〃	〃	140	160	〃	〃	〃
100	110	……	200	20	〃	32	〃	145	165	〃	〃	〃
110	120	4	210	〃	〃	34	〃	155	175	〃	〃	〃
120	130	4 1/2	220	〃	〃	〃	〃	165	185	8	〃	〃
130	140	5	235	〃	〃	36	〃	180	200	〃	〃	〃
140	150	5 1/2	245	〃	〃	〃	〃	190	210	〃	〃	〃
150	150	……	255	22	〃	38	〃	200	220	〃	〃	〃
150	170	6	265	〃	18	〃	〃	210	230	〃	〃	〃
170	180	……	275	〃	〃	〃	〃	220	240	〃	〃	〃

備考　一、本規格ハ常用壓力 2 kg/cm² 及 5 kg/cm² ノ蒸気、空気、ガス、水、油等ニ使用スル管又ハ弁等ヲ接続スルニ用ウル鋳鉄、可鍛鋳鉄、鋳鋼、鍛鋼、鋼板、青銅、黄銅ノ┗フランジ┛ニ之ヲ適用ス　但シ衝動ノ甚シキ水、油等ニ使用スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二、括弧内ノ値ハ常用壓力 2 kg/cm² ヲ超スルモノニハ適用セズ

三、衝動ナキ水ニ對シテハ常用壓力 5 kg/cm² ヲ 7 kg/cm²（括弧内ノモノニ對シテハ 3 kg/cm²）トスルコトヲ得

四、管ト同一体ニ鋳造セラレタル┗フランジ┛ニモ本規格ヲ適用ス

五、┗フランジ┛ノ連結面ハ点線ニテ示ス如クスルコトヲ得

六、┗フランジ┛ヲ管ニ取付クル方法ハ茲ニ之ヲ規定セズ

七、Tハ┗フランジ┛ヲ管ニ取付クル方法ニ依リ適宜変更スルコトヲ得

八、┗ボルト┛数4本ノモノニ限リ円形ノ代リニ鎖線ニテ示ス如キ角形ノモノヲ使用スルコトヲ得

九、鋼板ノ面ヲ削ラズシテ┗フランジ┛ニ使用スル場合ニハ其ノ厚ハ本表ニ近似ノモノトスルコトヲ得

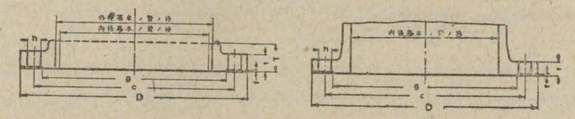
十、┗ボルト┛ハ日本標準規格第99号又ハ第100号六角ボルト（ウイットウオースねぢ）ニ依ル

十一、外周ヲ仕上ゲザル┗フランジ┛ニ對シテハ径 D ヲ最分大トナスコトヲ得

昭和五年十二月一日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第116号
	フランジ（大型）	類別B26
		頁 9

常用壓力 2 kg/cm²



單位 mm

管ノ径 内径基本ノモノ	管ノ径 外径基本ノモノ	フランジノ径 D	フランジノ各部寸法 t 鋳鉄	t 鋳鉄以外ノモノ	T	f	径 g	ボルト孔 中心円径 o	ボルト孔 数	ボルト孔 径 h	ボルトノ呼称
180	190	285	22	18	38	2	230	250	8	18	5/8吋
190	200	295	〃	〃	〃	〃	240	260	〃	〃	〃
200	210	305	〃	〃	〃	〃	250	270	〃	〃	〃
210	220	315	〃	16	〃	〃	260	280	12	〃	〃
220	230	325	〃	〃	〃	〃	270	290	〃	〃	〃
230	240	340	〃	〃	〃	〃	285	305	〃	〃	〃
240	……	350	〃	〃	〃	〃	295	315	〃	〃	〃
250	250	360	〃	18	〃	〃	305	325	〃	〃	〃
260	260	370	〃	〃	〃	〃	315	335	〃	〃	〃
270	270	380	〃	〃	〃	3	325	345	〃	〃	〃
280	280	390	〃	〃	〃	〃	335	355	〃	〃	〃
290	290	400	〃	20	40	〃	345	365	〃	〃	〃
300	300	410	24	〃	〃	〃	355	375	〃	〃	〃
320	320	445	〃	〃	〃	〃	380	405	〃	21	3/4
340	340	465	26	22	42	〃	400	425	〃	〃	〃
350	360	485	〃	〃	44	〃	420	445	〃	〃	〃
380	380	505	〃	20	〃	〃	440	465	16	〃	〃
400	400	525	〃	〃	46	〃	460	485	〃	〃	〃

備考　一、本規格ハ常用壓力 2 kg/cm² ノ蒸気、空気、ガス、水、油等ニ使用スル管又ハ弁等ヲ接続スルニ用ウル鋳鉄、鋳鋼、鍛鋼、鋼板、青銅、黄銅ノ┗フランジ┛ニ之ヲ適用ス　但シ衝動ノ甚シキ水、油等ニ使用スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二、衝動ナキ水ニ對シテハ常用壓力ヲ 3 kg/cm² トスルコトヲ得

三、管ト同一体ニ鋳造セラレタル┗フランジ┛ニモ本規格ヲ適用ス

四、┗フランジ┛ノ連結面ハ点線ニテ示ス如クスルコトヲ得

五、Tハ管ヲ┗フランジ┛ニ取付クル方法ニ依リ適宜変更スルコトヲ得

六、┗フランジ┛ヲ管ニ取付クル方法ハ茲ニ之ヲ規定セズ

七、鋼板ノ面ヲ削ラズシテ┗フランジ┛ニ使用スル場合ニハ其ノ厚ハ本表ニ近似ノモノトスルコトヲ得

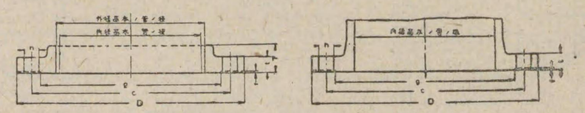
八、┗ボルト┛ハ日本標準規格第99号又ハ第100号六角ボルト（ウイットウオースねぢ）ニ依ル

九、外周ヲ仕上ゲザル┗フランジ┛ニ對シテハ径 D ヲ最分大トナスコトヲ得

昭和五年十二月一日定決	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第116号
	フランジ（大型）	類別B26
		頁 10

常用壓力 5 kg/cm²



單位 mm

管ノ径 内径基本ノモノ	管ノ径 外径基本ノモノ	フランジノ径 D	フランジノ各部寸法 t 鋳鉄	t 鋳鉄以外ノモノ	T	f	径 g	ボルト孔 中心円径 c	ボルト孔 数	ボルト孔 径 h	ボルトノ呼
180	190	300	24	20	38	2	235	250	8	21	3/4吋
190	200	310	26	22	〃	〃	245	270	〃	〃	〃
200	210	320	〃	〃	〃	〃	255	280	〃	〃	〃
210	220	330	24	20	〃	〃	265	290	12	〃	〃
220	230	345	〃	〃	〃	〃	280	305	〃	〃	〃
230	240	355	〃	〃	〃	〃	290	315	〃	〃	〃
240	250	365	〃	〃	〃	〃	300	325	〃	〃	〃
250	260	375	〃	〃	〃	〃	310	335	〃	〃	〃
260	270	385	〃	22	〃	〃	320	345	〃	〃	〃
270	280	395	26	〃	〃	3	330	355	〃	〃	〃
280	290	405	〃	〃	〃	〃	340	365	〃	〃	〃
290	300	415	〃	〃	40	〃	350	375	〃	〃	1
300		430	28	〃	〃	〃	365	390	〃	〃	〃
320	320	450	〃	〃	〃	〃	385	410	〃	〃	〃
240	340	480	30	24	42		405	435	〃	24	7/8
360	360	500	〃	26	44	〃	425	455	〃	〃	〃
380	380	520	〃	24	〃	〃	445	475	16	〃	〃
400	400	540	〃	〃	45	〃	465	495	〃	〃	〃

備考 一、本規格ハ常用壓力 5 kg/cm² ノ蒸気、空気、ガス、水、油等ニ使用スル管又ハ弁等ヲ接続スルニ用ウル鋳鉄、鋳鋼、鍛鋼、鋼板、青銅、黄銅ノフランジニ之ヲ適用ス　但シ衝動ノ甚シキ水、油等ニ使用スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二、衝動ナキ水ニ対シテハ常用壓力ヲ 7 kg/cm² トスルコトヲ得

三、管ト同一体ニ鋳造セラレタルフランジニモ本規格ヲ適用ス

四、フランジノ連結面ハ点線ニテ示ス如クスルコトヲ得

五、T ハ参考ヲルフランジニ取付ク方法ニ依リ適宜変更スルコトヲ得

六、フランジノ各ニ取付ク方法ハ玆ニ之ヲ規定セズ

七、鋼板ノ面ヲ削ラズシテフランジニ使用スル場合ニハ其ノ厚ハ本表ニ近似ノモノトスルコトヲ得

八、ボルトハ日本標準規格第 99 号又ハ第 100 号六角ボルト（ウイットワオースねぢ）ニ依ル

九、外周ヲ仕上ゲザルフランジニ対シテハ径 D ヲ稍大ト為スコトヲ得

昭和五年十二月一日決定	工業品規格統一調査會	

臨時日本標準規格	第60號
熔化質衛生陶器	類別 A
	頁 1

本規格ハ時局ニ鑑ミ臨時的ニ制定シタルモノニシテ當分ノ内之ニ依ルモノトス

第一章 總　則

第一條 本規格ハ主トシテ建築ニ使用スル熔化質衛生陶器（以下單ニ陶器ト稱ス）ニ之ヲ適用ス

第二條 熔化質陶器トハ陶器ノ素地ガ熔化セルモノヲ謂フ

第三條 本規格ニ規定セル陶器ノ種別ハ大便器、小便器、洗面器、手洗器及洗淨水槽ノ5種トス

第二章 術語ノ意義

第四條 陶器ノ缺點ニ關スル術語ハ次ノ通トス

1、泡　大サ1 mm 以下 0.3 mm ノ凸部ヲ謂フ
2、小ぶく　泡ヨリ大ニシテ大サ 3 mm 以下ノ凸部ヲ謂フ
3、中ぶく　小ぶくヨリ大ニシテ大サ 6 mm 以下ノ凸部ヲ謂フ
4、大ぶく　中ぶくヨリ大ナル凸部ヲ謂フ
5、色ぼつ　大サ1 mm 以下 0.3 mm 迄ノ有色部ヲ謂フ
6、小しみ　色ぼつヨリ大ニシテ大サ 3 mm 以下ノ有色部ヲ謂フ
7、中しみ　小しみヨリ大ニシテ大サ 6 mm 以下ノ有色部ヲ謂フ
8、大しみ　中しみヨリ大ナル有色部ヲ謂フ
9、ピンホール　大サ 1.5 mm 以下 0.3 mm 迄ノ釉藥ナキ部分又ハ小孔ヲ謂フ
10、くすり禿　ピンホールヨリ大ナル釉藥ナキ部分ヲ謂フ
11、艶なし　艶ナキ釉藥面ヲ謂フ
12、貫入　釉藥部ニ於ケル微細ナル龜裂ヲ謂フ
13、冷め切れ　素地ヲ通ズル毛細狀ノ龜裂ヲ謂フ
14、切れ　素地ノ龜裂ニシテ釉藥ニテ覆ハレザルモノヲ謂フ　但シ釉藥ニ覆ハルモ清掃容易ナラザルモノハ之ヲ切れト看做ス
15、磨り痕　小缺點ヲ除ク爲研磨セル痕ヲ謂フ
16、仕上り斑　釉藥面ニ於ケル波狀又ハ不規則ナル凹凸ノ群生セル部分ヲ謂フ
17、くすり溜　釉藥過剰ナル部分ヲ謂フ
18、歪　製品ノ形狀ノ狂ひヲ謂フ

第五條 陶器ノ檢査其ノ他ニ關スル術語ハ次ノ通トス

1、洗淨面　大便器及小便器ノ洗淨作用中水ニテ洗ハルル面ヲ謂フ
2、隱蔽面　陶器取付後見得ザル面ヲ謂フ
3、一陶面　各邊 50 mm ノ正方形ノ面ヲ謂フ
　註　一陶面ハ缺點ノ鑑別ニ用フル單位面ニシテ一般ニ「ゴム」又ハ紙ノ如キ馴染

昭和15年1月26日決定	工業品規格統一調査會 第二部第四委員會	

臨時日本標準規格　第60號

良キ薄板ニ各邊 50 mm ノ正方形ヲ切リ抜キタルモノヲ使用ス

第三章　形狀寸法及公差

第六條　陶器ノ形狀寸法ハ附圖第1乃至第18ニ依ルモノトス

第七條　寸法ノ公差ハ附圖ニ公差ヲ記入セルモノノ外ハ ±5% トス

第四章　試驗及檢査

第八條　素地ノ試驗　素地ノ試驗ハ次ノ試驗方法ノ何レカニ依ルモノトス　但シ註文者又ハ檢査員ニ於テ必要ナシト認メタル場合ハ本試驗ヲ省略スルコトヲ得

1、陶器ノ破片ヲ濃赤色ノ「アニリン」染料液中ニ1時間浸漬スルモ液ニ接觸スル面ヨリ内部へ 3 mm 以上浸透セザルコトヲ要ス

2、陶器ノ一部ニ釉藥ヲ通シテ穿孔シ之ニ濃赤色ノ「アニリン」染料液ヲ充タシ1時間後ニ於テ孔緣ヨリ面ニ沿ヒ 3 mm 以上浸透セザルコトヲ要ス

第九條　第四條ニ記載セル各種缺點中大ぶく、大しみ、貫入及冷め切れハ陶器ノ如何ナル部分ニ於テモ存在ヲ許サズ

上記以外ノ缺點ハ第1表乃至第6表ノ許容範圍ヲ超ヘザルコトヲ要ス　但シ隱蔽面ヲ含ミ各表所在欄ニ記載以外ノ陶器面ニ於ケル缺點ハ此ノ限ニアラズ

第十條　和風大便器ハ洗淨面ヲ十分檢査ス　周緣、前隱し内外面等ハ器具ヨリ約 60 cm 離レテ檢査スルモノトス

和風大便器ノ缺點許容範圍ハ第1表ニ依ル

第1表　和風大便器

缺點＼所在	洗淨面	周緣、前隱し内外面（合計面ニ對シテ）
泡	1陶面ニ 15 箇、全面色ぼつ共合計 30 箇	同　左
小ぶく	1陶面ニ15箇、全面小しみ、ピンホール共合計40箇	同　左
中ぶく	2 箇	同　左
色ぼつ	1陶面ニ 15 箇、全面泡共合計 30 箇	1陶面ニ12箇、全面泡共合計 30 箇
小しみ	1陶面ニ15箇、全面小ぶく、ピンホール共合計40箇	同　左
中しみ	2 箇	同　左
ピンホール	1陶面ニ 15 箇、全面小ぶく、小しみ共合計 40 箇	同　左
くすり禿	存在ヲ許サズ	3 mm 以下1箇
釉なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同　左
切れ	存在ヲ許サズ	長30mm以下1箇
磨り痕	大サ 10 mm 以下2箇	大サ10mm以下3箇
仕上り斑	25 cm²	同　左
くすり溜	厚 3 mm	同　左
歪	緣下ト床面トノ間隙 8 mm	

昭和15年1月26日決定　工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

臨時日本標準規格　第60號

第十一條　洋風大便器ハ洗淨面ヲ十分檢査ス　周緣、正面、側面等ハ器具ヨリ約 60 cm 離レテ檢査スルモノトス

洋風大便器ノ缺點許容範圍ハ第2表ニ依ル

第2表　洋風大便器

缺點＼所在	洗淨面	周緣、正面、側面（合計面ニ對シテ）
泡	1陶面ニ 15 箇、全面色ぼつ共合計 30 箇	同　左
小ぶく	1陶面ニ10箇、全面小しみ、ピンホール共合計30箇	同　左
中ぶく	2 箇	同　左
色ぼつ	1陶面ニ 15 箇、全面泡共合計 30 箇	同　左
小しみ	1陶面ニ10箇、全面小ぶく、ピンホール共合計30箇	同　左
中しみ	2 箇	同　左
ピンホール	1陶面ニ10箇、全面小ぶく、小しみ共合計 30 箇	同　左
くすり禿	存在ヲ許サズ	3 mm 以下1箇
釉なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同　左
切れ	存在ヲ許サズ	長30mm以下1箇
磨り痕	大サ 10 mm 以下1箇	大サ10mm以下3箇
仕上り斑	25 cm²	同　左
くすり溜	厚 3 mm	同　左
歪	便座ヲ取付ケテ著シク目立タザルコト	

第十二條　小便器ハ洗淨面ヲ十分檢査ス　周緣、正面及側面等ハ器具ヨリ約 60 cm 離レテ檢査スルモノトス

小便器ノ缺點許容範圍ハ第3表ニ依ル

第3表　小便器

缺點＼所在	洗淨面	周緣、正面、側面（合計面ニ對シテ）
泡	1陶面ニ 15 箇、全面色ぼつ共合計 30 箇	同　左
小ぶく	1陶面ニ15箇、全面小しみ、ピンホール共合計35箇	同　左
中ぶく	2 箇	同　左
色ぼつ	1陶面ニ 15 箇、全面泡共合計 30 箇	同　左
小しみ	1陶面ニ15箇、全面小ぶく、ピンホール共合計35箇	同　左
中しみ	2 箇	同　左
ピンホール	1陶面ニ15箇、全面小ぶく、小しみ共合計35箇	同　左

昭和15年1月26日決定　工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 4

臨時日本標準規格	第60號

くすり禿	存在ヲ許サズ	3mm以下1箇	
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同	左
切れ	長 20mm 以下1箇	同	左
磨り痕	大サ 10 mm以下 2 箇	同	左
仕上り斑	25 cm^2	同	左
くすり溜	厚 3 mm	同	左
歪	胴ト壁面トノ間隙 5 mm		

第十三條 洗面器ハ上面及鉢ノ内面ヲ十分檢査ス はねよけ板ノ前面、前垂れノ前面、側面及脚ハ器具ヨリ約 60 cm 離レテ檢査スルモノトス
洗面器ハ缺點許容範圍ハ第4表ニ依ル

第 4 表 洗面器（手洗器）

缺點＼所在	上面、鉢内面（合計面ニ對シテ）	はねよく板前面、前垂れ前面、側面（合計面ニ對シテ）	脚
泡	1 陶面ニ6箇、全面色ぼつ共合計 15 箇	1陶面ニ10箇、全面色ぼつ共合計25箇	同 左
小ぶく	1陶面ニ15箇、全面小しみ、ピンホール共合計35箇	同 左	同 左
中ぶく	2 箇	同 左	同 左
色ぼつ	1 陶面ニ 6 箇、全面泡共合計 15 箇	1陶面ニ10箇、全面泡共合計25箇	同 左
小しみ	1陶面ニ15箇、全面小ぶく、ピーホール共合計35箇	同 左	同 左
中しみ	2 箇	同 左	同 左
ピンホール	1 陶面ニ 15 箇、全面小ぶく、小しみ共合計 35 箇	同 左	同 左
くすり禿	存在ヲ許サズ	6 mm 以下 1 箇	同 左
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同 左	同 左
切れ	存在ヲ許サズ	長20mm以下1箇	同 左
磨り痕	大サ 10 mm以下2箇	同 左	同 左
仕上り斑	25 cm^2	同 左	同 左
くすり溜	厚 3 mm	同 左	同 左
歪	幅 590 mm 以上ノモノハ上面ノ歪水面平面ニ對シ 10 mm 幅 510 mm 以下ノモノハ上面ノ歪水面平面ニ對シ 8 mm		
	はねよけ板上端ノ歪ハ上記ニ準ズ はねよけ板壁付部ノ歪ハ垂直面ニ對シ 3 mm		
	脚ノ歪ハ垂直線ニ對シ 6 mm		

昭和 15 年 1 月 26 日決定	工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 5

臨時日本標準規格	第60號

第十四條 手洗器ノ檢査方法並ニ缺點許容範圍ハ第十三條ニ準ズ

第十五條 低置洗淨水槽ハ蓋ノ上面、前面及水槽ノ前面ヲ檢査ス 側面等ハ約 60 cm 離レテ檢査スルモノトス
水槽ノ缺點許容範圍ハ第5表ニ依ル

第 5 表 低置洗淨水槽

缺點＼所在	蓋上面、前面（合計面ニ對シテ）	水槽前面	側面（合計面ニ對シテ）
泡	1 陶面ニ 8 箇、全面色ぼつ共合計 15 箇	同 左	1 陶面ニ 8 箇全面色ぼつ共合計25箇
小ぶく	1 陶面ニ 15 箇、全面小しみ、ピンホール共合計 30 箇	同 左	同 左
中ぶく	2 箇	同 左	同 左
色ぼつ	1 陶面ニ 8 箇、全面泡共合計 25 箇	同 左	同 左
小しみ	1 陶面ニ 15 箇、全面小ぶく、ピンホール共合計 30 箇	同 左	同 左
中しみ	2 箇	同 左	同 左
ピンホール	1 陶面ニ15箇、全面小ぶく、小しみ共合計30箇	同 左	同 左
くすり禿	存在ヲ許サズ	同 左	13mm以下 2 箇
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス	同 左	同 左
切れ	存在ヲ許サズ	同 左	長13mm以下 2 箇
磨り痕	大サ 10 mm 以下 2 箇	同 左	同 左
仕上り斑	25 cm^2	同 左	同 左
くすり溜	厚 3 mm	同 左	同 左
歪	實用上差支ヘナキモノハ可トス		

第十六條 高置洗淨水槽ハ前面、下面及側面等ヲ約 60 cm 離レテ檢査スルモノトス
水槽ノ缺點許容範圍ハ第6表ニ依ル

第 6 表 高置洗淨水槽

缺點＼所在	前面、下面、側面（合計面ニ對シテ）
泡	1 陶面ニ 10 箇、全面色ぼつ共合計 30 箇
小ぶく	1 陶面ニ 15 箇、全面小しみ、ピンホール共合計 30 箇
中ぶく	2 箇
色ぼつ	1 陶面ニ 10 箇、全面泡共合計 30 箇
小しみ	1 陶面ニ 15 箇、全面小ぶく、ピンホール共合計 30 箇
中しみ	2 箇

昭和 15 年 1 月 26 日決定	工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

臨時日本標準規格	第60號

ピンホール	1 陶面ニ 15 箇、全面小ぶく、小しみ共合計 30 箇
くすり禿	13 mm以下 2 箇
艶なし	實用上差支ヘナキモノハ可トス
切れ	前面及下面不可　側面ニ於テ長 13 mm 以下 2 箇
磨り痕	大サ 10 mm 以下 2 箇
仕上り斑	25 cm²
くすり溜	厚 3 mm
歪	實用上差支ヘナキモノハ可トス

第五章　記號及製造者ノ表示

第十七條　陶器ニハ附圖ニ掲ゲタル記号ヲ明示セル紙票ヲ貼付スルモノトス

備考

1、V ハ熔化質陶器、C ハ大便器、U ハ小便器、L ハ洗面器又ハ手洗器、T ハ洗淨水槽ヲ表ス記号トス

2、100 位ノ數字ハ陶器ノ型ヲ表シ、10 位ノ數字ハ陶器ノ大小ヲ表ス記号トス

例　**VU 110**　ハ熔化質並型小便器ノ大形ノモノ

VL 330　ハ熔化質はねよけ板付洗面器ノ小形ノモノ

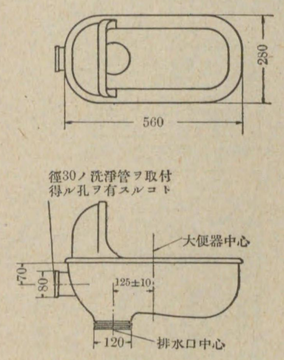
第十八條　陶器ニハ其ノ製造者ノ略号ヲ容易ニ消滅セザル方法ニ依リ取付後ニ於テモ認メ得ベク且目立タザル箇所ニ附スルモノトス

昭和15年1月26日決定	工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）	

臨時日本標準規格	第60號

附圖第 1　和風並型大便器

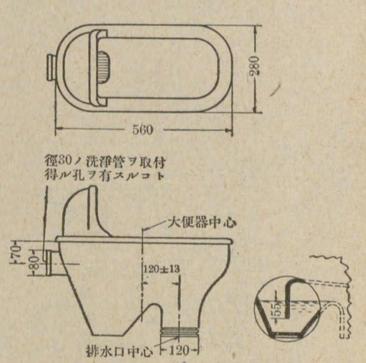
單位 mm



記号	VC 110

附圖第 2　和風トラップ付大便器

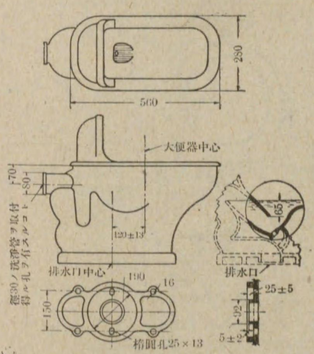
單位 mm



記号	VC 210

附圖第 3　和風サイホンゼット式大便器

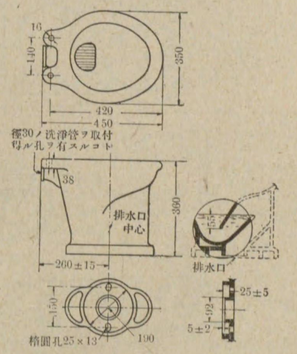
單位 mm



記号	VC 310

附圖第 4　洋風洗ひ落し式大便器

單位 mm



記号	VC 410

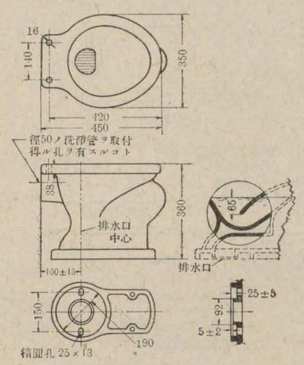
昭和15年1月26日決定	工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）	

頁 8

臨時日本標準規格　第60號

附圖第5　洋風サイホン式大便器

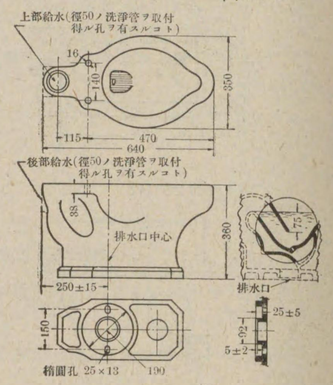
単位 mm



記　号	VC 510

附圖第6　洋風サイホンゼット式凸型上(後)部給水大便器

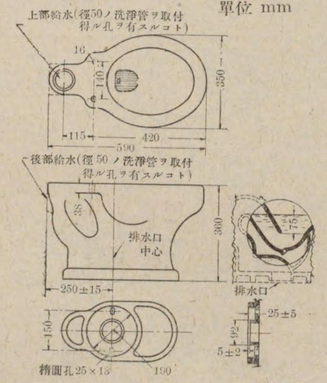
単位 mm



	上部給水	後部給水
記　号	VC 810	VC 910

附圖第7　洋風サイホンゼット式丸形上(後)部給水大便器

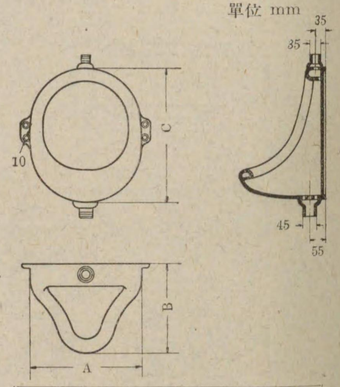
単位 mm



	上部給水	後部給水
記　号	VC 610	VC 710

附圖第8　並型小便器

単位 mm



記　号	大サノ別	A	B	C
VU 110	大	250	280	420
VU 120	小	330	270	390

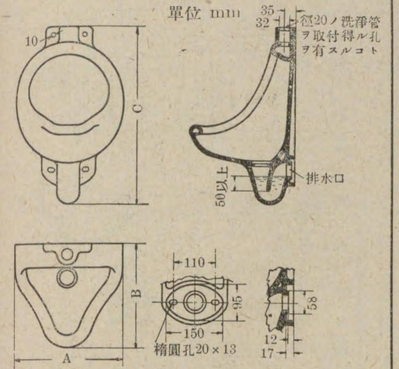
昭和15年1月26日決定　工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 9

臨時日本標準規格　第60號

附圖第9　トラップ付小便器

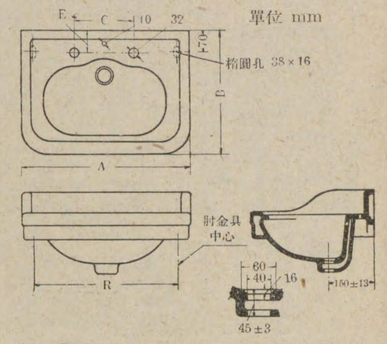
単位 mm



記　号	大サノ別	A	B	C
VU 210	大	350	330	560
VU 220	小	330	310	520

附圖第10　袖付洗面器

単位 mm

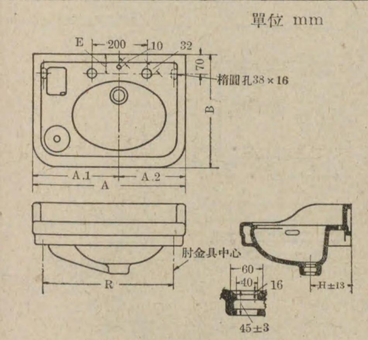


記　号	大サノ別	A	B	C	E	R
VL 110	大	630	460	200	75	530
VL 120	中	560	410	200	75	480
VL 130	小	510	380	150	70	430

備考　水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

附圖第11　痰吐付洗面器

単位 mm

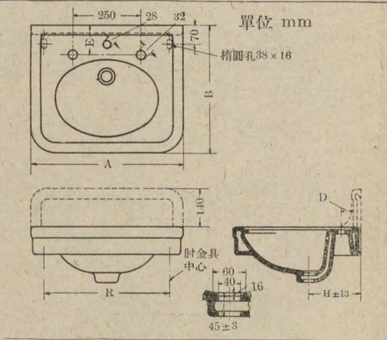


記　号	大サノ別	A	A_1	A_2	B	E	H	R
VL 210	大	630	350	280	460	75	170	530
VL 220	小	560	320	240	410	70	150	480

備考　水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

附圖第12　はねよけ板無(付)洗面器

単位 mm



記号 はねよけ板付	記号 はねよけ板無	大サノ別	A	B	D	E	H	R
VC 310	VC 410	大	630	530	45	120	220	510
VC 320	VC 420	中	560	470	40	110	190	460
VC 330	VC 430	小	510	450	35	100	190	400

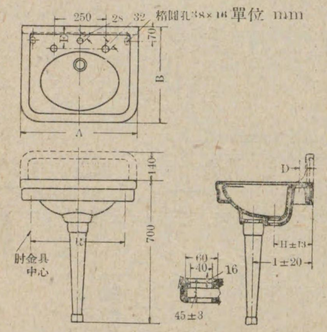
備考　水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

昭和15年1月26日決定　工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 10

臨時日本標準規格 第60號

附圖第13 はねよけ板無(付)脚付洗面器

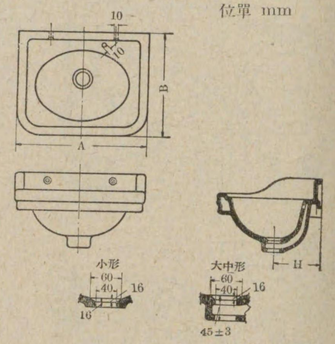


記号 はねよけ板付	記号 はねよけ板無	大サノ別	A	B	D	E	H	I	R
VL 510	VL 610	大	630	530	45	120	220	320	510
VL 520	VL 620	中	560	470	40	110	190	290	460
VL 530	VL 630	小	510	450	35	100	190	200	400

備考 水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

附圖第14 袖付手洗器

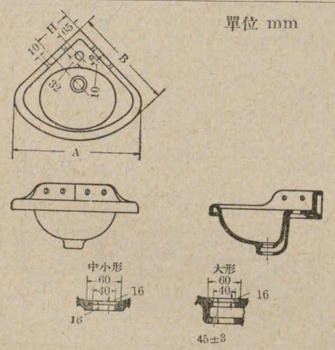
位單 mm



記号	大サノ別	A	B	H
VL 710	大	400	320	145±13
VL 720	中	350	300	145±13
VL 730	小	250	250	130±10

附圖第15 隅付手洗器

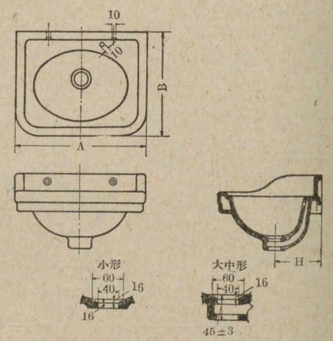
単位 mm



記号	大サノ別	A	B	H
VL 810	大	460	370	140±13
VL 820	中	330	290	140±13
VL 830	小	230	230	115±10

附圖第16 持上リ排水金具式手洗器

単位 mm



記号	VL 910

備考 水栓孔1箇ノ場合ハ右側ノミトス

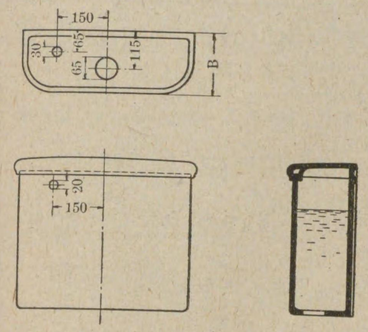
昭和15年1月26日決定 工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 11

臨時日本標準規格 第60號

附圖第17 低置洗淨水槽

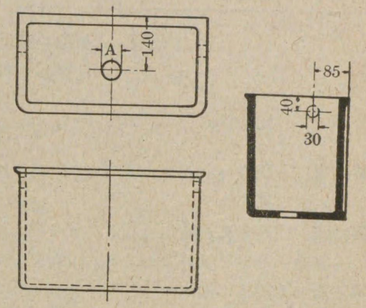
単位 mm



記号	有効水量 l	B
VT 110	20	185
VT 120	15	180

附圖第18 自動又ハ手動用高置洗淨水槽

単位 mm



記号 自動用	記号 手動用	有効水量 l	A
VT 210	VT 310	30	65
VT 220		20	65
VT 230		15	50
VT 240		7.5	40

備考 點線ニテ示ス給水孔ハ手動用ノモノニシテ兩側ニ設ク

單位 mm

昭和15年1月26日決定 工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 12

臨時日本標準規格	第61號
化粧素地質衛生陶器	類別 A
	頁 1

本規格ハ時局ニ鑑ミ臨時的ニ制定シタルモノニシテ當分ノ内之ニ依ルモノトス

第一章 總 則

第一條 本規格ハ主トシテ建築ニ使用スル化粧素地質衛生陶器（以下單ニ陶器ト稱ス）ニ之ヲ適用ス

第二條 化粧素地質衛生陶器トハ耐火粘土ヲ主要原料トシタル素地ノ表面ニ熔化質陶器素地ノ薄層ヲ融着セシメタル陶器ヲ謂フ

第三條 本規格ニ規定セル陶器ノ種別ハ「ストール」小便器、料理場流し、掃除用流し及浴槽ノ四種トス

第二章 術語ノ意義

第四條 陶器ノ缺點ニ關スル術語ハ次ノ通トス

1、ぶく 大サ1mm以上6mm以下ノ凸部ヲ謂フ
2、大ぶく ぶくヨリ大ナル凸部ヲ謂フ
3、小しみ 大サ1mm以上3mm以下ノ有色部ヲ謂フ
4、中しみ 小しみヨリ大ニシテ大サ6mm以下ノ有色部ヲ謂フ
5、大しみ 中しみヨリ大ナル有色部ヲ謂フ
6、ピンホール 大サ1.5mm以下0.3mm迄ノ釉藥ナキ部分又ハ小孔ヲ謂フ
7、貫入 釉藥部ニ於ケル微細ナル龜裂ヲ謂フ
8、冷め切れ 素地ヲ通ズル毛細狀ノ龜裂ヲ謂フ
9、切れ 素地ノ龜裂ニシテ釉藥ニテ覆ハレザルモノヲ謂フ 但シ釉藥ニ覆ハルルモ清掃容易ナラザルモノハ之ヲ切れト看做ス
10、仕上り斑 釉藥面ニ於ケル波狀又ハ不規則ナル凹凸ノ群生セル部分ヲ謂フ
11、破損切れ 取扱ニ依リテ生ジタル毛細狀ノ龜裂ヲ謂フ
12、缺け 大サ6mm以上ニシテ素地ニ通ジタル釉藥及化粧質ノ缺損部ヲ謂フ
13、切れ直し 幅3mm以下ノ切れニシテ「セメント」其他適當ナル修理材ニテ之ヲ充塡シタルモノヲ謂フ
14、歪 製品ノ形狀ノ狂ひヲ謂フ

第五條 陶器ノ檢査其他ニ關スル術語ハ次ノ通トス

1、洗淨面 小便器ノ洗淨作用中水ニテ洗ハルル面ヲ謂フ
2、隱蔽面 陶器取付後見得ザル面ヲ謂フ
3、一陶面 各邊50mmノ正方形ノ面ヲ謂フ

註 一陶面ハ缺點ノ鑑別ニ用フル單位面ニシテ一般ニ「ゴム」又ハ紙ノ如キ剛

昭和15年1月26日決定 工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 13

臨時日本標準規格	第61號

染良キ薄板ニ各邊50mmノ正方形ヲ切拔キタルモノヲ使用ス

第三章 形狀寸法及公差

第六條 陶器ノ形狀寸法ハ附圖第1乃至第8ニ依ルモノトス

第七條 寸法ノ公差ハ附圖ニ公差ヲ記入セルモノノ外ハ±5%トス

第四章 檢 査

第八條 第四條ニ記載ノ缺點ノ中、大ぶく、貫入、冷め切れ、切れ、破損切れ及缺けハ陶器ノ如何ナル部分ニ於テモ存在ヲ許サズ

上記以外ノ缺點ハ第1表乃至第8表ノ許容範圍ヲ超エザルコトヲ要ス 但シ隱蔽面ヲ含ミ各表ノ所在欄ニ記載以外ノ陶器面ニ於ケル缺點ハ此ノ限リニ在ラズ

第九條 「ストール」小便器ハ洗淨面ヲ十分檢査ス 周緣、前緣及側面ハ器具ヨリ約60cm離レテ檢査スルモノトス

「ストール」小便器ノ缺點許容範圍ハ第1表ニ依ル

第1表 ストール小便器

缺點＼所在	洗淨面	周緣、前緣（合計面ニ對シテ）	各側面
ぶく	中しみ共合計5箇	同 左	左記ノ2倍數
小しみ	1陶面ニ4箇、全面ピンホール共合計15箇	同 左	左記ノ2倍數
中しみ	ぶく共合計5箇	同 左	左記ノ2倍數
大しみ	3箇	同 左	同 左
ピンホール	1陶面ニ4箇全面、小しみ共合計15箇	同 左	左記ノ2倍數
切れ直し	長13mm以下1箇	長25mm以下1箇	長50mm以下2箇
仕上り斑	65cm²	同 左	同 左
歪	前面又ハ側面ニ於テ13mm		

第十條 料理場流し及掃除用流しハ內面、はねよけ板ノ前面及緣ノ上面ヲ十分檢査ス 前面、側面等ハ器具ヨリ約60cm離レテ檢査スルモノトス

料理場流し及掃除用流しノ缺點許容範圍ハ第2表ニ依ル

第2表 料理場流し及掃除用流し

缺點＼所在	內面、はねよけ板ノ前面、緣ノ上面（合計面ニ對シテ）	前面、側面（合計面ニ對シテ）
ぶく	中しみ共合計5箇	同 左
小しみ	1陶面ニ4箇、全面ピンホール共合計20箇	同 左
中しみ	ぶく共合計5箇	同 左
大しみ	3箇	同 左

昭和15年1月26日決定 工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 14

臨時日本標準規格　第 6 1 號

ピンホール	1 陶面ニ 4 箇全面小しみ共合計 20 箇	同　左
切れ直し	長 13mm 以下 2 箇	各面毎ニ長 50 mm 以下 1 箇
仕上り斑	65 cm²	同　左
歪	前面又ハ側面ニ於テ 13 mm	

第十一條　浴槽ハ內面及緣ノ上面ヲ十分檢査ス　前面及側面等ハ約 60 cm 離レテ檢査スルモノトス

浴槽ノ缺點許容範圍ハ第 3 表ニ依ル

第 3 表　浴　槽

缺點 ＼ 所在	內面、緣ノ上面（合計面ニ對シテ）	前面、各側面
ぶく	中しみ共 5 箇	同　左
小しみ	1 陶面ニ 4 箇、全面ピンホール共合計 20 箇	同　左
中しみ	ぶく共 5 箇	同　左
大しみ	3 箇	同　左
ピンホール	1 陶面ニ 4 箇、全面小しみ共合計 20 箇	同　左
切れ直し	長 13 mm 以下 2 箇	各面毎ニ長 50mm 以下 1 箇
仕上り斑	60 cm²	同　左
歪	周緣ニ於テ 13mm	

第五章　記号及製造者ノ表示

第十二條　陶器ニハ附圖ニ揭ゲタル記号ヲ明示セル紙票ヲ貼付スルモノトス

備　考

1、 **A** ハ化粧素地質陶器、**U** ハ小便器、**K** ハ料理場流し、**S** ハ掃除用流し、**B** ハ浴槽ヲ表ス記号トス

2、 100 位ノ數字ハ陶器ノ型ヲ表シ、10位ノ數字ハ陶器ノ大小ヲ表ス記号トス

例　**AU 310** ハ化粧素地質「ストール」小便器ノ大形ノモノ

AB 220 ハ化粧素地洋風角形浴槽ノ中形ノモノ

第十三條　陶器ニハ其ノ製造者ノ略号ヲ容易ニ消滅セザル方法ニ依リ取付後ニ於テモ認メ得ベク且目立タザル箇所ニ附スルモノトス

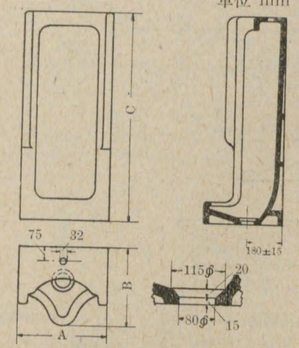
昭和 15 年 1 月 26 日決定　工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 15

臨時日本標準規格　第 6 1 號

附圖第 1　ストール小便器

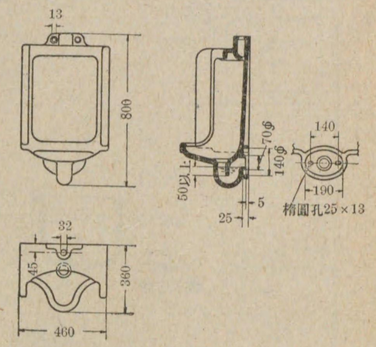
單位 mm



記号	大サノ別	A	B	C
AU 310	大	460	410	1100
AU 320	中	380	380	920
AU 330	小	320	360	850

附圖第 2　壁掛ストール小便器

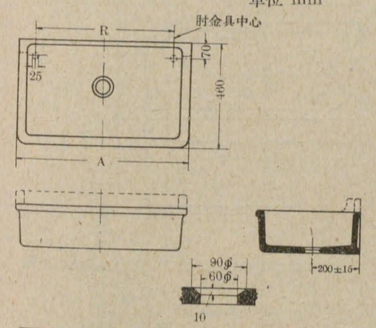
單位 mm



記号	AU 410

附圖第 3　はねよけ板無(付)料理場流し

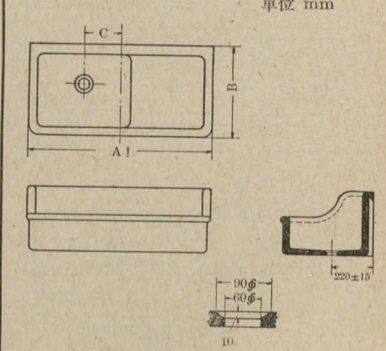
單位 mm



記号 はねよけ板付	記号 はねよけ板無	大サノ別	A	R
AK 110	AK 210	大	900	750
AK 120	AK 220	中	750	600
AK 130	AK 130	小	600	450

附圖第 4　水切付料理場流し

單位 mm



記号	大サノ別	A	B	C
AK 310	大	1300	600	230
AK 320	小	1000	500	200

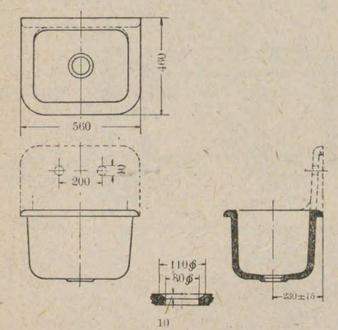
昭和 15 年 1 月 26 日決定　工業品規格統一調査會（第二部第四委員會）

頁 16

臨時日本標準規格　第61號

附圖第5　はねよけ板無(付)掃除用流し

単位 mm

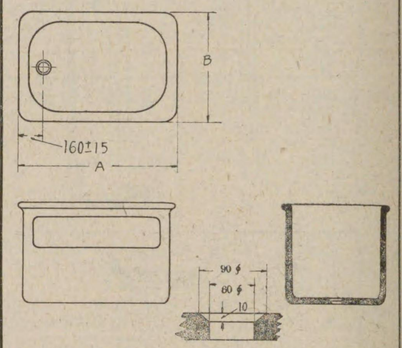


	はねよけ板付	はねよけ板無
記　号	AS　110	AS　210

備考　水栓孔1箇ノ場合ノ中央ニアス

附圖第6　和風浴槽

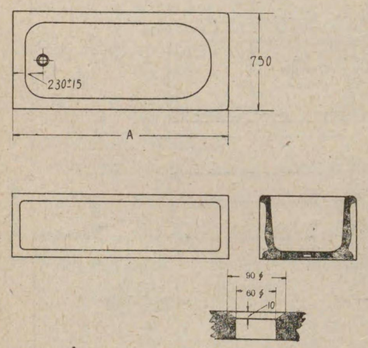
単位 mm



記　号	大サノ別	A	B
AB　110	大	1000	700
AB　120	小	900	620

附圖第7　洋風角型浴槽

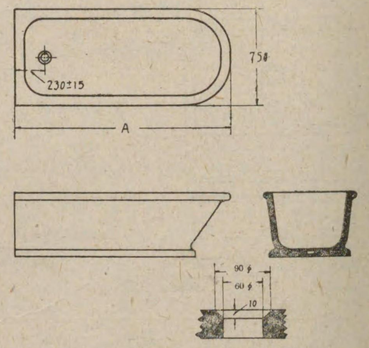
単位 mm



記　号	大サノ別	A
AB　210	大	1650
AB　220	小	1500

附圖第8　洋風舟型浴槽

単位 mm



記　号	大サノ別	A
AB　310	大	1650
AB　1500	小	1500

昭和15年1月26日決定　工業品規格統一調査會　第二部第四委員會

JES　日本標準規格　第302号　類別G38　頁 1

亞鉛めつき鋼板

第一章　総　則

第一条　本規格ハ一般用ノ亞鉛めつき鋼板ニ之ヲ適用ス

第二条　亞鉛めつき鋼板ハ其ノ形狀ニ依リ之ヲ次ノ通區分ス

一、平　板

二、波　板 { 大波板 / 中波板 / 小波板 }

亞鉛めつき鋼板ノ亞鉛めつきヲ普通品ヨリ特ニ厚ク施シタルモノハ之ヲ厚めつき品ト称ス

第二章　原　板

第三条　亞鉛めつき鋼板ノ原板ニハ軟質ノ鋼板ヲ用フルモノトス

第四条　原板ノ寸法、重量及公差ハ第1表ニ依ル

第1表　原板ノ寸法、重量及公差

種別		平板用			波板用			重量公差 %			
大サノ称呼		3×6	3×7	3×8	2·5×6	2·5×7	2·5×8				
幅 mm	寸法	915			765						
	公差	＋10									
長 mm	寸法	1830	2140	2440	1830	2140	2440	1枚ニ對シ	5枚ニ對シ	1束(約50kg)ニ對シ	3聽以上ニ對シ
	公差	＋20									
厚 mm (番)		重量 kg									
0·29 (31)		3·81	4·46	5·08	3·19	3·73	4·25	±10	……	±5	±3
0·32 (30)		4·21	4·92	5·61	……	……	……	±10	……	±5	±3
0·35 (29)		4·60	5·38	6·14	3·85	4·50	5·13	±10	……	±5	±3
0·40 (28)		5·26	6·15	7·01	4·40	5·14	5·86	±10	……	±5	±3
0·45 (27)		5·91	6·92	7·89	4·95	5·78	6·60	±10	……	±5	±3
0·50 (26)		6·57	7·69	8·77	5·50	6·43	7·33	±10	……	±5	±3
0·55 (25)		7·23	8·45	9·64	6·04	7·07	8·06	±10	……	±5	±3
0·60 (24)		7·88	9·22	10·5	6·59	7·71	8·79	±10	……	±5	±3
0·70 (22)		9·20	……	……	7·69	9·00	10·3	±10	……	±5	±3
0·90 (20)		11·8	……	……	……	……	……	±9	……	±6	±4
1·20 (18)		15·8	……	……	……	……	……	±9	±6	……	±4
1·60 (16)		21·0	……	……	……	……	……	±9	±6	……	±4

備考

1、重量ハ 1cm³ ニ付 7·85 g トシテ計算シタルモノトス

2、厚ハ寸法ニ依ルヲ原則トスルモ必要アル場合ニハ括弧内ニ示ス番号ニ依ルコトヲ得

3、重量公差ハ本表ニ示ス重量ト実秤重量トノ許容差ヲ示スモノトス

4、重量ハ結束シタルモノニ付テハ結束帶ノ重量ヲ除キ、箱入又ハ枠付ノモノニ付テハ箱又ハ枠等ノ重量ヲ除キタルモノトス

昭和十年十二月四日決定　工業品規格統一調査會

JES	日 本 標 準 規 格	第302号

第三章 製 造 法

第五条 亜鉛めつき鋼板ハ原板ヲ酸洗及水洗シタル後純良ナル亜鉛ヲめつきスルモノトシめつきノ厚均等、表面滑ニシテ有害ナル欠点ナキコトヲ要ス

平板ハ前項ノ亜鉛めつきヲ施シタルママノモノトシ波板ハ前項ノ亜鉛めつきヲ施シタル後規定ノ形狀寸法ノ波ヲ附シタルモノトス

亜鉛ノ最少附著量ハ第2表ニ依ル

第2表 亜鉛ノ最少附著量

厚ノ称呼 mm (番)	亜鉛ノ最少附著量 g/m² 普通品	亜鉛ノ最少附著量 g/m² 厚めつき品
0·29 (31)	170	380
0·32 (30)	170	380
0·35 (29)	190	380
0·40 (28)	190	380
0·45 (27)	220	380
0·50 (26)	220	380
0·55 (25)	255	380
0·60 (24)	255	380
0·70 (22)	290	……
0·90 (20)	290	……
1·20 (18)	340	……
1·60 (16)	340	……

備考

1、亜鉛めつき鋼板ノ厚ノ称呼ハ原板タル鋼板ノ厚ニ依ル

2、厚ノ称呼ハ厚ヲ表ハス寸法ニ依ルヲ原則トスルモ必要アル場合ニハ括弧内ニ示ス番号ニ依ルコトヲ得

第四章 寸法及重量

第六条 平板ノ寸法、重量及公差ハ第3表ニ依ル

第3表 平板ノ寸法、重量及公差

		普通品			厚めつき品			重量公差 %			
大サノ称呼		3×6	3×7	3×8	3×6	3×7	3×8	1枚ニ對シ	5枚ニ對シ	1束(約50kg)ニ對シ	3束以上ニ對シ
幅 mm	寸法	9 1 5									
	公差	+ 1 0									
長 mm	寸法	1830	2140	2440	1830	2140	2440				
	公差	+ 2 0									
厚ノ称呼 mm (番)		重量 kg									
0·29 (31)		3·94	4·62	5·26	4·30	5·03	5·73	± 10	……	± 5	± 3
0·32 (30)		4·34	5·08	5·79	4·70	5·49	6·26	± 10	……	± 5	± 3
0·35 (29)		4·77	5·58	6·36	5·09	5·95	6·79	± 10	……	± 5	± 3
0·40 (28)		5·43	6·35	7·23	5·75	6·72	7·66	± 10	……	± 5	± 3
0·45 (27)		6·13	7·17	8·18	6·40	7·49	8·54	± 10	……	± 5	± 3
0·50 (26)		6·79	7·94	9·06	7·06	8·26	9·42	± 10	……	± 5	± 3
0·55 (25)		7·51	8·77	10·0	7·72	9·02	10·3	± 10	……	± 5	± 3
0·60 (24)		8·16	9·54	10·9	8·37	9·79	11·1	± 10	……	± 5	± 3
0·70 (22)		9·53	……	……	……	……	……	± 10	……	± 5	± 3
0·90 (20)		12·1	……	……	……	……	……	± 9	……	± 6	± 4
1·20 (18)		16·2	……	……	……	……	……	± 9	± 6	……	± 4
1·60 (16)		21·4	……	……	……	……	……	± 9	± 6	……	± 4

昭和十年十二月四日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日 本 標 準 規 格	第302号

備考

1、厚 0·29 mm 乃至 0·7 mm ノ平板ハ波付ノ上波板トシテ使用スルコトヲ得

2、重量ハ第1表ニ示ス原板ノ重量ヨリ酸洗ニ依ル減量トシテ板ノ大サ 1m² ニ付 90 g ヲ減ジタル後第2表ニ依リ算出シタル附著亜鉛ノ重量ヲ加ヘタルモノトス

第七条 波板ノ寸法、重量及公差ハ第4表ニ依ル

第4表 波板ノ寸法、重量及公差

		普通品			厚めつき品			重量公差 %		
大サノ称呼		2·5×6	2·5×7	2·5×8	2·5×6	2·5×7	2·5×8	1枚ニ對シ	1束(約50kg)ニ對シ	3束以上ニ對シ
波付前ノ幅 mm	寸法	7 6 5								
	公差	+ 1 0								
長 mm	寸法	1830	2140	2440	1830	2140	2440			
	公差	+ 2 0								
厚ノ称呼 mm (番)		重量 kg								
0·29 (31)		3·30	3·86	4·40	3·60	4·20	4·79	± 10	± 5	± 3
0·35 (29)		3·99	4·66	5·32	4·26	4·97	5·67	± 10	± 5	± 3
0·40 (28)		4·54	5·30	6·05	4·81	5·61	6·40	± 10	± 5	± 3
0·45 (27)		5·13	5·99	6·84	5·36	6·25	7·14	± 10	± 5	± 3
0·50 (26)		5·68	6·64	7·57	5·91	6·90	7·87	± 10	± 5	± 3
0·55 (25)		6·27	7·34	8·37	6·45	7·54	8·60	± 10	± 5	± 3
0·60 (24)		6·82	7·98	9·10	7·00	8·18	9·38	± 10	± 5	± 3
0·70 (22)		7·97	9·33	10·7	……	……	……	± 10	± 5	± 3

備考

1、重量ハ第1表ニ示ス原板ノ重量ヨリ酸洗ニ依ル減量トシテ板ノ波付前ノ大サ 1m² ニ付 90 g ヲ減ジタル後第2表ニ依リ算出シタル附著亜鉛ノ重量ヲ加ヘタルモノトス

2、第六条備考1ニ依リ平板ヲ波付シテ波板ト為ス場合ハ其ノ寸法、重量及公差ハ第3表ニ依ル

第八条 波板ノ幅及波ノ山数ハ第5表ニ依ル

第5表 波板ノ幅及波ノ山数

波付前ノ幅 mm			765	915
大波板	幅 mm	寸法	670	810
		公差	+ 20 / − 10	
	山数		8	10
中波板	幅 mm	寸法	650	774
		公差	+ 20 / − 10	
	山数		19	23
小波板	幅 mm	寸法	656	784
		公差	+ 20 / − 10	
	山数		29	35

第九条 波板ノ山ノ標準形狀寸法ハ附図ニ依ル

昭和十年十二月四日決定	工業品規格統一調査會	

JES　日本標準規格　第302号

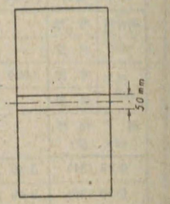
第五章　試　　験

第十条　めつき試験　亞鉛めつきノ附著量ノ試験ハ重量法又ハ塩化「アンチモン」法ニ依ルモノトス

一、重量法　特ニ指定ナキ限リ同一種類ノ亞鉛めつき鋼板ヲ製造スベキ原板5000枚ヲ1組トシ其ノ中ヨリ作業ノ際10枚ヲ抜採リ酸洗、水洗及乾燥ヲ終リタル後重量ヲ計リ之ニ同組ノ原板ト同一作業ニ依リテめつきヲ施シ再ビ計量シ其ノ差ヲ以テめつき量ヲ定ム

本試験ハ適當時間ノ間隔ヲ置キ1枚ヅツ10回ニ分チテ之ヲ行ヒ其ノ結果ヲ平均スルモノトス

二、塩化「アンチモン」法　特ニ指定ナキ限リ同一種類ノ亞鉛めつき鋼板1000枚ニ付1枚ヲ採リ図ニ示ス如ク中央ヨリ幅50mmノ帯状ノ試験片ヲ切取リ之ヲ5箇ニ切断シテ各別ニ試験ヲ行フ



試験片ハ石油「ベンジン」ニ浸シタル綿布ニテ十分ニ拭ヒ油気ヲ去リタル後秤量シ之ヲ塩化「アンチモン」溶液中ニ浸シ大ナル水素気泡ノ発生ヲ僅少トナリ亞鉛層ノ除去セラルルニ至リテ取出シ清水中ニテ洗滌シ且綿布ニテ能ク拭ヒ乾燥シタル後5箇ヲ一括秤量シ其ノ減量ヲ以テ亞鉛附著量トシ之ヨリ板ノ全面積ノ亞鉛附著量ヲ算出ス

塩化「アンチモン」溶液ハ塩化「アンチモン」($SbCl_3$)6·2gニ對シ塩酸（比重1·18）100ccノ割合ニテ調合溶解シ試験ノ直前ニ於テ此ノ溶液10ccニ塩酸（比重1·18）150cc及水300ccヲ加ヘタルモノトス

前記ノ試験液ハ2回以上使用スル場合ニハ其ノ都度塩化「アンチモン」溶液5ccヲ添加スルモノトス

備　考

亞鉛層ノ除去セラルル時間ハ亞鉛附著量ノ多少ニ依リ30秒乃至50秒ヲ普通トス　又溶液ノ温度ハ38°Cヨリ高カラザルヲ可トス

第十一条　屈曲試験　特ニ指定ナキ限リ同一種類ノ亞鉛めつき鋼板1000枚ニ付1枚ヲ採リ約30mm角ノ試験片ヲ切取リ第6表ニ示ス内側半径ヲ以テ180度ダク屈曲シタルトキめつき面ニ剝離ヲ認メザルコトヲ要ス

但シ厚めつき品ニ付テハ註文ノ際内側半径ヲ指定スルモノトス

第6表　屈曲試験ニ於ケル内側半径

厚　(t)　mm	内側半径
0·35 (29番)以下	1·5 t
0·40 (28番)－0·50 (25番)	2　t
0·55 (25番)－0·70 (22番)	2·5 t
0·90 (20番)－1·60 (16番)	3　t

第六章　標　　示

第十二条　亞鉛めつき鋼板ニハ製造所ノ記号又ハ商標及厚ノ称呼ヲ表示シ又厚めつき品ニ對シテハ其ノ表示ヲ為スモノトス

称呼ハ名称、種別、厚ノ称呼×大サノ称呼ニ依ル

（例）亞鉛めつき鋼板　平 0·29×3×6

亞鉛厚めつき鋼板·大波 0·35×2·5×8

昭和十年十二月四日決定　|　工業品規格統一調査會

JES　日本標準規格　第65号

小型三相誘導電動機

類別C5

頁　1

第一条　本規格ハ定格出力50「キロワット」以下、周波数50「サイクル」及60「サイクル」ノ低壓開放型ノ小型三相誘導電動機ニ之ヲ適用ス

第二条　電壓　電動機ノ端子電壓ハ200「ヴオルト」ヲ以テ標準トス　但シ60「サイクル」ノモノニ限リ220「ヴオルト」ヲ為スコトヲ得

第三条　定格出力　定格出力ハ銘板記載ノ電壓及周波数ニ於テ電動機ノ軸ニ於テ連続発生スル出力ニシテ銘板ニ記載セルモノヲ謂フ

定格出力ハ「キロワット」ニテ表ハシ其ノ標準ヲ次ノ通トス

標準出力 キロワット	0·5	(0·75)	1	(1·5)	2	3	(3·7)	5	7·5	10	15	20	25	30	40	50
馬　力	0·7	1·0	1·3	2·0	2·7	4·0	5·0	6·7	10	13	20	27	34	40	54	67

備　考

1、括弧ヲ附シタルモノハ成ルベク使用セザルヲ可トス

2、馬力ハ標準出力ヲ換算シタル近似値ニシテ參考ノ為之ヲ示ス

第四条　無負荷電流及無負荷損　無負荷電流ハ任意ノ周囲温度ニ於テ銘板記載ノ電壓及周波数ヲ以テ電動機ヲ無負荷ニテ運轉スル際各相ニ通ズル電流ヲ謂フ

各相ノ無負荷電流ト其平均値トノ差ハ平均値ノ上下5%ヲ超エザルコトヲ要ス

無負荷損ハ第一項ノ場合ニ於ケル入力（ワット）ヲ謂フ

第五条　特性試験　電動機ノ特性ヲ算定スル為無負荷電流及無負荷損ヲ測定スルノ外次ノ試験ヲ行フモノトス

一、短絡試験　任意ノ周囲温度ニ於テ回轉子ヲ拘束シ、且搖線型電動機ニ在リテハ其ノ回轉子搖線ヲ短絡シ、固定了端子間ニ銘板記載ノ周波数ニ於ケル電壓ヲ加ヘ全負荷電流ニ近キ電流ヲ生ゼシメ電壓（ヴオルト）、電流（アムペア）及入力（ワット）ヲ測定スルモノトス

前項ノ試験ニ於テハ回轉子ノ位置ヲ変更シ一定ノ電流ニ對スル電壓及入力又ハ一定ノ電壓ニ對スル電流及入力ヲ測定シ其ノ平均値ヲ求ムルモノトス

二、抵抗測定　任意ノ周囲温度ニ於テ固定子端子間ニ於ケル抵抗ヲ測定スルモノトス

第六条　型式及特性　電動機ノ型式及特性ハ第1表ニ依ル　但シ特性ハ前条ノ試験ニ基キ75°Cニ於ケルモノヲ円線図ニ依リ算定スルモノトス（附錄參照）

第1表

定格出力 キロワット	極数	同期回轉数（毎分） 50サイクル	60サイクル	回轉子	起動設置	全負荷特性 滑 %	能率 %	力率 %	無負荷電流 アムペア（各相ノ平均値）	最大起動電流 / 全負荷電流 ×100
0·5	4	1500	1800	籠型	ナシ	8 以下	75·0以上	79·5以上	1·2 以下	600 以下
(0·75)	4	1500	1800	籠型	ナシ	7·5 以下	77·5以上	81·5以上	1·6 以下	600 以下
1	4	1500	1800	籠型	ナシ	7 以下	79·0以上	82·5以上	2·0 以下	600 以下
(1·5)	4	1500	1800	籠型	ナシ	6·5 以下	81·0以上	84·0以上	2·7 以下	600 以下
2	4	1500	1800	籠型	ナシ	6 以下	82·0以上	84·5以上	3·4 以下	600 以下
3	4	1500	1800	籠型	ナシ	5·5 以下	83·5以上	85·5以上	5·0 以下	600 以下
(3·7)	4	1500	1800	籠型	ナシ	5·5 以下	84·0以上	86·0以上	6·0 以下	600 以下
5	4	1500	1800	籠型	スターデルタ始動器	5 以下	84·5以上	86·5以上	7·7 以下	300 以下
7·5	4	1500	1800	籠型	スターデルタ始動器	5 以下	85·0以上	87·0以上	10·5 以下	300 以下
10	4	1500	1800	籠型	スターデルタ始動器	5 以下	85·5以上	87·0以上	13·5 以下	300 以下
10	6	1000	1200	搖線型	起動抵抗器	5 以下	85·0以上	86·0以上	14 以下	150 以下
15	6	1000	1200	搖線型	起動抵抗器	5 以下	86·0以上	87·0以上	20 以下	150 以下
20	6	1000	1200	搖線型	起動抵抗器	5 以下	86·5以上	87·0以上	27 以下	150 以下
25	6	1000	1200	搖線型	起動抵抗器	5 以下	87·0以上	87·5以上	32 以下	150 以下
30	6	1000	1200	搖線型	起動抵抗器	5 以下	87·5以上	88·0以上	38 以下	150 以下
30	8	750	900	搖線型	起動抵抗器	5 以下	87·0以上	87·0以上	39 以下	150 以下
40	8	750	900	搖線型	起動抵抗器	5 以下	87·5以上	87·5以上	51 以下	125 以下
50	8	750	900	搖線型	起動抵抗器	5 以下	87·5以上	87·5以上	64 以下	125 以下

昭和二年十月三日決定　|　工業品規格統一調査會　|　昭和九年十二月十八日改正

JES	日本標準規格	第65号
	小型三相誘導電動機	類別C5
		頁 2

低速度ノ電動機ヲ必要トスル場合ニハ其ノ回轉数ハ第2表ニ依ル　此ノ場合ニ在リテハ第1表ノ型式、特性及第七条ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第 2 表

定格出力キロワット	極数	同期回轉数（毎分）	
		50 サイクル	60 サイクル
5	6	1000	1200
7·5	6	1000	1200
10	8	750	900
15	8	750	900
20	8	750	900
25	8	750	900
30	10	600	720
40	10	600	720

第七条　最大出力　円線図ニ依リ算出シタル電動機ノ最大出力ハ其ノ定格出力ノ150%乃至250%ナルコトヲ要ス

第八条　温度試験

一、負荷ノ方法　定格出力ニテ其ノ温度上昇ガ一定シタリト認ムル迄連続負荷スルモノトス　但シ負荷ハ返還負荷法ニ依ルモ妨ナシ

二、温度ノ測定法　電動機固定子ノ最高温度ニ達スト認ムベキ各部ニ「アルコール」温度計又ハ水線温度計ヲ取付ケ試験中随時ニ測定スルモノトス

三、周囲温度ノ決定法　周囲温度ハ試験スベキ電動機ヨリ1m乃至2m距リタル箇所ニ於テ一定時間毎ニ測定シ若試験中之ニ変化アル場合ハ全試験時間中最後ノ1/4ノ間ニ於ケル温度ノ平均ヲ採ルモノトス

四、最大温度上昇　電動機ノ最大温度上昇ハ試験ノ最後ニ於ケル固定子ノ最高温度ト周囲温度トノ差ヲ以テ之ヲ定メ50°C以下ナルコトヲ要ス

第九条　耐圧試験　温昇試験ノ後直ニ直流約500「ヴオルト」ノ電圧ヲ以テ固定子捲線ノ黄銅抵抗ヲ測定シ1「メグオーム」以上ナルコトヲ確メタル後銘板記載ノ周波数ニ於ケル正弦波形ノ交ノ電圧ヲ以テ試験シ1分間之ニ耐フルモノトス

一、固定子線輪（固定子捲線ニ接続スル起動器ヲ含ム）ト鉄心及大地トノ間　1500「ヴオルト」

二、捲線型回轉子（回轉子捲線ニ接続スル起動器ヲ含ム）ト鉄心及大地トノ間　1200「ヴオルト」

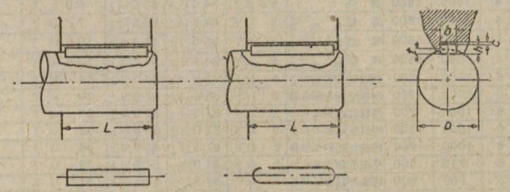
第十条　起動装置　出力5「キロワット」以上ノ電動機ニハ起動装置ヲ備フルモノトス

起動装置ニハ適當ナル方法ニ依リ其ノ動作方向及電動機トノ接続方法ヲ明示スルモノトス

第十一条　附属品　電動機ニハ特ニ指定ナキ限リ「ベルト」車、摺動台（又ハ摺動軌条）及基礎「ボルト」ヲ附スルモノトス

「ベルト」車及「ベルト」車用「キー」ノ寸法ハ第3表ニ依ル

ベルト車用キー



昭和二年十月三日決定	工業品規格統一調査會	昭和九年十二月十八日改正

JES	日本標準規格	第65号
	小型三相誘導電動機	類別C5
		頁 3

第 3 表　　単位 mm

極数		4	6	8	10	ベルト車				キー
同期回轉数（毎分）	50 サイクル	1500	1000	750	600					
	60 サイクル	1800	1200	900	720	径	幅	ボアー 深D	ボアー 長L	幅b×高h
定格出力キロワット	0·5					80	60	18	45	5×5
	(0·75)					80	60	18	45	5×5
	1					100	60	20	50	5×5
	1·5					100	80	22	55	7×7
	2					125	80	25	60	7×7
	3					125	100	28	70	7×7
	(3·7)					140	100	30	76	7×7
	5					140	120	32	80	10×8
	7·5	5				180	120	38	95	10×8
	10	7·5				180	155	42	105	12×8
		10				225	155	45	110	12×8
		15	10			280	175	45	110	12×8
		20	15			280	200	55	140	15×10
		25	20			320	230	55	140	15×10
		30	25			320	260	65	160	18×12
			30			400	260	65	160	18×12
				40	30	400	300	75	190	20×13
				50	40	400	340	75	190	20×13

備考

1、「ベルト」車ノ寸法公差及丸味ノ高ハ日本標準規格第66号傳導用調車ニ依ルモノトス

2、「ベルト」車用「キー」ノ形状ハ「フエザーキー」ニシテ其ノ材質ハ特ニ之ヲ定メズ適當ナル鋼材ヲ使用スルモノトス

3、「キー」ノ上面ト「ボス」トノ間隙C及軸ノ「キーウエー」ノ深tハ日本標準規格第71号「キー」ニ依ルモノトス

4、「キー」ノ長ハ「ボアー」ノ長ニ略等シキモノトス

第十二条　口出線　口出線ハ特ニ指定ナキ限リ「ベルト」車側ヨリ見テ電動機ノ左側ニ備フルモノトス

第十三条　銘板

一、電動機ニハ次ノ事項ヲ記入シタル銘板ヲ附スルモノトス

（一）品　名
（二）標準規格記号（「JES第65号」ト記スルモノトス）
（三）製造者名
（四）電動機ノ型式番号
（五）製造番号
（六）周波数
（七）相　数
（八）出　力（定格出力ヲ「キロワット」ニテ記スルモノトス）
（九）電　圧（端子電圧ヲ「ヴオルト」ニテ表ハスモノトス）
（十）電　流（全負荷電流ノ近似値ヲ「アムペア」ニテ表ハスモノトス）
（十一）回轉数（定格出力ニ相當スル1分間ノ回轉数ヲ記スモノトス）
（十二）回轉子ノ最大電圧（回轉子ガ靜止セルトキニ誘起スル滑動環ノ間ニ於ケル電圧ヲ「ヴオルト」ニテ表ハスモノトス）
（十三）起動器ノ型式番号

昭和二年十月三日決定	工業品規格統一調査會	昭和九年十二月十八日改正

JES	日本標準規格	第112号
	小型單相誘導電動機	類別C9
		頁 1

第一条 本規格ハ定格出力 1000〔ワット〕未満、周波数 50〔サイクル〕及 60〔サイクル〕ノ小型單相誘導電動機ニ之ヲ適用ス

第二条 型式 電動機ノ型式ハ次ノ3種トス

一、分相起動型
二、反撥起動型
三、反撥誘導型

第三条 電壓 電動機ノ端子電壓ハ 100〔ヴオルト〕又ハ 200〔ヴオルト〕ヲ以テ標準トス

第四条 定格出力 定格出力ハ其ノ標準ヲ次ノ通リトス

一、100〔ワット〕
二、200〔ワット〕
三、400〔ワット〕
四、600〔ワット〕

第五条 特性 定格出力ニ於ケル特性ハ第八条ニ規定スル溫度試驗ノ直後ニ於テ次表ニ示スモノナルコトヲ要ス

定格出力 ワット	型式	極数	全負荷能率 %	全負荷力率 %	全負荷電流 アムペア	無負荷電流 アムペア	起動電流 アムペア
100	分相起動型	4	45 以上	55 以上	3·5 以下	3 以下	20 以下
	反撥起動型		45 〃	55 〃		3 〃	12 〃
	反撥誘導型		40 〃	60 〃		3·5 〃	12 〃
200	分相起動型	4	55 〃	60 〃	5·5 〃	4·5 〃	30 〃
	反撥起動型		55 〃	60 〃		4·5 〃	15 〃
	反撥誘導型		50 〃	65 〃		5·5 〃	15 〃
400	分相起動型	4	65 〃	67 〃	8·5 〃	6·5 〃	40 〃
	反撥起動型		65 〃	67 〃		6·5 〃	25 〃
	反撥誘導型		60 〃	72 〃		8·5 〃	25 〃
600	反撥起動型	4	70 〃	70 〃	12 〃	9 〃	35 〃
	反撥誘導型		65 〃	75 〃		12 〃	35 〃

備考 本表ノ電流ハ電壓 100〔ヴオルト〕ノ場合ニ於ケルモノヲ示ス

第六条 起動回轉力及停動回轉力 起動回轉力及停動回轉力ハ銘板記載ノ回轉数ニ於ケル定格出力ニ對スル回轉力ノ百分率ヲ以テ之ヲ表ハシ次ノ値ヲ有スルコトヲ要ス

型式	起動回轉力 %	停動回轉力 %
分相起動型	125 以上	150—250
反撥起動型	300 〃	150—250
反撥誘導型	200 〃	200—350

第七条 ゆとり 電動機ハ其ノ端子ニ於ケル供給電壓ニ標準端子電壓ノ上下 10% ノ変動アルモ實用上支障ナク運轉シ得ルモノナルヲ要ス

昭和五年十二月一日決定	工業品規格統一調査會	

JES	日本標準規格	第112号
	小型單相誘導電動機	類別C9
		頁 2

第八条 溫度試驗 定格出力ニ於テ直接負荷法ニ依リ電動機ヲ連續運轉シ其ノ溫度上昇ガ一定ニ達シタリト認メタルトキ〔アルコール〕溫度計又ハ水銀溫度計ニ依リ之ヲ測定シ最大溫度上昇ガ 50°C 以下ナルコトヲ要ス

第九条 耐壓試驗 溫度試驗ノ後直ニ直流約 500〔ヴオルト〕ノ電壓ヲ以テ一次線輪ノ絶緣抵抗ヲ測定シ 1〔メグオーム〕以上ナルコトヲ確メタル後銘板記載ノ周波数ニ於ケル正弦波形ノ電壓 1000〔ヴオルト〕ヲ一次線輪及鉄心間ニ加ヘ 1分間之ニ耐フルコトヲ要ス

第十条 構造 電動機ハ成ルベク全閉型又ハ自己通風型トシ適當ナル箇所ニ其ノ回轉方向ヲ標示スルモノトス

整流子ヲ有スル電動機ハ刷子ガ適當ナル位置ニ在ルコトヲ指示スベキ裝置ヲ有シ且刷子ヲ容易ニ取換ヘ得ルモノタルコトヲ要ス

第十一条 調車 電動機ニハ特ニ指定ナキ限リ次表ニ依ル調車ヲ附スルモノトス

定格出力 ワット	調車ノ寸法 mm	
	径	幅
100	50	40
200	50	40
400	80	60
600	80	60

備考 調車ノ寸法公差及丸味ノ高ハ日本標準規格第 66 号傳導用調車ニ依ルモノトス

第十二条 口出線 口出線ハ特ニ指定ナキ限リ調車側ヨリ見テ電動機ノ左側ニ備ヘ之ニ適當ナル端子ヲ附スルモノトス

第十三条 銘板 電動機ニハ次ノ事項ヲ記入シタル銘板ヲ附スルモノトス

一、品 名
二、標準規格記号（〔JES 第 112 号〕ト記スモノトス）
三、製造者名
四、電動機ノ型式（第二条ノ型ヲ記スモノトス）
五、製造番号
六、周 波 数
七、出 力（定格出力ヲ〔ワット〕ニテ記スモノトス）
八、電 壓（端子電壓ヲ〔ヴオルト〕ニテ記スモノトス）
九、電 流（全負荷電流ノ近似値ヲ〔アムペア〕ニテ記スモノトス）
十、回 轉 数（定格出力ニ相當スル 1分間ノ回轉数ノ近似値ヲ記スモノトス）

昭和五年十二月一日決定	工業品規格統一調査會	

第4章　シンボル及標準仕様書

衛生工業協會制定シンボル(昭和十七年二月七日改訂)

凡　例

1. この改訂「シンボル」は昭和8年9月本協會「シンボル」制定委員會に於て制定せられたる「シンボル」を基礎とし時世の進運に順應して之を改訂增補したものである。

2. 改訂「シンボル」は同じ物件に對しては各類別工事を通じ成るべく同じ「シンボル」を用ひることにしてある。

3. 改訂「シンボル」は縮尺率 1/100 又は 1/50 の圖面に適應するものを制定する方針にて立案した爲めに其の他の縮尺率に對しては使用される人に於て適宜之を準用されることを希望する。

4. 改訂「シンボル」は便宜上
　第1類　暖房、冷房、給汽、換氣
　第2類　給水、給湯、排水、消火
　第3類　消火器具　第4類　衞生器具
　第5類　瓦　　斯
の5種に分類作成してある。

5. 空氣調和に關するものは第1類及第2類の「シンボル」を準用することにしてある。

6. 第4類衞生器具「シンボル」に2種併記せるものは大略 1/100 及 1/50 の縮尺率の圖面に記入すべき精粗の程度を示したものである。

7. 改訂「シンボル」は成るべく代表的なものに止めたため同種物件に關する細別は附記號(數字ローマ字假名等)を添へて使用されたい。

8. 之等附記號の位置は圖面の都合上「シンボル」の上下左右任意とした。

9. 備考欄は本「シンボル」を使用する場合に疑義を生じない樣に註解したものである。

10. 所轄官公署及供給會社に提出すべき圖面に記入すべき「シンボル」は夫々の規定によるものを使用して差支へない。

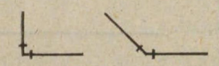
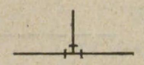
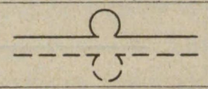
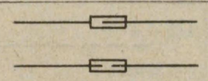
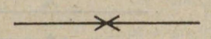
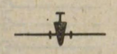
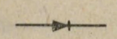
衛生工業協會制定	昭和　年　月　日改訂
シ　ン　ボ　ル	頁　1

第1類　暖房・冷房・給汽・換氣

名　稱	シ　ン　ボ　ル	備　考
送り管(蒸氣又ハ湯)	———	
還り管(蒸氣又ハ湯)	— — — — — — —	
蒸氣管(給汽)	———/———	
凝縮水管(給汽)	— — — —/— — —	
其他ノ系統管	A A	線ノ傍又ハ途中ニ管系ヲ表ハス記號ヲ附ス
竪管	○ ○　　⊘	
立上り立下り部	C C ○ ○	曲管ニテ右上リノ例 エルボ接手ニテ右下リノ例
曲管		
フランヂ		
ユニオン		

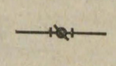
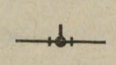
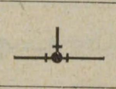
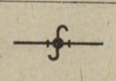
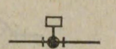
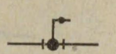
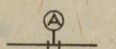
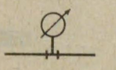
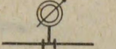
衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 2

第1類 暖房・冷房・給汽・換氣

名稱		シンボル	備考
エルボ			
チー			
膨脹曲管			
膨脹接手	單式筒型 ベローズ型 複式筒型		
配管固定個所			
止弁			仕切弁球形弁ノ區別ヲ要セザル場合
仕切弁			
球形弁			
アングル弁			
逆止弁	こま型		

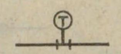
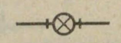
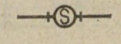
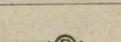
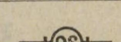
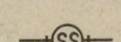
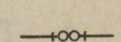
衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 3

第1類 暖房・冷房・給汽・換氣

名稱		シンボル	備考
逆止弁	蝶番型		
コック			
三方コック			
安全弁逃し弁			
減壓弁			
溫度調節弁			
背壓弁			
空氣弁			
壓力計			
聯成壓力計			

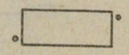
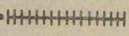
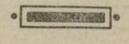
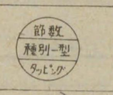
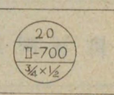
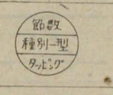
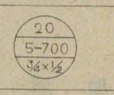
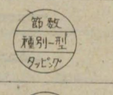
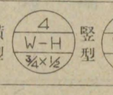
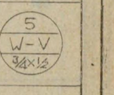
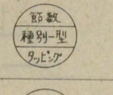
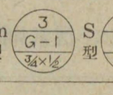
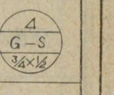
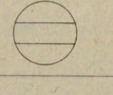
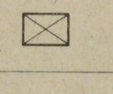
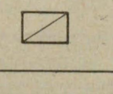
衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 4

第1類 暖房・冷房・給汽・換氣

名稱	シンボル	備考
温度計		
蒸氣トラップ		
塵濾し		
マッドボックス		
油分離器		
汽水分離器		
リフトフィッチング		
噴汽加熱器		
柱型放熱器 細柱型		
壁掛放熱器		壁掛ノ場合

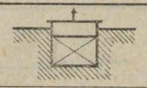
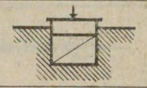
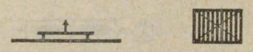
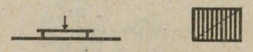
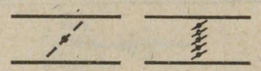
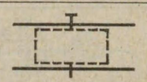
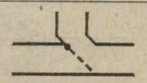
衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 5

第1類 暖房・冷房・給汽・換氣

名稱		シンボル	備考
壁掛放熱器			水平吊りノ場合
鍔型放熱器			
キャビネットヒータ			
放熱器添加記號	柱型放熱器		
	細柱型放熱器		
	壁掛放熱器		横型  竪型 
	鍔型放熱器		1m型  S型 
	キャビネットヒータ		上記ニ準ズ
送氣道斷面			
排氣道斷面			

衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 6

第1類　暖房・冷房・給汽・換氣

名稱	シンボル	備考
制氣口付送風道斷面		
制氣口付排氣道斷面		
送氣制氣口		
排氣制氣口		
加減板	 	
分流又ハ混氣加減板		

衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 7

第2類　給水・給湯・排水・消火

名稱		シンボル	備考
給水管		——— · ———	上水及井水ノ別ヲ要セザル場合
上水管		——— · ———	
井水管		——— ·· ———	
給湯送り管		——— | ———	
給湯還り管		——— || ———	
排水管		———	
通氣管		- - - - - -	
消火管		——— × ———	
鑄鐵管	給水 排水	75 · ——— · ——— 100 ———	管徑75mmノ例 管徑100mmノ例
鉛管	給水 排水	13L · ——— · ——— 100L ———	管徑13mmノ例 管徑100mmノ例

衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 8

第2類 給水・給湯・排水・消火

名稱		シンボル	備考
コンクリート管	給水	150G	管徑150mmノ例
	排水	150G	
陶管		100T	管徑100mmノ例
其他ノ材質管		上記ニ準ジ適當ノ記號ヲ附ス	鋼管ノ場合ハ特ニ記號ヲ附セズ
竪管			
立上り立下り部			曲管ニテ右上りノ例 エルボ接手ニテ右下りノ例
フランヂ			
ユニオン			
エルボ			
チー			
Y字管			

衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 9

第2類 給水・給湯・排水・消火

名稱		シンボル	備考
曲管			
丁字管			
Y字管			
90度Y字管			
片落管漸大管			
膨脹曲管			
膨脹接手	單式筒型 ベローズ型 複式筒型		
配管固定個所			
止弁			仕切弁球形弁ノ區別ヲ要セザル場合
仕切弁			

衛生工業協會制定	昭和　年　月　日改訂
シ　ン　ボ　ル	頁　10

第2類　給水・給湯・排水・消火

名　稱		シ　ン　ボ　ル	備　考
球形弁			
アングル弁			
逆止弁	こま型		
	蝶番型		
コック			
三方コック			
安全弁			
減壓弁			
空氣弁			
壓力計			

衛生工業協會制定	昭和　年　月　日改訂
シ　ン　ボ　ル	頁　11

第2類　給水・給湯・排水・消火

名　稱	シ　ン　ボ　ル	備　考
溫度計	T	
量水器	M	
掃除口		
ハウストラップ		
グリーストラップ	GT	
器具排水受口		
床排水受口		
屋根排水受口		
トラップ桝	T　T	
私設汚水桝	□　○	

衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 12

第2類 給水・給湯・排水・消火

名稱	シンボル	備考
私設雨水桝	⊠ ⊗	
公設桝	▣ ◎	

第3類 消火器具

名稱		シンボル	備考
消火栓	屋内	▬◢	扉ノ開キ勝手及開閉弁ノ位置ハ適宜記入ノコト
	屋外	Ⓗ H	
消防ホース連結口			

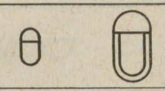
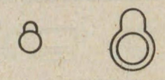
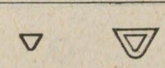
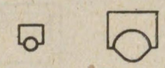
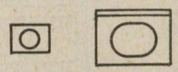
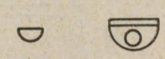
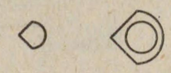
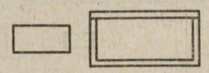
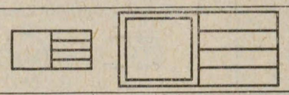
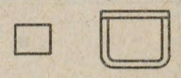
衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 13

第4類 衛生器具

名稱	シンボル	備考
實驗用流し	⌓ ◡	
洗濯流し	▭ ▣	
噴上げ水呑器	⊙ ◎	
和風浴槽	▢	
洋風浴槽	▭	
	▭	
低置洗淨水槽	▯	點線部ノ位置ニハ洋風大便器レンボルヲ記入スルモノトス
高置洗淨水槽	▭ ▣	
湯沸器	⬭ WH	左ハ 瓦斯湯沸器 右ハ 蒸氣湯沸器
水栓	●	

衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 14

第4類 衛生器具

名稱	シンボル	備考
和風大便器		
洋風大便器		
小便器		
ストール小便器		
洗面器		
手洗器		
		
料理場流し		
		水切板付ノ例
掃除用流し		

衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 15

第4類 衛生器具

名稱	シンボル	備考
洗浄弁		
ボールタップ		
シヤワ		
散水栓 (窪付)		
靴洗栓 (窪付)		

衛生工業協會制定	昭和 年 月 日改訂
シンボル	頁 16

第5類 瓦斯

名稱		シンボル	備考
供給管	瓦斯管		
	鑄鐵管		
瓦斯コック			
瓦斯カラン		▲	
水取器		⊙	
瓦斯計量器		GM	

(2) 衛生設備工事仕様書

總說

Ⅰ 工事概要

1、建築物所在地
2、建築物概要
(1) 敷地面積 m²
(2) 建築面積 m²
(3) 各階面積合計 m²
(4) 構造
(5) 階數
3、工事範圍
上水給水設備工事
井水給水設備工事
給湯設備工事
排水及通氣設備工事
衛生器具設備工事
消火栓設備工事
4、下記ハ本工事外トス

Ⅱ 一般事項

1、本工事ハ本仕様書、圖面及掛員ノ指圖ニ從ヒ尙官公署並上水、電氣供給者ノ規程ニ準據シ施行スルモノニシテ請負人ハ之等ニ要スル諸般ノ手續一切ヲ遺漏ナク處理スルモノトス
2、本工事ハ凡テ建築ノ進行ニ伴ヒ夫々施行シ建築工事又ハ他工事トノ取合トナル場合ハ豫メ掛員ノ指示ニ從ヒ工事ノ進捗ニ支障ナカラシムルモノトス
3、材料及製作品ハ掛員ノ檢査又ハ試驗ヲ經タル後使用スルモノトシ必要ニ應ジ豫メ見本品又ハ製作圖或ハ現場取付圖ヲ提出シ承認ヲ受クルモノトス
4、壁其他ニ穴ヲ穿ツ場合ニハ必要以上ノ大サトナラザル樣注意シ施行後之ガ修復ヲナスモノトス尙過チテ建築物其他ヲ毀損シタル時モ亦同樣トス
5、本工事完成ノ上ハ全設備ノ試驗及檢査ヲ受ケ引渡ヲナシ竣工圖ヲ提出スルモノトス
6、本工事完成後工事用假設物ヲ撤去シ掃除跡片付ヲナスモノトス

上水給水設備工事

Ⅰ 設備概要
Ⅱ ぽんぷ及附屬裝置

ぽんぷ 臺

1、本機ハ横型たーびん渦巻ぽんぷヲ電動機ト直結シ鑄鐵製共通床盤ニ取付ケタルモノニシテ自動及手動制御ニ依リ運轉スルモノトス
2、本機ニ使用スルぽんぷノ要項下記ノ如シ
イ、總揚程 m
ロ、揚水量 l/sec
ハ、回轉數(電動機同期回轉數) rpm
ニ、效率 %以上
ホ、吸込口直徑 mm
ヘ、送出口直徑 mm
ト、軸受ノ種類
3、ぽんぷノ回轉部分ハ完全ニ釣合ヒ羽根車及案內羽根ハ青銅製ニシテ平滑ナル面ヲ有シ且絕對ニ油類ノ混入セザル構造ニシテ床盤ハ周圍水返し付トス
4、ぽんぷニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス
イ、仕切弁 1箇
ロ、逆止弁 1箇
ハ、壓力計(最高目盛 kg/cm²) 1箇
ニ、撓軸接手 1組
ホ、基礎ぼると、すばな其他必要ナル附屬品1式
5、本機ニ使用スル電動機ハ三相誘導電動機ニシテ其要項下記ノ如シ
イ、定格出力 kw hp
ロ、電壓 v
ハ、周波數 ~
ニ、同期回轉數 rpm
ホ、型式
ヘ、起動裝置
6、本機ノ基礎ハ床上高 cm、造、表面 仕上トス
7、本機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

ぽんぷ	電動機
空氣壓縮機(氣壓水槽用)	臺

1、本機ハ竪型單筒空氣壓縮機ヲ電動機トべるとト連結シ鑄鐵製共通床盤ニ取付ケタルモノニシテ使用最高壓力 kg/cm²、ぴすとんノ押のけ量 m³/min トシ運轉平滑ニシテ震動及騷音少キモノトス
2、本機ハ全負荷ニ於テ 時間以上完全ニ連續運轉シ得ルモノニシテしりんだハ空氣冷却式トス
3、本機ニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、あんろーだ(　　)　　1 箇
ロ、安全弁　　1 箇
ハ、油分離器(　　式)　　1 箇
ニ、べると及べると車(　　式)　　1 組
ホ、基礎ぼると、すぱな其他必要ナル附屬品　　1 式

4、本機ニ使用スル電動機ハ三相誘導電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力	kw hp
ロ、電　壓	v
ハ、周波數	~
ニ、同期回轉數	rpm
ホ、型　式	

5、本機ノ基礎ハ床上高　　cm、　　造、表面仕上トス

6、本機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

空氣壓縮器	電　動　機

浮子式 / 壓力式 電氣開閉器　　箇

1、本機ハ屋上水槽内水位 / 氣壓水槽内壓力ノ高低ニ依リ別記　　ぼんぷ直結電動機ノ回路ヲ開閉スルモノニシテ最高　　最低　　ニ調整スルモノトス

2、本器ハ下記製品ノ中ノ何レカトス

製作所	型	番　號

電動機自動制御盤 / 函　面 / 箇

1、本器ハ浮子式 / 壓力式電氣開閉器ト組合ハセ自動及手動ニ依リぼんぷ直結電動機ヲ制御スルモノトス

2、本器ノ盤函ハ　製壁掛型 / 自立型ニシテ 1 面箇ニ付下記器具ヲ配備シタルモノトス

イ、電流計	箇
ロ、三極單投双型開閉器(ひゅーず付 / 同豫備品　箇添付)	箇
ハ、三極双投双型開閉器(自動手動切換用)	箇
ニ、三極双投双型開閉器(電動機切換用)	箇
ホ、單極單投双型開閉器(電流計短絡用)	箇
ヘ、單極單投双型開閉器(試驗用)	箇
ト、電磁開閉器	1 式
チ、過負荷繼電器(　　式)	箇
リ、表示燈及點滅器(ひゅーず付)	1 組
ヌ、端子、かーどほーるだ等	1 式

3、本器ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス
但電流計ハ下記製品トス

電動機手動制御盤 / 函　面 / 箇

1、本器ハ空氣壓縮機用電動機ヲ手動ニ依リ制御スルモノトス

2、本器ノ盤函ハ　製壁掛型 / 自立型ニシテ 1 面箇ニ付下記器具ヲ配備シタルモノトス

イ、電流計	箇
ロ、三極單投双型開閉器(ひゅーず付 / 電　磁　同豫備品　箇添付)	箇
ハ、三極双投双型開閉器(電動機切換用)	箇
ニ、單極開閉器(電流計短絡用)	箇
ホ、表示燈及點滅器(ひゅーず付)	1 組
ヘ、端子、かーどほーるだ等	1 式

3、本器ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス
但電流計ハ下記製品トス

電氣配線工事

1、本工事ハ制御盤 / 函ヨリ電動機及浮子式 / 壓力式電氣開閉器ニ至ル配線並地線工事ヲ施行スルモノトス

2、各配線ハ第　種絶緣電線ヲ使用シ　工事ニ依リ施行スルモノトス

3、金屬管工事ノ配線管ハ挿入電線ノ太サ及條數ニ依リ充分ナルモノニシテ管ハ日本標準規格第207號電線管厚鋼 / 薄鋼管トシ管接手ハ同第208號電線管接手厚鋼 / 薄鋼管接手ヲ使用スルモノトス

4、各配管ノ末端ニハさーびすかつぷヲ使用スルモノトス

Ⅲ 水　　槽

屋上水槽　基

1、本槽ハ銅板(　　亞鉛めつき)製ニシテ其寸法下記ノ如シ

内法	×	×深	mm
内徑	×	×深	mm

2、板厚ハ側　　mm、底　　mm ニシテ要部ハ形鋼ニテ補强シ鋲 / 締 / 熔接ニヨリ水密ニ製作スルモノトス

3、蓋ハ厚　　mm ノ銅板ヲ使用シ要部ハ形鋼ニテ補强シ指定ノ位置ニ人孔 / 手孔及浮子式電氣開閉器ノ取付座等ヲ設クルモノトス

4、本槽ニハ揚水管、給水管、溢水管、排水管等ノ接續口及鐵梯子ヲ設ケ管接續口ハ軟銅 / 鑄鐵製鍔座ヲ鋲締メ或ハそけつとヲ熔接スルモノトス

5、水滴受けハ大サ / 徑　×　mm、厚　mm 銅板製トシ水槽臺上ニ据付ケ排水口ヲ設クルモノトス

6、水槽臺ノ構造及寸法下記ノ如シ

氣　壓　水　槽　基

1、本槽ハ銅板(　　亞鉛めつき)製ニシテ銅板ハ日本標準規格第22號第1種乃至第4種ニ合格スルモノヲ使用シ其寸法下記ノ如シ

内徑	×胴長	mm 鏡板彎曲半徑	mm

2、板厚ハ胴　　mm、鏡　　mm ニシテ各接合部ハ鋲 / 締 / 熔接トシ下記水壓試驗ニ合格スルモノトス

試驗水壓	kg/cm²
但常用壓力ハ	kg/cm² トス

3、本槽ニハ送水管、給水管、空氣管、排泥管、安全弁、水面計、壓力式電氣開閉器等ノ接續口ヲ設ケ各接續口ハ軟銅 / 鑄鐵製鍔座ヲ鋲締メ或ハそけつとヲ熔接スルモノトス

尙指定ノ位置ニハ周邊ヲ適當ニ補强シタル人孔 / 手孔ヲ設クルモノトス

4、本槽ニハ1基ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、水面計(保護棒付)	1 組
ロ、壓力計(最高目盛　kg/cm²)	1 箇
ハ、安全弁(ばね式 / てこ式　口徑　mm)	1 箇

5、水槽臺ノ構造及寸法下記ノ如シ

Ⅳ 配 管 材 料

管　　類

1、鑄鐵管ハ日本標準規格第80號水道用鑄鐵管又ハ同第272號水道用高級鑄鐵管ノ規格ニ合格スルモノニシテ直管ハ普通壓 / 低　壓管トス
管ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

直　管	異　形　管

2、鉛管ハ日本標準規格第81號ノ規格ニ合格スルモノニシテ內徑 40mm 以上ハ普通壓 / 低　壓管トス
管ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

3、亞鉛めつきがす管及管接手類ハ日本標準規格第271號水道用亞鉛めつき銅管規格ニ依ルモノトス
がす管及管接手類ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

が　す　管	管接手類

4、黃銅管ハ日本標準規格第52號第2種ノ規格ニ合格スルモノニシテ其寸法ハ日本標準規格第38號ニ依ルモノトス
管接手類ハ青銅製絲付型ニシテ其寸法ハ日本標準規格第129號がす管接手ニ依ルモノトシ水壓試驗 kg/cm² ニ合格スルモノトス
管及管接手類ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

管	管接手類

5、半田付けにつぶるハ青銅製ニシテねぢ部ハ日本標準規格第37號及第38號ニ適合シ半田接合部ハ外面磨き仕上トシ水壓試驗　kg/cm² ニ合格スルモノトス

弁　　類

1、球形仕切弁ハ口徑 70mm 以上ふらんじ型、らいじんぐすてむ / のんらいじんぐすてむ式、弁體鑄鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑 55mm 以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ開閉記號ヲ有スルはんどる車付トス
但球形弁ハ摺合せ / 革　座式トス

2、逆止弁ハこま / 蝶番型ニシテ口徑 70mm 以上ふらんじ型、弁體鑄鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm 以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ弁體側面ニ流水方向ヲ鑄出シタルモノトス

3、球栓ハ口徑 70mm 以上ふらんじ型、弁體鑄鐵製弁及弁座ハ青銅製トシ口徑 55mm 以下ハ捻込型、全部青銅製、何レモ摺合せ / 革　座式ニシテ口徑 55mm 以上ハ二重弁座ノモノトス

4、分水栓及止水栓ハ水道協會制定ノ水道用水栓類規格ニ合格スルモノトス

5、排泥弁、空氣弁、減壓弁、安全弁類ハ下記ノモノトス

6、弁類ハ水壓試驗　kg/cm² ニ合格スルモノニシテ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

但下記ノモノハ掛員ノ承認スル製品ヲ使用スルモノトス

量　水　器

1、量水器ハ水道協會制定ノ翼車式量水器ニ關スル規格並水壓試驗　kg/cm² ニ合格シ且目盛ハめーとる制トシ口徑、型式及箇數下記ノ如シ

口徑(mm)	型　式	箇　數

2、本器ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

Ⅴ 配管工事

1、引込埋設管ハ內徑 75mm 以上ハ鑄鐵管、內徑 50mm 以下ハ鉛管ヲ使用シ埋設ハ地下 450mm 以上トシ車馬ヲ通ズル道路ノ部分ハ 760mm 以上トス

2、屋內配管ハ亞鉛めつきがす管ヲ使用スルモノトス但下記ノ部分ハ鉛管ヲ使用スル事ヲ得

3、制水用弁ハ鑄鐵管、がす管及黃銅管ニハ仕切弁ヲ鉛管ニハ止水栓ヲ使用シ逆止弁ハ蝶番型ヲ使用スルモノトス

但下記ノ箇所ニハ球形弁及こま型逆止弁ヲ使用スルモノトス

4、配管中圖示ノ箇所ニハ仕切弁ヲ設クルモノトス

5、管ノ切口ハ適當ナル工具ヲ用キ管徑ノ縮少セザル樣ニシ接續前ニ管內ヲ點檢掃除スルモノトス

6、鑄鐵管ノ挿受け接ぎニ於テハ挿し口ヲ受け口ニ偏リナク充分挿込ムモノトス

7、鉛管ノ接合ハ拭ひ接ぎトシ鑄鐵管又ハがす管トノ接合ニハ半田付けにつぷるヲ介スルモノトス

8、がす管ト鑄鐵管トノ接合ハふらんじ接ぎトス

9、がす管及黃銅管用ねぢハ日本標準規格第37號圓錐ねぢトス

10、ふらんじ接ぎ又ハゆにおん接ぎニ使用スルばつきんハ下記ノモノトス

11、配管ノ天井、床及壁ヲ貫通スル見エ掛リ箇所ニハ　製　仕上ノ座金ヲ取付クルモノトス

12、配管中こんくりーと又ハしんだーこんくりーとニ埋設ノ部分ハ下記ノ如ク養生スルモノトス

13、橫管ハ空氣溜リヲ生ゼザル樣配管シ圖示ノ箇所ニハ排泥弁及空氣弁ヲ設クルモノトス

14、配管中圖示ノ箇所ニハ空氣ばねヲ設クルモノトス

15、管支持金物ハ下記ノモノトス

16、管支持金物ノ間隔ハ下記ノ如シ

管　種	管　徑	間　隔

17、配管終了後ハ其最下部ニ於テ水道直結部ハ　kg/cm² 水槽以下ハ　kg/cm² ノ水壓試驗ヲ行フモノトス

但工事ノ都合ニヨリ配管ノ一部終了後水壓試驗ヲ行フ場合アルモノトス

Ⅵ 被覆及塗裝

1、本工事ニ於テ被覆ヲ施行スルモノ下記ノ如シ

水　槽
管　類

2、屋外ニ設置スル水槽ノ被覆材料、厚及施行方法下記ノ如シ

3、管ノ被覆ハ下表ニ依ルモノトス

配管箇所		管 種類	管 徑	被覆 材料	被覆 厚mm	被覆 仕上
屋內	露出					
	隱蔽					
	暗渠					
屋外	露出					
	暗渠					

4、管接手類、曲管、受け口部及弁類ノ被覆ハ下記ノ如ク施行スルモノトス

5、本工事ニ使用スル鐵物ハ仕上部及めつき部ヲ除キさび止ぺいんと　回以上塗布スルモノトス但水槽ハ下記塗裝ヲナスモノトス

6、本工事ニ於テ見エ掛リノ部分ハ下表ニ依リ仕上塗ヲ施スモノトス

配管箇所又ハ名稱	塗　料	色　合	回　數

7、特種箇所ノ被覆及塗裝ハ下記ノ如ク施行スルモノトス

8、管ノ用途及系統ノ標示ハ下記ノ方法ニ依ルモノトス

井水給水設備工事

Ⅰ 設備概要

1、既設(井戸)ノ要項下記ノ如シ(但揚水試驗濟豫想)

イ、揚水量　1/sec
ロ、內　徑　mm
ハ、完成深度(ぽんぷ据付床面ヨリ)　m
ニ、自然水位(ぽんぷ据付床面ヨリ)　m
ホ、揚水水位(　同　上)　m

Ⅱ ぽんぷ及附屬裝置

深井戸 たーびん渦巻ぽんぷ　臺

1、本機ハ竪型深井戸たーびん渦巻ぽんぷヲ竪型電動機ト直結シ鑄鐵製受臺ニ取付ケタルモノニシテ自動及手動制御ニヨリ運轉スルヲノトス

2、本機ニ使用スルぽんぷノ要項下記ノ如シ

イ、總揚程　m
ロ、揚水量　1/sec
ハ、回轉數(電動機同期回轉數)　rpm
ニ、效　率　%以上
ホ、吸込口直徑　mm
ヘ、送出口直徑　mm
ト、井內送出管長　m以上
チ、推力軸受ノ種類

3、ぽんぷノ回轉部分ハ完全ニ釣合セ羽根車及案內羽根ハ靑銅製トシ平滑ナル面ヲ有スルモノトス

4、ぽんぷニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、仕切弁　1 箇
ロ、逆止弁　1 箇
ハ、壓力計(最高目盛　kg/cm²)　1 箇
ニ、撓軸接手　1 組
ホ、芥除け　1 箇
ヘ、基礎ぼると、すぱな其他必要ナル附屬品　1 式

5、本機ニ使用スル電動機ハ三相誘導電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力　kw hp
ロ、電　壓　v
ハ、周波數　~
ニ、同期回轉數　rpm
ホ、型　式
ヘ、起動裝置

6、本機ノ基礎ハ床上高　cm、　造、表面仕上トス

7、本機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

ぽんぷ	電動機

深井戸 淺井戸 ぴすとんぽんぷ　臺

1、本機ハぴすとんぽんぷヲ電動機トベるとト連結シ鑄鐵製共通床盤ニ取付タルモノニシテ自動及手動制御ニヨリ運轉スルモノトス

2、本機ニ使用スルぽんぷノ要項下記ノ如シ

イ、總揚程　m
ロ、揚水量　1/sec
ハ、井內送出管長　m以上

3、ぽんぷハ運轉平滑ニシテ騷音少キモノトス

4、ぽんぷニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、べると及べると車(　式)　1 組
ロ、芥除け(底弁付)　1 式
ハ、基礎ぼると、すぱな其他必要ナル附屬品　1 式

5、本機ニ使用スル電動機ハ　相　電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力　kw hp
ロ、電　壓　v
ハ、周波數　~
ニ、同期回轉數　rpm
ホ、型　式

6、本機ノ基礎ハ床上高　cm、　造、表面仕上トス

7、ぽんぷハ下記製品ノ中何レカトス

製　作　所　　型　　番　號

8、電動機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

たーびん渦巻ぽんぷ	臺

1、本機ハ横型たーびん渦巻ぽんぷヲ電動機ト直結シ鑄鐵製共通床盤ニ取付ケタルモノニシテ自動及手動制御ニ依リ運轉スルモノトス

2、本機ニ使用スルぽんぷノ要項下記ノ如シ

イ、總揚程	m
ロ、揚水量	l/sec
ハ、回轉數(電動機同期回轉數)	rpm
ニ、效　率	%以上
ホ、吸込口直徑	mm
ヘ、送出口直徑	mm
ト、軸受ノ種類	

3、ぽんぷノ回轉部分ハ完全ニ釣合ヒ羽根車及案內羽根ハ靑銅製ニシテ平滑ナル面ヲ有シ且絕對ニ油類ノ混入セザル構造ニシテ床盤ハ周圍水返し付トス

4、ぽんぷニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、仕切弁	1 箇
ロ、逆止弁	1 箇
ハ、壓力計(最高目盛　kg/cm²)	1 箇
ニ、眞空計	1 箇
ホ、芥除け(底弁付)	1 箇
ヘ、撓軸接手	1 組
ト、基礎ぼると、すばな其他必要ナル附屬品	1 式

5、本機ニ使用スル電動機ハ　相　電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力	kw hp
ロ、電　壓	v
ハ、周波數	∿
ニ、同期回轉數	rpm
ホ、型　式	
ヘ、起動裝置	

6、本機ノ基礎ハ床上高　cm、　造、表面仕上トス

7、本機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

ぽんぷ	電動機
空氣壓縮機(氣壓水槽用)	臺

1、本機ハ竪型單筒空氣壓縮機ヲ電動機トベるとト連結シ鑄鐵製共通床盤ニ取付ケタルモノニシテ使用最高壓力　kg/cm²、ぴすとんノ押のけ量　m³/min トシ運轉平滑ニシテ震動及騷音少キモノトス

2、本機ハ全負荷ニ於テ　時間以上完全ニ連續運轉シ得ルモノニシテしりんだハ空氣冷却式トス

3、本機ニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、あんろーだ	1 箇
ロ、安全弁	1 箇
ハ、油分離器(　式)	1 箇
ニ、べると及べると車(　式)	1 組
ホ、基礎ぼると、すばな其他必要ナル附屬品	1 式

4、本機ニ使用スル電動機ハ三相誘導電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力	kw hp
ロ、電　壓	v
ハ、周波數	∿
ニ、同期回轉數	rpm
ホ、型　式	

5、本機ノ基礎ハ床上高　cm、　造、表面仕上トス

6、本機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

空氣壓縮機	電動機

空氣揚水裝置

1、本裝置ハ空氣壓縮機及空氣槽ヲ設置シ中心空氣管ニ依リ既設鑿井ヨリ揚水スルモノニシテ自動及手動制御ニ依リ運轉スルモノトス

2、本裝置ノ揚水要項下記ノ如シ

イ、揚　程	m
ロ、揚水量	l/sec
ハ、揚水管徑	in
ニ、空氣管徑	in
ホ、空氣管長(井內)	m

3、ふーとびーす及うえるとつぷハ下記ノモノトス

4、空氣壓縮機(　臺)ハ竪型横型單筒複筒トシ電動機トベるとト連結運轉スルモノニシテ使用最高壓力　kg/cm²、ぴすとんノ押のけ量　m³/min、しりんだ徑　mm、行程　mm トシ運轉平滑ニシテ震動及騷音少ク全負荷ニ於テ　時間以上完全ニ連續運轉シ得ルモノトス

5、空氣壓縮機ニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、あんろだ(　)	1 式
ロ、給油裝置	1 式
ハ、空氣濾過器	1 箇
ニ、油分離器(　式)	1 箇
ホ、べると及べると車(　式)	1 式
ヘ、基礎ぼると、すばな其他必要ナル附屬品	1 式

6、しりんだ冷却裝置ハ下記ノモノトス

7、空氣壓縮機ニ使用スル電動機ハ三相誘導電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力	kw hp
ロ、電　壓	v
ハ、周波數	∿
ニ、同期回轉數	rpm
ホ、型　式	
ヘ、起動裝置	

8、空氣壓縮機及電動機ノ基礎ハ床上高　cm、　造、表面　仕上トス

9、空氣壓縮機及電動機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

空氣壓縮機	電動機

10、空氣槽(　基)ハ鋼板製竪横型ニシテ鋼板ハ日本標準規格第22號第一種乃至第四種ニ合格スルモノヲ使用シ其寸法下記ノ如シ

內徑　×胴長　mm　鏡板彎曲半徑　mm

11、本槽ノ板厚ハ胴　mm、鏡　mmニシテ各接合部ハ鉄締熔接トシ下記水壓試驗ニ合格スルモノトス

試驗水壓　kg/cm²　常用壓力ハ　kg/cm²トス

12、本槽ニハ空氣送出管、空氣送入管、排水こつく、安全弁、壓力計等ノ接續口ヲ設ケ各接續口ハ軟銅鑄鐵製鍔座ヲ鉄締メ或ハそけつとヲ熔接スルモノトス

倘指定ノ位置ニハ周邊ヲ適當ニ補强シタル人孔手孔ヲ設クルモノトス

13、本槽ニハ1基ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、壓力計(最高目盛　kg/cm²)	1 箇
ロ、安全弁(ばね式てこ式口徑　mm)	1 箇

14、本槽ノ基礎ハ床上高　cm、　造、表面仕上トス

浮子式壓力式電氣開閉器	箇

1、本器ハ氣壓水槽內水位水槽內壓力ノ高低ニ依リ別記　電動機ノ回路ヲ開閉スルモノニシテ最高最低　ニ調整シタルモノトス

2、本器ハ下記製品ノ中何レカトス

製作所　型　番號

電動機自動制御盤面函筒

1、本器ハ浮子式壓力式電氣開閉器ト組合ハセ自動及手動ニ依リぽんぷ直結電動機ヲ制御スルモノトス

2、本器ノ盤函ハ　製壁掛型自立型ニシテ1面1箇ニ付下記器具ヲ配備シタルモノトス

イ、電流計	箇
ロ、三極單投双型開閉器(ひゅーず付同豫備品　箇添付)	箇
ハ、三極双投双型開閉器(自動手動切換用)	箇
ニ、三極双投双型開閉器(電動機切換用)	箇
ホ、單極單投双型開閉器(電流計短絡用)	箇
ヘ、單極單投双型開閉器(試驗用)	箇
ト、電磁開閉器	1 式
チ、過負荷繼電器(　式)	箇
リ、表示燈及點滅器(ひゅーず付)	1 組
ヌ、端子、がーどぼーるだ等	1 式

3、本器ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

但電流計ハ下記製品トス

電動機手動制御盤面函筒

1、本器ハ別記　電動機ヲ手動ニ依リ制御スルモノトス

2、本器ノ盤函ハ　製壁掛型自立型ニシテ下記器具ヲ配備シタルモノトス

イ、電流計	箇
ロ、三極單投双型電磁開閉器(ひゅーず付同豫備品　箇添付)	箇
ハ、三極双投双型開閉器(電動機切換用)	箇
ニ、單極開閉器(電流計短絡用)	箇
ホ、表示燈及點滅器(ひゅーず付)	1 組
ヘ、端子、がーどぼーるだ等	1 式

3、本器ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

但電流計ハ下記製品トス

電　氣　配　線　工　事

1、本工事ハ制御盤函ヨリ電動機及浮子式壓力式電氣開閉器ニ至ル配線竝地線工事ヲ施行スルモノトス

2、各配線ハ第　種絕緣電線ヲ使用シ　工事ニ依リ施行スルモノトス

3、金屬管工事ノ配線管ハ挿入電線ノ大サ及條數ニ依リ充分ナルモノニシテ管ハ日本標準規格第207號電線管厚鋼薄鋼管トシ管接手ハ同第208號電線管接手厚鋼薄鋼管接手ヲ使用スルモノトス

4、各配線ノ末端ニハさーびすかつぷヲ使用スルモノトス

Ⅲ 水　　槽

受　水　槽　　基

1、本槽ハ　　造ニシテ其寸法下記ノ如シ

内法　　×　　×深　　cm

2、本槽ノ構造下記ノ如シ

3、人孔ハ　箇所トシ鑄鐵製内徑　mm、　構造ノモノトシ鐵梯子ハ　箇所ヲ設クルモノトス

4、水位表示裝置ハ下記構造ノモノトス

5、槽壁ヲ貫通スル諸管ハ次ノ防水裝置ヲナスモノトス

屋　上　水　槽　　基

1、本槽ハ鋼板(　亞鉛めつき)製ニシテ其寸法下記ノ如シ

内法　　×　　×深　　mm

内徑　　×　　×深　　mm

2、板厚ハ側　mm、底　mmニシテ要部ハ形鋼ニテ補强シ鋲締熔接ニヨリ水密ニ製作スルモノトス

3、蓋ハ厚　mmノ鋼板ヲ使用シ要部ハ形鋼ニテ補强シ指定ノ位置ニ人孔手孔及浮子式電氣開閉器ノ取付座等ヲ設クルモノトス

4、本槽ニハ揚水管、給水管、溢水管、排水管等ノ接續口及鐵梯子ヲ設ケ管接續口ハ軟銅鑄鐵製鍔座ヲ鋲締メ或ハそけつとヲ熔接スルモノトス

5、水滴受ケハ大サ徑　×　mm、厚　mm鋼板製トシ水槽臺上ニ据付ケ排水口ヲ設クルモノトス

6、水槽臺ノ構造及寸法下記ノ如シ

氣　壓　水　槽　　基

1、本槽ハ鋼板(　亞鉛めつき)製ニシテ鋼板ハ日本標準規格第22號第一種乃至第四種ニ合格スルモノヲ使用シ其寸法下記ノ如シ

内徑　×胴長　mm

鏡板彎曲半徑　mm

2、板厚ハ胴　mm、鏡　mmニシテ各接合部ハ鋲締熔接トシ下記水壓試驗ニ合格スルモノトス

試驗水壓　kg/cm²

但常用壓力ハ　kg/cm²　トス

3、本槽ニハ送水管、給水管、空氣管、排泥管、安全弁、水面計、電氣自動開閉器等ノ接續口ヲ設ケ各接續口ハ軟銅鑄鐵製鍔座ヲ鋲締メ或ハそけつとヲ熔接スルモノトス

尙指定ノ位置ニハ周邊ヲ適當ニ補强シタル人孔手孔ヲ設クルモノトス

4、本槽ニハ1基ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、水面計(保護棒付)　1箇

ロ、壓力計(最高目盛　kg/cm²)　1箇

ハ、安全弁(バネテコ式口徑　mm)　1箇

5、水槽臺ノ構造及寸法下記ノ如シ

Ⅳ 配 管 材 料

管　　類

1、鑄鐵管ハ日本標準規格第80號水道用鑄鐵管又ハ同第272號水道用高級鑄鐵管ノ規格ニ合格スルモノニシテ直管ハ普通壓低壓管トス

管ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

直　管	異形管

2、鉛管ハ日本標準規格第81號ノ規格ニ合格スルモノニシテ内徑40mm以上ハ普通壓低壓管トス

管ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

3、亞鉛めつきがす管及管接手類ハ日本標準規格第271號水道用亞鉛めつき鋼管規格ニ依ルモノトスがす管及管接手類ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

ガ　ス　管	管接手類

4、半田付ケにつぶるハ青銅製ニシテねぢ部ハ日本標準規格第37號及第38號ニ適合シ半田接合部ハ外面磨キ仕上トシ水壓試驗　kg/cm²　ニ合格スルモノトス

弁　　類

1、球形仕切弁ハ口徑70mm以上ふらんじ型、らいじんのんらいじぐすてむぐすてむ式、弁體鑄鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ開閉記號ヲ有スルはんどる車付トス但球形弁ハ摺合革座セ式トス

2、逆止弁ハこま蝶番型ニシテ口徑70mm以上ふらんじ型弁體鑄鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ弁體側面ニ流水方向ヲ鑄出シタルモノトス

3、分水栓及止水栓ハ水道協會制定ノ水道用水栓類規格ニ合格スルモノトス

4、排泥弁、空氣弁、減壓弁、安全弁、球栓類ハ下記ノモノトス

5、弁類ハ水壓試驗　kg/cm²　ニ合格スルモノニシテ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

但下記ノモノハ掛員ノ承認スル製品ヲ使用スルモノトス

Ⅴ 配 管 工 事

1、屋内配管ハ亞鉛めつきがす管ヲ、屋外埋設配管ハ管ヲ使用スルモノトス

(埋設ハ地下 450mm 以上、車馬ヲ通ズル道路ノ部分ハ 760mm 以上トス)

但下記ノ部分ハ　管ヲ使用スルモノトス

2、制水用弁ハ鑄鐵管及がす管ニハ仕切弁ヲ、鉛管ニハ止水栓ヲ使用シ、逆止弁ハ蝶番型ヲ使用スルモノトス

但下記ノ箇所ニハ球形弁及こま型逆止弁ヲ使用スルモノトス

3、配管中圖示ノ箇所ニハ仕切弁ヲ設クルモノトス

4、管ノ切口ハ適當ナル工具ヲ用キ管徑ノ縮少セサル樣ニシ接續前ニ管内ヲ點檢掃除スルモノトス

5、鑄鐵管ノ挿受け接ぎニ於テハ挿し口ヲ受け口ニ偏リナク充分挿込ムモノトス

6、鉛管ノ接合ハ拭ひ接ぎトシ鑄鐵管又ハがす管ト鉛管トノ接合ニハ半田付けにつぶるヲ介スルモノトス

7、がす管ト鑄鐵管トノ接合ハふらんじ接ぎトス

8、がす管用ねぢハ日本標準規格第37號圓錐ねぢトス

9、ふらんじ接ぎ又ハゆにおん接ぎ=使用スルばつきんハ下記ノモノトス

10、配管ノ天井、床及壁ヲ貫通スル見エ掛リ箇所ニハ　製　仕上ノ座金ヲ取付クルモノトス

11、配管中こんくりーと又ハしんだーこんくりーとニ埋設ノ部分ハ下記ノ如ク養生スルモノトス

12、横管ハ空氣溜リヲ生ゼザル樣配管シ圖示ノ箇所ニハ排泥弁及空氣弁ヲ設クルモノトス

13、配管中圖示ノ箇所ニハ空氣ばねヲ設クルモノトス

14、管支持金物ハ下記ノモノトス

15、管支持金物ノ間隔ハ下記ノ如シ

管　種	管　徑	間　隔

16、配管終了後ハ其最下部ニ於テ　kg/cm²　ノ水壓試驗ヲ行フモノトス

但工事ノ都合ニヨリ配管ノ一部終了後水壓試驗ヲ行フ場合アルモノトス

Ⅵ 被覆及塗裝

1、本工事ニ於テ被覆ヲ施行スルモノ下記ノ如シ

水　　槽

管　　類

2、屋外ニ設置スル水槽ノ被覆材料、厚及施工方法下記如シ

3、管ノ被覆ハ下表ニ依ルモノトス

配管箇所		管		被覆		
		種類	徑	材料	厚mm	仕上
屋内	露出					

屋外	隠蔽						
	暗渠						
	露出						
	暗渠						

4、管接手類、曲管、受け口部及弁類ノ被覆ハ下記ノ如ク施行スルモノトス

5、本工事ニ使用スル鐵物ハ仕上部及めつき部ヲ除キさび止ぺいんと　回以上塗布スルモノトス
但水槽ハ下記塗裝ヲナスモノトス

6、本工事ニ於テ見エ掛リノ部分ハ下表ニ依リ仕上塗ヲ施スモノトス

配管箇所又ハ名稱	塗　料	色　合	回　数

7、特殊箇所ノ被覆及塗裝ハ下記ノ如ク施行スルモノトス

8、管ノ用途及系統ノ標示ハ下記ノ方法ニ依ルモノトス

給湯設備工事

Ⅰ 設備概要

Ⅱ 蒸汽湯罐　臺

1、罐ハ鑄鐵製組合罐ニシテ下記製品ノ中何レカノモノトス

製作者名	型錄ノ年次	型　式	番　號

2、罐ニハ下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、自動通風加減裝置	1 式
ロ、手動煙加減板及煙室	1 式
ハ、安全弁逃弁又ハ安全裝置	1 式
ニ、壓力計、水面計、水頭計、温度計、試こつく	1 式
ホ、火焚き及掃除道具類(道具掛共)	1 式
ヘ、豫備品	

3、罐ノ灰坑ハ煉瓦積又ハこんくりーと造トシ内部ハ耐火煉瓦張ヲ外部ハせめんともるたる塗リ仕上トス

4、罐ハ製作者指定ノ方法ニ依リ入念ニ据付ケ接合部ヨリ空氣ノ流入がすノ短絡等無キ樣注意スルモノトス

5、罐ハ現場据付完了後　kg/cm² ノ水壓試驗ヲ行ヒ漏水其他ノ缺點ナキコトヲ要ス

6、煙道ハ内徑　mm、内法　mm、鋼板(厚　mm)製トシ適當ナル位置ニふらんじ接ギ及掃除口ヲ設ケタルモノトス

煙道終端差込部分ノ周圍間隙ニハ紐狀石綿ヲ挿入シ伸縮ヲ自由ナラシムルモノトス

尙煙道ハ下記ノ如ク之ヲ支持スルモノトス

Ⅲ 貯湯槽　臺

1、本槽ハ亞鉛めつき(　法ニヨル)鋼板製ニシテ鋼板ハ日本標準規格第22號第1種乃至第4種ニ合格スルモノヲ使用シ其寸法次ノ如シ

内徑　mm×胴長　mm
鏡板彎面半徑　mm

2、板厚ハ胴　mm、鏡　mmニシテ各接合部ハ鋲締熔接トシ下記水壓試驗ニ合格スルモノトス
試驗水壓　kg/cm²
但常用壓力ハ　kg/cm² トス

3、本槽ニハ熱湯管、蒸汽管、還リ管、給湯管、還湯管、給水管、膨脹管、排泥管、温度計、自動調温器等ノ接續口ヲ設ケ各接續口ハ軟銅鑄鐵製鍔座ヲ鋲締メ或ハそけつとヲ熔接スルモノトス

尙指定ノ位置ニハ周邊ヲ適當ニ補强シタル人孔手孔ヲ設クルモノトス

内部ニハ加熱こいる(亞鉛めつき鐵管管徑　inx延長　m)ヲ具備スルモノトス

4、本槽ニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、温度計(　型)	1 箇
ロ、自動調温器(管徑　in　式)	1 組
ハ、自動空氣弁(　式)	1 箇
ニ、還水弁(管徑　in　式)	1 箇

5、本槽ハ下記ノ如ク支持スルモノトス

Ⅳ 循環ぽんぷ及附屬裝置

循環ぽんぷ　臺

1、本機ハ横型渦巻ぽんぷヲ電動機ト直結シ鑄鐵製共通床盤ニ取付ケタルモノニシテ手動制御ニ依リ運轉スルモノトス

2、本機ニ使用スルぽんぷノ要項下記ノ如シ

イ、總揚程	m
ロ、揚水量	l/sec
ハ、回轉數(電動機同期回轉數)	rpm
ニ、效　率	%以上
ホ、口　徑	mm
ヘ、軸受ノ種類	

3、ぽんぷノ回轉部分ハ完全ニ平衡シ羽根車及案内羽根ハ青銅製ニシテ平滑ナル面ヲ有シ且絕對ニ油類ノ混入セザル構造ニシテ床盤ハ周圍水返し付トス

4、ぽんぷニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、仕切弁	1 箇
ロ、逆止弁	1 箇
ハ、撓軸接手	1 組
ニ、基礎ぼると、すぱな其他必要ナル附屬品	1 式

5、本機ニ使用スル電動機ハ三相誘導電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力	kw hp
ロ、電　壓	v
ハ、周波數	~
ニ、同期回轉數	rpm
ホ、型　式	

6、本機ノ基礎ハ床上高　cm、　造、表面仕上トス

7、本機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

ぽんぷ	電動機

電動機手動制御盤面鹵箇

1、本器ハ循環ぽんぷ用電動機ヲ手動ニ依リ制御スルモノトス

2、本器ノ盤鹵ハ壁掛型自立型製ニシテ1面箇ニ付下記器具ヲ配備シタルモノトス

イ、電流計	箇
ロ、三極單投双型電磁開閉器(ひゆーず付同豫備品箇添付)	箇
ハ、三極双投双型開閉器(電動機切換用)	箇
ニ、單極開閉器(電流計短絡用)	箇
ホ、表示燈及點滅器(ひゆーず付)	1 組
ヘ、端子、がーどぼーるだ等	1 式

3、本器ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

但電流計ハ下記製品トス

電氣配線工事

1、本工事ハ制御盤鹵ヨリ電動機ニ至ル配線並地線工事ヲ施行スルモノトス

2、各配線ハ第　種絕緣電線ヲ使用シ　工事ニ依リ施工スルモノトス

3、金屬管工事ノ配線管ハ挿入電線ノ大さ及條數ニ依リ充分ナルモノニシテ管ハ日本標準規格第207號電線管厚銅管薄銅管トシ管接手ハ同第208號電線管接手厚銅薄銅管接手ヲ使用スルモノトス

4、各配管ノ末端ニハさーびすかつぷヲ使用スルモノトス

Ⅴ 配管材料

管　類

1、亞鉛めつきがす管及接手類ハ日本標準規格第271號水道用亞鉛めつき鋼管規格ニ依ルモノトスがす管及管接手類ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

がす管	管接手類

2、黄銅管ハ日本標準規格第52號第2種ノ規格ニ合格スルモノニシテ其寸法ハ日本標準規格第38號ニ依ルモノトス
管接手類ハ青銅製緣付型ニシテ其寸法ハ日本標準規格第129號ニ依ルモノトシ水壓試驗　kg/cm² ニ合格スルモノトス
管及管接手類ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

管	管接手類

3、膨脹接手ハ下記ノモノトシ水壓試驗　kg/cm² ニ合格スルモノトス

弁　類

1、球形仕切弁ハ口徑70mm以上ふらんじ型、らいじんのんらいじぐすてむんぐすてむ式、弁體鑄鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm以下ハ捻込型全部青銅製ニシテ何レモ開閉記號ヲ有スルはんどる車付トス
但球形弁ハ揖合セ革座式トス

2、逆止弁ハこま蝶番型ニシテ口徑70mm以上ふらんじ型、弁體鑄鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm

以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ弁體側面ニ流水方向ヲ鑄出シタルモノトス

3、排泥弁、空氣弁、減壓弁、安全弁類ハ下記ノモノトス

4、弁類ハ水壓試驗　kg/cm² ニ合格スルモノニシテ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

但下記ノモノハ掛員ノ承認スル製品ヲ使用スルモノトス

Ⅵ 配管工事

1、配管ハ亞鉛めつきがす管 / 黃銅管ヲ使用スルモノトス
但蒸汽管並其還リ管ハ亞鉛めつきヲ施サザルがす管ヲ使用スルモノトス

2、制水用弁ハ仕切弁ヲ、逆止弁ハ蝶番型ヲ使用スルモノトス
但下記ノ箇所ニハ球形弁及こま型逆止弁ヲ使用スルモノトス

3、配管中圖示ノ箇所ニハ仕切弁ヲ設クルモノトス
4、管ノ切口ハ適當ナル工具ヲ用キ管徑ノ縮少セザル樣ニシ接續前ニ管内ヲ點檢掃除スルモノトス
5、管用ねぢハ日本標準規格第37號圓錐ねぢトス
6、ふらんじ接ぎ又ハゆにおん接ぎニ使用スルばつきんハ下記ノモノトス

7、配管ノ天井、床及壁ヲ貫通スル見エ掛リ箇所ニハ　製　仕上ノ座金ヲ取付クルモノトス
8、配管中こんくりーと又ハしんだーこんくりーとニ埋設ノ部分ハ下記ノ如ク養生スルモノトス

9、配管中直進　m毎ニ1箇所ノ割合ニテ膨脹接手又ハ膨脹曲管ヲ設クルモノトス
10、膨脹接手又ハ膨脹曲管ノ機能ヲ充分ナラシムル爲メ適當ナル位置ニ於テ管ヲ固定スルモノトス
11、横管ハ空氣溜リヲ生ゼザル樣配管シ圖示ノ箇所ニハ排泥弁及空氣弁ヲ設クルモノトス
12、配管中圖示ノ箇所ニハ空氣ばねヲ設クルモノトス
13、管支持金物ハ下記ノモノトス

14、管支持金物ノ間隔ハ下記ノ如シ

管　徑	間　隔

15、配管終了後ハ其最下部ニ於テ　kg/cm² ノ水壓試驗ヲ行フモノトス
但工事ノ都合ニヨリ配管ノ一部終了後水壓試驗ヲ行フ場合アルモノトス

Ⅶ 被覆及塗裝

1、本工事ニ於テ被覆ヲ施行スルモノ下記ノ如シ
罐、　煙　道、　貯湯槽、　管　類

2、罐、煙道及貯湯槽ノ被覆材料厚及施工方法下記ノ如シ

3、管ノ被覆ハ下表ニ依ルモノトス

配管箇所		管徑	被覆		
			材料	厚mm	仕上
屋内	露出				
	隱蔽				

4、管接手類、曲管及弁類ノ被覆ハ下記ノ如ク施行スルモノトス

5、本工事ニ使用スル鐵物ハ仕上部及めつき部ヲ除キさび止ぺいんと　回以上塗布スルモノトス
6、本工事ニ於テ見エ掛リノ部分ハ下表ニ依リ仕上塗ヲ施スモノトス

配管箇所又ハ名稱	塗　料	色　合	回　數

7、特殊箇所ノ被覆及塗裝ハ下記ノ如ク施行スルモノトス

8、管ノ用途及系統ノ標示ハ下記ノ方法ニ依ルモノトス

排水及通氣設備工事

Ⅰ 設備概要

Ⅱ ぽんぷ及附屬裝置

渦卷ぽんぷ　臺

1、本機ハ横型 / 竪型渦卷ぽんぷヲ電動機ト直結シ鑄鐵製共受通床盤 / 臺ニ取付ケタルモノニシテ自動及手動制御ニ依リ運轉スルモノトス

2、本機ニ使用スルぽんぷノ要項下記ノ如シ

イ、總揚程	m
ロ、揚水量	l/sec
ハ、回轉數(電動機同期回轉數)	rpm
ニ、效　率	%以上
ホ、吸込口直徑	mm
ヘ、送出口直徑	mm
ト、軸受ノ種類	

3、ぽんぷノ回轉部分ハ完全ニ釣合ヒ羽根車ハ青銅製ニシテ平滑ナル面ヲ有シ浸水部ノ軸ハ　製トス
横型用ノ床盤ハ周圍水返し付トス

4、ぽんぷニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、仕切弁	1箇
ロ、逆止弁	1箇
ハ、芥除け(底弁付)	1箇
ニ、撓軸接手	1組
ホ、基礎ぼると、すぱな其他必要ナル附屬品	1式

5、本機ニ使用スル電動機ハ三相誘導電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力	kw / hp
ロ、電　壓	v
ハ、周波數	~
ニ、同期回轉數	rpm
ホ、型　式	
ヘ、起動裝置	

6、本機ノ基礎ハ床上高　cm、　造、表面仕上トス
本機ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

ぽんぷ	電動機

浮子式電氣開閉器　箇
1、本器ハ水溜坑内水位ノ高低ニヨリ別記ぽんぷ直結電動機ノ回路ヲ開閉スルモノトス
2、本器ハ下記製品ノ中ノ何レカトス

製作所	型	番號

電動機自動制御盤 / 函　面 / 箇
1、本器ハ浮子式電氣開閉器ト組合ハセ自動及手動ニ依リぽんぷ直結電動機ヲ制御スルモノトス
2、本器ノ盤 / 函ハ　製　壁掛型 / 自立型ニシテ1面箇ニ付下記器具ヲ配備シタルモノトス

イ、電流計	箇
ロ、三極單投双型開閉器(ひゆーず付 / 同豫備品　箇添付)	箇
ハ、三極双投双型開閉器(自動手動切換用)	箇
ニ、三極双投双型開閉器(電動機切換用)	箇
ホ、單極單投双型開閉器(電流計短絡用)	箇
ヘ、單極單投双型開閉器(試驗用)	箇
ト、電磁開閉器	1式
チ、過負荷繼電器(　式)	1箇
リ、表示燈及點滅器(ひゆーず付)	1組
ヌ、端子、かーどほーるだ等	1式

3、本器ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス
但電流計ハ下記製品トス

高水位警報器　箇
1、本器ハ水溜坑内最高水位ノ超過ヲ警報スルモノニシテ下記製品ノ中ノ何レカトス

製作所	型	番號

電氣配線工事
1、本工事ハ制御盤 / 函ヨリ電動機及浮子式電氣開閉器ニ至ル配線並地線工事ヲ施行スルモノトス
2、各配線ハ第　種絶緣電線ヲ使用シ　工事ニ依リ施行スルモノトス
3、金屬管工事ノ配線管ハ挿入電線ノ大さ及條數ニ依リ充分ナルモノニシテ管ハ日本標準規格第207號電線管厚鋼 / 薄鋼管トシ管接手ハ同第208號電線管接手厚鋼 / 薄鋼管接手ヲ使用スルモノトス
4、各配管ノ末端ニハさーびすかつぷヲ使用スルモノトス

Ⅲ 配管材料

1、鑄鐵管ハ衞生工業協會制定排水用鑄鐵管規格ニ合格スルモノニシテ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

2、鉛管ハ衞生工業協會制定排水通氣及洗滌用鉛管規格ニ合格スルモノニシテ下記製造所ノ製品ヲ使用ス

ルモノトス

3、亜鉛めつきがす管及管接手類ハ日本標準規格第271號水道用亜鉛めつき鋼管規格ニ依ルモノトス
ねぢ付排水管接手類ハ鋳鐵製ニシテ水壓試驗 kg/cm² ニ合格スルモノトシ其内外面ニ沸し附け亜鉛めつきシタルモノトス
がす管及管接手類ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

が す 管	ねぢ付排水管接手類	がす管接手類

4、嫘管及半田付けにつぶるハ青銅製ニシテ半田接合部ハ外面磨き仕上トシ水壓試驗 kg/cm² ニ合格スルモノトス
5、銅板亜鉛めつき鋼板製通氣管ノ板厚ハ mm トシ竪接目ハ甲馳掛けトス
6、陶管ハ日本標準規格第59號ノ 管トシ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

7、こんくりーと管ハ下記ノモノトス

8、掃除口金物ハ下記ノモノトス

9、通氣笠ハ下記ノモノトス

10、仕切弁ハ口徑70mm以上ふらんじ型、らいじんのんらいじぐすてむんぐすてむ式、弁體鋳鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ開閉記號ヲ有スルはんどる車付トス
11、逆止弁ハこま蝶番型ニシテ口徑70mm以上ふらんじ型弁體鋳鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ弁體側面ニ流水方向ヲ鋳出シタルモノトス
12、弁類ハ水壓試驗 kg/cm² ニ合格スルモノニシテ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

Ⅳ 配 管 工 事

1、管及管接手類ノ使用別ハ下記ノ如シ
（1）排便管 （2）排水管 （3）通氣管、
2、管ノ切口ハ適當ナル工具ヲ用ヰ管徑ノ縮少セザル様ニシ接續前ニ管内ヲ點檢掃除スルモノトス
3、鋳鐵管ノ挿受け接ぎニ於テハ挿し口ヲ受け口ニ偏リナク充分挿込ムモノトス
4、鉛管ノ接合ハ拭ひ接ぎトシ鋳鐵管又ハがす管ト鉛管トノ接合ニハ嫘管又ハ半田付けにつぶるヲ弁スルモノトス
5、がす管用ねぢハ日本標準規格第37號圓錐ねぢトス
6、配管ノ天井、床及壁ヲ貫通スル見エ掛リ箇所ニハ 製 仕上ノ座金ヲ取付クルモノトス
7、配管中こんくりーと、しんだーこんくりーと又ハ地中ニ埋設ノ部分ハ下記ノ如ク養生スルモノトス

8、排水及通氣配管ノ横走部ニハ各下記ノ勾配ヲ付スル様努ムルモノトス

9、管支持金物ハ下記ノモノトス

10、管支持金物ノ間隔ハ下記ノ如シ

管 種	管 徑	間 隔

11、配管終了後ハ水張リ試驗ヲ行フモノトス
但工事ノ都合ニヨリ配管ノ一部終了後其最下部ニ於テ kg/cm² ノ水壓試驗ヲ行フ場合アルモノトス

Ⅴ 被覆及塗裝

1、本工事ニ於テ被覆ヲ施工スル部分ハ下記ノ如シ

2、被覆ハ下記ノ如ク施工スルモノトス

3、本工事ニ使用スル鐵物ハ仕上部及めつき部ヲ除キさび止ぺいんと 回以上塗布スルモノトス
4、本工事ニ於テ見エ掛リノ部分ハ下記ニ依リ仕上塗ヲ施スモノトス

5、特殊箇所ノ被覆及塗裝ハ下記ノ如ク施行スルモノトス

6、管ノ用途及系統ノ標示ハ下記ノ方法ニ依ルモノトス

衛生器具設健工事

Ⅰ 設 備 概 要

Ⅱ 衛 生 器 具

1、本工事ニ於テ設備スベキ器具ハ下記ノ如シ
但表中ノ型番號ハ下記型錄ニ依ルモノトス
型錄發行年度　表中
發行者名　又ハ記號　略符號

名 稱	型番號又ハ寸法	數 量	附屬品

2、陶器ハ下記製造所製 等品トシテ必要ニ應ジいんき試驗其他ヲ行フコトアルモノトス

3、各種金具類ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

名 稱	製 作 所

4、水栓、弁及給水管類ハ kg/cm² ノ水壓試驗ニ合格スルモノトス
5、青銅又ハ黄銅製金具類ノ中室内見エ掛リ部ハめつきトス
但下記箇所ノモノハ めつきトス

Ⅲ 取 付 工 事

1、壁ニ取付クベキ器具ハ壁ノ構造ニ應ジ木煉瓦、木ねぢ當て板又ハ埋込ぼると等ヲ以テ堅固ニ取付クルモノトス
2、床ニ取付クベキ器具ハ床ノ構造ニ應ジ下記ノ方法ニ依リ取付クルモノトス

3、各器具ハ必要ニ應ジ適當ナル養生ヲナスモノトス
4、各器具ハ取付終了後通水排水等ノ試驗ヲ行フモノトス

消火栓設備工事

Ⅰ 設 備 概 要

Ⅱ ぽんぷ及附屬裝置

ぽんぷ 臺
1、本機ハ横型たーびんぽんぷヲ電動機及がそりん機關ト直結シ鋳鐵製共通床盤ニ取付ケタルモノニシテ自動及手動制御ニ依リ運轉スルモノトス
2、本機ニ使用スルぽんぷノ要項下記ノ如シ

イ、總揚程	m
ロ、揚水量	l/sec
ハ、回轉數(電動機同期回轉數)	rpm
ニ、效 率	%以上
ホ、吸込口直徑	mm
ヘ、送出口直徑	mm
ト、軸受ノ種類	

3、ぽんぷノ回轉部分ハ完全ニ釣合ヒ羽根車及案内羽根ハ青銅製ニシテ平滑ナル面ヲ有シ且絶對ニ油類ノ混入セザル構造ニシテ床盤ハ周圍水返しトス
4、ぽんぷニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、仕切弁	1 箇
ロ、逆止弁	1 箇
ハ、壓力計(最高目盛 kg/cm²)	1 箇
ニ、眞空計	1 箇
ホ、芥除け(底弁付)	1 箇
ヘ、撓軸接手	組
ト、基礎ぼると、すぱな其他必要ナル附屬品	1 式

5、本機ニ使用スル電動機ハ三相誘導電動機ニシテ其要項下記ノ如シ

イ、定格出力	kw hp
ロ、電 壓	v
ハ、周波數	~
ニ、同期回轉數	rpm
ホ、型 式	
ヘ、起動裝置	

6、本機ニ使用スルがそりん機關ノ要項下記ノ如シ

イ、容 量	kw hp
ロ、回轉數	rpm
ハ、しりんだ數	箇
ニ、がそりん消費量(kw當リ / hp當リ)	l/h

7、がそりん機關ハ手動ニ依リ始動スルモノトシ運轉平滑ニシテ震動及騒音少ク全負荷ニ於テ 時間以上完全ニ連續運轉スルモノトス
8、しりんだ冷却裝置ハ下記ノ如シ

9、がそりん機關ニハ1臺ニ付下記附屬品ヲ具備スルモノトス

イ、がそりん槽(容量 l)	1 箇
ロ、氣化器	1 箇
ハ、まぐねとー	1 箇

ニ、調速機　1 箇
ホ、くらつち(　式)　1 箇
ヘ、消音器　1 箇
ト、はうじんぐ　1 式
チ、すぱな其他必要ナル附屬品　1 式
リ、豫備品

10、本機ノ基礎ハ床上高　cm、造、表面仕上トス

11、本機ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

ぽんぷ	電動機	がそりん機關

電動機自動制御盤(函)　面(箇)

1、本器ハ消火栓箱内電氣開閉器ト組合ハセ自動及手動ニ依リぽんぷ直結電動機ヲ制御スルモノトス

2、本器ノ盤(函)ハ　製壁掛型(自立型)ニシテ1面(箇)ニ付下記器具ヲ配備シタルモノトス

イ、電流計　箇
ロ、三極單投双型開閉器(ひゆーず付(同豫備品　箇添付))　箇
ハ、三極双投双型開閉器(自動手動切換用)　箇
ニ、三極双投双型開閉器(電動機切換用箇)　箇
ホ、單極單投双型開閉器(電流計短絡用)　箇
ヘ、單極單投双型開閉器(試驗用)　箇
ト、電磁開閉器　1 式
チ、過負荷繼電器(　式)　箇
リ、表示燈及點滅器(ひゆーず付)　1 組
ヌ、端子、かーどほーるだ等　1 式

3、本器ハ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

但電流計ハ下記製品トス

電氣配線工事

1、本工事ハ制御盤(函)ヨリ電動機及消火栓箱内電氣開閉器ニ至ル配線並地線工事ヲ施行スルモノトス

2、各配線ハ第　種絕緣電線ヲ使用シ　工事ニ依リ施工スルモノトス

3、金屬管工事ノ配線管ハ挿入電線ノ大さ及條數ニ依リ充分ナルモノニシテ管ハ日本標準規格第207號電線管厚鋼(薄鋼)管トシ管接手ハ同第208號電線管接手厚鋼(薄鋼)管接手ヲ使用スルモノトス

4、各配管ノ末端ニハさーびすかつぷヲ使用スルモノトス

Ⅲ 消火栓其他

消火栓箱　箇

1、本箱ハ銅板(材)製、仕上ニシテ構造及寸法並取付方法下記ノ如シ

2、本箱ニハ1箇ニ付下記器具ヲ設備スルモノトス

イ、消火栓(口徑　mm)　1 箇
消火栓ハふらんじ型、直弁(捻込型、角弁)式トシ青銅製、仕上トス
但ほーす接手ハ下記ノモノトス

ロ、ほーす(口徑　mm、長　m)兩端接手付
本ほーすハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

ハ、筒先き(射口徑　mm)　1 箇
筒先きハ　製、　仕上トス

ニ、ほーす掛け　1 箇
ほーす掛けハ　製、　仕上トス

ホ、電氣開閉器　1 箇
本器ハ　式トス

3、外部消防ほーす連結口ハ下記ノモノトス

Ⅳ 配管材料

管類

1、鐵管ハ日本標準規格第80號水道用鑄鐵管又ハ同第272號水道用高級鑄鐵管ノ規格ニ合格スルモノニシテ直管ハ普通壓(低壓)管トス
管ハ下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

直管	異形管

2、亞鉛めつきがす管及管接手類ハ日本標準規格第271號水道用亞鉛めつき鋼管規格ニ依ルモノトス
がす管及管接手類は下記製造所ノ製品ヲ使用スルモノトス

がす管	管接手類

弁類

1、球形仕切弁ハ口徑70mm以上ふらんじ型、らいじんぐすてむ(のんらいじんぐすてむ)式、弁體鑄鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ開閉記號ヲ有スルはんどる車付トス
但球形弁ハ摺合せ(革)座式トス

2、逆止弁ハこま(蝶番)型ニシテ口徑70mm以上ふらんじ型弁體鑄鐵製、弁及弁座ハ青銅製トシ口徑55mm以下ハ捻込型、全部青銅製ニシテ何レモ弁體側面ニ流水方向ヲ鑄出シタルモノトス

3、排泥弁、空氣弁類ハ下記ノモノトス

4、弁類ハ水壓試驗　kg/cm² ニ合格スルモノニシテ下記製作所ノ製品ヲ使用スルモノトス

但下記ノモノハ掛員ノ承認スル製品ヲ使用スルモノトス

Ⅴ 配管工事

1、屋内配管ハ亞鉛めつきがす管ヲ使用スルモノトス
但下記ノ部分ハ鑄鐵管ヲ使用スルモノトス（屋外埋設ハ地下450mm 以上、車馬ヲ通ズル道路ノ部分ハ760mm 以上トス）

2、制水用弁ハ鑄鐵管及がす管ニハ仕切弁ヲ使用シ逆止弁ハ蝶番型ヲ使用スルモノトス
但下記ノ箇所ニハ球形弁及こま型逆止弁ヲ使用スルモノトス

3、管ノ切口ハ適當ナル工具ヲ用ヰ管徑ノ縮少セサル樣ニシ接續前ニ管内ヲ點檢掃除スルモノトス

4、鑄鐵管ノ挿受け接ぎニ於テハ挿し口ヲ受け口ニ偏リナク充分挿込ムモノトス

5、がす管ト鑄鐵管トノ接合ハふらんじ接ぎトス

6、がす管用ねぢハ日本標準規格第37號圓錐ねぢトス

7、ふらんじ接ぎ又ハゆにおん接ぎニ使用スルぱつきんハ下記ノモノトス

8、配管ノ天井、床及壁ヲ貫通スル見エ掛リ箇所ニハ　製　仕上ノ座金ヲ取付クルモノトス

9、配管中こんくりーと又ハしんだーこんくりーとニ埋設ノ部分ハ下記ノ如ク養生スルモノトス

10、横管ハ空氣溜リヲ生セサル樣配管シ圖示ノ箇所ニハ排泥弁及空氣弁ヲ設クルモノトス

11、管支持金物ハ下記ノモノトス

12、管支持金物ノ間隔ハ下記ノ如シ

管徑	間隔

13、配管終了後ハ其最下部ニ於テ　kg/cm² ノ水壓試驗ヲ行フモノトス
但工事ノ都合ニ依リ配管ノ一部終了後水壓試驗ヲ行フ場合アルモノトス

Ⅵ 被覆及塗裝

1、管ノ被覆ハ下記ノ如ク施工スルモノトス

2、管接手類及弁類ノ被覆ハ下記ノ如ク施工スルモノトス

3、鐵物ノ塗裝ハ仕上部及めつき部ヲ除キさび止ぺいんと　同以上塗布スルモノトス

4、本工事ニ於テ見エ掛リノ部分ハ下記ニ依リ仕上塗ヲ施スモノトス

5、管ノ用途及系統ノ標示ハ下記ノ方法ニ依ルモノトス

附　錄

フーバースコード

內　容

第 1 章　術語ノ定義
第 2 章　通　則
第 3 章　材料ノ品質及ビ重量
第 4 章　接手及ビ接續
第 5 章　「トラツプ」及ビ掃除口
第 6 章　給水及ビ排水
第 7 章　衞生工事器具
第 8 章　室內及ビ器具ノ換氣
第 9 章　汚水管、排水管及ビ通氣管
第 10 章　屋內下水管及宅地下水管
第 11 章　雨水排水管
第 12 章　冷凍機安全庫及ビ特殊排水管
第 13 章　維　持
第 14 章　檢査及ビ試驗

第 1 章 術語の定義
(Definitions of Terms)

第 1 條　衞生工事 (Plumbing)
衞生工事トハ、建築物ニ對スル給水並ニ液體及ビ水洗汚物 (Water-Carried Waste) ノ排出ノ爲メ、管 (Pipes)、器具 (Fixtures) 及ビ其ノ他ノ裝置 (Apparatus) ヲ設備スル技術ヲ謂フ

第 2 條　衞生工事系統 (Plumbing System)
建築物ノ衞生工事系統トハ、給水配管 (Water Supply Distributing Pipes) 器具及ビ器具用「トラップ」(Fixture Trap)、汚水管 (Soil Pipes)、排水管 (Waste Pipes)、通氣管 (Vent Pipes)、屋內下水管 (House Drain)、宅地下水管 (House Sewer)、雨水下水 (Storm-Water drainage) 及ビ上記ノ建築物ノ內部ニ於ケル、若シクハ建築物ト隣接スル部分ニ於ケル凡テノ裝置、附屬物及ビ接續ヲ含ム

第 3 條　水道引込管 (Water-Service Pipe)
水道引込管トハ水道本管 (Water Main) ヨリ引込ムベキ建築物ニ至ル管ヲ謂フ

第 4 條　配水管 (Water-Distributing Pipe)
配水管トハ水道引込管ヨリ衞生工事器具 (Plumbing Fixtures) ニ至ル水ヲ搬送スル管ヲ謂フ

第 5 條　衞生工事器具 (Plumbing Fixtures)
衞生工事器具トハ水及ビ其ノ他ノ液體若クハ水洗汚物ヲ受ケ容レ之ヲ其ノ接續スル排水系 (Drainage System) ニ流出セシムルヲ目的トスル受器具ヲ謂フ

第 6 條　「トラツプ」(Trap)
「トラツプ」トハ管ヲ通過スル下水 (Sewage) 若クハ排水 (Waste Water) ノ流出ニ著シキ影響 (Materially affecting) ヲ與ヘフルコト無クシテ、空氣若クハ瓦斯ガ管內ヲ通過スルヲ妨グルガ如ク構造セラレタル附屬品 (Fitting) 若クハ裝置 (Device) ヲ謂フ

第 7 條　「トラツプ」水封 (Trap Seal)
「トラツプ」水封トハ「トラツプ」ノ堰頂 (Crown Weir) ト深長 (Dip) トノ垂直距離ヲ謂フ

第 8 條　通氣管 (Vent Pipe)
通氣管トハ建物排水系統 (House-Drainage System) ノ通氣ヲ司リ、且ツ「トラツプ」ノ「サイフオン」作用 (Syphonage) 及ビ逆壓ヲ防ガンガ爲ニ取付ケラレタル凡テノ管ヲ謂フ

第 9 條　部分排氣管 (Local Ventilating Pipe)
部分排氣管トハ室內若クハ器具ヨリ汚染セル空氣ヲ排出セシムル管ヲ謂フ

第 10 條　汚水管 (Soil Pipe)
汚水管トハ便器 (Water Closets) ノ排出物ヲ單獨ニ若クハ他ノ器具ヨリノ排出汚水ト合シテ、之ヲ屋內下水管ニ流出セシムル管ヲ謂フ

第 11 條　排水管及ビ特殊排水管 (Waste Pipe and Special Waste)
排水管トハ便器ヲ除ク一般ノ衞生工事器具ノ排出汚水ヲ受ケテ、之ヲ屋內下水管、汚水竪管 (Soil Stacks) 或ハ排水竪管 (Waste Stacks) ニ流出セシムル管ヲ謂フ、斯ル管ガ屋內下水管或ハ汚水竪管ヘ直接ニ連結セラレザル場合ニハ之ヲ特殊排水管ト云フ

第 12 條　本　管 (Main)
或ル管系ノ水平的、垂直的若クハ連續的ノ本管トハ夫々ノ管系ニ於テ、器具ノ流出口若クハ「トラツプ」ヨリ、直接ニ若クハ支管ヲ經テ排水管、通氣管若クハ背部通氣管ヲ受クル部分ヲ謂フ

第 13 條　支　管 (Branch)
或ル管系ニ於ケル支管トハ、横若クハ縱ノ延長管若クハ縱ノ腕 (Vertical Arm) ヲ用ヒ或ハ用フル事ナク、本管ト直接ニ接續セラレザル器具ノ出口ヲ受クル爲メ、水平的ニ緩勾配ヲナシタル、本管ヨリ延長セラレタル部分ヲ謂フ

第 14 條　竪　管 (Stack)
竪管トハ、汚水管、排水管若クハ通氣管ノ夫々垂直的部分ノ總稱トス

第 15 條　屋內下水管 (House Drain)
屋內下水管トハ建物排水工事系統 (House Drainage System) ニ於ケル最下部ノ水平管ニシテ、建物ノ壁體以內ニ在ル汚水管、排水管其ノ他ノ排出管ヲ受ケ、之ヲ建物ノ內側壁體面ヨリ外ヘ測リ 5 呎ノ距離ヨリ始マル宅地下水管 (House Sewer) ニ流出セシムル部分ヲ謂フ

第 16 條　宅地下水管 (House Sewer)
宅地下水管トハ建物排水工事系統ニ於ケル水平管ニシテ、建物ノ內側壁體面ヨリ外ヘ測リ 5 呎ノ距離ヨリ始マリ、下水本管若クハ汚水溜 (Cess Pool) ト接續スル部分ニシテ、單一敷地ノ排水ヲ流出セシムル管ヲ謂フ

第 17 條　大キサ及ビ長サ (Size and Length)
管ノ口徑 (Caliber) 卽チ大キサハ、鐵管ヲ除ク他ヲ例外シ公稱內徑 (Nominal Internal Diameter) ヲ以テス。鑄鐵管ハ外徑ヲ以テ測ル。管ノ延べ長サ (Developed Length) ハ、管及ビ管具類 (Pipe and Fitting) ノ中心線ニ沿ヒテ測ルモノトス

第 18 條　閉塞端 (Dead Ends)
閉塞端トハ汚水管、排水管、通氣管、屋內下水管若クハ宅地下水管ヨリ出ヅル岐管ニシテ、其ノ延べ距離 2 呎以上ノ場所ニ於テ、被セ蓋 (Cap) 栓 (Plug) 若クハ其ノ他ノ管具類ニ依ツテ絡レルモノヲ謂フ

第 2 章 通　則
(General Regulations)

第 19 條　横走管ノ勾配 (Grades of Horizontal Piping)
横走管ハ實際的直線ニ配管スベク、1 呎ニ付 3 分ノ 1 吋以上ノ一定勾配ヲ保チ、間隔10呎以內毎ニ支持スルカ若クハ緊着スベシ。竪管ハ凡テ其ノ基底ニ於テ支持セラルベク、其ノ横走管トハ堅固ニ接合スベシ

第 20 條　方向轉換 (Change in Direction)
凡テ管ノ方向轉換ノ場合ニハ、45度Y管、半Y管、若クハ 4 分ノ 1 曲管、6 分ノ 1 曲管、8 分ノ 1 曲管又ハ16分ノ 1 曲管等ノ長程ノモノヲ適當ニ使用スベシ。但シ竪管ノ場合ニハ單獨 TY 管 (Single Sanitary Tess) ヲ使用スル事ヲ得。汚水管及ビ排水管ニ於テ水平ヨリ垂直ニ轉換スル場合ニハ 4 分ノ 1 短程曲管 (Short Quarter Bends) ヲ使用スルコトヲ得。通氣管ノ場合ニハT管及ビ十字管 (Crosses) ヲ使用スルコトヲ得

第 21 條　禁止器具 (Prohibited Fittings)
二重「ハブ」(Double Hub) 二重T管若クハ二重TY管 (Double Sanitary Tess) ノ岐管ハ汚水管若クハ排水管トシテ使用スルヲ得ズ。屋內下水管、汚水管、排水管若クハ通氣管ニ穿孔スルコト及ビ栓口ヲ螺切スルコト、並ニ鞍形承口 (Saddle Hub) 及ビ帶金物 (Band) ヲ使用スルコトヲ禁ズ

第 22 條　閉塞端 (Dead Ends)
如何ナル場合ニ在リテモ排水工事系統ノ施設ニハ閉塞端ヲ避クベシ

第 23 條　材料ノ保護 (Protection of Materials)
壁體ノ下部若クハ內部ヲ通過スル管ハ凡テ破損セザルヤウ保護スベシ、「シンダーコンクリート」若クハ其ノ他ノ侵蝕性ノ材料ノ下部若クハ內部ヲ通過スル管ハ凡テ外部ヨリ侵蝕セラレザル樣保護スベシ

第 24 條　工　作 (Workmanship)
工作ハ本條令ノ各項ニ於テ要求スル結果ヲ充分ニ確保スルガ如キ資格ノモノタルベシ

第 25 條　建築主ノ爲ス衞生工事施設 (Installation of Plumbing by Owner)
建築主ノ施設セル衞生工事ハ凡テ本條令ニ適合スベク、且ツ本條令ノ全項ヲ通ジ「衞生工事業者」ナル語ハ「建築主」ニ適用セラルベシ

第 3 章 材料ノ品質及ビ重量
(Quality and Weight of Materials)

第 26 條　材料ノ品質 (Materials, Quality of)
一般排水工事系統、或ハ衞生工事系統、又ハ其ノ各

部分ニ使用セラルル凡テノ材料ハ全ク缺點ナキモノタルベシ

第 27 條　鑄票或ハ刻票(Label, Cast or Stamped)
衞生工事系統、若クハ排水工事系統ニ使用スル管、管具、「トラップ」器具及ビ裝置ハ凡テ各個毎ニ、其ノ重量若シクハ其ノ品質ヲ製造業者ノ商標若シクハ名稱ト共ニ刻スルカ、若クハ削消セザル樣標識スベシ

第 28 條　硬燒陶管(Vitrified Clay Pipe)
硬燒陶管ハ凡テ下水陶管ニ對スル A·S·T·M標準仕樣書(American Society for Testing Materias-Standard Specifications for Clay Sewer Pipe) 累次名稱 C 13—12) ニ適合スベキモノタルベシ

第 29 條　鑄鐵管 (Cast Iron Pipe)
(a) 品質(Quality) 鑄鐵管及ビ管具ハ總テ鑄鐵汚水管及ビ管具ニ對スル A·S·T·M標準仕樣書 (累次名稱 A 74—18) ニ適合スベキモノタルベシ
(b) 塗裝(Coating)　地下ニ埋設スベキ鑄鐵管及ビ管具ハ總テ「アスファルト」若クハ「コールター・ピッチ」ニテ塗裝スベシ

第 30 條　錬鐵管 (Wrought Iron Pipe)
錬鐵管ハ凡テ鎔接錬鐵管(Welded Wrought Iron Pipe) ニ對スル A·S·T·M 標準仕樣書 (累次名稱 A 72—27) ニ適合シ且ツ亞鉛鍍シタルモノタルベシ

第 31 條　軟鋼管 (Mild Steel Pipe)
鋼管ハ凡テ鎔接及引拔鋼管 (Welded and Seamless Steel Pipe) ニ對スル A·S·T·M 標準仕樣書ニ適合シ且ツ亞鉛鍍シタルモノタルベシ (累次名稱 A 53—27)

第 32 條　眞鍮管及ビ銅管(Brass and Copper Pipe)
眞鍮管及ビ銅管ハ夫々眞鍮管標準型ニ對スル A·S·T·M標準仕樣書(累次名稱夫々 B 43—24 及ビ B 42—24) ニ適合スルモノタルベシ

第 33 條　鉛管ノ口徑及ビ重量(Lead Pipe, Diameter, Weight)
鉛管ハ凡テ品質優良ノ引拔管ニシテ且ツ其ノ重量ハ長サ 1 呎ニ付キ下表ニ示スモノ以上タルベシ
(a) 汚水管、排水管、通氣管、若クハ洗滌管及ビ曲管竝ニ「トラップ」ヲ含ム (特肉薄管、Extra light)
(b) 地上用給水管 (肉厚管—Strong)
(c) 地下埋設用給水管 (特肉厚—Extra Strong)

(a)		(b)		(c)	
內徑(吋)	重量(長サ1呎ニ付キ) 所 オンス	內徑(吋)	重量(長サ1呎ニ付キ) 所 オンス	內徑(吋)	重量(長サ1呎ニ付キ) 所 オンス
1	2 —	½	2 —	½	2 8
1¼	2 8	⅝	2 8	⅝	3 —
1½	3 8	¾	3 —	¾	3 8
2	4 —	1	4 —	1	4 12
3	4 12	1¼	4 12	1¼	6 —
4	6 —	1½	6 —	1½	7 8
		1¾	6 8	1¾	8 —
		2	7 —	2	9 —

第 34 條　鉛鈑 (Sheet Lead)
鉛鈑ハ其ノ重量 1 平方呎ニ付キ 4 斤以上タルベシ

第 35 條　銅鈑若クハ眞鍮鈑 (Sheet Copper or Brass)
銅鈑若クハ眞鍮鈑ハ「B·S ゲーヂ」18番以上タルベシ、但シ部分的排氣管及ビ室內排氣管ニ對シテハ同 26番以上タルベシ

第 36 條　亞鉛鍍鐵鈑 (Galvanized Sheet Iron)
亞鉛鍍鐵鈑ハ「B·S ゲーヂ」ニテ下記以上ノモノタルベシ

管徑		
2吋—12吋管		26番
13吋—20吋管		24番
21吋—26吋管		22番

第 37 條　螺子付管具類 (Threaded Fittings)
(a) 捻込管具ハ鑄鐵製、可鍛鐵製若クハ眞鍮製ニシテ、標準重量及ビ標準寸法ヲ有スルモノタルベシ
(b) 排水用管具ハ鑄鐵製、可鍛鐵製若クハ眞鍮製ニシテ、平滑ナル通水面ノモノタルベク、且ツ直接螺子切ノモノタルベシ
(c) 給水管トシテ使用スル管具ハ凡テ亞鉛鍍シタルモノタルベシ
(d) 可鍛鑄鐵管具ハ凡テ亞鉛鍍シタルモノタルベシ

第 38 條　カシメ侯輪 (Calking Ferrules)
眞鍮製カシメ侯輪ハ、品質優良ナル砲金鑄物 (Red Cast Brass) ニシテ其ノ重量及ビ寸法ハ下表ニ從フモノタルベシ

管徑(吋)	實內徑(吋)	長(吋)	重量 所 オンス
2	2¼	4½	1— 0
3	3¼	4½	1—12
4	4¼	4½	2— 8

第 39 條　半田付「ニップル」及ビ「ブッシング」(Soldering Nipples and Bushings)
(a) 半田付「ニップル」ハ鐵管ト同一ノ大キサノモノ若クハ肉厚砲金鑄物ニシテ其ノ重量下表ニ示スモノヲ下ラザルモノタルベシ

直徑(吋)	重量 所 オンス
1¼	6
1½	8
2	14
2½	1— 6
3	2— 0
4	3— 8

(b) 半田付「ブッシング」(Soldering Bushings) ハ鐵管ト同一ノ大キサノ眞鍮管若クハ肉厚砲金鑄物タルベシ

第 40 條　便器用床「フランヂ」(Floor Flanges for Water Closets)
便器用ノ床「フランヂ」ハ厚サ16分ノ 3 吋以上ニシテ且ツ眞鍮製若クハ鑄鐵製ノモノタルベシ

第 4 章　接手及ビ接續
(Joint and Connections)

第 41 條　水密ニシテ且ツ氣密ナル接手(Water and Air Tight Joint)
本章ニ列擧セル接手及ビ接續ハ、凡テ永久的ニ氣密ニシテ、且ツ水密ナル如ク造ラレタルモノタルベシ

第 42 條　硬燒陶管 (Vitrified Pipe)
硬燒陶器間ノ接手或ハ之レト金屬間トノ接手ハ注ギ込ミ接手(Poured Joint) タルベシ

第 43 條　カシメ接手 (Calked Joint)
カシメ接手ハ凡テ橫架(Oakam) 若クハ麻(Hemp) ヲ以テ固ク充塡シ、且ツ此ノ上ニ深サ 1 吋以上ノ純鉛ノミヲ使用シテ充分ニ充塡シタル上保持シ、且ツ「ペンキ」「ワニス」若クハ「パテ」等ハ接手試驗完了後ニアラザレバ塗布スルヲ得ズ

第 44 條　螺子接手 (Screw Joint)
螺子接手ハ凡テ米國標準規格型螺子接手タルベク、劍屑切屑ハ完全ニ除去スベシ

第 45 條　鑄鐵 (Cast Iron)
鑄鐵管ノ接手ハ承認セラレタル方法ニ據ルカシメ接手若クハ螺子接手トナスベシ

第 46 條　錬鐵管、銅管若クハ眞鍮管等ト鑄鐵管トノ接續 (Wrought Iron, Steel or Brass to Cast Iron)
接續ハ承認セラレタル方法ニ據ル螺子接手若クハカシメ接手トナス事ヲ得

第 47 條　鉛管 (Lead Pipe)
鉛管ト鉛管トノ接合及ビ鉛管ト眞鍮管若クハ銅管トノ接合、鉛管ト嵌輪半田付「ニップル」、「ブッシング」若クハ「トラップ」トノ接合、「トラップ」ノ下水側「トラップ」ノ流入口ノ隱蔽接合ハ全部拭ヒ接手(Full-wiped Joint) トシ、接合ノ兩側ニ於ケル半田ノ露出面ハ夫々 4 分ノ 3 吋以上タルベク、接合部ノ最厚肉部ニ於テ最少限度 8 分ノ 3 吋以上タルコトヲ要ス

第 48 條　鑄鐵管、鋼管若クハ錬鐵管等ト鉛管トノ接續(Lead to Cast Iron, Steel, or Wrought Iron)
接續ハカシメ嵌輪、半田付「ニップル」若クハ「ブッシング」ニ據リテ接合スベシ

第 49 條　辷リ接手及ビ「ユニオン」(Slip Joints and Unions)
辷リ接手ハ「トラップ」水封若クハ「トラップ」ノ流入口ニ於テノミ使用スルコトヲ得。「ユニオン」ハ「トラップ」ノ下水側ニ於テハ露出工事トシ、隱蔽若クハ密閉スベカラズ

第 50 條　屋上ノ接手 (Roof Joints)
竪管ト屋根トノ取付接合ハ、銅鈑、鉛鈑若クハ鐵鈑ノ雨押ヲ用ヒテ水密ナラシムベシ

第 51 條　大便器、臺付小便器及ビ臺形「トラップ」付雜巾流シノ床接續 (Closet, Pedestal Urinal and Trap Standard Slop Sink, Floor Connections)
眞鍮製床接續金物ハ鉛管ニ對シテ拭ヒ接手及ビ半田接ギトナシ、鐵製床接續金物ハ鑄鐵管ニ對シテカシメ接手、錬鐵管ニ對シテカシメ接手或ハ螺子接手トナシ、陶製「トラップ」鍔(Earthenware Trap Flange) ニ對シテハ「ボールト」締メトナスベシ
金屬ヲ陶器ニ若クハ金屬製「ユニオン」ニ接續スル場合、或ハ鉛若クハ石綿製塡隙環(Gasket) 又ハ坐金(Washer) ヲ使用スル場合ニハ密接合トナスベシ

第 52 條　漸大管及ビ漸縮管 (Incleasers and Reducers)
大サノ異ル管ト管ヲ若クハ大サノ異ル管ト管具ヲ接續スル場合ニハ、兩者間ニ45度ノ角度ヲ有スル適當ノ大キサノ漸大管若クハ漸縮管ヲ用フベシ

第 53 條 禁止接手及ビ接續 (Prohibited Joints and Connections)

擴大部、空隙若クハ段付ノ入込ミ (Recess with a Ledge Shoulder) ヲ有スルカ或ハ「トラツプ」ノ流出口卽チ下水側ニ於テ、流水ノ方向ニ管斷面積ノ縮小ヲ爲ス器具若クハ接續ハ設クルヲ得ズ

第 54 條 伸縮「ボールト」(Expansion Bolts)

煉瓦造、石造若クハ混凝土造ノ裏壁ニ、壁掛金物、管支持金物若クハ器具取付金物ノ接續スルニハ木栓ヲ使用スルコトナク伸縮「ボールト」ヲ以テスベシ

第 55 條 新材料 (New Materials)

本條令ニ明記セル材料以外ノモノニシテ、監督官廳ガ同等ノ効力アリト認ムルモノハ、之ノ使用ヲ許スコトアルベシ

第 5 章 「トラツプ」及ビ掃除口
(Trap and Clean Out)

第 56 條 「トラツプ」ノ種類 (Kind of Traps)

「トラツプ」ハ總テ自淨式(Self Cleaning) タルベシ

浴槽(Bath Tub)、洗面器(Lavatory)、流シ(Sink) 其ノ他之ニ類スル器具ノ「トラツプ」ハ、鉛、眞鍮、鑄鐵若クハ可鍛鑄鐵製トシ、內部ハ亞鉛鍍トシタルカ若クハ磁器琺瑯引シタルモノタルベシ。亞鉛鍍若クハ磁器琺瑯引「トラツプ」ハ特肉厚(Extra Heavy) タルベク、內部ハ全長ヲ通ジテ平滑ナル通水面ヲ有シ、其ノ螺子型ハ直接之ニ切リ込ミトナルベシ

或ル器具ニ對スル「トラツプ」及ビ排水岐管ノ最小限度ノ大キサ (公稱內徑) ハ下表ニ示スモノヨリ小ナルベカラズ

器具ノ種類 「トラツプ」及ビ岐管ノ徑(吋)	
浴槽 (Bath Tub)	1½
「シヤワーバス」(「ストール」型)	2
座浴槽 (Sitz Bath)	1½
足浴槽 (Foot Bath)	1½
腰掛洗滌器 (Bidets)	1½
聯合流シ (Combination Fixture)	1½
噴水式水呑器	1¼
噴水式唾吐器	1¼
床洗「トラツプ」	2
洗濯流	1½
臺所流 (住宅用)	1½
流 (「ホテル」若クハ公衆用)	2
流 (大「ホテル」若クハ公衆用)	2
小型流 (配膳室若クハ酒場用)	1¼
皿洗流	1½
雜巾流 (造付「トラツプ」存)	3
*雜巾流 (普通ノモノ)	2
「リツプ」小便器 (Urinals, Lip)	1½
樋狀小便器 (Urinals, Trough)	2
臺付小便器 (Urinals, Pedestal)	3
「ストール」小便器 (Urinals, Stall)	2
*洗面器	1¼
大便器	3

備考 * 現今ノ傾向トシテ、排出シ終ル=要スル時間ヲ短縮スル爲ニ器具ニ附スル「トラツプ」及汚水管ノ口徑ヲ大キクスル方ニ向ツテ居ル

第 57 條 禁止「トラツプ」(Traps, Prohibited)

「トラツプ」水封ノ下動部分ノ作用或ハ內部ニ隱蔽セル雌雄ノ作用ニ依リテ保タルルガ如キ形式ノ「トラツプ」ヲ器具ニ附スベカラズ

第 58 條 「トラツプ」ヲ要スル箇所 (Traps Where Required)

各器具毎ニ成ル可ク近キ場所ニ於テ水封式「トラツプ」ヲ個々ニ裝置スベシ。但シ「トラツプ」ヲ中央部ニ置キ、支管ヲ縱腕ニ對シ60度ヲ超エザル角度ニテ水封ニ接續セシメタル場合ニ限リ、3 個ヲ超エザル洗濯器 (Laundry Trays) 若クハ洗面器、或ハ 2 個ノ洗濯器及ビ 1 個ノ流シトノ組合セハ之ヲ 1 個ノ「トラツプ」ニ接續セシムルコトヲ得、如何ナル場合ニ在リテモ溶槽若クハ他ノ器具ノ流出物ヲ便器ノ「トラツプ」ニ送ルコトヲ得ズ、1 器具ニ「トラツプ」ヲ 2 重ニ附スルコトヲ得ズ

第 59 條 水封 (Water Seal)

各器具「トラツプ」ハ 2 吋以上 4 吋以下ノ封水ヲ要スベシ

第 60 條 「トラツプ」掃除口 (Trap Clean Outs)

「トラツプ」ガ器具ト合併シテ、其ノ「水封」ガ明カニ目睹シ得、且ツ手ノ屆キ得ベキモノヲ除キ、各個ノ「トラツプ」ハ充分ナル大サノ眞鍮製「トラツプスクリユー」ヲ手ノ屆キ得ル場所ニ附シ其ノ封水ニ據ツテ保護セラルベシ

第 61 條 水封頂及ビ其ノ保護 (Trap Levels and Protection)

「トラツプ」ハ總テ其ノ水封ヲ正確ニ保持シ、凍結若クハ蒸發ニ對シ保護セラルベシ

第 62 條 管ノ掃除口 (Pipe Clean Outs)

掃除口用嵌輪ハ標準管ト同徑ヲ有シ、嵌輪ノ金屬ヲ管及ビ器具ニ用ヒタル場合ニ要スル厚サト同一ノ厚サヲ有シ、承ケ口 (Hub) ヨリ上方へ 4 分ノ 1 以上延長セシムベシ、掃除口ノ被セ蓋若クハ栓ハ厚サ 8 分ノ 1 以上ノ肉厚砲金ニシテ、突出「ナツト」(Raised Nut) 若クハ入込承口 (Recessed Socket) ヲ用ヒ取外シニ便ナラシムベシ

第 63 條 管掃除口ヲ要スル箇所 (Pipe Clean Outs—Where Required)

掃除口ハ排水若クハ汚水管ノ本管毎ニ其ノ脚部ニ、容易ニ操作シ得ル掃除口ヲ設クベシ、屋內下水管ニ對シテハ、少クトモ 2 個ノ掃除口ヲ附シ、1 個ハ竪管ノ基部若クハ之ニ近ク、他ノ 1 個ハ Y 形支管ニ據リテ屋內下水管ト宅地下水管トノ接續部ニ近ク、壁ノ內側ニ設クベシ、後者ノ場合ヲ除キ、掃除口ハ口徑 4 吋ニ達セザル管ニ對シテハ其ノ管ノ公稱內徑ト同一內徑ノモノヲ、口徑 4 吋ヲ超過スル管ニ對シテハ口徑 4 吋ヲ下ラザルモノヲ使用スベシ、橫走汚水管ノ掃除口ハ、其ノ間隔50呎ヲ超過スベカラズ

第 64 條 人孔 (Man Holes)

床ト同一面上ニ在ル場合ヲ除キ、地盤線以下ニ在ル建築物ノ「トラツプ」及ビ掃除口ハ、屋外地盤線以下ニ在ル場合ト同樣ニ、適當ナル覆蓋ヲ有スル人孔ニ據リテ操作ニ便ナラシムベシ

第 65 條 掃除口ト見做シ得ルモノ (Clean Outs Equivalents)

一般ニ器具用「トラツプ」ヲ壁若クハ床ト接續スル場合、壁若クハ床ニ對シ「ボールト」若クハ螺子ニ據リテ取付ケラレタル時ハ、之ヲ掃除口ト見做スベシ

第 66 條 造脂「トラツプ」(Grease Traps)

造脂「トラツプ」ハ可及的ニ器具ニ接近シテ之ヲ裝置シ、其ノ容量ハ器具排出量ノ 2 倍タラシムベシ

第 67 條 砂溜「トラツプ」(Sand Traps)

砂溜「トラツプ」ハ其ノ掃除ニ最モ容易ナル如ク設計シ裝置スベシ

第 68 條 地階ノ排水 (Basement Floor Drains)

地下物置 (Cellar) 若クハ地階ノ床排水ハ、掃除容易ニシテ、其ノ目的ニ達シテ有效ナル口徑ヲ有スル「トラツプ」ニ接續セシムベシ。排水流入口ハ常時目睹シ得ベキ場所ニ設クベシ。排水ガ逆流シ若クハ逆壓ヲ受クル場合ニハ、適當ナル逆水弁ヲ裝置スベシ

第 69 條 逆水弁 (Back Water Valves)

逆水弁ハ非腐蝕性金屬ノ弁若クハ珠ヲ有シ、確實ナル機械的水封ヲ完全ニ保チ、排水セザル場合ニハ常ニ閉塞スル如ク造ラレタルモノタルベシ

第 6 章 給水及ビ配水
(Water Supply and Distribution)

第 70 條 水質 (Quality of Water)

給水ノ質ハ承認セラレタル純粹度規格ニ適合スベキモノトス

第 71 條 配水 (Distribution)

1 給水管系ハ、之ト用途ヲ異ニスル他ノ給水管系トハ全ク關係ナキ管系ニ據ツテ給配スベシ

第 72 條 水道引込ミ (Water Service)

建築物ノ水道引込ミ管ハ、各階同時ニ連續的給水スルモ充分ナル大サヲ有スベシ

第 73 條 器具ヘノ給水 (Water Supply to Fixtures)

衞生工事器具ハ凡テ之ヲ衞生上安全ナル狀態ニ保ツ爲メ瀉出 (Flush) スルニ充分ナル給水裝置ヲ備フベシ、大便器若クハ臺付小便器ハ何レモ承認セラレタル水槽若クハ洗滌弁 (Flush Valve) ニ據リテ瀉出シ、其ノ瀉出容量ハ最小限度大便器ニ在リテハ 4「ガロン」臺付小便器ニ在リテハ 2「ガロン」トシ、水ノ浪費ヲ豫防スル爲メ調整スベシ。便器用洗滌水槽 (Flush Tank) ヨリノ洗滌管ハ口徑 1 吋 4 分ノ 1 以下ナル事ヲ得ズ、尙ホ洗滌槽ヨリノ水ハ其ノ他ノ目的ニ使用スベカラズ、大便器若クハ小便器ハ、給水管系ヨリ直接ニ洗滌弁 (Flush Valve) 其ノ他ノ弁ヨリ給水スベカラズ。但シ之等ガ便器ヨリ上方ニ裝置セラレ給水ヲ汚濟スル虞レ全ク無キ時ハ此ノ限ニ在ラズ。飮料水及ビ家事用水ヲ目的トスル給水系統ト、汚水管若クハ排水管ノ排水系統トノ連接ニ據リ、汚水若クハ排水ヲ給水系統ニ逆流シ或ハ逆流スル虞レアル衞生器具、裝置若クハ構造ハ凡テ設置スルヲ得ズ

第 74 條 給水管ノ大サ (Size of Water Supply Pipes)

水道本管ヨリ建築物ニ至ル水道引込管ハ最小限度 2 分ノ 1 吋タルベシ

尙ホ器具ニ對シテ次ノ如シ

撒水栓 (Sill Cock)	½吋
溫水罐 (Hot Water Boiler)	½〃

洗濯器 (Laundry Tray) ½ク
流シ (Sink) ½ク
洗面器 (Lavatory) ⅜ク
浴槽 (Bath Tub) ½ク
便所水槽 (Water Closet Tank) ⅜ク

第 75 條 給水制御 (Water Supply Control)
給水系統ノ主要閉止弁 (Main Shut-off) ハ水道本管近ク裝置スベシ。常用ノ閉止弁ハ1建物ノ各「アパートメント」ニ對シテハ、其ノ基礎壁ノ內側ニ接シテ設ケ、尙ホ芝地撒水器、溫水槽入口及ビ便所ニ對シテハ各個毎ニ備フベシ

第 76 條 給水管及ビ管具ノ材料 (Water-Supply Pipes and Fittings—Material)
衞生工事系統ノ給水管ハ、鉛管、亞鉛鍍鍊鐵管、亞鉛鍍銅管、眞鍮管若クハ鑄鐵管ヲ用ヒ、眞鍮、亞鉛鍍鑄鐵若クハ亞鉛鍍可鍛鐵ニテ造レル管具ヲ併用スベシ。管テ他ノ目的ニ使用セラレタル管若クハ管具ハ再ビ配水管系トシテ使用スベカラズ

第 77 條 給水管ノ保護 (Water Supply, Protection)
隱蔽工事ニ於ケル給水管、貯水槽、洗滌水槽及ビ露出セル水管、水槽ニシテ、凍結ノ虞アルモノハ、凡テ凍結セザルヤウ有效ニ保護スベシ

第 78 條 逃シ弁 (Relief Valves)
街路本管及ビ溫水槽ノ間ニ於テ、給水管ニ對シ逆止弁 (Check Valve) ヲ裝置セル場合ニハ、給湯管系ニ對シテ適當ナル逃シ弁 (Relief Valve) ヲ設ク可シ

第 79 條 「ポンプ」及ビ消火栓 (Pumps and Hydrants)
「ポンプ」及ビ消火栓ハ凡テ表面水及ビ其ノ汚染ニ對シテ保護セラルベシ

第 7 章 衞生工事器具
(Plumbing Fixtures)

第 80 條 材料 (Materials)
大便器、小便器其ノ他排泄物ノ排除ニ用ヒラルル受器具ハ、凡テ硬燒陶器 (Vitrified Earthenware)、硬質天然石、若クハ內部白色琺瑯引キ (White Enameled) 鑄鐵製タルベシ

第 81 條 据付方法 (How Installed)
衞生工事器具ハ凡テ掃除ニ便ナルヤウ、障害物ナク其目的ニ据付クベシ。出來得ル限リ器具ニ連ル管ハ凡テ壁面ヲ這ハシメ、鉛製「トラップ」若クハ鉛管ハ覆板 (Casing) ニテ保護セラルル場合ノ他、床面ヨリ12吋以上離シテ延長セシムベシ

第 82條 大便器 (Water Closet Bowls)
大便器ハ其ノ「トラップ」ト一體ニ造リ、且ツ「トラップ」溢水管 (Over-flow) ガ水ヲ湛フル時ハ、器面ノ汚染ヲ防止スルニ充分ナル水量ヲ有スルヤウニ造リ、尙ホ器ノ全內面ヲ洗滌スルヤウ構造セル完全ナル瀉出緣 (Flushing Rim) ヲ裝置スベシ

第 83 條 不凍便器ガ許可セラルル場合(Frost Proof Closet-Where Permitted)
不凍便器ハ、居住用建築物ト直接ニ接續セザル隔室內ニノミ之ヲ設クルコトヲ得、漏斗 (Hopper) ト「トラップ」トヲ連ヌル汚水管ハ口徑3吋ノ鉛管若クハ內部琺瑯引鑄鐵管タルベシ

第 84 條 禁止器具 (Fixture Prohibited)
木製固定式ノ洗濯器若クハ流シハ居住用トシテ設計シ若クハ使用セラルル建築物ニハ裝置スベカラズ。
木製銅飯張リ浴槽ヲ新設スベカラズ。且ツ一旦取リ外シタル此ノ種ノ古器具ハ、再ビ之ヲ接續スベカラズ。壺形便器 (Pan Closet) 排水弁付水洗便器 (Valve-Plunger Water Closet) 其ノ他ノ便器ニシテ、目瞎シ得ザル水封、通氣セザル空隙、若クハ洗滌ノ完全ニ行ハレザル壁部ヲ有スルモノヲ使用スベカラズ、長漏斗便器 (Long Hopper Closet) 若クハ之ニ類スル器具ハ爾後裝置スベカラズ、住宅內ニハ無水便器 (Dry Closet) 若クハ注藥便器 (Chemical Closet) ヲ裝置スベカラズ

第 85 條 床排水及ビ如露風呂排水 (Floor Drains and Shower Drains)
床排水及ビ如露風呂排水ハ、之ヲ器具ト見做シ除塵器 (Strainer) ヲ設クベシ

第 86 條 器具用除塵器 (Fixture Strainers)
大便器及ビ臺付小便器ヲ除ク凡テノ器具ニハ、金屬製ノ堅固ナル固定除塵器ヲ具ヘ、其ノ流出面積ハ「トラップ」及ビ排水管ノ內面ヨリ大ナラシムベシ

第 87 條 器具用溢水管 (Fixture verflow)
器具ヨリ出ヅル溢水管ハ「トラップ」ノ流入口側ニ接續セシメ、容易ニ且ツ有效ニ掃除シ得ルヤウ配置スベシ

第 8 章 室內及ビ器具ノ換氣
(Ventilation of Rooms and Fixtures)

第 88 條 器具ノ位置 (Location of Fixtures)
「トラップ」付キ衞生工事器具ハ、外壁ニ設ケタル窓若クハ之ニ代ルベキ適當ナル換氣口ナキ室或ハ「アパートメント」ニ設置スベカラズ

第 89 條 通氣管ノ接續方法 (Ventilating Pipe, How Connected)
器具及ビ便所ヨリ出ヅル通氣管ハ隔離的ニシテ特殊的ノモノタルベク建物內ノ他ノ通氣管若クハ通氣導管アル場合下云ヘ共之等ト何等ノ接續ヲ有セザルモノタルベシ

第 9 章 汚水管排水管及ビ通氣管
(Soil, Waste and Vent Pipes)

第 90 條 材料 (Materials)
建築物內ニ在ル汚水管、排水管及ビ通氣管等ノ本管及ビ岐管ハ凡テ鑄鐵、亞鉛鍍銅、亞鉛鍍鍊鐵、鉛、眞鍮若クハ銅管タルベシ
但シ亞鉛鍍銅管若クハ亞鉛鍍鍊鐵管ヲ地下埋設ノ汚水管若クハ排水管ニ使用スベカラズ

第 91 條 器具排水單位 (Fixture Unit)
次表ハ洗面器ノ排出率ヲ單位トシタルモノニ據リ器具ノ當量ヲ定ムルニ用ヒラルベキモノトス

	器具排水單位
1、洗面器若クハ手洗鉢 (One lavatory washbain)	1
1、臺所流シ (One kitchen Sink)	1.5
1、浴槽 (One bath tub)	2
1、洗濯器 (One laundry tray)	3
1、組合セ器具(One combination fixture)	3
1、小便器 (One urinal)	3
1、如露風呂 (One shower bath)	3
1、床排水 (One floor drain)	3
1、雜巾流シ (One Slop sink)	4
1、大便器 (One water closet)	6
1、浴室用組合セ器具 (One bathroom group) 大便器1箇、洗面器1箇、浴槽1箇及ビ頭上如露風呂1箇 (1 water-closet, 1 lavatory, and 1 bathtub and overhead shower) 若クハ	8
大便器1箇、洗面器1箇及ビ如露風呂隔室1室 (1 water-closet, 1 lavatory, and 1 shower-bath compartment) 水平投象ニテ180平方呎ノ屋根面積若クハ排水面積ハ1器具排水單位トシテ算定スベシ	

第 92 條 汚水竪管及ビ排水竪管 (Soil and Waste Stacks)
衞生工事器具ヲ裝置スル建物ハ凡テ1箇若シクハ1箇以上ノ汚水竪管若クハ排水竪管ヲ附シ、同徑ニテ屋上ニ延長スベキモノトス、汚水竪管及ビ排水竪管ハ可及的ニ直線トシ急激ナル屈曲及ビ轉向ナキモノタルベシ、汚水竪管若クハ排水竪管ノ要スル大サハ該竪管ニ接續スル全器具ノ配當及ビ排水單位總計ニ依リ、次表ニ基キ決定ヲスベシ、但シ如何ナル場合ニ在リテモ、大便器ハ直徑3吋以下ノ竪管ニ排出スルヲ得ズ

* 表中「岐管間隔」トハ、1本以上ノ岐間ヲ連結スル竪管ノ8呎以上ノ垂直長ヲ云フ、而シテ1竪管ニ連結スル全岐間ノ器具排水單位總計ハ如何ナル場合ニ在リテモ其ノ管長8呎以內ニ於テ、表中1「岐管間隔」ニ許容セル最大數ヲ超過スルヲ得ズ

汚水竪管及ビ排水竪管ノ大サ表

口徑 (吋)	「T・Y」管ノ場合		45° Y字管若クハ「ワイ」字間ト⅛曲管トノ組合ノ場合		最大限ノ管長 (呎)
	*一岐管間隔ニ付キ	一竪管ニ付キ	*一岐管間隔ニ付キ	一竪管ニ付キ	通氣管トシテノ管延長ヲ含ム
1¼	1	1	1	1	50
1½	2	8	4	12	65
2	9	16	15	36	85
3	24	48	45	72	212
4	144	256	240	384	300
5	324	680	540	1,020	330
6	672	1,380	1,122	2,070	510
8	2,088	3,600	3,480	5,400	750

ニ對シテ正シク突付ケタル流入口ヲ具フベシ

第 94 條 汚水管及ビ通氣管ノ變更 (Changing Soil and Vent Pipes)
既存建築物ニ於テ、汚水通氣管若クハ排水通氣管ガ減徑スルコトナク屋根ヲ貫通シ若クハ屋上ニ延長セザル場合、或ハ金屬板製汚水通氣管若クハ排水通氣管ヲ使用スル場合ニ在リテハ、器具ノ型式若クハ其ノ位置ヲ變更スルカ或ハ取リ外スト キ、新工事ニ對

シテハ必ズ前條ノ大キサ及ビ材料ヲ以テセル汚水通氣管若クハ排水通氣管ヲ裝置スベシ

第 95 條　禁止接續 (Prohibited Connections)

大便器若クハ之ニ類スル器具ニ附シタル鉛製曲管若クハ鉛製岐管ニ對シ他ノ器具ヲ接續スベカラズ、岐管若クハ本管ノ最高部ニ裝置セル器具ヨリ尙ホ上部ニ在ル汚水通氣管、排水通氣管、回路通氣管若クハ環狀通氣管 (Circuit or Loop Vent) ハ將來汚水管若クハ排水管トシテ使用スベカラズ

第 96 條　汚水管及ビ排水管ノ保護 (Soil and Waste Pipe Protected)

汚水竪管若クハ排水竪管ハ屋外ニ設クベカラズ、但シ凍結防止ニ對シ適當ノ設備ヲ爲スモノハ此ノ限リニ在ラズ

第 97 條　屋上延長管 (Roof Extensions)

汚水竪管及ビ排水竪管ノ屋上延長管ハ凡テ減徑スルコトナク少ナクトモ屋上ヨリ 1 呎突出セシムベシ、尙ホ屋根ヲ風雨保護以外ニ他ノ目的ニ使用スル場合ニハ此ノ突出ハ屋根上 5 呎ヲ下ルコトヲ得ズ

凍結閉塞ノ虞レアル時ハ屋上延長管ハ口徑 4 吋以上ト爲スベシ、管徑ノ變更ハ少クトモ屋根下 1 呎ノ點ニ於テ長漸大管ニ據リテ爲スベク、且ツ屋上ノ出入困難ナル場合ニハ試驗開口 (Test Opening) ハ管徑變更ノ位置ニ設クベシ

第 98 條　管末端 (Terminals)

一般ニ竪管若クハ通氣管ハ屋上末端ガ扉、窓、天窓 (Scuttle) 若クハ採氣筒 (Air Shaft) ヨリ12呎以內ニ在ル時ハ、之ヨリ上方少クトモ 3 呎延長スベシ

第 99 條　高層建築物ニ隣接スル管末端 (Terminals Adjoining High Building)

一般ニ新築若クハ既存ノ建築物ノ汚水管、排水管若クハ通氣管ノ延長ハ壁體ノ外側ヲ延長若クハ配置セシムルコトナク、屋根被覆內部ニ施工スベシ

新築建築物ガ既存建築物ヨリ高キ場合ニハ、新築建築物ノ建築主ハ低層建築物ノ既存通氣管ヨリ12呎以內ノ距離ニ新築建築物ノ窓ヲ設クベカラズ、但シ新築建築物ノ建築主ガ本章第98條ニ適合スル變更ヲ爲スベキ經費ヲ支出シタルトキ、若クハ自身之ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

低層即チ既存建物ノ所有主ハ、新築即チ高層建築物ノ建築主ヨリ、前記ノ變更ニ對シ相當金額ヲ受領シ若クハ其ノ保證ヲ得タルトキハ前記ノ變更ヲ爲ス義務ヲ有ス、或ハ新築即チ高層建物ノ建築主ノ希望スル如ク新建物ノ建築主ガ前記ノ變更ヲ爲スコトヲ承認スル義務ヲ有ス

第100條　通氣管—「トナツプ」保護 (Trap Protected, Vents)

器具用「トラツプ」ハ凡テ「サイフオン」作用及ビ逆壓ニ對シテ保護セラルベク、空氣循環ハ汚水竪管通氣管又ハ排水竪管用通氣管 (Soil or Waste Stack Vent) ノ連續排水管通氣管又ハ連續汚水通氣管 (Continuous Waste or Soil Vent) 若クハ環狀通氣管又ハ回路通氣管 (Loop or Circuit Vent) ニ據リテ確保セラルベシ、頂部通氣 (Crown Vent) ハ如何ナル場合ニモ裝置スルヲ得ズ

第101條　「トラツプ」水封ヨリ通氣管ニ至ル距離 (Distance of Vent from Trap Seal)

「トラツプ」水封ハ、其ノ通氣管ヨリ水平的展開距離 5 呎以上ノ場所ニ設クベカラズ、其距離ハ「トラツプ」ノ垂直流入口ヨリ通氣管ノ開口ニ至ル排水管若クハ汚水管ノ中心線ニ沿ヒテ測定スベシ、汚水管若クハ排水管ヨリノ通氣管開口ハ大便器及ビ之ニ類スル器具ヲ除ク他ハ「トラツプ」浸水端以下ナルベカラズ

第102條　基底ニ於テ接續スベキ通氣本管 (Main Vents to Connect at Base)

通氣本管 (Main Vents) 即チ通氣竪管 (Vent Stacks) ハ凡テ其ノ基底ニ於テ同徑ヲ以テ、最底器具支管ト同等若クハ之レ以下ノ場所ニテ汚水管若クハ排水本管ニ接續スベク、減徑スルコトナクシテ屋上ニ延長シ、若クハ最高器具岐管ト少クトモ 3 呎ニ於テ再ビ汚水若クハ排水通氣本管 (Main Soil or Waste Vent) ニ接續スベキモノトス

第103條　通氣管ノ所要口徑 (Vents, Required Sizes)

通氣本管即チ通氣竪管ノ所要口徑ハ、通氣スベキ汚水竪管若クハ排水管ノ口徑、汚水竪管若クハ排水竪管ニ接續セル器具排水單位ノ總數、及ビ通氣管ノ展開的延長ニ基キ下表ニ從ヒ決定スベシ、但シ必要ノ場合ニハ表ニ示セル通氣管ノ許容長サヲ變更スルコトアルベシ

第104條　通氣岐管及ビ各個通氣管 (Branch and Individual Vents)

通氣管ハ其ノ口徑 1 吋 4 分ノ 1 以下ナルベカラズ、

通氣管ノ最大限ノ許容長サ

(汚水竪管及ビ排水竪管用)呎

汚水竪管若クハ排水竪管ノ口徑(吋)	器具排水單位數	通氣管ノ口徑(吋) (i)								
		1¼	1½	2	2½	3	4	5	6	8	10
1¼	1	45									
1½	8	35	60								
2	18	30	50	90							
2½	36	25	45	75	105						
3	12			34	120	180	212				
3	18			18	70	180	212				
3	24			12	50	130	212				
3	36			8	35	93	212				
3	48			7	32	80	212				
3	72			6	25	65	212				
4	24				25	110	200	300	340		
4	48				16	65	115	300	340		
4	96				12	45	84	300	340		
4	144				9	36	72	300	340		
4	192				8	30	64	282	340		
4	264				7	20	56	245	340		
4	384				5	18	47	206	340		
5	72					40	65	250	390	440	
5	144					30	47	180	390	440	
5	288					20	32	124	390	440	
5	432					16	24	94	320	440	
5	720					10	16	70	225	440	
5	1,020					8	13	58	180	440	
6	144						27	108	340	510	
6	288						15	70	220	510	630
6	576						10	43	150	425	630
6	864						7	33	125	320	630
6	1,296						6	25	92	240	630
6	2,070						4	23	75	186	630
8	320							42	144	400	750	900
8	640							30	86	260	750	900
8	960							22	60	190	750	900
8	1,600							16	40	120	525	900
8	2,500							12	28	90	370	900
8	4,160							7	22	62	252	840
8	5,400							5	17	52	212	705

回路通氣管若クハ環狀通氣管ハ下ノ如ク許可サルベシ、2 個若クハ 8 個以下ノ大便器、臺付小便器、臺

1 吋 4 分ノ 1 及ビ 1 吋 2 分ノ 1 ノ排水管ニ對シテハ、通氣管ハ排水管ト同口徑タルベク、通氣支管若クハ通氣本管ハ之レニ接續スル汚水管若クハ排水管ノ口徑 2 分ノ 1 以下ナルベカラズ、又規定ノ口徑ヲ有スル通氣管ノ長サハ如何ナル場合ニ在リテモ同徑ノ汚水管ニ接續スル通氣本管即チ通氣竪管ニ對シテ許容セラル最大限ヲ超過スベカラズ

第105條　通氣管ノ勾配及ビ接續 (Vents Pipe, Grades and Connections)

通氣管及ビ通氣岐管ハ凡テ弛緩セザル如ク取付ケ、水滴ガ重力ニ依リテ汚水管若クハ排水管ニ滴下スルガ如キ勾配ヲ附シ接續スベシ、通氣管ヲ汚水橫走管若クハ排水橫走管ニ接續スル場合ニハ、通氣岐管ハ該管ノ中心線以上ニ取リ付ケ、通氣管ハ垂直若クハ 45度ヲナシテ、通氣スベキ器具ノ 6 吋上方ニ立チ上ゲタル後、水平ニ曲ゲ或ハ通氣岐管排水本管若クハ汚水通氣管ニ接續スベシ

第106條　回路通氣管及ビ環狀通氣管 (Circuit and Loop Vents)

形「トラツプ」雜巾流シ若クハ如露風呂圈ガ連續的ニ接續セラレタル汚水岐管若クハ排水岐管ハ、回路通氣管若クハ環狀通氣管ニ據リテ通氣セシムルコトヲ得、該管ハ最終ノ器具接續ノ前面ニ於テ取付クベシ、器具ヲ此ノ種ノ岐管ノ上部ニテ排出スル場合ニハ各管ハ其ノ口徑ガ汚水竪管若クハ排水竪管ノ 2 分ノ 1 ヲ有スル逃シ通氣管ヲ裝置スベク、最初ノ器具接續ノ前面ニ於テ取付クベシ

第107條　通氣管ヲ要セザルモノ (Vents not Required)

立下リ管 (Down Spout) 即チ竪樋ノ「トラツプ」(Rain Leader Trap) 逆水「トラツプ」(Back Water Trap) 地下水泥溜メ「トラツプ」(Subsoil Catch Basin Trap) 若クハ地階物置ホノ排水管 (Cellar Floor Drain) ニ對シテハ通氣管ヲ要セザルモノトス、但シ地階物置ノ床排水管ガ、屋內下水管ノ排水側ニ竪管ノ基底ヨリ 5 呎以上ノ距離ニ於テ分岐流入スル場合ニ限ル、浴室、便所若クハ他ノ器具ガ壁又ハ間仕切壁ノ相互ノ背面兩面ニ設ケラレタルカ、或ハ 5 呎以內ノ距離ニ相互ニ相接シテ設ケラレタル場合ニハ、此ノ器具ハ汚水管若クハ排水管及ビ通氣管ヲ共通ニ設クルコトヲ得

第 10 章　屋內下水管及ビ宅地下水管
(House Drains and Sewers)

第108條　獨立系統 (Independent System)

各棟ノ新建築建物ニ屬スル下水工事及衞生工事 (Drainage and Plumbing System) 既存建築物ニ裝置セラルヽ下水工事及衞生工事ハ、他ノ如何ナル建築物ノモノトモ分離シ且ツ獨立シタルモノタルベシ、但シ下記ノ除外例ハ別トス、尙ホ各個ノ建築物ハ可及的ニ公設若クハ私設下水管 (Public or Private Sewer) ニ獨立接續ヲ爲スベシ

除外例……1. 建築物ガ袋敷地ニ於テ他ノ建築物ノ背面ニ存在シ、且ツ私設下水管無キカ或ハ附屬セル路地、庭、裏庭若クハ車路ヲ通ジテ之ヲ敷設シ得ザル場合ニ在リテハ全體ヲ1個ノ屋內下水管ト見做ナスコトヲ得

第109條　舊宅地下水管及ビ舊屋內下水管 (Old House Sewer and House Drain)

舊宅地下水管及ビ舊室內下水管ハ試驗調査ノ上、凡テノ點ニ於テ本條合ニ揭グル新下水ニ對スル要求ニ適合スルモノニ限リ、之ヲ新建築物若クハ新衞生工事ニ接續シテ使用スル事ヲ得、若シ舊工事ニ缺陷アレバ、監督官廳ハ建築主ニ對シ、本條合ニ適合スルニ必要ナル變更ヲ爲ス事ヲ通告スベシ

第110條　汚水溜ノ接續 (Connection with Cesspools)

下水管ノ便宜ナキ場合ニ在リテハ、建築物ヨリノ排水管ハ承認ヲ得タル私設汚水處分裝置 (Private Sewage Disposal Work) ニ接續スベシ

第111條　根切リ (Excavations)

各系統ノ管ハ凡テ夫々別個ノ渠 (Trench) ニ敷設スベシ、但シ各都市ノ規則ニ違背セザル場合ニ限リ、輕量配管ニ對シテハ排水管渠ハ幅18吋以上ノ腦棚上ニ設クルコトヲ得、分流式排水法 (Double System of Drainage) ガ行ハレル場合ニハ汚水管路而宅地下水管若クハ屋內下水管 (Sanitary and Surface House Sewers or Drains) ハ1渠內ニ敷設スルコトヲ得

距離6呎未滿ノ隧道式敷設法 (Tunneling) ハ一般敷地ノ庭、中庭若クハ車路ニ於テ之ヲ行フコトヲ得隧道管ヲ押入スル場合ニハ、該管ノ大サハ敷設管ヨリ少クトモ1廻リ大形ノモノトスベシ

屋內下水系統ニ對シテ必要トスル根伐ハ凡テ開渠式 (Open Trench) タルベシ、斯ノ種ノ渠及ビ隧道ハ配管ノ檢査及ビ試驗ヲ受ケ且ツ認可ヲ得ルマデ埋戻スヲ得ズ

第112條　地下屋內下水管 (House Drains Underground)

屋內下水管ハ止ムヲ得ザル場合ノ他、凡テ地階若クハ地階物置床面下ヨリ屋內ニ引込ムベシ

第113條　材料 (Materials)

(a)　建築物ノ壁體內面ヨリ外ニ測リ5呎ノ位置ニ始マル宅地下水管ハ鑄鍊製若クハ硬燒陶管 (Vitrified Clay Pipe) タルベシ

(b)　屋內下水管ガ地下埋設ノ場合ニハ鉛管、鍍鉛管若クハ鑄鐵管タルベシ

(c)　屋內下水管ガ地下敷設ノ場合ニハ鑄鐵管、亞鉛鍍鍊鐵管、亞鉛鍍銅管、鉛管若クハ瓦鹽管ニシテ承認ヲ得タル規格品タルベシ、(第3章、第23條乃至第33條參照)

第114條　宅地下水管及ビ屋內下水管ノ深サ (Depth of Drain and Sewers)

宅地下水管若クハ地下屋內水管ハ力壁 (Bearing Wall) ノ强度ヲ減殺スル虞アルヲ以テ力壁ト平行ニ敷設シ或ハ力壁ニ3呎以內ノ距離ニ敷設スルコトヲ得ズ、宅地下水管及ビ屋內下水管ハ凍結ノ虞ナキ深サニ埋設スベシ

汚水系統專用下水管ノ大サ

管ノ口徑 (吋)	器具排水單位數ノ最大限度		
	勾配 $\frac{1}{96}$	勾配 $\frac{1}{48}$	勾配 $\frac{1}{24}$
1¼	1	1	1
1½	2	2	3
2	5	* 6	* 8
3	° 15	° 18	° 21
4	84	96	114
5	162	216	264
6	300	450	600
8	990	1,392	2,220
10	1,800	2,520	3,900
12	3,084	4,320	6,912

* 大便器ハ口徑3吋以下ノ汚水管ニ排出スベカラズ

° 口徑3吋ノ橫走岐管、屋內下水管若シクハ宅地下水管ニ2箇以上ノ大便器ヲ排出スベカラズ

雨水系統專用下水管ノ大サ

管ノ口徑 (吋)	排水スベキ屋根面積ノ最大限度 (平方呎)		
	勾配 $\frac{1}{96}$	勾配 $\frac{1}{48}$	勾配 $\frac{1}{24}$
3	865	1,230	1,825
4	1,860	2,610	4,170
5	3,325	4,715	7,465
6	5,315	7,515	11,875
8	11,115	15,745	24,880
10	19,530	27,575	43,625
12	31,200	44,115	69,720
14	42,600	60,000	95,000

本表ノ計算ハ降雨量1時間ニ付キ4吋トシテ計算シタルモノトス

第115條　屋內下水管及ビ宅地下水管ノ大サ (Size of Drains and Sewers)

汚水用屋內下水管 (Sanitary House Drain) 及ビ汚水用宅地下水管 (Sanitary House Sewer) ノ必要ナル大サハ、之ニ據ツテ排水セラルル器具排水單位數總數ニ基キ下表ニ從ヒ決定スベシ

雨水用ノ屋內下水、宅地下水及ビ、其ノ他ノ橫走雨水排水管ハ水平投影ニセル全排水面積ニ基キ前表ニ從ヒ決定スベシ

第116條　雨水及ビ汚水合流式下水系 (Combined Storm and Sanitary Sewer System)

合流式下水管ヲ使用スル場合ニハ、屋內下水管若クハ宅地下水管ノ大キサハ、下表ニ示スガ如キ排水面積ト器具排水單位數ニ該當スル換算率ヲ器具排水單位總數ニ乘ジタルモノヲ排水面積ニ加算シタル總計ヲ前條ノ雨水系統用下水ノ大サノ表ニ適用シテ定ムベシ、如何ナル場合ニ在リテモ合流式屋內下水管若クハ宅地下水管ハ口徑4吋以下ナルベカラズ、且ツ又如何ナル場合ニ在リテモ合流式屋內下水管若クハ宅地下水管ハ分流式ニ於ケル場合ニ同一器具排水單位數若クハ同一排水屋根面積ニ必要トスル口徑ヨリ小ナルベカラズ

第117條　盛土地ニ於ケル宅地下水管 (House Sewer in Made Ground)

盛土地若クハ埋立地 (Made or Filled-in Ground) ニ於ケル宅地下水管ハ硬燒陶管ヲ承認ヲ得タル拾枠 (Grillage) 若クハ「コンクリート」ノ枕 (Bed) 上ニ敷

雨水及ビ汚水合流式系統ニ對スル換算率表

排水スベキ屋根面積 (平方呎)	器具排水單位數														
	6	7–18	19–36	37–60	61–96	97–144	145–216	217–324	325–486	487–732	733–1,098	1,099–1,644	1,645–2,466	2,467–3,702	3,703–5,556	5,556–以上
120	180	105	60	45	30	22	18	15	12	10	9.2	8.4	8.2	8.0	7.9	7.8
121— 240	160	98	57	43	29	21	17.6	14.7	11.8	9.9	9.1	8.3	8.1	8.0	7.9	7.8
241— 480	120	75	50	39	27	20	16.9	14.3	11.5	9.7	8.8	8.2	8.0	7.9	7.8	7.7
481— 720	75	62	42	35	24	18	15.4	13.2	10.8	9.2	8.6	8.1	7.9	7.9	7.8	7.7
721— 1,080	54	42	33	29	20	15	13.6	12.1	10.1	8.7	8.3	8.0	7.8	7.8	7.7	7.6
1,081— 1,620	30	18	16	15	12	11.5	11.1	10.4	9.8	8.4	8.1	7.9	7.7	7.7	7.6	7.5
1,621— 2,430	15	12	11	10.5	9.1	8.8	8.6	8.3	8.0	7.9	7.8	7.7	7.6	7.5	7.4	7.4
2,431— 3,645	7.5	7.2	7.0	6.9	6.6	6.5	6.4	6.3	6.2	6.3	6.4	6.4	6.8	7.0	7.1	7.2
3,646— 5,460	2.0	2.4	3.0	3.3	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.7	5.0	5.1	6.1	6.4	6.9	6.9
5,461— 8,190	0	2.0	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.8	3.2	3.7	4.6	5.0	5.6	6.2	6.4
8,191—12,285	0	0	2.0	2.1	2.1	2.2	2.3	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	3.5	4.5	5.2	5.6
12,288—18,420	0	0	0	2.0	2.0	2.1	2.2	2.2	2.3	2.3	2.4	2.4	2.6	3.2	4.2	4.7
18,421—27,630	0	0	0	0	0	2.1	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.4	2.5	2.8	3.1
27,631—40,945	0	0	0	0	0	2.0	2.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	2.4
40,946—61,520	0	0	0	0	0	0	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
61,521 以上	0	0	0	0	0	0	0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0

設スルカ、或ハ A·S·T·M規格鑄鐵管タルベシ

第118條 下水面以下ノ排水法 (Drainage Below Sewer Level)

一般建築物ニ於テ、屋内下水系統及ビ衞生工事系統ノ全部若クハ一部ガ、下水本管ノ最高部水準(Crown Level)以下ニ在ルトキハ、下水若クハ家屋排泄物ハ承認ヲ得タル人工的方法ニ據リテ、之ヲ宅地下水管内ニ揚流スベシ

第119條 水溜及ビ受水槽 (Sumps and Receiving Tank)

地下階ノ排水ハ凡テ重力ニ據リテ流入スルガ如キ位置ニ於ケル氣密構造ノ水溜 (Sump) 若クハ受水槽(Receiving Tank)ニ排出シ、之ヨリ「ポンプ」ノ排水機(Ejector)若クハ之ト同等ノ効果ヲ有スル方法ニ據リテ宅地下水管内ニ揚流スベシ、斯ノ種ノ水溜ハ自動的ニ排出セシムルカ、若クハ下水及ビ家屋排泄物ヲ24時間以上受ケ入ルベキ容量ヲ有セシムベシ

第120條 排水機ノ通氣 (Ejectors, Vented)

下水若クハ排出物ヲ街路下水管 (Street Sewer) ニ揚流スル爲メニ使用スル排水機若クハ其ノ他ノ裝置ニ至ル汚水管若シクハ通氣管ハ、1個以上ノ大便器ヲ使用スル場合ニハ直徑4吋以上ノ通氣管ヲ附スベク大便器以外ノ器具ヲ設クル場合ニハ排水管ト同徑ノ通氣管ヲ附スベシ

第121條 原動機、空氣壓縮氣等 (Motor, Compressors, etc.)

原動機、空氣壓縮機及空氣槽(Air Tank)ハ凡テ常時其ノ檢査及修理ヲ爲ス=障害無キ場所ニ設クベシ空氣槽ハ之ニ接續スル排水機ト等容積ヲ有シ、且ツ揚水スベキ下水ノ高サ1呎ニ付キ2听以上ノ氣壓ヲ有セシムベシ

第122條 地下水排除用排水機 (Ejectors for Subsoil Drainage)

地下水泥溜ヲ下水面以下ニ裝置スル場合ニハ、排水本管ニ取付ケタル浮球(Ball Float)ヲ有スル自動排水機(Automatic Water Ejector)ヲ使用スベシ、斯ノ種ノ排水機若クハ其ノ地下水揚水裝置ハ何レモ適當ニ(トラップ)ニ附シタル器具若クハ雨水排水管ニ排出スベシ

第11章 雨水排水管
(Storm-Water Drains)

第123條 庭、空壕及屋根ノ排水法 (Drainage of Yards. Areas, and Roofs)

屋根、補裝空壕 (Paved Area) 後庭、中庭及ビ前庭ノ排水ハ雨水下水系統若クハ合流下水系統ニ排出スベク、下水專用管ニ排出スベカラズ、此ノ目的ニ使用スル下水管ヲ合流下水系統ニ接續スル場合ニハ有効ナル「トラップ」ヲ設クベシ、但シ竪樋ニシテ上部開口ガ扉、天窓若クハ採氣筒ヨリ13呎以上離レタルトキハ此ノ限ニ在ラズ。此ノ種ノ接續ニ對シテハ「トラップ」ハ1個ヲ以テ充分トス。但シ凍結線以下若クハ建築物ノ内部ニハ2個以上ノ「トラップ」ヲ裝置スベキモノトス、若シ附近ニ下水管ナク、特ニ監督官廳ガ別ノ方法ヲ許可セザル場合ニハ、此ノ種ノ接續ハ道路脇開渠 (Public Gutter) ニ放流スベク此ノ場合ニハ「トラップ」ヲ設クル必要ナシ。

第124條 横樋及ビ竪樋ノ大サ (Sizes of Gutters and Leaders)

横樋及ビ内部竪樋ノ大サハ下表以下ナルベカラズ

凍結線ニ達スル外部竪樋ハ前表ニ據ルモノヨリ1廻リ大形ノモノタルベシ

新建築物ノ横樋ニシテ幅員8吋以上ノモノハ承認ヲ得タル型式ノ鍊鐵製鈑金物ニテ懸釣スベシ

屋根面積(平方呎)	横 樋 (吋)	竪 樋 (吋)
90迄	3	1½
91— 270	4	2
271— 810	4	2½
811—1,800	5	3
1,801—3,600	6	4
3,601—5,500	8	5
5,501—9,600	10	6

前表ノ大サハ、竪樋ニ在リテハ圓形樋ノ直徑ヲ示シ横樋ニ在リテハ半圓形金屬板製樋ノ上部ノ直徑ヲ示スモノトス、他ノ形狀ノモノハ之ト同斷面積ヲ有スベシ

第125條 内部竪樋 (Inside Conductors)

一般ニ建築物ノ壁體内、或ハ中庭若クハ通氣管筒内ヲ通過スル竪樋ハ凡テ鑄鐵管若クハ亞鉛鍍鍊鐵管若クハ鋼管ヲ以テ構造スベシ

第126條 外部竪樋 (Outside Conductors)

金屬鈑製外部竪樋ヲ屋内下水ニ接續スル場合ニハ、1管長 (5呎) 以上ノ鑄鐵管ヲ以テシ、之ヲ地盤線 (Grade Line) 上少クトモ1呎迄垂直ニ延長スベシ

歩道ナキ公設車路 (Public Drives Way) ニ沿ヘル場合ニハ竪樋ハ壁龕(Niche)ヲ迴過セシメ車除ケ當金物(Wheel Guard)ニテ保護シ、若クハ地上12呎以上ノ箇所ニテ45度ノ角度ヲ以テ壁ヲ貫通シテ建築物内ニ引込ムベシ

第127條 缺陷アル竪樋管 (Defective Conductor Pipe)

一般ニ建築物ノ壁體内ヲ通ル既存ノ金屬鈑製竪樋管ニ缺陷ヲ生ジタル場合ニハ、之レヲ本條令ニ適合スルモノト置換スベシ

第128條 竪樋ト通氣管ノ接續禁止 (Vent Connection with Conductor Prohibited)

竪樋管ハ汚水管、排水管、若クハ通氣管トシテ使用スベカラズ、又汚水管、排水管若クハ通氣管ヲ竪樋トシテ使用スベカラズ

第129條 溢水管 (Overflow)

水槽(Cistern)、給水槽(Supply Tank)、膨脹水槽(Expansion Tank)、及ビ受皿(Drip Pan) ヨリ出ダル溢水管ハ、一般ノ宅地下水管、屋内下水管、汚水管、排水管、若クハ通氣管ニ對シ間接ニ接續スベシ

第130條 地下水、基礎水、清水、及ビ吸收排水等ノ排除土管 (Subsoil, Foundation, Clear Water, and Absorption Tile Drains)

地下水排除管ガ地階物置ノ床面以下ニ在ルカ若クハ建物ノ外壁ヲ圍繞スル場合ニハ、該管ハ開キ接 (Open joint) トスル下水土管 (Drain Tile) 若クハ陶管 (Earthenware Pipe) ニシテ、口徑4吋以上ノモノヲ使用シ、且ツ適當ニ「トラップ」ヲ設ケ、宅地下水管若クハ室内下水管ニ流入スル前ニ、操作ニ便ナル樣自働吞壓辨(Automatic Back Pressure Valve) ヲ設ケテ背壓ニ對シテ保護スベシ。之等ハ地階物置排水管ヲ通ジテ排出セシムルコトヲ得

第131條 下水面以下ニ在ル地下水排除管 (Subsoil Drains Below Sewer Level)

下水本管以下ニ在ル地下水排除管ハ、水溜若クハ受水槽内ニ排水セシメ、之ヲ自動的ニ揚水シ、適當ナル「トラップ」ヲ有スル器具若クハ排水管ヲ通ジテ、地階物置ノ床面以上ニ在ル排水系統ニ放流セシムベシ

第12章 冷凍機、安全庫及ビ特殊排水管
(Refrigerator, Safe, and Special Waste)

第132條 接續ヲ許可セラルル器具 (Fixtures Permitted to Connect)

冷凍機若クハ冷藏庫 (Ice Box) ノ床排水ノ排水管或ハ其ノ他ノ食物貯藏用容器ノ排水管ハ、一般ノ屋内下水管、汚水管若クハ排水管ニ直接ニ接續スベカラズ、斯ル排水管ハ凡テ蓋無シノ流 (Open Sink) ニ流出セシムベシ、而テ該流シハ他ノ器具ト同樣ニ適當ニ給水シ、接續シ「トラップ」ヲ附シ尙ホ通氣管ヲ有スベシ、或ハ上記ノ排水管ハ建築物ノ内部ニ在ル竪樋「トラップ」若クハ地階物置ノ床排水管ニ放流セシムベシ、但シ此ノ場合其ノ管末端ハ開放シ置クモノトス、斯ル排水接續ハ接近シ難キカ若クハ換氣不完全ナル地階物置ニ設クベカラズ

第133條 冷凍機排水管 (Refrigerator Wastes)

冷凍機排水管ハ1開口ニ對シテ1¼吋以上、3開口ニ對シ1½吋以上4乃至12開口ニ對シテハ2吋以上タルベク、各開口毎ニ「トラップ」ヲ、各曲折部毎ニ掃除口ヲ設ケ、管ノ瀉出及掃除ヲ適當ニ爲シ得ル如ク裝置スベシ、斯ル排水管ハ管徑ヲ減ズルコトナク屋上ニ連續スベシ、但シ斯ル器具ガ地階若クハ1階ニ在ルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第134條 溢水管及ビ發動機排氣管 (Overflow Pipe and Motor Exhausts)

給水槽ノ溢水管若クハ揚水機ノ廢氣管ハ屋内下水管汚水管若クハ排水管ノ如何ナルモノトモ直結スベカラズ、斯ル管ハ屋上ニ排出セシムルカ、若クハ器具中ノ「トラップ」ヲ經シ排出セシムルカ、乃至ハ冷凍機排水ニ於ケルモノト同樣ニ放流スベシ

第13章 維 持
(Maintenance)

第135條 缺陷アル器具 (Defective Fixtures)

既存ノ器具ニシテ缺陷アルカ、若クハ非衞生狀態ニアルコトヲ認メラレタル場合ニハ、監督官廳ヨリ發スル文書通知後30日以内ニ修理、改善、置換若クハ除去ヲ爲スベシ

第136條 假設便所設備 (Temporary Toilet Facilities)

建築物ノ建築工事中ハ凡テ適當ナル便所設備ヲ職工ノ使用ノ爲メニ具フベシ、該設備ハ衞生狀態ニ維持スベシ

第14章 檢査及ビ試驗
(Inspection and Test)

第137條 檢査 (Inspections)

衛生工事系統ノ配管「トラップ」及ビ器具ハ本條合ガ要求スル各項ニ適合シ、且ツ該系統ノ裝置及ビ構造ハ、承認ヲ得タル設計圖及ビ許可證(Permit)ニ一致セルコトヲ確保スル爲メ監督官廳ノ檢査ヲ受クベシ

第138條 届出 (Notification)

(a) 衛生工事業者ガ其ノ工事ノ檢査若クハ試驗ヲ受ケントスル場合ニハ、口頭、電話若クハ文書ヲ以テ監督官廳及建築主若クハ其ノ委任代理者(Authorized Agent)迄檢査及ビ試驗ヲ受ケント欲スル時間ヨリ8執務時間以前ニ於テ午前8時乃至午後4時ノ間ニ届出ヅル義務ヲ有ス

(b) 衛生工事業者ハ前記ノ届出ヲ爲ス以前ニ於テ、該工事ガ既述ノ試驗ニ耐フベキコトヲヲ確認スル義務ヲ有ス

(c) 監督官廳ハ該工事ガ試驗ニ耐ヘザルコトヲ發見シタル場合ハ、衛生工事業者ヲシテ改メテ前記ノ届出ヲナサシメ且ツ届出毎ニ——弗ヲ支拂シムベシ

(d) 監督官廳係員ガ各商ノ檢査若クハ試驗ノ指定時間ヲ24時間以上經過シテ來着セザル場合ニハ、檢査若クハ試驗ハ行ハレタルモノト見做シ、衛生工事業者ハ該工事ガ本條合並ニ承認ヲ得タル設計圖及ビ許可書ニ從ヒ裝置セラレタルモノニシテ、些ノ缺點無ク、且ツ要求セラレタル試驗ヲ完了シ、毫モ漏洩スル事ナク、尙ホ該檢査若クハ試驗施行ニ際シ建築主若クハ其ノ委任代理者ノ出席ヲ得若クハ之ヲ合法的ニ届出タル旨ノ宣誓書(Affidavit)ヲ提出スベキモノトス

(e) 許可書ヲ持出ス場合ニハ、届出書ノ所有者ヲシテ撤回書ヲ提出セシメ監督官廳下ニ保存セシムルコトアルベシ

第139條 試驗用材料及勞力 (Material and Labour for Tests)

檢査及ビ試驗ニ必要ナル設備、材料、動力及ビ勞力ハ衛生工事業者ヨリ供給スベシ

第140條 系統試驗 (System Tests)

衛生工事系統ノ配管ハ凡テ水壓若クハ氣壓ニ依リテ試驗スベシ、衛生工事器具ノ取付完了シ「トラップ」ニ注水シタル後、全排水系統ハ最終ノ氣壓試驗ヲ受クベシ、監督官廳ハ系統ノ各部分ニ壓力ガ到達セルヤ否ヤヲ檢スル爲メ、任意ノ掃除口ノ取外シヲ要求スル事ヲ得

第141條 試驗方法 (Methods of Testing)

(a) 水壓試驗 (Water Test) ——水壓試驗ハ排水系統ノ全部ニ對シ、或ハ其一部分毎ニ對シテ適用スル事ヲ得、全系統ニ對シテ適用スル場合ニハ配管ノ屋上最高開口ヲ除ク他ハ全開口ヲ密封シ、屋上溜水管頂マデ滿水スベシ

1部毎ニ試驗スル場合ニハ、該部分ニ於ケル最高開口ヲ除キタル全部ノ開口ヲ密栓シ、各部分ニ滿水スベシ、但シ如何ナル部分ト雖モ水頭10呎以上ノ水壓若クハ5听以上ノ氣壓ニテ試驗スベキモノトス、各部分ヲ連續的ニ試驗スル場合ニハ、前回ノ試驗部分ノ上部最小限度10呎ノ部分ハ建築物内ノ凡テノ接手若クハ管ガ水頭10呎以上若クハ氣壓5听以上ノ試驗ヲ受ケタルコトナキモノトシテ、兩試驗ヲ受クベキモノトス、各試驗ニ於テ水壓若クハ氣壓ハ、水若クハ空氣ヲ追加スルコトナク15分以上ノ低壓狀態ヲ持續スベシ

(b) 氣壓試驗 (Air Test)—氣壓試驗ハ空氣壓縮器若クハ試驗器 (Test Apparatus) ヲ適宜ノ開口ニ裝置シ、該系統ニ於ケル他ノ流入口、及ビ流出口ヲ凡テ密閉シタル後、全系統ニ渉リテ水銀柱10吋、若クハ毎平方吋ニ付キ5听ノ均等壓力ニ達スルマデ送氣スベシ、此ノ壓力ハ15分間持續セシムベシ

(c) 最終氣壓試驗 (Final Air Test)—適宜ノ開口若クハ流出口ニ空氣壓縮器ヲ接續シ、水頭1吋ニ相當スル氣壓ヲ與ヘ、是ヲ15分接續スベシ、空氣ノ漏洩スル事ナキ場合、或ハ鼓奈、浮球 (Drum, Float) 又ハ水柱ノ動搖 (Fluctuation) ニ據リ指示シ得ル「トラップ」ノ破壞ノ起ラザル場合ニハ、該系統ハ氣密ト見做スベシ

第142條 試驗順序 (Order of Tests)

試驗ハ下記ノ如ク別個ニ之ヲ行フ事ヲ得

(1) 宅地下水管及其ノ岐管ニシテ敷地境界線 (Property Line) ヨリ屋内下水管ニ至ル凡テノモノ

(2) 屋内下水管及ビ庭園下水管 (Yard Drains) 但シ屋内下水管ノ最高部ヨリ10呎ノ高サニ至ル全配管ヲ含ミ、器具ヘノ露出接續ヲ除ク

(3) 汚水管、排水管、通氣管、屋内竪樋及ビ下水管ニシテ建築物ノ完成以前ニ覆蔽 (Cover) セラルルモノ

(4) 及ビ (3) ニ要スル試驗ハ之ヲ併合スル事ヲ得

(5) 全系統ノ最終試驗

(6) 以上各號ノ試驗ヲ終了シ且ツ合格シタル後、監督官廳ハ認可證ヲ下附スベシ

第143條 工事ノ覆蔽 (Covering of Work)

下水工事系統若クハ衛生工事系統或ハ其ノ1部ハ前記ノ檢査、試驗及ビ認可ヲ受クルニ先立チテ覆蔽スベカラズ

第144條 工事ノ露出 (Uncovering of Work)

家屋下水管若クハ衛生工事系統或ハ其ノ1部ヲ前記ノ如キ正規ノ檢査試驗及認可ヲ受クルニ先立チテ覆蔽シタルトキハ、行政當局ノ命令ニ據リテ之ヲ開放スベシ

第145條 缺陷アル工事 (Defective Work)

檢査若クハ試驗ニ據リ缺陷ヲ發見シタル場合ニハ、斯ル工事若クハ材料ハ3日以内ニ交換シ、檢査及ビ試驗ヲ反覆スベシ

第146條 宅地下水管及ビ屋内下水管試驗 (House Sewer and House Drain Test)

宅地下水管及ビ屋内下水管ハ水壓試驗若クハ氣壓試驗ヲ受クベシ、水壓試驗ハ水頭10呎以上、氣壓試驗ハ5听壓以上タルベシ、變更、修繕若クハ擴張工事ニシテ長サ10呎以上ヲ含ムモノハ凡テ檢査及試驗ヲ受クベシ

第147條 竪樋管 (Conductor Pipe)

建築物壁體内ニ在ル竪樋管及ビ屋根トノ接續、或ハ外部系統ノ竪樋岐管ニシテ屋内下水管ト接續シタルモノ若クハ建築物ノ壁體ヨリ3呎以内ニ在ルモノハ水壓若クハ氣壓ニ據リ試驗スベシ、外部系統ニ於ケル竪樋岐管ハ屋内下水管ト接續シテ試驗スルコトヲ得

第148條 厩舍及ビ厩舍庭ノ排水試驗 (Stable and Stable Yard Drain Test)

厩舍若クハ其ノ1部ヲ住居トシテ使用スル場合ニハ、該衛生工事系統及ビ排水系統ノ檢査試驗及ビ試驗ハ、通常ノ住宅ニ於ケル場合ト同樣トナスベシ、

住居トシテ使用セザル場合ニハ厩舍及ビ厩舍庭ノ排水管ハ凡テ檢査ヲ受クルヲ要スルモ試驗ハ受クルヲ要セザルモノトス

第149條 自動車々庫及ビ下水系統 (Garage and Drainage System)

自動車々庫若クハ其ノ1部ニ對シテハ、通常住宅ニ於ケル場合ト同樣ニ衛生工事系統及ビ下水工事系統ニ對スル試驗及ビ檢査ヲ受クベシ

第150條 配水系統ノ試驗 (Test of Water Distribution)

配水系統ノ全部ガ完成シタル後、之ニ對シテ加フベキ最大壓力 (Maximum Working Pressure) 以上ノ壓力ヲ以テ試驗シ水密ナル事ヲ證明スベシ

第151條 認可證書 (Certificate of Approved)

衛生工事系統ガ滿足スベキ完成及ビ最終試驗ヲ得タルトキハ行政當局ハ建築主ニ傳達スベキ認可證書ヲ衛生工事業者ニ下付スベシ

第152條 缺陷アル衛生工事ノ氣壓試驗 (Air Test of Defective Plumbing)

缺陷ヲ生ジタリト信ズベキ理由ヲ有スル場合ニハ、一般建築物ノ下水系統若クハ衛生工事系統ニ對スル衛生狀態ヲ試驗スルニ際シテ氣壓試驗ヲ使用スベシ衛生工事系統ノ非衛生狀態ニ付キ監督官廳ヨリ警告セラレタル建築物ニ於テハ斯ル系統ノ變更ハ之ヲ修理ト認メズシテ、新設衛生工事ト見做スベシ

第153條 檢査及ビ試驗ヲ要セザル場合 (Inspection and Tests not Required)

衛生工事系統若クハ其ノ1部ガ展覽ノ目的ヲ以テ組立テラレ、實用ノ目的ニ供セラルルコトナク、且ツ下水系統ニ直結セラレザル場合、修繕スルカ或ハ既設ノ器具、水栓若クハ奈ヲ (同目的ニ使用スベキ) 新器具等ニ交換スル場合、或ハ閉塞個所 (Stoppage) ヲ通ジ又ハ漏洩箇所 (Leak) ヲ修繕スル場合ニ在リテハ試驗若クハ檢査ヲ要セザルベシ 以上

特　殊　資　料

菊池工業所

罐

東京市京橋區月島通7ノ7　〔電話京橋(56)3365番〕

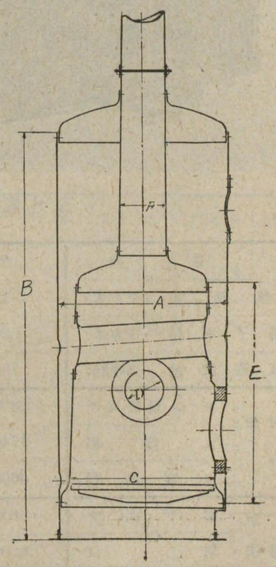
（蒸汽罐及水槽並油槽專門製作）

竪型横筒式蒸汽罐寸法表

番號	100°Cに於ける蒸發量 kg/h	平均直徑 (A) m.m	胴板高 (B) m.m	傳熱面積 M²	爐格面積 M²	火室下部の直徑 (C) m.m	横筒直徑 (D) m.m	火室の高さ (E) m.m	煙突の直徑 (F) m.m	横筒の數 (N)
1	40	600	1,220	1.3	0.180	480	150	850	210	1
2	80	760	1,500	1.9	0.320	640	180	920	225	1
3	200	900	2,100	3.6	0.460	760	200	1,280	250	2
4	300	1,060	2,500	5.6	0.760	990	200	1,600	295	3
5	450	1,220	2,900	8.6	0.880	1,070	200	1,900	310	4
6	650	1,370	3,300	10.1	1.140	1,220	230	2,200	345	4
7	750	1,520	3,600	12.0	1.400	1,340	250	2,350	380	4

竪型多管式蒸汽罐寸法表

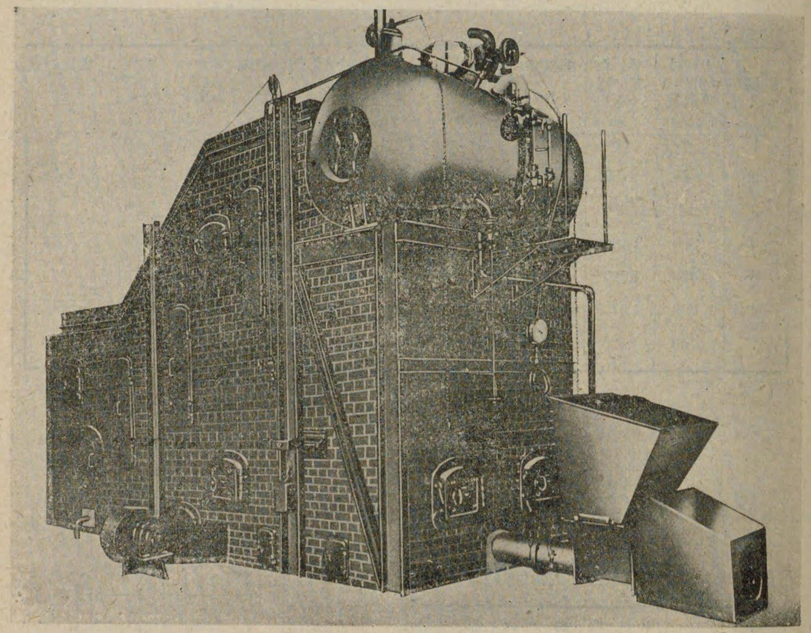
番號	平均直徑 m.m	胴板高さ m.m	傳熱面積 M²
1	760	1,500	5.0
2	900	1,800	7.5
3	1,060	2,100	10.0
4	1,220	2,400	13.0
5	1,370	2,700	24.0
6	1,520	3,000	33.0



罐　汽車製造株式會社

本　　店　東京市麹町區丸ノ内丸ビル367區〔電話丸ノ内(23) 5266(3)番〕
大阪支店及大阪工場　大阪市北花區島屋町406番地〔電話此花(64)62(3)・2331(6)番〕
東京支店及東京工場　東京市城東區南砂町4丁目652地番〔電話本所(73)2151(3)・4720・6485番〕

K. S. K. 小型水管罐



K. S. K. 小型水管罐摘要表

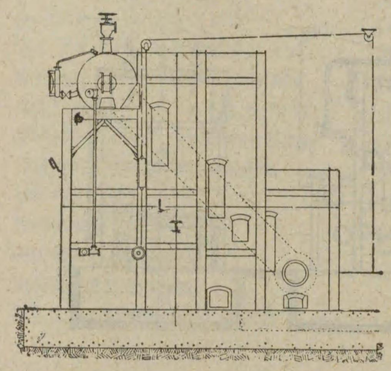
罐番號		22	27	32	44	58	72
傳熱面積（平方米）		22	27	32	44	58	72
火格子面積（平方米）		1.26	1.47	1.68	1.68	2.16	2.64
相當蒸發量（毎時瓲）		700	810	1020	1400	1850	2300
据付寸法（粍）	ドラム頂部高サ	3320	3620	3820	4040	4040	4040
	火爐幅	1740	1740	1740	1740	1980	2220
	火爐奥行	4650	5150	5650	5700	5700	5700
汽罐室最小寸法（粍）	梁下高サ	3800	4100	4300	4600	4600	4600
	間口	3200	3200	3200	3200	3500	3700
	奥行	7500	8600	9100	9200	9600	9600

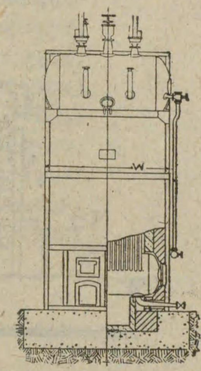
汽車製造株式會社　罐

本　　店　東京市麹町區丸ノ内丸ビル367區〔電話丸ノ内(23) 5266(3)番〕
大阪支店及大阪工場　大阪市此花區島屋町406番地〔電話此花(64)62(3)・2831(6)番〕
東京支店及東京工場　東京市城東區南砂町4丁目652番地〔電話本所(73)2151(3)4720・6485番〕

K. S. K. 特許

ML型タクマ式水管罐





ML型タクマ式水管罐摘要表

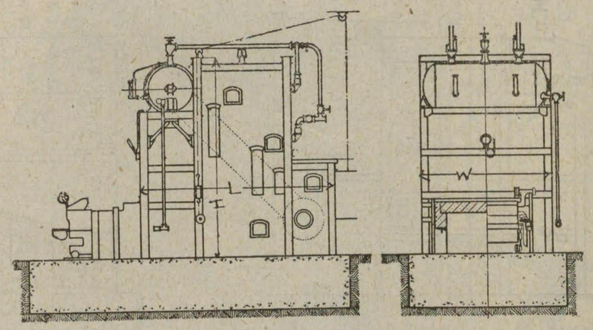
罐番號		ML-80	ML-110	ML-140	ML-170	ML-210	ML-240	ML-290	ML-340
傳熱面積（平方米）		54.8	72.5	90.1	107.8	125.4	143.1	178.4	213.7
ストーカ火格子面積（平方米）		2.24	2.88	3.52	4.16	4.80	5.44	6.72	8.00
相當蒸發量（毎時瓲）		1,740	2,300	2,860	3,420	3,980	4,540	5,660	6,780
据付寸法（粍）	高サ(H)	6,175	6,175	6,175	6,175	6,175	6,175	6,175	6,072
	幅 (W)	1,882	2,098	2,314	2,530	2,746	2,962	3,394	3,826
	奥行(L)	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840

罐　汽車製造株式會社

本　　店　東京市麹町區丸ノ内丸ビル367區〔電話丸ノ内(23) 5266(3)番〕
大阪支店及大阪工場　大阪市此花區島屋町406番地〔電話此花(64) 62(3)・2831(6)番〕
東京支店及東京工場　東京市城東區南砂町4丁目652番地〔電話本所(73)2151(3)4720-6495番〕

K. S. K. 特　許

L型タクマ式水管罐



L型タクマ式水管罐摘要表

罐番號		L-400	L-500	L-600	L700	L-800
傳熱面積(平方米)		239.7	303.8	367.9	432.0	496.1
ストーカ火格子面積(平方米)		8.80	11.4	14.1	16.7	19.4
相當蒸發量(毎時瓲)		7,605	9,640	11,675	13,710	15,745
据付寸法耗	高サ(H)	7,012	7,012	7,012	7,012	7,012
	幅(W)	3,608	4,256	4,904	5,552	6,200
	奥行(L)	7,010	7,010	7,010	7,010	7,010

昭和鐵工株式會社　罐

福岡市箱崎町4121番地〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

總代理店　淺野物産株式會社
(東京・大阪・札幌・名古屋・門司・京城・大連・新京・奉天・ハルピン・青島・上海・雄基)

昭和鐵工株式會社は我國最古の歴史を有する暖房諸機械並に病院諸器具製作の先驅者でありまして其の永き經驗と卓越せる技術は既に江湖の定評を得て居ります。

暖房用各種ボイラー	(淺野物産株式會社扱)
減壓弁	(淺野物産株式會社扱)
コンデンセーションポンプ	(淺野物産株式會社扱)
エーブイーピー型眞空暖房ポンプ	(淺野物産株式會社扱)
專賣特許九五七一五號器械消毒器	(淺野物産株式會社扱)
專賣特許九七三五三號放射線消毒器	(淺野物産株式會社扱)
專賣特許九八七六四號滅菌水製造器	(淺野物産株式會社扱)
專賣特許一〇三九七五號消毒器	(淺野物産株式會社扱)
其他病院設備器具一式	(淺野物産株式會社扱)
各種標準型ラヂエーター	(國産放熱器株式會社扱)
暖房熱風冷房蒸汽炊事	
濕潤乾燥水道衞生裝置	
衞生工事設計監督並に工事請負	

昭和鐵工株式會社

各種ボイラー製造經歷

1. 明治四十二年一月暖房用小型**ボイラー**"**エカ**"及"**ストレーベル**"**ボイラー**の製造を開始發賣をなす。
1. 大正六年三月更に住宅暖房用"**ラヂオボイラー**"の製造を開始し發賣をなす。
1. 大正七年三月更に暖房用大型**ボイラー**"**モナーク**第四四號型下向通風無煙汽罐"の製造を開始し發賣をなす。
1. 昭和六年五月愈々"**アサヒボイラー**"第壹號、第貳號、第參號、第四號、第五號型の製造を開始し淺野物産株式會社より之を發賣す。
1. 昭和六年五月同じく"**トキワボイラー**第五號型、第六號型、第七號型"の製造を開始し淺野物産株式會社より之を發賣す。
1. 昭和六年十月暖房用超大型**ボイラー**として"**ヤマトボイラー**第四拾號型"の製造を開始し淺野物産株式會社より之を發賣す。
1. 昭和九年一月**セクシヨナルボイラー**として最大の大型たる"**アサヒボイラー**第七九吋型"の製造を開始し淺野物産株式會社より之を發賣す。
1. 昭和十年十二月最新型家庭用**ボイラー**として理想的の"**ヘイワボイラー**"の製造を開始し淺野物産株式會社より之を發賣す。

罐 昭和鐵工株式會社

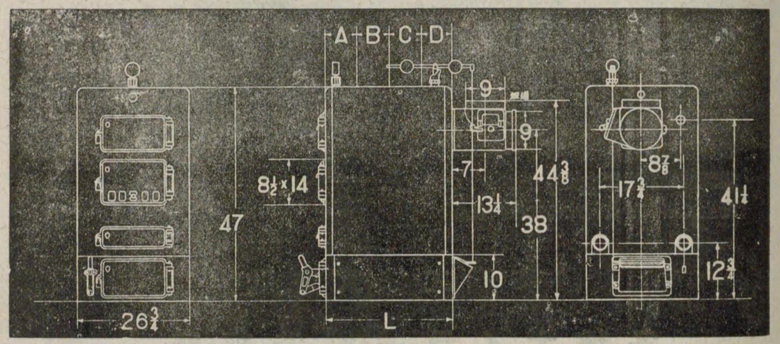
福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933 番 長0400〕

昭和鐵工株式會社製アサヒボイラーに就て

昭和鐵工株式會社は我國最古の歴史を有する暖房諸機械並に病院諸器具製作の先驅者でありまして其の永き經驗と卓越せる技術は既に江湖の定評を得て居ります。殊に暖房用**ボイラー**の製作は、數拾年來專門製作に從事し、優秀なる多數の技術者の不斷の研究に依る其の製品の優良は絶大の御好評を賜つて居る所以であります。**アサヒ・ボイラー**は別項試驗成績表の如く未曾有なる月條の嚴格な合格性能試驗の結果、果然斯界の驚異となりました。其の能力と其の確信の下に各位の御採用を衷心御願申上げます。

アサヒボイラー　第一號型

石炭焚型・　S—蒸汽用　W—温水用



ボイラー番號	能力(平方呎)	適應容量(給熱量十パイピング) E.D.R.※(平方呎) S(240.B.t.u.) W(150.B.t.u.)	最大石炭消費量1時間(封度)	火床面積(平方呎)	出口ノ數及ピ寸法	入口ノ數及ピ寸法	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎	立上リ間ノ寸法(吋) A	B	C	D	L	罐ノ荷造重量(封度)
S—104	350	125— 200	10.9	1.33	1—3″	2—2″	8×8	30	11½	—	—	4½	16	1,068
W—104	560	200— 320												
S—105	500	200— 275	14.8	1.79	1—3″	2—2″	8×8	30	15½	—	—	4½	20	1,240
W—105	800	320— 440												
S—106	650	275— 350	19.1	2.25	2—3″	2—2″	8×8	30	12	7½	—	4½	24	1,360
W—106	1040	440— 560												
S—107	800	350— 425	23.3	2.71	2—3″	2—2″	8×12	35	8	15½	—	4½	28	1,575
W—107	1280	560— 680												
S—108	950	425— 500	27.6	3.17	2—3″	2—2″	8×12	35	12	15½	—	4½	32	1,735
W—108	1520	680— 800												
S—109	1100	500— 575	32.3	3.63	2—3″	2—2″	8×12	35	16	15½	—	4½	36	1,935
W—109	1760	800— 920												
S—110	1250	575— 650	36.8	4.09	3—3″	2—2″	12×12	35	12	16	7½	4½	40	2,115
W—110	2000	920—1040												

昭和鐵工株式會社 罐

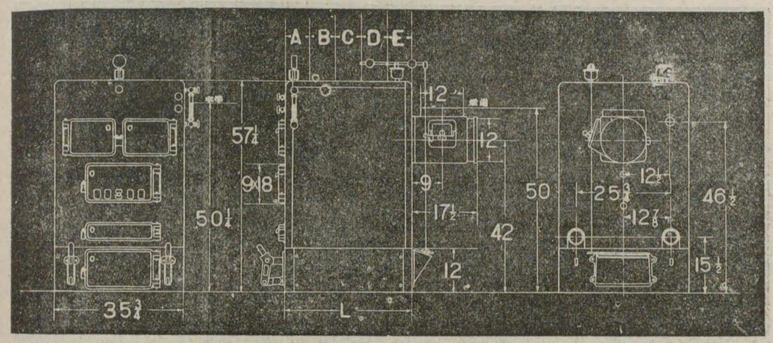
福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933 番 長0400〕

アサヒボイラー　第二號型

石炭焚型・特殊無煙型

S—蒸汽用

W—温水用



ボイラー番號 石炭焚型	ボイラー番號 特殊無煙型	能力(平方呎)	適應容量(給熱量十パイピング) E.D.R.※(平方呎) S(240.B.t.u.) W(150.B.t.u.)	最大石炭消費量1時間(封度)	火床面積(平方呎)	出口ノ數及ピ寸法	入口ノ數及ピ寸法	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎	立上リ間ノ寸法(吋) A	B	C	D	E	L	罐ノ荷造重量(封度)
S-205	S-205-S	1050	425— 550	30.1	3.50	2—4″	2—4″	8×12	35	10	10	—	—	5	25	2,060
W-205	W-205-S	1680	680— 880													
S-206	S-206-S	1300	550— 675	37.3	4.39	2—4″	2—4″	12×12	35	15	10	—	—	5	30	2,260
W-206	W-206-S	2080	880—1080													
S-207	S-207-S	1550	675— 800	44.9	5.28	2—4″	2—4″	12×12	35	10	20	—	—	5	35	2,580
W-207	W-207-S	2480	1080—1280													
S-208	S-208-S	1800	800— 925	51.8	6.17	2—4″	2—4″	12×12	40	15	20	—	—	5	40	2,800
W-208	W-208-S	2880	1280—1480													
S-209	S-209-S	2050	925—1050	60.0	7.06	2—4″	2—4″	12×16	40	10	30	—	—	5	45	3,130
W-209	W-209-S	3280	1480—1680													
S-210	S-210-S	2300	1050—1175	67.5	7.95	2—4″	2—4″	12×16	45	15	30	—	—	5	50	3,330
W-210	W-210-S	3680	1680—1880													
S-211	S-211-S	2550	1175—1300	75.1	8.84	3—4″	2—4″	12×16	45	10	20	20	—	5	55	3,660
W-211	W-211-S	4080	1880—2080													
S-212	S-212-S	2800	1300—1425	82.7	9.73	3—4″	2—4″	12×16	50	15	30	10	—	5	60	3,995
W-212	W-212-S	4480	2080—2280													
S-213	S-213-S	3050	1425—1550	90.3	10.62	4—4″	2—4″	12×16	50	10	20	10	10	5	65	4,210
W-213	W-213-S	4880	2280—2480													

罐 昭和鐵工株式會社

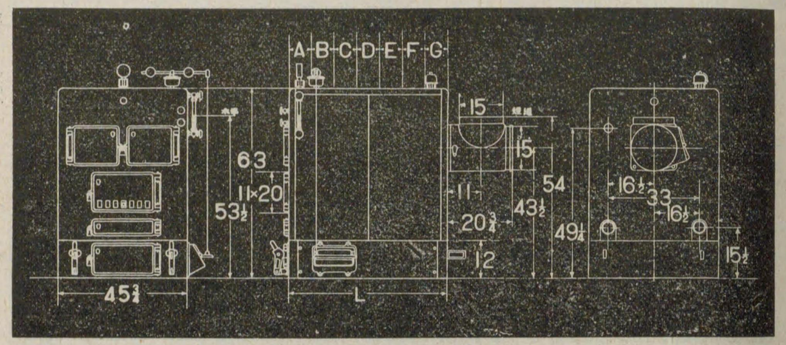
福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒボイラー 第三號型

石炭焚型・特殊無煙型

S—蒸汽用

W—温水用



ボイラー番號 石炭焚型	ボイラー番號 特殊無煙型	能力(平方呎)	適應容量(放熱量十パイピング) E.D.R.※(平方呎) S(240.B.t.u.) W(150.B.t.u.)	最大石炭消費量1時間(封度)	火床面積(平方呎)	出口ノ數及ピ寸法	入口ノ數及ピ寸法	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎	立上リ間ノ寸法(吋) A	B	C	D	E	F	G	L	罐ノ荷造重量(封度)
S-306	S-306-S	2500	1000—1500	72.5	6.65	2—4″	2—5″	12×16	40	9	18	—	—	—	—	9	36	3,360
W-306	W-306-S	4000	1600—2400															
S-307	S-307-S	3000	1250—1750	88.9	8.00	3—4″	2—5″	16×16	45	9	12	12	—	—	—	9	42	4,480
W-307	W-307-S	4800	2000—2800															
S-308	S-308-S	3500	1500—2000	103.8	9.35	3—4″	2—5″	16×16	50	9	18	12	—	—	—	9	48	4,800
W-308	W-308-S	5600	2400—3200															
S-309	S-309-S	4000	1750—2250	118.8	10.70	4—4″	2—5″	16×20	50	9	12	12	12	—	—	9	54	5,400
W-309	W-309-S	6400	2800—3600															
S-310	S-310-S	4500	2000—2500	136.2	12.05	4—4″	2—5″	16×20	55	9	12	12	12	—	—	15	60	6,000
W-310	W-310-S	7200	3200—4000															
S-311	S-311-S	5000	2250—2750	151.4	13.40	4—4″	2—5″	20×20	60	9	12	18	18	—	—	9	66	6,510
W-311	W-311-S	8000	3600—4400															
S-312	S-312-S	5500	2500—3000	166.7	14.75	5—4″	2—5″	20×20	65	9	18	12	12	12	—	9	72	7,020
W-312	W-312-S	8800	4000—4800															
S-313	S-313-S	6000	2750—3250	181.9	16.10	5—4″	2—5″	20×20	65	9	18	18	12	12	—	9	78	7,540
W-313	W-313-S	9600	4400—5200															
S-314	S-314-S	6500	3000—3500	197.2	17.45	6—4″	2—5″	20×20	70	9	12	12	18	12	12	9	84	8,160
W-314	W-314-S	10400	4800—5600															

昭和鐵工株式會社 罐

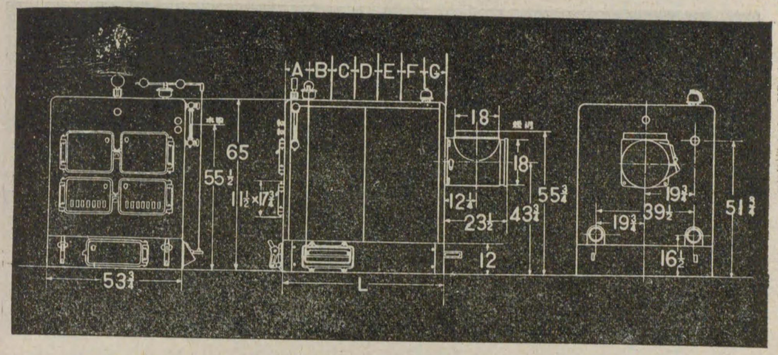
福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒボイラー 第四號型

石炭焚型・特殊無煙型

S—蒸汽用

W—温水用



ボイラー番號 石炭焚型	ボイラー番號 特殊無煙型	能力(平方呎)	適應容量(放熱量十パイピング) E.D.R.※(平方呎) S(240.B.t.u.) W(150.B.t.u.)	最大石炭消費量1時間(封度)	火床面積(平方呎)	出口ノ數及ピ寸法	入口ノ數及ピ寸法	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎	立上リ間ノ寸法(吋) A	B	C	D	E	F	G	L	罐ノ荷造重量(封度)
S-407	S-407-S	5000	2000—2750	162.6	11.70	3—4″	2—6″	16×20	50	10½	14	14	—	—	—	10½	49	5,995
W-407	W-407-S	8000	3200—4400															
S-408	S-408-S	5750	2375—3125	181.9	13.68	3—4″	2—6″	20×20	55	10½	14	14	—	—	—	17½	56	6,580
W-408	W-408-S	9200	3800—5000															
S-409	S-409-S	6500	2750—3500	206.7	15.66	4—4″	2—6″	20×20	55	10½	14	14	14	—	—	10½	63	7,380
W-409	W-409-S	10400	4400—5600															
S-410	S-410-S	7250	3125—3875	227.6	17.64	4—4″	2—6″	20×20	60	10½	14	14	14	—	—	17½	70	8,080
W-410	W-410-S	11600	5000—6200															
S-411	S-411-S	8000	3500—4250	249.2	19.62	5—4″	2—6″	20×24	65	10½	14	14	14	14	—	10½	77	8,800
W-411	W-411-S	12800	5600—6800															
S-412	S-412-S	8750	3875—4625	274.3	21.60	5—4″	2—6″	20×24	70	10½	14	14	14	14	—	17½	84	9,490
W-412	W-412-S	14000	6200—7400															
S-413	S-413-S	9500	4250—5000	299.5	23.58	6—4″	2—6″	20×24	75	10½	14	14	14	14	14	10½	91	10,170
W-413	W-413-S	15200	6800—8000															
S-414	S-414-S	10250	4625—5375	324.6	25.56	6—4″	2—6″	20×24	75	10½	14	14	14	14	14	17½	98	11,200
W-414	W-414-S	16400	7400—8600															

罐　昭和鐵工株式會社

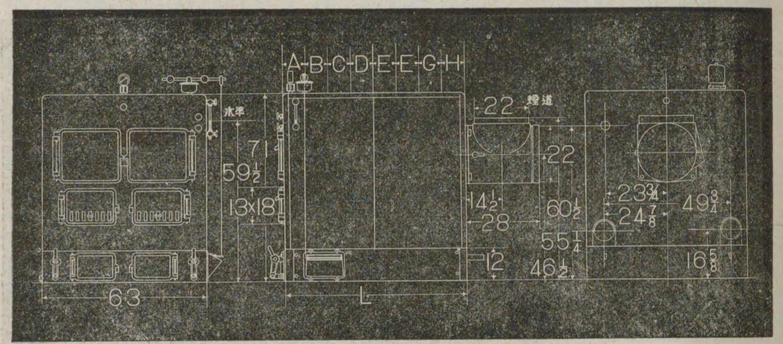
福岡市箱崎町4121番地　〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒボイラー　第五號型

石炭焚型・特殊無煙型

S—蒸汽用

W—温水用



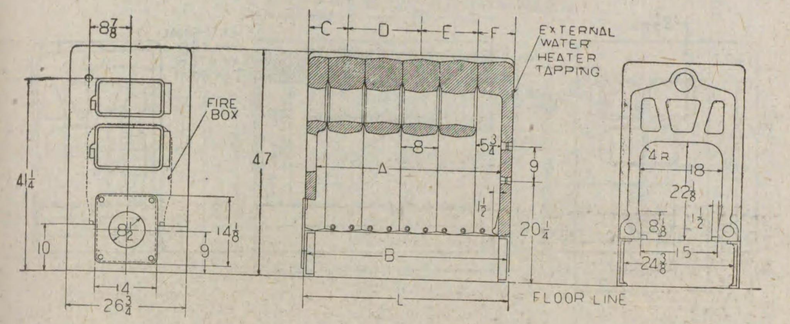
ボイラー番號 石炭焚型	ボイラー番號 特殊無煙型	能力（平方呎）	適應容量（放熱量十パイピング）E.D.R.※（平方呎）S(240.B.t.u.) W(150.B.t.u.)	最大石炭消費量1時間（封度）	火床面積（平方呎）	出口ノ數及ピ寸法	入口ノ數及ピ寸法	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎	立上リ間ノ寸法(吋) A	B	C	D	E	F	G	H	L	罐ノ荷造重量（封度）
S-508	S-508-S	8000	4150— 5250	246.6	18.83	3—5″	2—6″	24×28	70	12	24	16	—	—	—	—	12	64	940
W-508	W-508-S	12800	6640— 8400																
S-509	S-509-S	9100	4700— 5800	281.9	21.52	4—5″	2—6″	24×28	75	12	16	16	16	—	—	—	12	72	1030
W-509	W-509-S	14560	7520— 9280																
S-510	S-510-S	10200	5250— 6350	317.1	24.21	4—5″	2—6″	24×28	75	12	16	24	16	—	—	—	12	80	1150
W-510	W-510-S	16320	8400—10160																
S-511	S-511-S	11300	5800— 6900	344.3	26.90	5—5″	2—6″	24×28	80	12	16	16	16	16	—	—	12	88	1260
W-511	W-511-S	18080	9280—11040																
S-512	S-512-S	12400	6350— 7450	378.7	21.52	5—5″	2—6″	24×28	85	12	16	16	16	16	—	—	20	96	1310
W-512	W-512-S	19840	10160—11920																39
S-513	S-513-S	13500	6900— 8000	411.6	24.21	5—5″	2—6″	30×36	85	12	16	24	16	24	—	—	12	104	1440
W-513	W-513-S	21600	11040—12800																
S-514	S-514-S	14600	7450— 8550	453.5	24.21	6—5″	2—6″	30×36	90	12	16	16	24	16	16	—	12	112	1540
W-514	W-514-S	23360	11920—13680																
S-515	S-515-S	15700	8000— 9100	492.3	26.90	6—5″	2—6″	30×36	95	12	16	24	16	24	16	—	12	120	1670
W-515	W-515-S	25120	12800—14560																

昭和鐵工株式會社　罐

福岡市箱崎町4121番地　〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒボイラー　第一號型

オイルバーニング型　S—蒸汽用　W—温水用



ボイラー番號 蒸氣用	ボイラー番號 温水用	出口ノ數及ピ寸法	入口ノ數及ピ寸法 蒸氣用	入口ノ數及ピ寸法 温水用	"A"	"B"	總長サL吋	立上リ間ノ寸法（吋） C	D	E	F	罐ノ荷造重量（封度）
S-105—O	W—105—O	1—3″	2—2″	2—3″	15½″	19¾″	20⅝″	15½	—	—	4½	1,240
S-106—O	W—106—O	2—3″	2—2″	2—3″	19½	23¾″	24⅝″	12	7½	—	4½	1,360
S-107—O	W—107—O	2—3″	2—2″	2—3″	23½	27¾″	28⅝″	8	15½	—	4½	1,575
S-108—O	W—108—O	2—3″	2—2″	2—3″	27½	31¾″	32⅝″	12	12½	—	4½	1,755
S-109—O	W—109—O	2—3″	2—2″	2—3″	31½	35¾″	36⅝″	16	15½	—	4½	1,935
S-110—O	W—110—O	3—3″	2—2″	2—3″	35½	39¾″	40⅝″	12	16	7½	4½	2,115
S-111—O	W—111—O	3—3″	2—2″	2—3″	39½	43¾″	44⅝″	8	16	15½	4½	2,295

ボイラー番號	傳熱面積（平方呎）	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 5000 B.t.u. 能力（平方呎）	1時間當リ最少重油消費量（封度）	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 4000 B.t.u. 能力（平方呎）	1時間當リ最少重油消費量（封度）	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 5000 B.t.u. 能力（平方呎）	1時間當リ最少重油消費量（封度）	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 6000 B.t.u. 能力（平方呎）	1時間當リ最少重油消費量（封度）	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎
S—105—O	21.9	275	4.7	365	6.4	455	8.2	545	10.3	8×8	30
W—105—O		440		585		730		875			
S—106—O	25.3	315	5.4	420	7.4	525	9.4	630	11.9	8×8	30
W—106—O		505		675		845		1015			
S—107—O	30.0	375	6.4	500	8.7	625	11.2	750	14.1	8×8	30
W—107—O		600		800		1000		1200			
S—108—O	33.4	415	7.2	555	9.7	695	12.5	835	15.7	8×8	30
W—108—O		665		890		1110		1335			
S—109—O	38.0	475	8.2	635	11.1	795	14.2	950	17.9	8×12	30
W—109—O		760		1015		1270		1520			
S—110—O	41.4	520	8.9	690	12.1	865	15.5	1040	19.6	8×12	35
W—110—O		830		1105		1380		1660			
S—111—O	46.1	575	9.9	770	13.5	960	17.2	1150	21.7	8×12	35
W—111—O		920		1230		15 5		1845			

御注意—1封度ニツキ 19,000 B. t. u. ノ熱量ヲ有スル重油ヲ用ヒタル場合ノ能力ヲ表シタモノデアリマス。温水用ハ1平方呎毎時 150. B. t. u. 蒸氣用ハ1平方呎毎時 240. B. t. u. デアリマス。"コールドスターテングロード"ハ"トータルラヂエター"及"パイピングロード"ニ25%ヲ加エタモノデアリマス。ソシテ太線ノ間ニアル能力カラボイラーヲ御選ビ下サイ。

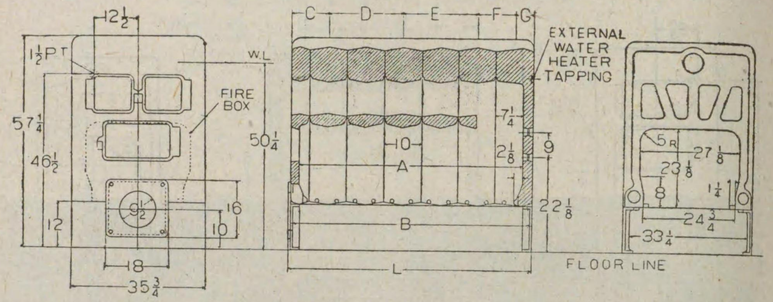
罐

昭和鐵工株式會社

福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒボイラー　第二號型

オイルバーニング型　S—蒸汽用　W—温水用



ボイラー番號		出口ノ數及ビ寸法	入口ノ數及ビ寸法	"A"	"B"	總長サL	立上リ間ノ寸法 (吋)					罐ノ荷造重量(封度)
蒸氣用	温水用					吋	C	D	E	F	G	
S—206—O	W—206—O	2—4″	2—4″	24½″	29 3/16″	30¼″	15	10	—	—	5	2,260
S—207—O	W—207—O	2—4″	2—4″	29½″	34 9/16″	35″ 1/4	10	20	—	—	5	2,580
S—208—O	W—208—O	2—4″	2—4″	34½″	39 7/16″	40¼″	15	20	—	—	5	2,800
S—209—O	W—209—O	2—4″	2—4″	29½″	44 7/16″	45¼″	10	30	—	—	5	3,150
S—210—O	W—210—O	2—4″	2—4″	44½″	49 7/16″	50¼″	15	30	—	—	5	3,330
S—211—O	W—211—O	3—4″	2—4″	49½″	54 7/16″	55¼″	10	20	20	—	5	3,660
S—212—O	W—212—O	3—4″	2—4″	54½″	59 7/16″	60¼″	15	30	10	—	5	3,965
S—213—O	W—213—O	4—4″	2—4″	59½″	64 7/16″	65¼″	10	20	20	10	5	4,210

ボイラー番號	傳熱面積 (平方呎)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 3000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 4000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 5000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 6000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎
S—206—O	49.2	615	10.5	820	14.4	1020	18.3	1230	23.2	8×12	30
W—206—O		985		1310		1640		1970			
S—207—O	57.1	715	12.3	950	16.7	1190	21.3	1430	27.0	12×12	30
W—207—O		1140		1520		1910		2280			
S—208—O	64.9	810	13.9	1080	19.0	1350	24.2	1620	30.6	12×12	35
W—208—O		1300		1730		2160		2600			
S—209—O	72.9	910	15.6	1220	21.3	1520	27.2	1820	34.4	12×12	35
W—209—O		1460		1940		2430		2920			
S—210—O	80.8	1010	17.4	1350	23.6	1680	30.2	2020	38.2	12×12	40
W—210—O		1620		2160		2690		3240			
S—211—O	88.8	1110	19.1	1480	26.0	1850	33.1	2220	41.8	12×16	40
W—211—O		1780		2370		2960		3550			
S—212—O	96.7	1210	20.8	1610	28.3	2020	36.1	2420	45.7	12×16	40
W—212—O		1940		2580		3220		3870			
S—213—O	104.6	1310	22.4	1740	30.6	2180	39.1	2620	49.3	12×16	40
W—213—O		2090		2790		3490		4180			

御注意—1封度＝ツキ 19,000 B. t. u. ノ熱量ヲ有スル重油ヲ用ヒタル場合ノ能力ヲ表シタモノデアリマス。温水用ハ1平方呎毎時 150. B. t. u. 蒸氣用ハ1平方呎毎時 240. B. t. u. デアリマス。**"コールドスターテングロード"**ハ**"トータルラヂエター"**及**"パイピングロード"**＝25%ヲ加エタモノデアリマス。ソシテ太線ノ間ニアル能力カラ**ボイラー**ヲ御選ビ下サイ。

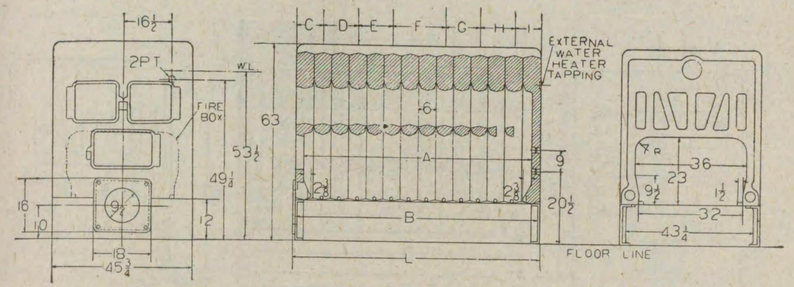
罐

昭和鐵工株式會社

福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒボイラー　第三號型

オイルバーニング型　S—蒸汽用　W—温水用



ボイラー番號		出口ノ數及ビ寸法	入口ノ數及ビ寸法	"A"	"B"	總長サL	立上リ間ノ寸法 (吋)							罐ノ荷造重量(封度)
蒸氣用	温水用					吋	C	D	E	F	G	H	I	
S—308—O	W—308—O	3—4″	2—5″	41½	47½	48¼	9	18	12	—	—	—	9	4,900
S—309—O	W—309—O	4—4″	2—5″	47½	53½	54¼	9	12	12	12	—	—	9	5,490
S—310—O	W—310—O	4—4″	2—5″	53½	59½	60¼	9	12	12	12	—	—	15	6,000
S—311—O	W—311—O	4—4″	2—5″	59½	65½	66¼	9	12	18	18	—	—	9	6,510
S—312—O	W—312—O	5—4″	2—5″	65½	71½	72¼	9	18	12	12	12	—	9	7,020
S—313—O	W—313—O	5—4″	2—5″	71½	77½	78¼	9	18	18	12	12	—	9	7,540
S—314—O	W—314—O	6—4″	2—5″	77½	83½	84¼	9	12	12	18	12	12	9	8,150

ボイラー番號	傳熱面積 (平方呎)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 3000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 4000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 5000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 6000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎
S—308—O	105.5	1320	22.6	1760	30.8	2200	39.4	2640	49.7	12×16	40
W—308—O		2110		2810		3520		4220			
S—309—O	119.2	1490	25.6	1990	34.8	2480	44.5	2980	56.2	12×16	45
W—309—O		2380		3180		3970		4770			
S—310—O	132.9	1660	28.5	2220	38.8	2770	49.5	3320	62.5	16×16	45
W—310—O		2660		3540		4430		5320			
S—311—O	146.6	1830	31.5	2440	42.6	3060	54.7	3660	69.1	16×16	45
W—311—O		2930		3910		4880		5860			
S—312—O	159.8	2000	34.3	2660	46.7	3330	59.7	4000	75.2	16×16	45
W—312—O		3200		4260		5320		6390			
S—313—O	173.6	2170	37.2	2890	50.7	3620	64.8	4340	81.7	16×16	50
W—313—O		3470		4650		5780		6940			
S—314—O	187.3	2340	40.2	3120	54.7	3900	69.9	4680	88.3	16×20	50
W—314—O		3750		5000		6250		7490			

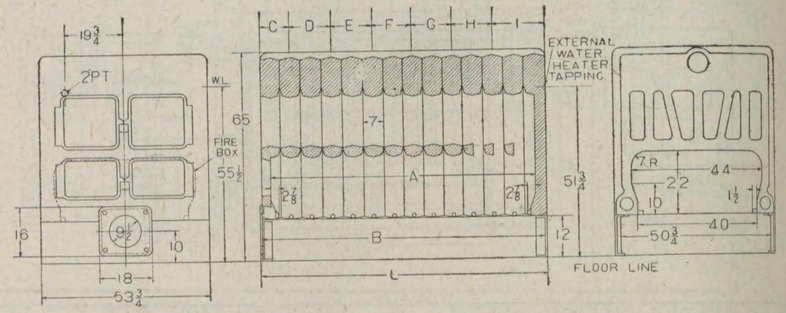
御注意—1封度＝ツキ 19,000 B. t. u. ノ熱量ヲ有スル重油ヲ用ヒタル場合ノ能力ヲ表シタモノデアリマス。温水用ハ1平方呎毎時 150. B. t. u. 蒸氣用ハ1平方呎毎時 240. B. t. u. デアリマス。**"コールドスターテングロード"**ハ**"トータルラヂエター"**及**"パイピングロード"**＝25%ヲ加エタモノデアリマス。ソシテ太線ノ間ニアル能力カラ**ボイラー**ヲ御選ビ下サイ。

罐 | 昭和鐵工株式會社

福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒボイラー　第四號型

オイルバーニング型　S—蒸汽用　W—温水用



ボイラー番號 蒸氣用	ボイラー番號 温水用	出口ノ數及ビ寸法	入口ノ數及ビ寸法	"A"	"B"	總長サL 吋	立上リ間ノ寸法 (吋) C	D	E	F	G	H	I	罐ノ荷造重量(封度)
S—409—O	W—409—O	4—4″	2—6″	55⅜″	62⅛″	63⅞″	10½	14	14	14	—	—	10½	7,380
S—410—O	W—410—O	4—4″	2—6″	62⅜″	69⅛″	70⅞″	10½	14	14	14	—	—	17½	8,080
S—411—O	W—411—O	5—4″	2—6″	69⅜″	76⅛″	77⅞″	10½	14	14	14	14	—	10½	8,800
S—412—O	W—412—O	5—4″	2—6″	76⅜″	83⅛″	84⅞″	10½	14	14	14	14	—	17½	9,400
S—413—O	W—413—O	6—4″	2—6″	83⅜″	90⅛″	91⅞″	10½	14	14	14	14	14	10½	10,170
S—414—O	W—414—O	6—4″	2—6″	90⅜″	97⅛″	98⅞″	10½	14	14	14	14	14	17½	11,200

ボイラー番號	傳熱面積 (平方呎)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 3000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量 (封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 4000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量 (封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 5000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量 (封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 6000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量 (封度)	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎
S—409—O	169	2110	36.2	2810	49.3	3520	63.0	4220	79.6	16×16	45
W—409—O		3380		4500		5620		6750			
S—410—O	189	2360	40.5	3140	55.0	3930	70.3	4710	88.9	16×16	50
W—410—O		3770		5030		6280		7540			
S—411—O	208	2600	44.7	3470	60.8	4340	77.7	5210	98.2	16×20	50
W—411—O		4170		5560		6940		8330			
S—412—O	228	2850	48.9	3800	66.5	4750	85.1	5700	107.5	16×20	55
W—412—O		4560		6080		7600		9120			
S—413—O	248	3100	53.2	4130	72.3	5160	92.5	6190	116.8	16×20	55
W—413—O		4950		6610		8260		9910			
S—414—O	267	3340	57.5	4460	78.1	5570	99.8	6690	126.1	20×20	55
W—414—O		5350		7140		8920		10700			

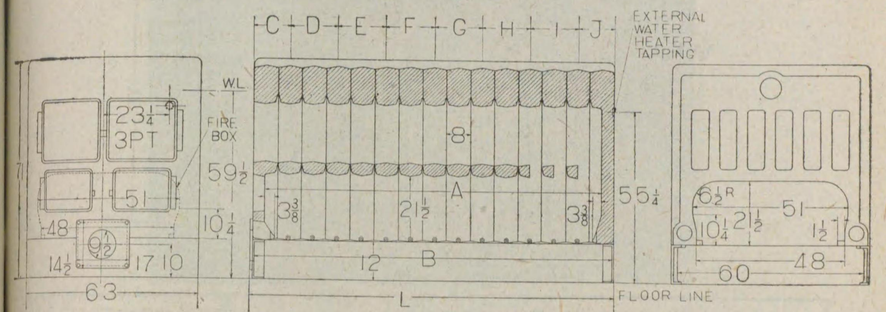
御注意—1封度ニツキ 19,000 B. t. u. ノ熱量ヲ有スル重油ヲ用ヒタル場合ノ能力ヲ表シタモノデアリマス。温水用ハ1平水呎毎時 150. B. t. u. 蒸氣用ハ1平方呎毎時 240. B.t.u. デアリマス。"**コールドスターテングロード**"ハ"**トータルラヂエター**"及"**パイピングロード**"ニ25%ヲ加エタモノデアリマス。ソシテ太線ノ間ニアル能力カラ**ボイラー**ヲ御選ビ下サイ。

昭和鐵工株式會社 | 罐

福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒボイラー　第五號型

オイルバーニング型　S—蒸汽用　W—温水用



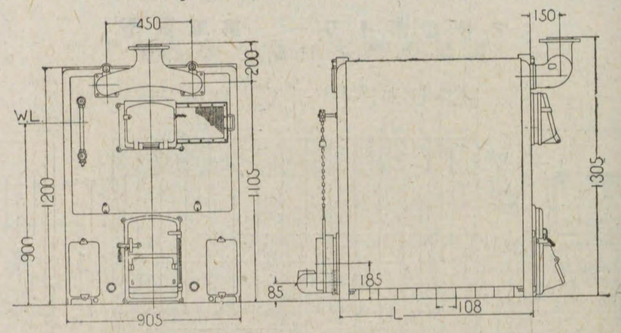
ボイラー番號 蒸氣用	ボイラー番號 温水用	出口ノ數及ビ寸法	入口ノ數及ビ寸法	"A"	"B"	總長サL (吋)	立上リ間ノ寸法 (吋) C	D	E	F	G	H	I	J	罐ノ荷造重量(封度)
S—510—O	W—510—O	4—5″	2—6″	71¼	79¼	80	12	16	24	16	—	—	—	12	11550
S—511—O	W—511—O	5—5″	2—6″	79¼	87¼	88	12	16	16	16	16	—	—	12	12580
S—512—O	W—512—O	5—5″	2—6″	87¼	95¼	96	12	16	16	16	16	—	—	20	13610
S—513—O	W—513—O	5—5″	2—6″	95¼	103¼	104	12	16	24	16	24	—	—	12	14640
S—514—O	W—514—O	6—5″	2—6″	103¼	111¼	112	12	16	16	24	16	16	—	12	15670
S—515—O	W—515—O	6—5″	2—6″	111¼	119¼	120	12	16	24	16	24	16	—	12	16700
S—516—O	W—516—O	7—5″	2—6″	119¼	127¼	128	12	16	16	16	16	16	16	20	17730
S—517—O	W—517—O	7—5″	2—6″	127¼	135¼	136	12	16	24	16	24	16	16	12	18760

ボイラー番號	傳熱面積 (平方呎)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 3000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量 (封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 4000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量 (封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 5000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量 (封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 6000 B.t.u. 能力 (平方呎)	1時間當リ最少重油消費量 (封度)	煙突 寸法吋	煙突 高サ呎
S—510—O	265	3310	56.8	4420	77.3	5510	98.7	6620	125.0	20×20	50
W—510—O		5290		7060		8820		10590			
S—511—O	293	3660	62.9	4880	85.6	6110	109.4	7330	138.2	20×20	55
W—511—O		5860		7820		9770		11720			
S—512—O	331	4130	71.0	5520	96.5	6890	123.4	8270	156.0	20×20	55
W—512—O		6610		8820		11030		13230			
S—513—O	359	4490	77.1	5980	105.0	7480	134.0	8980	169.4	20×20	60
W—513—O		7180		9570		11990		14370			
S—514—O	386	4830	83.0	6440	113.0	8050	144.1	9660	182.1	20×24	60
W—514—O		7720		10300		12900		15440			
S—515—O	415	5180	89.0	6910	121.0	8640	154.6	10370	195.5	20×24	65
W—515—O		8290		11050		13830		16580			
S—516—O	442	5520	94.8	7360	129.0	9200	164.7	11040	208.2	20×24	65
W—516—O		8830		11780		14730		17660			
S—517—O	469	5860	100.5	7810	137.0	9760	174.9	11720	221.0	20×24	70
W—517—O		9370		12500		15630		18740			

御注意—1封度ニツキ 19,000 B. t. u. ノ熱量ヲ有スル重油ヲ用ヒタル場合ノ能力ヲ表シタモノデアリマス。温水用ハ1平方呎毎時 150. B. t. u. 蒸氣用ハ1平方呎毎時 240. B. t. u. デアリマス。"**コールドスターテングロード**"ハ"**トータルラヂエター**"及"**パイピングロード**"ニ25%ヲ加エタモノデアリマス。ソシテ太線ノ間ニアル能力カラ**ボイラー**ヲ御選ビ下サイ。

罐 昭和鐵工株式會社
福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

トキワ、ボイラー　第五號型



溫水用

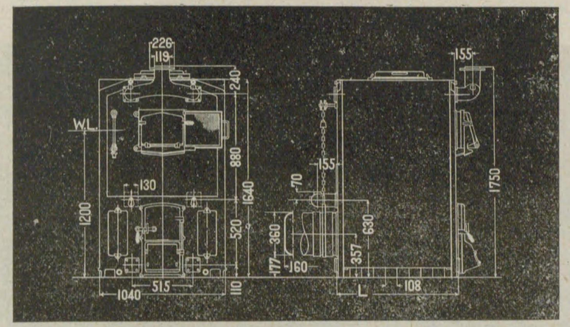
ボイラー番號	セクション數	能力 平方呎 平方米	總能力 B.T.U(時) カロリー(時)	傳熱面積 平方呎 平方米	容量 使用水量 ガロン(A) リットル	容量 石炭消費量 立方呎 リットル	總長サ"L" 吋 粍	罐ノ荷重封	造量度
505	5	1010 93.8	145800 36750	56.5 5.25	39.5 149	4.1 118	21¼ 540		1870 840
506	6	1250 116.1	180500 45500	70.0 6.50	45.4 175	5.3 152	25½ 648		2160 981
507	7	1490 138.4	215200 54250	83.4 7.75	51.5 195	6.5 186	29¾ 756		2450 1114
508	8	1730 160.7	249900 63000	96.9 9.00	57.4 218	7.7 220	34 864		2771 1257
509	9	1970 183.1	284600 71750	110.3 10.25	63.5 241	8.9 254	38¼ 972		3060 1392
510	10	2210 205.3	319300 80500	123.8 11.50	69.4 264	10.1 288	42½ 1080		3350 1525
511	11	2450 227.7	354000 89250	137.2 12.75	75.5 287	11.3 322	46¾ 1188		3650 1659
512	12	2690 249.9	388700 98000	150.7 14.00	81.4 310	12.5 356	51 1296		3940 1792
513	13	2930 272.2	423400 106750	164.2 15.25	87.5 333	13.7 390	55¼ 1404		4251 1928

蒸汽用

ボイラー番號	セクション數	能力 平方呎 平方米	總能力 B.T.U(時) カロリー(時)	傳熱面積 平方呎 平方米	容量 使用水量 ガロン(A) リットル	容量 石炭消費量 立方呎 リットル	總長サ"L" 吋 粍	罐ノ荷重封	造量度
5005	5	490 455.2	125000 31500	56.5 5.25	29.8 113	4.1 118	21¼ 540		1871 840
5006	6	610 266.7	154800 39000	70.0 6.50	34.3 130	5.3 125	25½ 648		2161 981
5007	7	730 678.2	184600 46500	83.4 7.75	38.8 147	6.5 186	29¾ 756		2456 1114
5008	8	850 789.7	214400 54000	96.9 900	43.3 164	7.7 220	34 864		2777 1257
5009	9	970 901.1	244200 61500	110.3 10.25	47.8 181	8.9 254	38¼ 972		3069 1392
5010	10	1090 1012.6	274000 69000	123.8 11.50	52.3 198	10.1 288	42½ 1080		3362 1525
5011	11	1210 1124.1	303800 76500	137.2 12.75	56.8 215	11.3 322	46¾ 1188		3656 1659
5012	12	1330 1235.6	333600 84000	150.7 14.00	61.3 232	12.5 356	51 1296		3951 1792
5013	13	1450 1347.1	363400 91500	164.2 15.25	65.8 249	13.7 390	55¼ 1404		4251 1928

昭和鐵工株式會社 罐
福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

第六號型「トキワ」ボイラー



(蒸汽用)

ボイラー番號	セクション數	能力 平方呎 平方米	總能力 B.T.U(時) カロリー(時)	傳熱面積 平方呎 平方米	容量 使用水量 ガロン(A) リットル	容量 石炭消費量 立方呎 リットル	總長サ"L" 吋 粍	罐ノ荷重封	造量度
6006	6	865 80.4	220200 55500	99.6 9.25	50 188	9.0 256	25¼ 648		3580 1623
6007	7	1030 95.7	261900 65000	118.4 11.00	56 212	10.9 312	29¾ 756		4040 1831
6008	8	1195 111.0	303600 76500	137.2 12.75	62 236	12.9 368	34 864		4520 2049
6009	9	1360 126.3	345300 87000	156.1 14.50	69 260	14.8 424	38¼ 972		4970 2255
6010	10	1525 141.7	387000 97500	174.9 16.25	75 284	16.8 480	42½ 1080		5430 2454
6011	11	1690 157.0	428700 108000	193.8 18.00	81 308	18.8 536	46¾ 1188		5890 2672
6012	12	1855 172.3	470400 118500	212.6 19.75	87 332	20.7 592	51 1296		6350 2880
6013	13	2020 187.7	512100 129000	231.4 21.50	94 356	22.7 648	55¼ 1404		6810 3087
6014	14	2185 203.0	553800 139500	250.3 23.25	100 380	24.6 704	59½ 1512		7290 3305
6015	15	2350 218.3	595500 150000	269.1 25.00	106 404	26.6 760	63¾ 1620		7750 3515

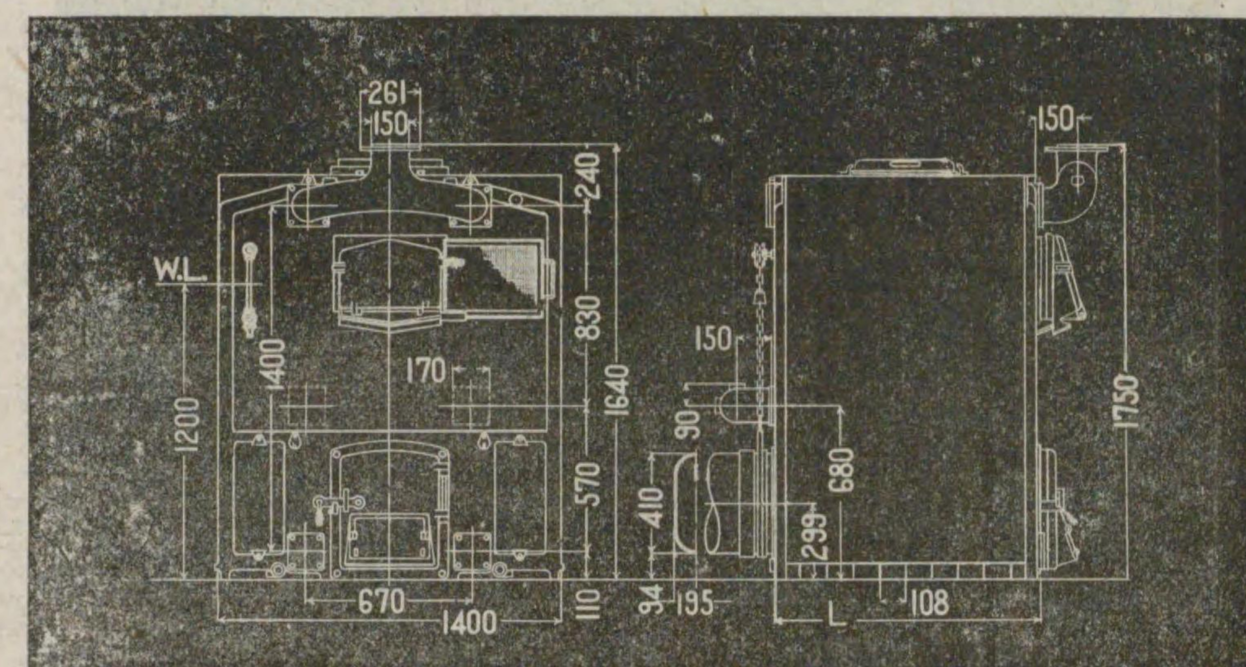
(溫水用)

ボイラー番號	セクション數	能力 平方呎 平方米	總能力 B.T.U(時) カロリー(時)	傳熱面積 平方呎 平方米	容量 使用水量 ガロン(A) リットル	容量 石炭消費量 立方呎 リットル	總長サ"L" 吋 粍	罐ノ荷重封	造量度
606	6	1770 164.4	256900 64750	99.6 9.25	74 278	9.0 256	25¼ 648		3580 1623
607	7	2105 195.5	305500 77000	118.4 11.00	84 316	10.9 312	29¾ 756		4040 1831
608	8	2440 226.7	354100 89250	137.2 12.75	94 354	12.9 368	34 864		4520 2049
609	9	2775 257.8	402700 101500	156.1 14.50	104 392	14.8 424	38¼ 972		4970 2255
610	10	3110 288.9	451300 113750	174.9 16.25	114 430	16.8 480	42½ 1090		5430 2454
611	11	3445 320.0	499900 126000	193.8 18.00	121 468	18.8 536	46¾ 1188		5890 2672
612	12	3780 351.2	548500 138250	212.6 19.75	134 506	20.7 592	51 1296		6350 2880
613	13	4115 382.3	597100 150500	231.4 21.50	144 544	22.7 648	55¼ 1404		6810 3087
614	14	4460 413.4	645700 162750	250.3 23.25	154 582	24.6 704	59½ 1512		7290 3305
615	15	4785 444.5	694300 175000	269.1 25.00	164 620	26.6 760	63¾ 1620		7750 3515

昭和鐵工株式會社

福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933 番 長0400〕

第七號型「トキワ」ボイラー



(蒸　汽　用)

ボイラー番號	セクション數	能力 平方呎 / 平方米	總能力 B.T.U(時) / カロリー(時)	傳熱面積 平方呎 / 平方米	容量 使用水量 ガロン(A) / リットル	容量 石炭消費量 立方呎 / リットル	總長サ"L" 吋 / 粍	罐ノ荷造重量 封度 / 瓩
7009	9	1960 182.0	500000 126000	226.1 21.00	103 390	20.1 575	38¼ 972	6510 2952
7010	10	2190 203.5	559500 141000	253.0 23.50	113 430	22.8 650	42½ 1080	7100 3219
7011	11	2420 224.8	619000 156000	279.9 26.00	124 470	25.4 725	46¾ 1188	7690 3486
7012	12	2650 246.2	678500 171000	306.8 28.50	134 510	28.0 800	51.00 1296	8270 3752
7013	13	2880 267.6	738000 186000	333.7 31.00	145 550	30.6 875	55¼ 1404	8860 4019
7014	14	3110 288.8	797500 201000	360.6 33.50	155 590	33.3 950	59½ 1512	9470 4296
7015	15	3340 310.3	857000 216000	387.5 36.00	166 630	35.9 1025	63¾ 1620	10160 4562
7016	16	3570 341.7	916500 231000	414.4 38.50	176 670	38.5 1100	69.00 1728	10850 4823

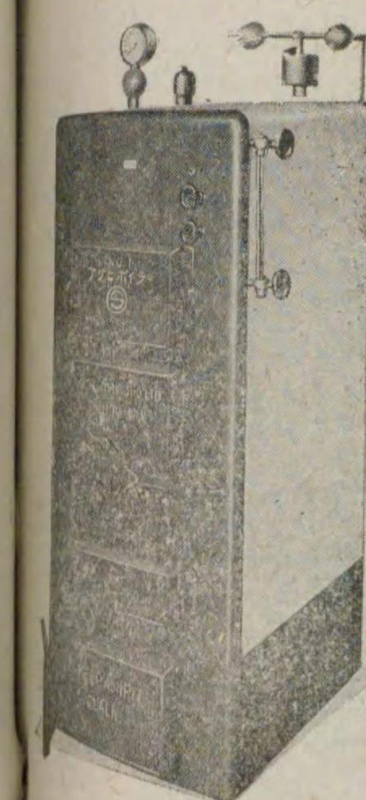
(溫　水　用)

ボイラー番號	セクション數	能力 平方呎 / 平方米	總能力 B.T.U(時) / カロリー(時)	傳熱面積 平方呎 / 平方米	容量 使用水量 ガロン(A) / リットル	容量 石炭消費量 立方呎 / リットル	總長サ"L" 吋 / 粍	罐ノ荷造重量 封度 / 瓩
709	9	4025 373.9	583300 147000	226.1 21.00	129 490	20.1 575	38¼ 972	6510 2952
710	10	4505 418.5	652700 164500	253.0 23.50	142 540	22.8 650	42½ 1080	7100 3219
711	11	4985 463.0	722100 182000	279.9 26.00	155 590	25.4 725	46¾ 1188	7690 3486
712	12	5465 507.7	791500 199500	306.8 28.50	169 640	28 800	51.00 1296	8270 3752
713	13	5945 552.3	860900 217000	333.7 31.00	182 690	30.6 875	55¼ 1404	8860 4019
714	14	6425 596.9	930300 234500	360.6 33.50	195 740	33.3 950	59½ 1512	9470 4296
715	15	6905 641.5	999700 252000	387.5 36.00	208 790	35.9 1025	63¾ 1620	10160 4562
716	16	7385 686.1	1069100 269500	414.4 38.50	224 840	38.5 1100	69.00 1728	10850 4823

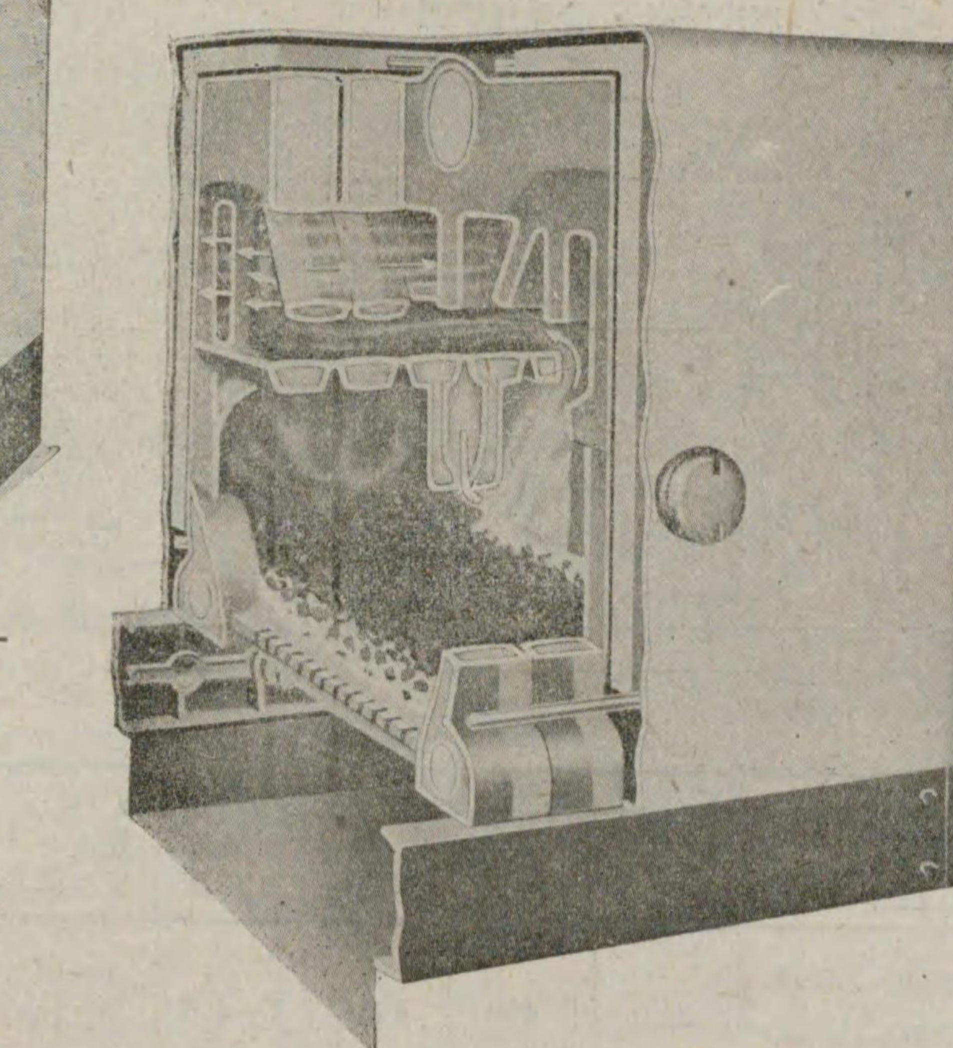
昭和鐵工株式會社

福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933 番 長0400〕

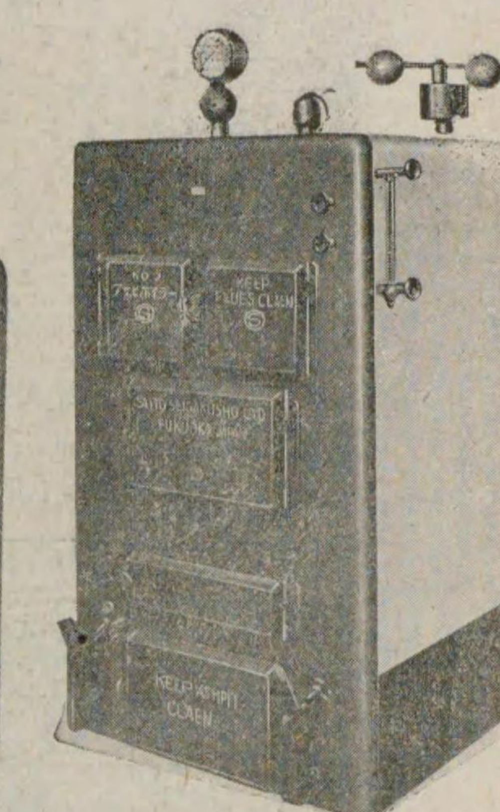
アサヒボイラー



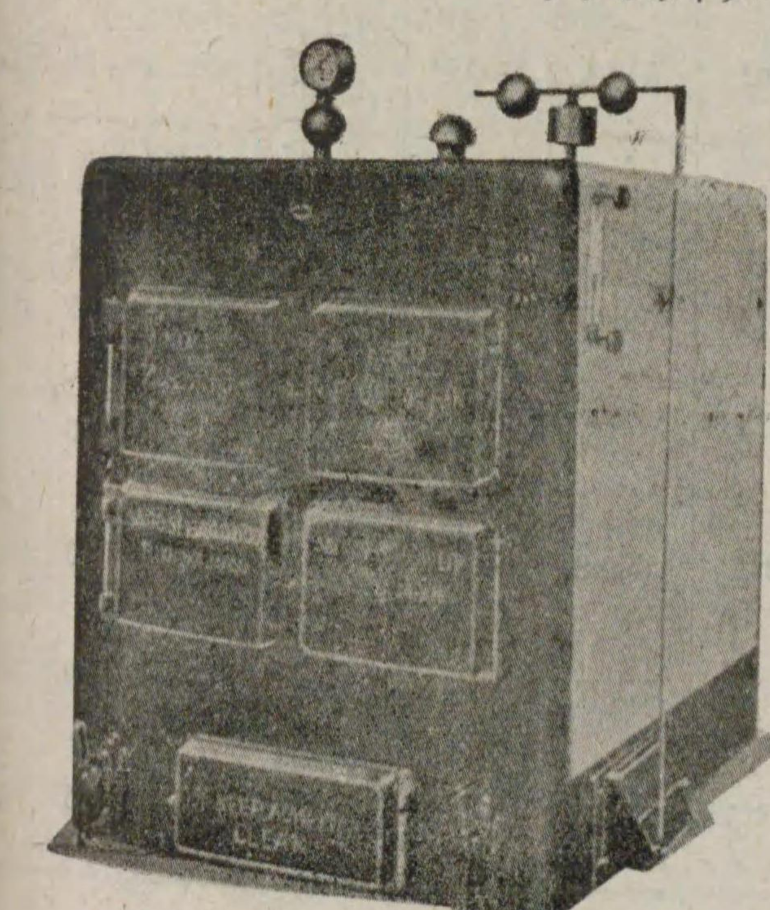
第一號型　ボイラー



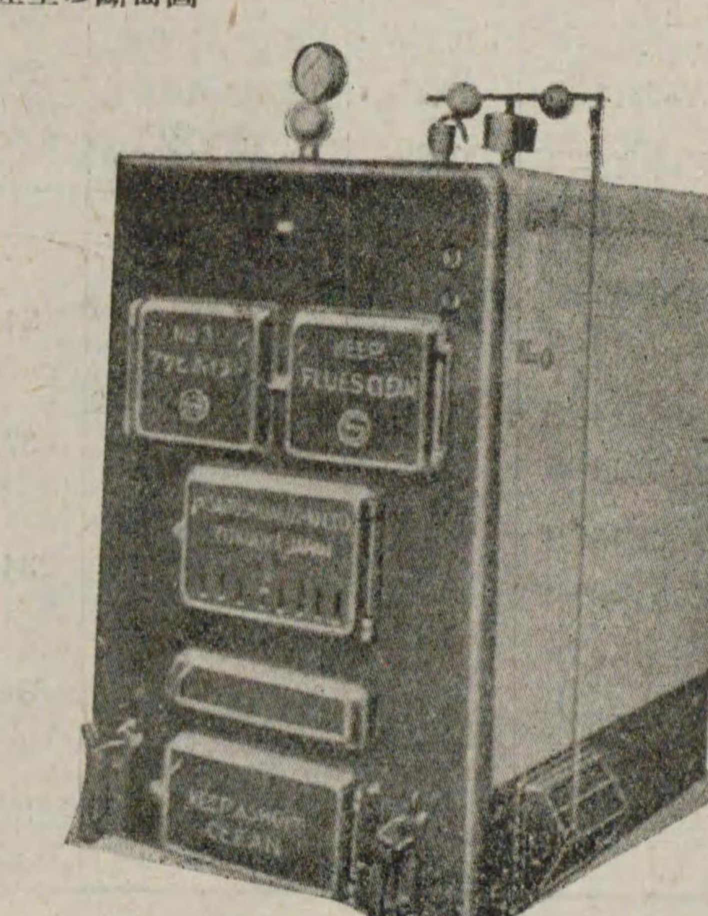
アサヒボイラー特殊無煙型の斷面圖



第二號型　ボイラー



第三號型　ボイラー



第四號型　ボイラー

罐 | 昭和鐵工株式會社

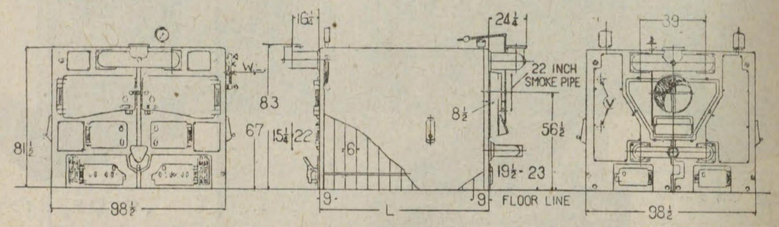
福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒ ボイラー 第七九吋型

石炭焚型・特殊無煙型

S—蒸氣用

W—温水用



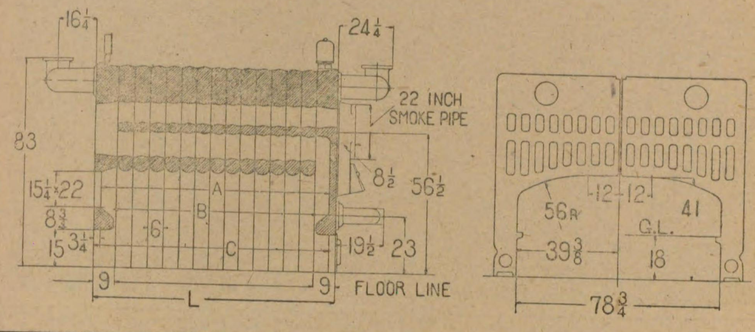
ボイラー番號 石炭焚型	ボイラー番號 特殊無煙型	能力 (平方呎)	適應容量 (放熱量+パイピング) STEAM-240BTU WATER-150BTU	火床面積 (平方呎)	傳熱面積 (平方呎)	最大石炭消費量 封度/時	出口ノ數及ビ寸法	入口ノ數及ビ寸法	總長サ L(吋)	煙突 高サ(呎)	煙突 寸法(吋)
S-7909	S-7909-S	14000	6000— 8000	21.9	490	424.9	1—10″	1—4″	60	85	24×24
W-7909	W-7909-S	22400	9600—12800					2—10″			
S-7910	S-7910-S	15500	7000— 9000	24.9	546	470.6	1—10″	1—4″	66	90	24×24
W-7910	W-7910-S	24800	11200—14400					2—10″			
S-7911	S-7911-S	17000	8000—10000	28.0	601	512.4	2—10″	1—4″	72	95	24×24
W-7911	W-7911-S	27200	12800—16000					2—10″			
S-7912	S-7912-S	18500	9000—11000	31.1	656	556.7	2—10″	1—4″	78	100	28×28
W-7912	W-7912-S	29600	14400—17600					2—10″			
S-7913	S-7913-S	20000	10000—12000	34.2	711	598.5	2—10″	1—4″	84	105	30×30
W-7913	W-7913-S	32000	16000—19200					2—10″			
S-7914	S-7914-S	21500	11000—13000	37.3	767	630.4	2—10″	1—4″	90	110	30×30
W-7914	W-7914-S	34400	17600—20800					2—10″			
S-7915	S-7915-S	23000	12000—14000	34.2	822	690.8	2—10″	1—4″	96	115	30×30
W-7915	W-7915-S	36800	19200—22400					2—10″			
S-7916	S-7916-S	24500	12000—14000	34.2	877	738.7	2—10″	1—4″	102	120	36×36
W-7916	W-7916-S	39200	19200—22400					2—10″			
S-7917	S-7917-S	26000	13000—15000	37.3	933	779.6	2—10″	1—4″	108	125	36×36
W-7917	W-7917-S	41600	20800—24000					2—10″			

昭和鐵工株式會社 | 罐

福岡市箱崎町4121番地 〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933番 長0400〕

アサヒ ボイラー 第七九吋型

オイル バーニング型 S-型氣用 W-温水用



ボイラーノ番號	出口ノ數及ビ寸法	入口ノ數及ビ寸法	總長サ L(吋)	"A"(吋)	"B"(吋)	"C"(吋)	ボイラーノ番號	出口ノ數及ビ寸法	入口ノ數及ビ寸法	總長サ L(吋)	"A"(吋)	"B"(吋)	"C"(吋)
S-7909-O	2—10″	1—4″	60	53½″	42½″	56¾″	S-7914-O	2—10″	1—4″	90	83½″	72½″	86¾″
W-7909-O		2—10″					W-7914-O		2—10″				
S-7910-O	2—10″	1—4″	66	59½″	48½″	62¾″	S-7915-O	2—10″	1—4″	96	89½″	78½″	92¾″
W-7910-O		2—10″					W-7915-O		2—10″				
S-7911-O	2—10″	1—4″	72	65½″	54½″	68¾″	S-7916-O	2—10″	1—4″	102	95½″	84½″	98¾″
W-7911-O		2—10″					W-7916-O		2—10″				
S-7912-O	2—10″	1—4″	78	71½″	60½″	74¾″	S-7917-O	2—10″	1—4″	108	101½″	90½″	104¾″
W-7912-O		2—10″					W-7917-O		2—10″				
S-7913-O	2—10″	1—4″	84	77½″	66½″	80¾″							
W-7913-O		2—10″											

ボイラー番號	傳熱面積 (平方呎)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 3000 B.t.u. 能力(平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 4000 B.t.u. 能力(平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 5000 B.t.u. 能力(平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	1時間1平方呎當リノ熱傳導率 6000 B.t.u. 能力(平方呎)	1時間當リ最少重油消費量(封度)	煙突 高サ(呎)	煙突 寸法(吋)
S-7909-O	490	6130	102	8170	139	10210	182	12260	224	80	24×24
W-7909-O		9800		13080		16350		19600			
S-7910-O	546	6820	113	9090	155	11360	202	13640	250	85	24×24
W-7910-O		10.10		14550		18190		21820			
S-7911-O	601	7510	125	10010	171	12510	222	15020	275	90	24×28
W-7911-O		12000		16030		20040		24000			
S-7912-O	656	8200	136	10930	187	13670	243	16400	300	95	24×28
W-7912-O		13120		17500		21880		26240			
S-7913-O	711	8890	148	11850	202	14820	264	17780	325	100	24×28
W-7913-O		14220		18980		23720		28440			
S-7914-O	767	9580	159	12780	218	15980	284	19170	351	105	28×28
W-7914-O		15330		20450		25570		30660			
S-7915-O	822	10280	171	13700	234	17130	305	20550	376	110	28×28
W-7915-O		16440		21930		27410		32880			
S-7916-O	877	10970	182	14620	249	18260	325	21930	402	115	28×28
W-7916-O		17550		23400		29250		35100			
S-7917-O	933	11660	194	15530	265	19440	346	23320	427	120	28×28
W-7917-O		18650		24870		31090		37300			

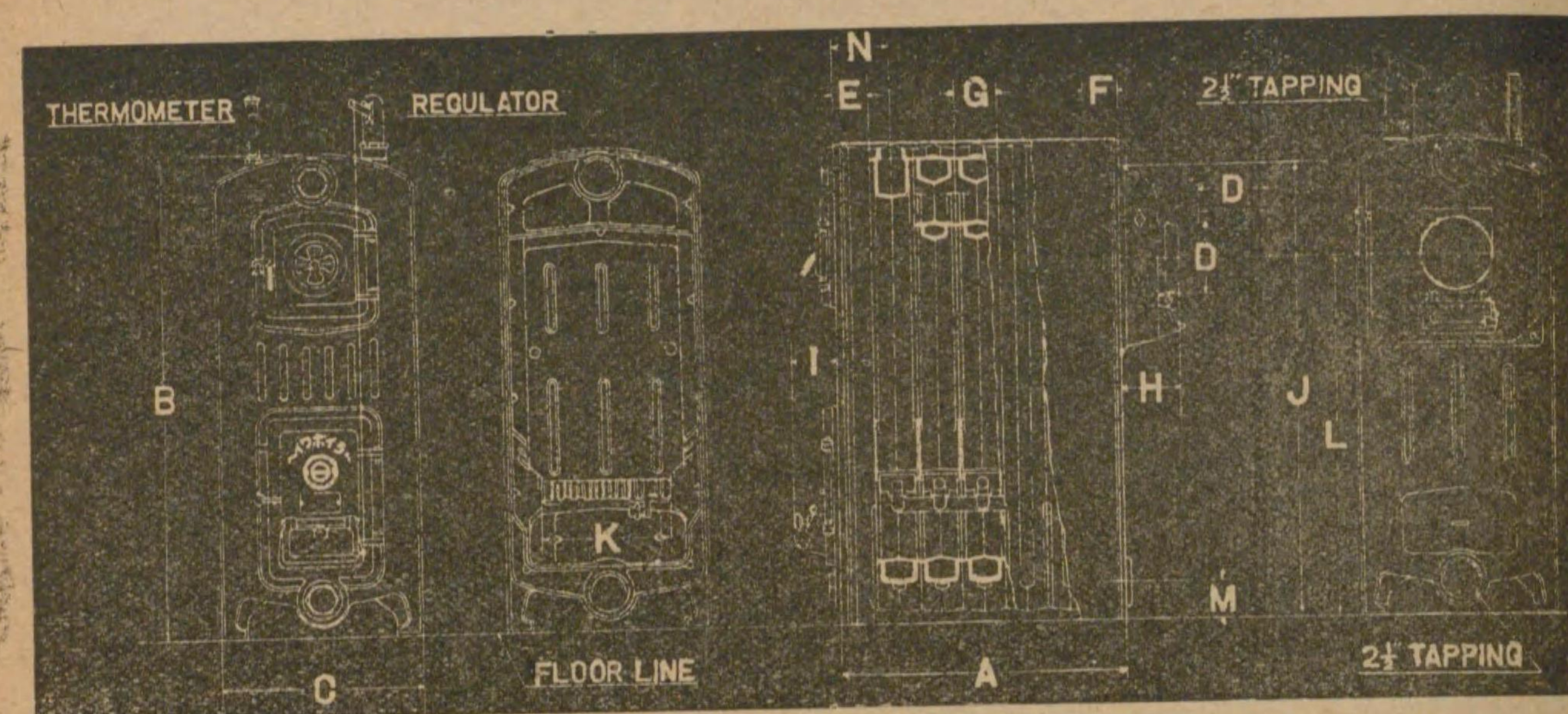
注意—1封度ニ付 19000 B.t.u. ノ熱量ヲ有スル重油ヲ用ヒタル場合ノ能力ヲ表ハシタモノデアリマス。温水用ハ1平方呎毎時 150B.t.u. 蒸汽用ハ1平方呎毎時 240 B.t.u. デアリマス。"**コールドスターテングロード**" ハ "**トータルラジエーター**" 及 "**パイピングロード**" =25% ヲ加ヘタモノデアリマス。ソシテ太線ノ間ニアル能力カラ**ボイラー**ヲ御選ビ下サイ。

罐

昭和鐵工株式會社

福岡市箱崎町4121番地〔電話福岡東(3) 代表2931 2932 2933 番 長0400〕

ヘイワボイラー



ボイラー番號	セクションの數	ボイラーの長さ(吋) A	ボイラーの高さ(吋) B	ボイラーの巾(吋) C	煙突の徑(吋) D	各セクションの厚(吋) 前セクション E	後セクション F	中セクション G	煙突接續部深さ H(吋)	灰出口扉厚さ I(吋)	溫水出口中心の高さ J(吋)	グレートの幅 K(吋)	煙突接續口の高さ L(吋)	還水口中心の高さ M(吋)	溫度計、レギレーター取付位置 N(吋)	溫水出口の個數及寸法(吋)	還水口の個數及寸法(吋)
No. 204	4	13	40	16¾"	6	3	3	3½	5	4	37½	10¼	30	3	4¼	1×2½	1×2½
No. 205	5	16½	40	16¾"	6	3	3	3½	5	4	37½	10¼	30	3	4¼	1×2½	1×2½
No. 206	6	20	40	16¾"	6	3	3	3½	5	4	37½	10¼	30	3	4¼	1×2½	1×2½
No. 207	7	23½	40	16¾"	6	3	3	3½	5	4	37½	10¼	30	3	4¼	1×2½	1×2½
No. 208	8	27	40	16¾"	6	3	3	3½	5	4	37½	10¼	30	3	4¼	1×2½	1×2½
No. 209	9	30½	40	16¾"	6	3	3	3½	5	4	37½	10¼	30	3	4¼	1×2½	1×2½

※溫度計取付口ハ½吋ダンパーレギレーター取付口ハ1½"デアリマス

ボイラー番號	セクションの數	放熱面積(平方呎)	放熱量(BTU)	表面實面積(平方呎)	傳熱面積(平方呎)	容水量(立)	石炭容量(立)	火床面積(平方呎)	荷造重量(封度)
No. 204	4	420	63000	18.3	14.0	27	40	0.68	510
No. 205	5	520	78000	21.5	17.2	32	53	0.95	585
No. 206	6	610	91500	24.7	20.5	37	66	1.22	660
No. 207	7	710	106500	28.0	23.7	42	79	1.49	735
No. 208	8	800	120000	31.2	27.0	47	92	1.78	810
No. 209	9	900	135000	34.5	30.1	52	105	2.05	885

燃燒狀態は………

ヘイワボイラーの燃料室は**セクシヨン**の改良に依り從來のものより大きく、又燃燒室も下部**グレート**よりの十分なる空氣の供給と前部扉よりの二次通風によつて完全燃燒をなし發生した高溫瓦斯を何んの抵抗もなく自然に煙道より煙突へと排出致します。**グレート**は横型振動式で各**セクシヨン**に一個宛設けられて居りますので**セクシヨン**の增減に依る**グレート**の取換への必要はありません。又各**セクシヨン**の**グレート**接合部には補助空氣孔がありまして十分に空氣の供給を致しますから燃燒の完全燃燒を保證して居ります。

お室の裝飾に………

ヘイワボイラーの周圍は、厚さ一粍の特優板を以つて特に**ジヤケツト**を作り、其の表面は美麗なる**ラツカー**塗裝をなし、皆様のお部屋の裝飾品として皆様はきつと親しみをもたれる事でせう。

ボイラーの漏水は………

ヘイワボイラーの組立は捻込**ニツプル**になつて居りますから、其の接用部からの漏水の憂ひは絕對にありません。其れのみか各**セクシヨン**の接合部は平滑に機械仕上げをした上精密**ゲージ**によつて檢査しておりますので隙間よりの空氣の洩入は勿論、高溫瓦斯が近路を通つて煙突へ逃げ去る樣な事は決して御座いません。

加熱による歪は………

從來の**ボイラー**は稍々もすると過熱の爲歪を生じ**ニツプル**、**ピツテ**其の他に差異を生じて種々の弊害を起す事がありましたが**ヘイワボイラー**は各**セクシヨン**の形狀を改良して加熱面積及び煙道面積を非常に擴大したゝめと、材質優秀、均一肉厚の完全鑄造の技術に依りまして非常に熱傳導率を高めておりますので決して歪を生ずる樣な虞はありません。

組替やセクシヨンの增減は………

ヘイワボイラーの**セクシヨン**は、同一**ピツチ**による捻込**ニツプル**で組立られてゐる事と**グレート**が横置型であるために各**セクシヨン**の組替や增減が非常に自由に簡單に出來ます。

溫水の循環は………

ヘイワボイラーの溫水通路は內部溫水の急速に循環する樣に其の大きさ及び加熱面を製作致しましたから局部過熱の如き虞れはなく、各部均等の熱を吸收して全く理想的に循環を行ひます。

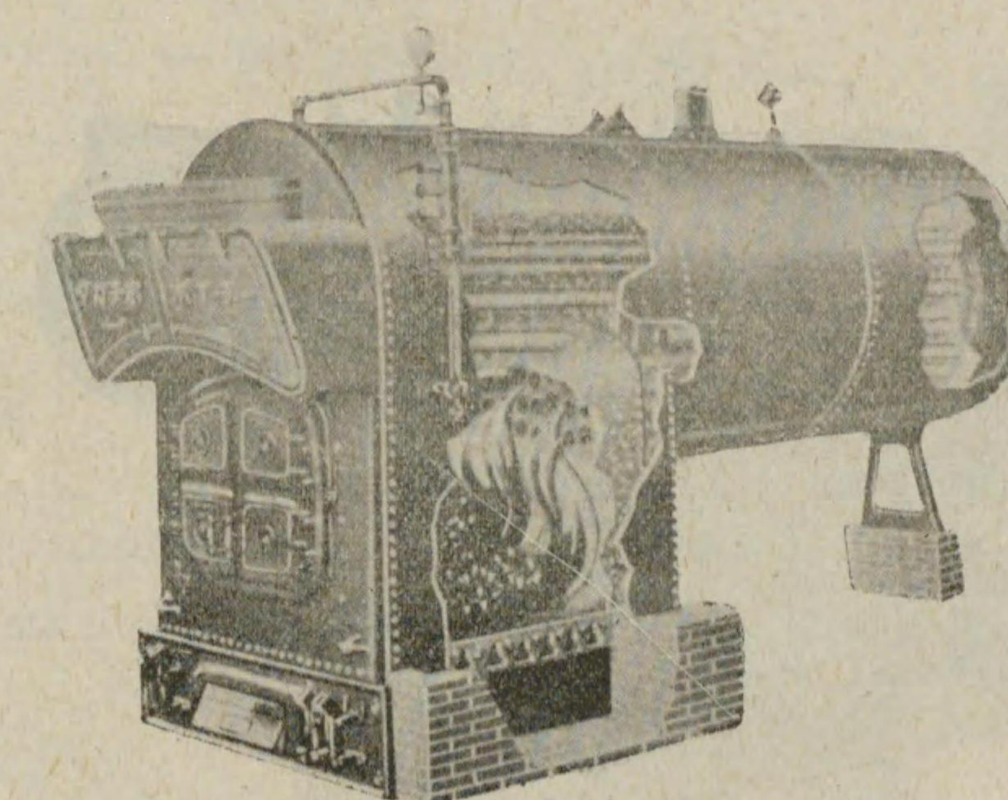
高千穗工業株式會社

罐

本　社　東京市麴町區九段2丁目3番地〔電話九段(33) 5065・5066番〕
支　店　滿洲國奉天市大和區高千穗通15番地〔電話7451番〕

合資會社 深川鐵工所一手販賣

ケワニー型タカチホボイラー



罐番號	能力(平方米)※ 蒸汽	溫水	加熱面積 平方米	火格子面積 平方米	罐ノ直徑 粍	罐ノ全長 粍	火室ノ幅 粍	火室ノ長 粍	火室ノ高 粍
401-F	237	380	25.8	0.89	1195	2616	914	965	1054
402-F	310	496	28.8	1.03	1195	2896	914	1118	1054
403-F	388	620	34.7	1.17	1195	3378	914	1270	1054
404-F	400	639	38.7	1.20	1372	3048	1067	1118	1118
405-F	477	763	43.2	1.37	1372	3378	1067	1270	1118
406-F	564	902	47.9	1.53	1372	3683	1067	1422	1118
407-F	691	1106	52.5	1.79	1524	3785	1219	1422	1245
408-F	814	1303	58.2	1.93	1524	4140	1219	1575	1245
409-F	809	1294	62.8	1.92	1524	4370	1346	1422	1245
410-F	958	1533	72.3	2.13	1524	2928	1346	1575	1245
411-F	1154	1847	86.3	2.37	1676	4801	1499	1575	1321
412-F	1353	2165	96.7	2.60	1676	5283	1499	1727	1321
413-F	1519	2431	108.6	2.86	1829	4851	1651	1727	1384
414-F	1695	2712	121.1	3.11	1829	5334	1651	1880	1384
415-E	1970	3152	140.7	3.40	1981	5461	1803	1880	1397
416-F	2226	3561	159.0	3.68	1981	6071	1803	2032	1397
417-F	2875	4600	205.3	3.98	2134	6121	1956	2032	1473
418-F	3158	5053	225.6	4.28	2134	6731	1956	2184	1473

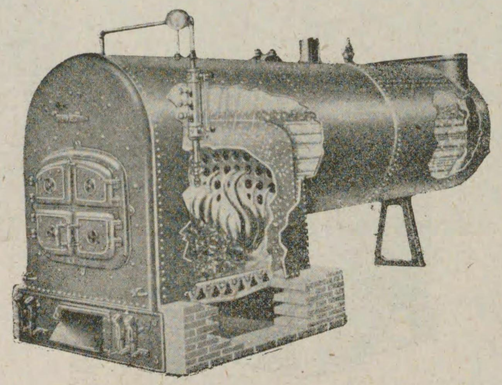
罐

高千穗工業株式會社

本　社　東京市麹町區九段2丁目3番地　〔電話九段 (33) 5065・5066番〕
支　店　滿洲國奉天市大和區高千穗通15番地　〔電　話　7　4　5　1　番〕

合資會社 深川鐵工所一手販賣

ケワニー型タカチホボイラー



罐番號	能力(平方米)※ 蒸汽	温水	加熱面積 平方米	火格子面積 平方米	罐ノ直徑 耗	罐ノ全長 耗	火室ノ幅 耗	火室ノ長 耗	火室ノ高 耗
401-R	47	76	5.7	0.33	609	2362	482	660	762
402-R	64	102	7.7	0.41	762	2388	610	660	889
403-R	87	140	8.6	0.50	762	2692	610	813	889
404-R	115	184	9.7	0.60	762	2997	610	965	889
405-R	128	206	12.9	0.63	912	2692	762	813	965
406-R	170	272	15.3	0.74	912	3150	762	965	965
407-R	224	359	17.7	0.86	912	3607	762	1118	965
408-R	311	497	22.4	1.03	1065	3454	912	1118	1042
409-R	358	573	25.6	1.17	1065	3911	912	1270	1042
410-R	387	620	27.7	1.20	1195	3607	1065	1118	1117
411-R	440	704	31.4	1.37	1195	4064	1065	1270	1117
412-R	492	787	35.2	1.53	1195	4521	1065	1422	1117
413-R	582	932	41.6	1.75	1371	4674	1217	1422	1244
414-R	699	1119	49.9	1.93	1371	5436	1217	1575	1244
415-R	785	1256	56.1	2.13	1524	5182	1346	1575	1370
416-R	922	1475	65.8	2.33	1524	5944	1346	1726	1370
417-R	1030	1647	73.6	2.37	1677	5334	1498	1575	1497
418-R	1166	1866	83.3	2.60	1677	5944	1498	1726	1497
419-R	1292	2066	92.3	2.86	1829	5334	1651	1726	1625
420-R	1470	2353	105.0	3.12	1829	5944	1651	1878	1625

高砂鐵工株式會社

罐

本　社　東京市京橋區銀座4丁目3番地　〔電話京橋(56)6227番(5)〕
工　場　東京市品川區東大崎2丁目424番地　〔電話大崎(49)3177(3)5095番〕
大阪出張所　大阪市北區曾根崎上2丁目48番地　共同ビル　〔電　話　北8052・8053番〕
札幌出張所　札幌市南二條西2丁目11番地　〔電　話3875番〕

高砂ボイラー

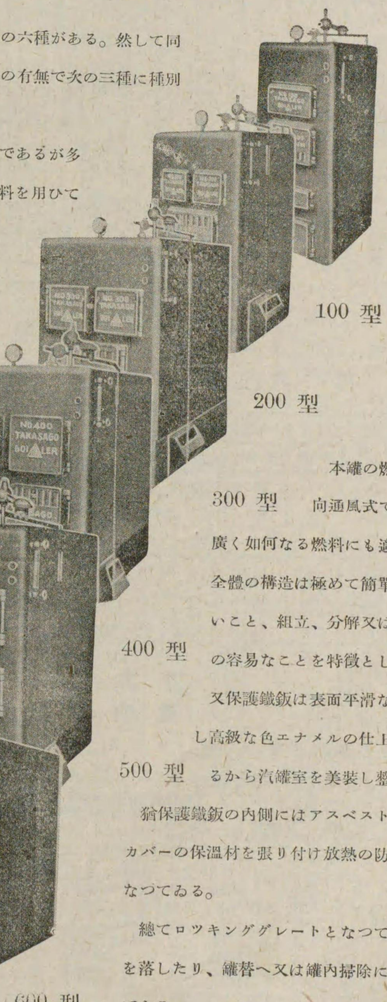
上向通風式

本罐には 100. 200. 300. 400. 500. 600 型の六種がある。然して同型罐で一部セクションの變化と、グレートバーの有無で次の三種に種別されてゐる。

1. 無煙炭用　即ち固形無煙燃料を用ひるものであるが多少煙突から煙が出ても良い場合にはどんな燃料を用ひても差支へがない。
2. 無煙燃燒式　罐内で完全燃燒が行はれるもの故に有煙炭を用ふるも煙が出ない。
3. 下方給炭機用
   重油燃燒機用

重油燃燒機或は粉炭の下方給炭機を用ふるもの、何れも附屬品の取付方によつて、蒸汽用にも温水用にもなる。

(但し型 100 を除く)



100 型

200 型

300 型

400 型

500 型

600 型

本罐の燃燒方式は上向通風式で、燃燒室が廣く如何なる燃料にも適してゐる。

全體の構造は極めて簡單で故障の少いこと、組立、分解又は焚火、掃除の容易なことを特徴としてゐる。

又保護鐵鈑は表面平滑な特殊鐵鈑とし高級な色エナメルの仕上げをしてあるから汽罐室を美裝し整頓させる。

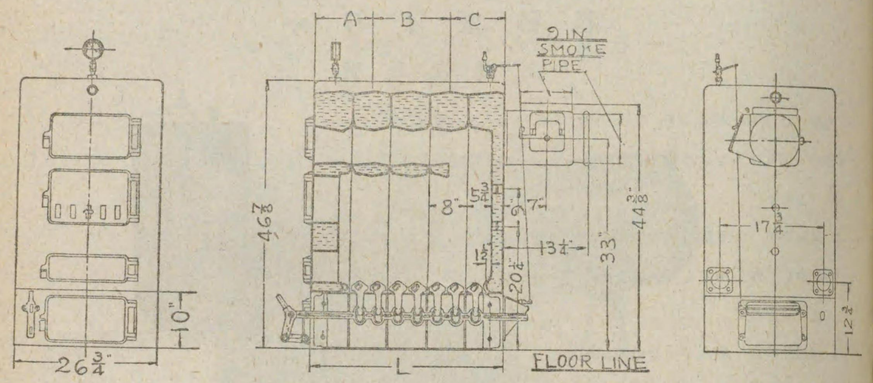
猶保護鐵鈑の内側にはアスベストエーヤセルカバーの保温材を張り付け放熱の防止が完全になつてゐる。

總てロツキンググレートとなつてゐるため灰を落したり、罐替へ又は罐内掃除に極めて便利である。

罐 高砂鐵工株式會社

本　社　東京市京橋區銀座4丁目3番地　〔電話京橋(56) 6227 (5)番〕
工　場　東京市品川區東大崎2丁目424番地　〔電話大崎(49) 3177(3) 5095番〕
大阪出張所　大阪市北區曾根崎上2丁目48番地　共同ビル　〔電話北 8052番 8053番〕
札幌出張所　札幌市南二條西2丁目11番地　〔電話 3875番〕

高砂ボイラー　100型（上向通風式）



無煙炭用

蒸汽罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	安全弁 箇數	安全弁 口徑	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)
S—105	200 275	48000 66000	1	1″	1.79	30	8×8
S—106	275 350	66000 84000	1	1″	2.25	30	8×8
S—107	350 425	84000 102000	1	1″	2.71	35	8×12
S—108	425 500	102000 120000	1	1½″	3.17	35	8×12
S—109	500 575	120000 138000	1	1½″	3.63	35	8×12
S—110	575 650	138000 156000	1	1½″	4.09	35	12×12

温水罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W—105	320 440	48000 66000	1.79	30	8×8	20
W—106	440 560	66000 84000	2.25	30	8×8	24
W—107	560 680	84000 102000	2.71	35	8×12	28
W—108	680 800	102000 120000	3.17	35	8×12	32
W—109	800 920	120000 138000	3.63	35	8×12	36
W—110	920 1040	138000 156000	4.09	35	12×12	40

下方給炭機用
重油燃燒機用

蒸汽罐

罐の番號	傳熱面積 (平方呎)	實用能力と所要重油量 傳熱率 3000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	傳熱率 4000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	傳熱率 5000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
S-105-O	21.9	275	4.7	365	6.4	455	8.2	30	8×8	20⅝
S-106-O	25.3	315	5.4	420	7.4	525	9.4	30	8×8	24⅝
S-107-O	30.0	375	6.4	500	8.7	625	11.2	30	8×8	28⅝
S-108-O	33.4	415	7.2	555	9.7	695	12.5	30	8×8	32⅝
S-109-O	38.0	475	8.2	635	11.1	795	14.2	30	8×12	36⅝
S-110-O	41.4	520	8.9	690	12.1	865	15.5	35	8×12	40⅝
S-111-O	46.1	575	9.9	770	13.5	960	17.2	35	8×12	44⅝

温水罐

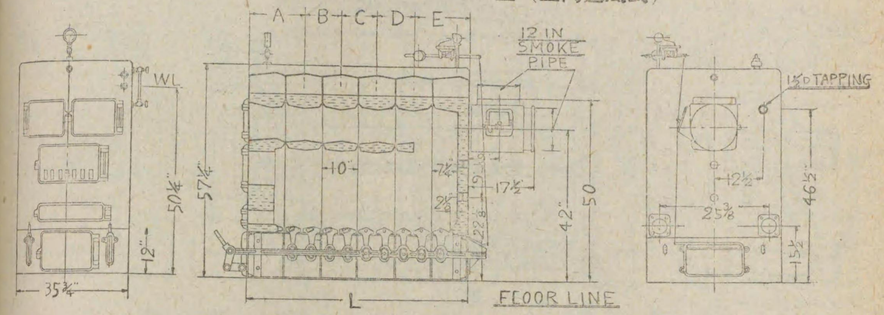
罐の番號	傳熱面積 (平方呎)	實用能力と所要重油量 傳熱率 3000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	傳熱率 4000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	傳熱率 5000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W-105-O	21.9	440	4.7	585	6.4	730	8.2	30	8×8	20⅝
W-106-O	25.3	505	5.4	675	7.4	845	9.4	30	8×8	24⅝
W-107-O	30.0	600	6.4	800	8.7	1000	11.2	30	8×8	28⅝
W-108-O	33.4	665	7.2	890	9.7	1110	12.5	30	8×8	32⅝
W-109-O	38.0	760	8.2	1015	11.1	1270	14.2	30	8×12	36⅝
W-110-O	41.4	830	8.9	1105	12.1	1380	15.5	35	8×12	40⅝
W-111-O	46.1	920	9.9	1230	13.5	1535	17.2	35	8×12	44⅝

本表内所要重油量は熱量1封度に付き19000 B.T.U.の場合

高砂鐵工株式會社 罐

本　社　東京市京橋區銀座4丁目3番地　〔電話京橋(56) 6227 (5)番〕
工　場　東京市品川區東大崎2丁目424番地　〔電話大崎(49) 3177(3) 5095番〕
大阪出張所　大阪市北區曾根崎上2丁目48番地　共同ビル　〔電話北 8052番 8053番〕
札幌出張所　札幌市南二條西2丁目11番地　〔電話 3875番〕

高砂ボイラー　200型（上向通風式）



無煙炭用

蒸汽罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	安全弁 箇數	安全弁 口徑	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)
S-205	425 550	102000 132000	1	1½″	3.50	35	8×12
S-206	550 675	132000 162000	1	1½″	4.39	35	12×12
S-207	675 800	162000 192000	1	1½″	5.28	35	12×12
S-208	800 925	192000 222000	1	2″	6.17	40	12×12
S-209	925 1050	222000 252000	1	2″	7.06	40	12×16
S-210	1050 1175	252000 282000	1	2″	7.95	45	12×16
S-211	1175 1300	282000 312000	1	2″	8.84	45	12×16

温水罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)。
W-205	680 880	102000 132000	3.50	35	8×12	25
W-206	880 1080	132000 162000	4.39	35	12×12	30
W-207	1080 1280	162000 192000	5.28	35	12×12	35
W-208	1280 1480	192000 222000	6.17	40	12×12	40
W-209	1480 1680	222000 252000	7.06	40	12×16	45
W-210	1680 1880	252000 282000	7.95	45	12×16	50
W-211	1880 2080	282000 312000	8.84	45	12×16	55

無煙燃燒式

蒸汽罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	安全弁 箇數	安全弁 口徑	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)
S-205-S	800 925	192000 222000	1	2″	6.17	40	12×12
S-206-S	925 1050	222000 252000	1	2″	7.06	40	12×16
S-207-S	1050 1175	252000 282000	1	2″	7.95	45	12×16
S-208-S	1175 1300	282000 312000	1	2″	8.84	45	12×16
S-209-S	1300 1425	312000 342000	1	2″	9.73	50	12×16
S-210-S	1425 1550	342000 372000	1	2″	10.62	50	12×16

温水罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W-205-S	1280 1480	192000 222000	6.17	40	12×12	40
W-206-S	1480 1680	222000 252000	7.06	40	12×16	45
W-207-S	1680 1880	252000 282000	7.95	45	12×16	50
W-208-S	1880 2080	282000 312000	8.84	45	12×16	55
W-209-S	2080 2280	312000 342000	9.73	50	12×16	60
W-210-S	2280 2480	342000 372000	10.62	50	12×16	65

下方給炭機用・重油燃燒機用

蒸汽罐

罐の番號	傳熱面積 (平方呎)	實用能力と所要重油量 傳熱率 3000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	傳熱率 4000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	傳熱率 5000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
S-205-O	49.2	615	10.5	820	14.4	1020	18.3	30	8×12	30¼
S-206-O	57.1	715	12.3	950	16.7	1190	21.3	30	12×12	35¼
S-207-O	64.9	810	13.9	1080	19.0	1350	24.2	35	12×12	40¼
S-208-O	72.9	910	15.6	1220	21.3	1520	27.2	35	12×12	45¼
S-209-O	80.8	1010	17.4	1350	23.6	1680	30.2	40	12×16	50¼
S-210-O	88.8	1110	19.1	1480	26.0	1850	33.1	40	12×16	55¼
S-211-O	96.7	1210	20.8	1610	28.3	2020	36.1	40	12×16	60¼
S-213-O	104.6	1310	22.4	1740	30.6	2180	39.1	40	12×16	65¼

温水罐

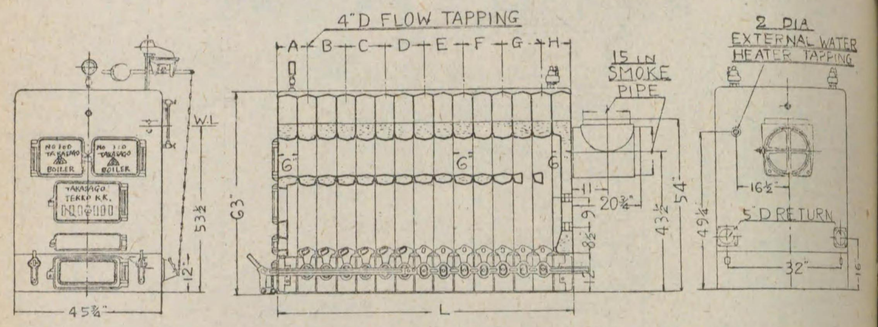
罐の番號	傳熱面積 (平方呎)	實用能力と所要重油量 傳熱率 3000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	傳熱率 4000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	傳熱率 5000 B.T.U. 平方呎	所要重油量 封度/時	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W-206-O	49.2	985	10.5	1310	14.4	1640	18.3	30	8×12	30¼
W-207-O	57.1	1140	12.3	1520	16.7	1910	21.3	30	12×12	35¼
W-208-O	64.9	1300	13.9	1730	19.0	2160	24.2	35	12×12	40¼
W-209-O	72.9	1460	15.6	1940	21.3	2430	27.2	35	12×12	45¼
W-210-O	80.8	1620	17.4	2160	23.6	2690	30.2	40	12×12	50¼
W-211-O	88.8	1780	19.1	2370	26.0	2960	33.1	40	12×16	55¼
W-212-O	96.7	1940	20.8	2580	28.3	3220	36.1	40	12×16	60¼
W-213-O	104.6	2090	22.4	2790	30.6	3490	39.1	40	12×16	65¼

本表内所要重油量は熱量1封度に付き19000 B.T.U.の場合

罐 高砂鐵工株式會社

本　　社　東京市京橋區銀座4丁目3番地　〔電話京橋(56) 6227 (5)番〕
工　　場　東京市品川區東大崎2丁目424番地　〔電話大崎(49) 3177(3) 5095番〕
大阪出張所　大阪市北區曾根崎上2丁目48番地　共同ビル　〔電話北 8052 8053 番〕
札幌出張所　札幌市南二條西2丁目11番地　〔電話 3875 番〕

高砂ボイラー　390型（上向通風式）



無煙炭用

蒸汽罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	安全弁 箇數	安全弁 口徑	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)
S-306	1000 1500	240000 360000	2	1½″	6.65	40	12×16
S-307	1250 1750	300000 420000	2	1½″	8.00	45	16×16
S-308	1500 2000	360000 480000	2	1½″	9.35	50	16×16
S-309	1750 2250	420000 540000	2	1½″	10.70	50	16×20
S-310	2000 2500	480000 600000	2	2″	12.05	55	16×20
S-311	2250 2750	540000 660000	2	2″	13.40	60	20×20
S-312	2500 3000	600000 720000	2	2″	14.75	65	20×20
S-313	2750 3250	660000 780000	2	2″	16.10	65	20×20

温水罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W—306	1600 2400	240000 360000	6.65	40	12×16	36
W—307	2000 2800	300000 420000	8.00	45	16×16	42
W—308	2400 3200	360000 480000	9.35	50	16×16	48
W—309	2800 3600	420000 540000	10.70	50	16×20	54
W—310	3200 4000	480000 600000	12.05	55	16×20	60
W—311	3600 4400	540000 660000	13.40	60	20×20	66
W—312	4000 4800	600000 720000	14.75	65	20×20	72
W—313	4400 5200	660000 780000	16.10	65	20×20	78

無煙燃焼式

蒸汽罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	安全弁 箇數	安全弁 口徑	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)
S-308-S	1500 2000	360000 480000	2	1½″	9.35	50	16×16
S-309-S	1750 2250	420000 540000	2	1½″	10.70	50	16×20
S-310-S	2000 2500	480000 600000	2	2″	12.05	55	16×20
S-311-S	2250 2750	540000 660000	2	2″	13.40	60	20×20
S-312-S	2500 3000	600000 720000	2	2″	14.75	65	20×20
S-313-S	2750 3250	660000 780000	2	2″	16.10	65	20×20
S-314-S	3000 3500	720000 840000	2	2″	17.45	70	20×20

温水罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W-308-S	2400 3200	360000 480000	9.35	50	16×16	48
W-309-S	2800 3600	420000 540000	10.70	50	16×20	54
W-310-S	3200 4000	480000 600000	12.05	55	16×20	60
W-311-S	3600 4400	540000 660000	13.40	60	20×20	66
W-312-S	4000 4800	600000 720000	14.75	65	20×20	72
W-313-S	4400 5200	660000 780000	16.10	65	20×20	78
W-314-S	4800 5600	720000 840000	17.45	70	20×20	84

下方給炭機用・重油燃焼機用

蒸汽罐

罐の番號	傳熱面積 (平方呎)	實用能力と所要重油量 3000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	4000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	5000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
S-308-O	105.5	1320	22.6	1760	30.8	2200	39.4	40	12×16	48
S-309-O	119.2	1490	25.6	1990	34.8	2480	44.5	45	12×16	54
S-310-O	132.9	1660	28.5	2220	38.8	2770	49.5	45	16×16	60
S-311-O	146.6	1830	31.5	2440	42.8	3060	54.7	45	16×16	66
S-312-O	159.8	2000	34.3	2660	46.7	3330	59.7	45	16×16	72
S-313-O	173.6	2170	37.2	2890	50.7	3620	64.8	50	16×16	78
S-314-O	187.3	2340	40.2	3120	54.7	3900	69.9	50	16×20	84

温水罐

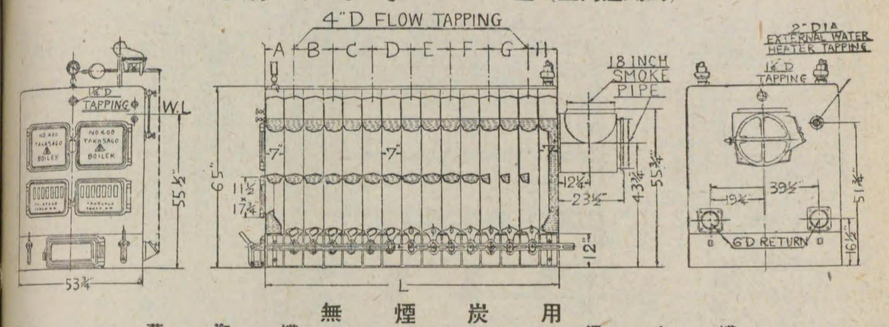
罐の番號	傳熱面積 (平方呎)	實用能力と所要重油量 3000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	4000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	5000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W-308-O	105.5	2110	22.6	2810	30.8	3520	39.4	40	12×16	48
W-309-O	119.2	2380	25.6	3180	34.8	3970	44.5	45	12×16	54
W-310-O	132.9	2660	28.5	3540	38.8	4430	49.5	45	16×16	60
W-311-O	146.6	2930	31.5	3910	42.6	4880	54.7	45	16×16	66
W-312-O	159.8	3200	34.3	4260	46.7	5320	59.7	50	16×16	72
W-313-O	173.6	3470	37.2	4630	50.7	5780	64.8	50	16×16	78
W-314-O	187.3	3750	40.2	5000	54.7	6250	69.9	50	16×20	84

本表内所要重油量は熱量1封度に付き 19000 B.T.U. の場合

高砂鐵工株式會社 罐

本　　社　東京市京橋區銀座4丁目3番地　〔電話京橋(56) 6227 (5)番〕
工　　場　東京市品川區東大崎2丁目424番地　〔電話大崎(49) 3177(3) 5095番〕
大阪出張所　大阪市北區曾根崎上2丁目48番地　共同ビル　〔電話北 8052 8053 番〕
札幌出張所　札幌市南二條西2丁目11番地　〔電話 3875 番〕

高砂ボイラー　400型（上向通風式）



無煙炭用

蒸汽罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	安全弁 箇數	安全弁 口徑	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)
S-407	2000 2750	480000 660000	2	2″	11.70	50	16×20
S-408	2375 3125	570000 750000	2	2″	13.68	55	20×20
S-409	2750 3500	660000 840000	2	2″	15.66	55	20×20
S-410	3125 3875	750000 930000	2	2″	17.64	60	20×20
S-411	3500 4250	840000 1020000	2	2″	19.62	65	20×24
S-412	3875 4625	930000 1110000	2	2½″	21.60	70	20×24
S-413	4250 5000	1020000 1200000	2	2½″	23.58	75	20×24

温水罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W-407	3260 4400	480000 660000	11.70	50	16×20	49
W-408	3800 5600	570000 750000	13.68	55	20×20	56
W-409	4400 5600	660000 840000	15.66	55	20×20	63
W-410	5000 6200	750000 930000	17.64	60	20×20	70
W-411	5660 6800	840000 1020000	19.62	65	20×24	77
W-412	6200 7400	930000 1110000	21.60	70	20×24	84
W-413	6800 8000	1020000 1200000	23.58	75	20×24	91

無煙燃焼式

蒸汽罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	安全弁 箇數	安全弁 口徑	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)
S-409-S	2750 3500	660000 840000	2	2″	15.66	55	20×20
S-410-S	3125 3875	750000 930000	2	2″	17.64	60	20×20
S-411-S	3500 4250	840000 1020000	2	2″	19.62	65	20×24
S-412-S	3875 4625	930000 1110000	2	2½″	21.60	70	20×24
S-413-S	4250 5000	1020000 1200000	2	2½″	23.58	75	20×24
S-414-S	4625 5375	1110000 1290000	2	2½″	25.56	75	20×24

温水罐

罐の番號	實用能力 平方呎	實用能力 熱量 B.T.U./H	火床面積 (平方呎)	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W-409-S	4400 5600	660000 840000	15.66	55	20×20	63
W-410-S	5000 6200	750000 930000	17.64	60	20×20	70
W-411-S	5600 6800	840000 1020000	19.62	65	20×24	77
W-412-S	6200 7400	930000 1110000	21.60	70	20×24	84
W-413-S	6800 8000	1020000 1200000	23.58	75	20×24	91
W-414-S	7400 8600	1110000 1290000	25.56	75	20×24	98

下方給炭機用・重油燃焼機用

蒸汽罐

罐の番號	傳熱面積 (平方呎)	實用能力と所要重油量 3000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	4000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	5000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
S-409-O	169	2110	36.2	2810	49.5	3520	63.0	45	16×16	63
S-410-O	189	2360	40.5	3140	55.0	3930	70.3	50	16×16	70
S-411-O	208	2600	44.7	3470	60.8	4340	77.7	50	16×20	77
S-412-O	228	2850	48.9	3800	66.5	4750	85.1	55	16×20	84
S-413-O	248	3100	53.2	4130	72.3	5160	92.5	55	16×20	91
S-414-O	267	3340	57.5	4460	78.1	5570	99.8	55	20×20	98

温水罐

罐の番號	傳熱面積 (平方呎)	實用能力と所要重油量 3000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	4000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	5000 B.T.U. 傳熱率 平方呎	所要重油量 封度/時	煙突 高さ (呎)	煙突 寸法 (吋)	長サL (吋)
W-409-O	169	3380	36.2	4500	49.3	5620	63.0	45	16×16	63
W-410-O	189	3770	40.5	5030	55.0	6280	70.3	50	16×16	70
W-411-O	208	4170	44.7	5560	60.8	6940	77.7	50	16×20	77
W-412-O	228	4560	48.9	6080	66.5	7600	85.1	55	16×20	84
W-413-O	248	4950	53.2	6610	72.3	8260	92.5	55	16×20	91
W-414-O	267	5350	57.5	7140	78.1	8920	99.8	55	20×20	98

本表内所要重油量は熱量1封度に付き 19000 B.T.U. の場合